



平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産総合活用推進事業)

# 十日町市歴史文化基本構想 資料集

平成 30 年 1 月

新潟県十日町市

## 例 言

- 1 本書は十日町市歴史文化基本構想（以下「基本構想」という。）の資料集であり、基本構想を策定するために行った未指定文化財の調査（基本構想 13 頁参照）の結果を取りまとめたものである。
- 2 「1. 既刊文献調査による文化財等の収集」

大正時代に刊行された『中魚沼郡誌』『東頸城郡誌』及び昭和 60 年代以降に刊行された旧市町村史（『十日町市史』『川西町史』『中里村史』『松代町史』『松之山町史』）から、歴史文化に関する基礎的情報 2,881 件を収集しデータベース化を行った。なお、「神社」「寺院・仏堂」に関しては、明治 16 年提出の「新潟県神社寺院仏堂明細帳」及び『新潟県寺院名鑑』（昭和 58 年 12 月発行）を基に資料を追加した。

その中から、地域の特徴的な情報 1,945 件を抽出し、「自然環境関連」「生活空間関連」「伝統文化関連」「その他の事柄」に分類した。
- 3 「2. 郷土の歴史文化に関する既刊資料」

既刊資料の中から郷土の歴史文化に関するもの 799 件をリストアップし、「合併前に刊行された旧市町村史」「郷土の歴史に関する資料」「織物に関する資料」「雪に関する資料」「雪まつりに関する資料」「民俗・芸能に関する資料」「食に関する資料」「文化財調査報告書」「十日町市歴史資料目録」「旧市町村史編さんに伴う資料目録」に分類した。
- 4 「3. アンケート調査」

国・県・市の指定文化財以外で、地域の人大切に思っている事柄（地域の宝）を把握するために実施した。

  - ・アンケート発送日 平成 28 年 9 月 21 日
  - ・依頼数 137 人（市内 13 の地域自治組織から推薦された方に依頼）
  - ・回答数 90 人（回答率 65.7%）
- 5 「4. 校歌と校章・名札の収集」

地域住民の心のよりどころであった小中学校の校歌と校章・名札を収集し、校歌の歌詞から雪に関する事柄やその地域大切に思っている事柄（山・川・城跡等）を把握するために実施した。

  - ・校長会において各小中学校に調査を依頼した。
  - ・閉校した学校については、文献（記念誌等）から収集した。
  - ・地域説明会で協力をお願いした。

## 十日町市歴史文化基本構想 資料集 目次

1. 既刊文献調査による文化財等の収集	
(1) 自然環境関連	1
(2) 生活空間関連	7
(3) 伝統文化関連	27
(4) その他の事柄	55
2. 郷土の歴史文化に関する既刊資料	
(1) 合併前に刊行された旧市町村史	63
(2) 郷土の歴史に関する資料	64
(3) 織物に関する資料	69
(4) 雪に関する資料	70
(5) 雪まつりに関する資料	71
(6) 民俗・芸能に関する資料	71
(7) 食に関する資料	72
(8) 文化財調査報告書	73
(9) 十日町市歴史資料目録	75
(10) 旧市町村史編さんに伴う資料目録	76
3. アンケート調査	
(1) 大切に思う「地域の自然環境」	79
(2) 大切に思う「地域の生活空間」	82
(3) 大切に思う「地域の伝統文化」	84
(4) 後世に伝えたいと思う事柄	87
(5) 萱葺き等の技術を持った人	89
(6) おいしいと思う「山菜」と好きな食べ方	90
4. 校歌と校章・名札の収集	
(1) 収集状況一覧（地域別）	91
(2) 歌詞の分類	94
(3) 収集した校歌・校章	95
(4) 小中学校の変遷	139

## **1. 既刊文献調査による文化財等の収集**

分類	項目	頁
(1) 自然環境関連	眺望	1
	景観	1
	河川	1
	峡谷	1
	滝	1
	池	2
	清水	2
	樹木	2
	石	5
	植生	5
	山	5
	温泉	5
	化石	5
	地すべり	6
(2) 生活空間関連	遺跡	7
	城跡・館跡	14
	用水	18
	石碑	18
	塚	19
	街道・舟運	19
	私塾	20

分類	項目	頁
(2) 生活空間関連	小学校	21
	中学校	25
	庭園	25
	地名	25
(3) 伝統文化関連	神社	27
	寺院・仏堂	36
	仏像	44
	石仏	44
	工芸品	44
	彫刻	44
	織物	44
	紙漉き	47
	芸能	47
	年中行事	47
	信仰	54
	古文書	54
(4) その他の事柄	中世の記述に登場する人物	55
	近世以降の人物	56
	伝説	60
	昔話	61
	異聞	61

(1) 自然環境関連

分類	項目	内容	出典	頁
眺望	蒼龍岡	水沢村字水沢の南方丘上にあり。信越の群山逶迤として西より北にわたり、信濃川屈曲その下を流れ、村落點綴、一眸数里を極むべし。安政2年(乙卯)秋に長岡の小林病翁が訪れた時の「蒼龍岡記」の掲載あり	中魚沼郡誌上	581
景観	三ッ山田毎の月	中条村大字新座字三ッ山地内にあり、水田十数個、順次階段をなす。陰暦4月15、16、17日の3日間、月の東山に上るやその影各個の水田に印し、種々変化する。これ明治20年ごろ里人大津文八、日暮れて帰村の途、偶然発見するところにして、爾来観月のため参集するもの少なからず	中魚沼郡誌上	561
	躑躅岡	水沢村大字伊達の東方丘上にして、俗に黒沢原と称す。広袤東西2町を出入し、南北30町に過ぐ。その間すべて芝生にして野生の躑躅点々叢生し、あたかも栽培せるがごとし	中魚沼郡誌上	582
	鷹の巣	貝野村字宮中地内にして、外丸村大字三箇字鹿渡に通ずる経路にあたる。山勢信濃川に逼りて断崖壁立すること数十丈、断面所々に皺皺を生じ矮樹これに懸り、里道その崖腹を通じ、紫雲霜葉の眺めあり。大正5年隧道を鑿って通行に便にす	中魚沼郡誌上	565
	松代八景の選定	昭和26年松代八景を村民から募集、第1回投票結果は松苧山、小松橋、高等学校建物、長命寺、会沢薬師、池尻不動滝、海老の牛池など、3回目の投票を行って最終決定することにした	松代町史下	195
	直峰・松之山・大池 県立自然公園	昭和34年10月2日、「直峰・松之山・大池県立自然公園」指定(当初は大蔵寺高原は入らず、38年に含まれた)松之山温泉から大蔵寺高原、菖蒲高原を経て菱ヶ岳に至る地区、上越市安塚区の直峰城山、上越市頸城区の頸城大池の3地区に分かれている	松之山町史	931 945
河川	信濃川	千曲川と犀川が善光寺平で合流し、中魚沼郡の西南端から東北に向かって流れ、中津・清津の2川と数多の小溪流とを合わせ真人村の東端を絶ちて北魚沼郡に去る 十日町市史資料編1には「十日町を南西から北東に貫流する信濃川は、流程距離367Km、我が国最長の河川である。関東山地の甲武信ヶ岳(2,483m)に源を發し、信越両県を潤して日本海に至る。全国屈指の豪雪地帯の水を集め、日本海に流入する総流量は年間210億m <sup>3</sup> 、流域面積では勝る利根川の2倍に及ぶ」などの記載あり	中魚沼郡誌下	1,275
	中津川	源を上野国吾妻郡入山村野反湖より發し、苗場山・高倉山の間を北流し、芦ヶ崎村・下船渡村の間を流れ、割野に至りて信濃川に会す	中魚沼郡誌下	1,275
	清津川	源を三峰山の東北なる幽谷より發し、南魚沼郡三俣村を経て倉俣村に入り、下船渡村駒返に至りて信濃川に会す	中魚沼郡誌下	1,276
	釜川	小松原山の溪間より發し、倉俣村を南北に縦断して字田代に入り、7瀑7潭(七ツ釜)の奇景を成し、字倉俣に至り清津川に入る	中魚沼郡誌下	1,294
	渋海川(四部海川)	深坂峠付近を源とし浦田地区を流れる渋海川は、松之山郷北組へ流れ郷内の川々と合流して刈羽・三島へ流れ出し、長岡市宮内地区で信濃川と合流する、77.5Km。松之山地内の支流として中川・亀石川・樋田川・袖川・大坪川・松川がある(松之山町史8頁図1-4)。松代町史上487頁にも記載あり	松之山町史	434
	東川	東川は雁ヶ峰の沢を源とし、中尾・東川・下鰻池・五十子平・坪野・赤倉へ下る。別名布川という。支流として中尾川・鰻池川・猿倉川・池ノ沢川がある(松之山町史8頁図1-4)	松之山町史	434
	越道川	越道(こえど)川は天水山に源を發し、天水越・湯本・湯山・上川手・下川手を流れる。支流として栃倉川・湯本川・中沢川がある(松之山町史8頁図1-4)	松之山町史	435
	松川	水梨を貫流し渋海川に注ぐ	松之山町史	435
	峡谷	奥の景(清津峡)	倉俣村字小出温泉より清津川の溪流を溯ること3町ばかりに起り、その以南おおよそ1里にわたる溪谷の称なり。豊の耶馬溪と伯仲の間にありて、地陰僻なるを以て顕われず。ああ、山水もまた遇不遇あるか。中里村史通史編下444・640頁にも記載あり、昭和16年4月23日、国の名勝天然記念物に指定される	中魚沼郡誌上
坊主巖		倉俣村字西田尻より小出に通ずる里道の右側にあり	中魚沼郡誌上	577
滝	千ヶ瀧	大字坪山地内曾根川の上流にある大小22ヶより成る滝なり。その高さ8尺より1丈までとす	中魚沼郡誌下	1,286
	七ツ釜滝	中深見村字田代の南方約5町、釜川の上流なる溪谷の称なり。激流1段を下る毎に1潭を成し、潭水洶湧、釜中の観あり。その数すべて7、名の因って起る所以なり。両崖皆玄武岩を以て成る。左岸は柱石を駢峙せるが如く高さ数十丈、方4、5寸、その幾千条なるを知らず。右岸は横に重畳して横断面を現わすこと名工の手になるが如し。中里村史通史編下448・641頁にも記載あり、昭和12年6月国の名勝天然記念物に指定される	中魚沼郡誌上	570
	千瀧	小松原の蘆尾溪谷間の諸瀑の総称にして、一ノ瀧・二ノ瀧・三ノ瀧は共に数十丈の大瀑布なり	中魚沼郡誌下	1,295
	穴瀧	字角間の北方穴沢川の清津川に注ぐところにして、懸水7丈、幅9尺。絶壁の中腹に巨巖突出し、瀑水これに激し飛沫四散し分かれて2となり、再び合して清津川に入る	中魚沼郡誌下	1,297
	荒瀧不動	松之山村大字天水越にあり、付近に一瀑あり不動滝と名づく。不動堂前の小瀑中には飛驒の工匠の作と伝えられし龍の彫物あり。不動瀧は山伏の水垢離修業の場であったが、昭和52年8月の大雨及び地すべりのため決壊した。改修のため堂と多数の石仏が大蔵寺高原の現在地に移築された。堂に安置されている銅造地藏菩薩立像のうちの1体に「永禄9年(1566)」の紀年銘が刻されている。これは山伏によって納められたともいわれている。松之山町史871頁にも記載あり	東頸城郡誌	503

分類	項目	内容	出典	頁
池	二ツ屋の池	六箇村字二ツ屋の北方2町余にして2池あり、甲を辨天池といい、乙を丸池という。辨天池は東西68間、南北29間にして周囲5町に過ぐ。池中に小嶋あり。方3間余、堂あり辨財天女を安置す。丸池は一に寺池とも称す。東西41間、南北38間、池中に朽木点々散立す。土俗いう、往昔寺あり、一夜にわか沈没して池となり、その楹柱今に存するものなりと	中魚沼郡誌上	583
	海老の牛池	海老集落の北東、標高374mの所にあり。長径が10m程度の池であるが浮島があり、氷河時代の生き残りといわれるミツガシワが生えている。また池の名前の起源にもなった牛姫の物語も残されている。同町史下637頁にも記載あり。十日町市指定文化財	松代町史上	27
清水	仙田村の清泉	耕清水(田戸)・大白倉清水(大白倉)・小白倉清水(小白倉)・長治郎清水(小白倉)・沢清水(赤谷)・大貝清水(大貝)	中魚沼郡誌下	1,285
	倉俣村の清泉	弥左衛門清水(芋川)・大清水(芋川里道の側)・坂下清水(芋川の坂下)・湯本清水(小出湯本)・泉龍院清水(重地)	中魚沼郡誌下	1,295
	松之山の湧水	松里簡易水道水源、深山の清水、大松山湧水、修業者湧水、鱒口湧水、柳清水。水質調査結果は112頁に掲載あり	松之山町史	101
樹木	大松	十日町諏訪山上にあり。周囲1丈5尺、高さ約5丈、枝葉繁延して10間四方に及ぶ。この付近一帯の地を俗に大松と称するはこの樹に起因す	中魚沼郡誌上	611
	薬師の一本杉	十日町字赤倉清水峠の頂上にあり。周囲1丈5尺、高さ6丈。伝えいう、新田義興雪中中将嶽の目標として植えたるものなりと。十日町市史資料編1 150頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	611
	新座清水神社の大スギ	新座清水神社の大スギの巨木が点在する社寺林。最大のスギは根回り6.65m、高さ35.5m	十日町市史資料編1	148
	四日町神宮寺の大スギの巨木	四日町神宮寺の大スギの巨木が多い社寺林。スギ：幹回り①3.33m、②2.97m、③2.95m、④2.83m、⑤2.63m、⑥3.79m。「境内地及び山林」が市指定文化財	十日町市史資料編1	147
	北原八幡宮の大スギ	北原八幡宮の大スギの社寺林。スギ：幹回り3.54m~2.81mの大スギが6本あり	十日町市史資料編1	142
	八幡上之島神社の杉古木	中条村字八幡上之島神社：1丈5尺の老杉1株あり	中魚沼郡誌上	615
	東枯木又龍王社の杉古木	中条村字東枯木又龍王社：1丈8尺の老杉1株あり。十日町市史資料編1 144頁にも記載あり。「枯木又竜王社の三本スギ」として市指定文化財	中魚沼郡誌上	615
	背戸高禰神社の大スギ	背戸高禰神社の大スギを主とし落葉樹を一部に混交する社叢。スギ：①根元まわり9.28m、高さ25m、②根元まわり5.61m、高さ23m、③根元まわり7.27m、高さ28m。コウヨウザン：幹回り1.85m、高さ18m。キタゴヨウ：幹回り1.46m、高さ13m。「高禰神社社叢」として市指定文化財	十日町市史資料編1	144
	太子堂の大ケヤキ	太子堂(太子堂)の大ケヤキの単木。ケヤキ：幹回り4.19m、高さ24.5m	十日町市史資料編1	146
	入山のカスミザクラ	入山向山のゼンマイ平のボイ山の中に生育するカスミザクラの単木。根元まわり4.78m、高さ8m。市指定文化財であったが枯死したため平成25年3月指定解除	十日町市史資料編1	170
	小貫十二社(諏訪社)の杉古木	中条村字小貫十二社：1丈6尺余りの老杉1株あり。十日町市史資料編1 143頁にも記載あり。新潟県指定文化財	中魚沼郡誌上	615
	原天満宮の大スギ	下条原天満宮の大スギを主としてコウヨウザンを混交する社寺林。スギ：幹回り3.84m、高さ23m。コウヨウザン：幹回り2.35m、高さ19m	十日町市史資料編1	140
	平八幡宮のカツラ	平八幡宮の大スギを主としてカツラ、モミを混交した社寺林。カツラ：幹回り8.8m、高さ20m。モミ：幹回り3.02m、高さ26m	十日町市史資料編1	141
	ナンジャモンジャの木	川治村大字高山金剛童子祠の崖麓にあり、周囲4尺余り。里人その名を知るものなし、称してナンジャモンジャの木という	中魚沼郡誌上	615
	山本稲荷神社の大スギ	山本稲荷神社の二本立ちの大スギ。二本立ちの大スギ：幹回り①3.1m、②2.5m、高さ27.5m	十日町市史資料編1	149
	川治妻有神社の大スギ	川治妻有神社の大スギの多い社叢。最大のスギは根元まわり8.61m、高さ30m。この他に幹回り3.72m~2.6mのスギが11本ある	十日町市史資料編1	151
	有明の桜	六箇村字麻畑秋葉山山頂秋葉社の前にあり。伝えいう、元建のころ羽川刑部の手植えに係ると	中魚沼郡誌上	614
	六箇山谷秋葉三尺坊の大スギ	六箇山谷秋葉三尺坊の大スギ。幹回り4.4m、高さ36m	十日町市史資料編1	152
	田麦熊野神社裏の大スギ	田麦熊野神社裏の大スギ。幹回り3.2m、高さ36m。同クラスの大スギが熊野神社の南側のスギ林に数本点在する	十日町市史資料編1	153
	船坂愛宕大権現の大スギ	船坂愛宕大権現の大スギの単木。根回り8.65m、高さ29m	十日町市史資料編1	154
薬師堂(栢窪峠)の大スギ	栢窪峠薬師堂の大スギの社叢。①幹回り3.81m、高さ28m。②幹回り3.45m、③幹回り3.2m	十日町市史資料編1	154	
親抱の松	吉田村字名ヶ山の北方、薬師峠の頂上にして薬師堂の西にあり。小木の枝老樹を擁することあたかも子の親を抱けるがごとし、故に親抱の松と命名す	中魚沼郡誌上	613	
吉田山谷吉田社の大スギ	吉田社(吉田山谷)の大スギの多い社叢。大スギの幹回り：①3.43m、②3.55m、③3.52m、④3.14m、⑤2.74m。高さ30m	十日町市史資料編1	164	
鉢の石仏の大スギ	鉢の石仏の大スギを主とした社叢林。スギ：①幹回り4.4m、高さ31m、②幹回り2.6m、③3.27m、④3.95m、ほかに8本あり。ヤマトアオダモ：幹回り3.25m、高さ25m。ブナ：幹回り2.84m。ケヤキ：幹回り2.41m	十日町市史資料編1	165	
姿矢放神社の大ケヤキとスギ	姿矢放神社の大ケヤキの単木と、参道入り口の大スギの参道。ケヤキ：幹回り5.32m、高さ32m。スギ：①幹回り4.02m、高さ33m。②幹回り3.1m、高さ30m。③幹回り2.9m、高さ39m。大ケヤキは市指定文化財。中魚沼郡誌上615頁にも記載あり	十日町市史資料編1	167	

分類	項目	内容	出典	頁
樹木	当間の大ケヤキ	当間の大ケヤキの単木。ケヤキ：幹回り 5.4m、高さ 20m	十日町市史資料編1	159
	当間八幡社の大スギ	当間八幡社の大スギの社叢。スギ：①幹回り 4.1m、高さ 26m。②幹回り 3.14m、高さ 25m	十日町市史資料編1	160
	池沢十二社の樺	水沢村字池沢十二社に1丈8尺の樺1株あり	中魚沼郡誌上	615
	新宮神社の大スギ	新宮神社（新宮）の大スギの社寺林。大スギ：①幹回り 4.71m、高さ 28m。②幹回り 3.64m、高さ 26m。③幹回り 3.41m、高さ 26m	十日町市史資料編1	155
	銀柄沢十二社の大カツラ	銀柄沢十二社の大カツラの単木。カツラ：幹回り 4.1m、高さ 35m	十日町市史資料編1	157
	太田島小牧社の大ケヤキ	太田島小牧社の大ケヤキの社叢、大ケヤキが4本ある。①幹回り 6.75m、高さ 34m、市指定文化財。②幹回り 4m、高さ 20m。③幹回り 3.77m、高さ 20m。④幹回り 4.29m、高さ 26m	十日町市史資料編1	157
	馬場白山媛神社の大スギ	馬場白山媛神社の大スギを交えたスギの社叢。大スギ：根元まわり 10.73m、高さ 33m	十日町市史資料編1	162
	水沢八幡神社の大スギ	水沢八幡神社の大スギが点在する社叢。大スギ：①幹回り 5.12m、高さ 32m。②幹回り 3.97m、高さ 32m	十日町市史資料編1	163
	安養寺円通庵の大スギ	安養寺円通庵の3本スギ。スギ：①幹回り 5.93m、高さ 35m。②幹回り 7.23m、高さ 35.5m。③幹回り 3.75m、高さ 36m。市指定文化財	十日町市史資料編1	167
	安養寺松尾神社の大スギとケヤキ	松尾神社（安養寺）の大スギとケヤキ。大スギ：根元まわり 8.68m。ケヤキ：幹回り 3.44m、高さ 18m。スギは市指定文化財	十日町市史資料編1	169
	坪山の一本杉	中野村大字坪山山地内ドロの木林と称する所にある老杉なり、周囲1丈7尺。文政中の記録に三ヶ村山の口の待合所なりと記せり	中魚沼郡誌上	613
	花立松	中野村大字坪山山地内花立という処にあり。古松なれどもその由来を知らず	中魚沼郡誌上	613
	赤谷十二社の大樺	仙田村字赤谷十二社の境内にあり。周囲2丈8尺、郡内まれにみる大樹たり。県天然記念物	中魚沼郡誌上	613
	仁田熊野社の杉古木	橋村大字仁田熊野社：1丈8尺と1丈6尺の老杉2株あり	中魚沼郡誌上	615
	沖立大樺	千手町村大字沖立にありて、周囲3丈に過ぎたり。伝えいう、村落開発前にすでに巨幹たり、故に草創の際、大木立と称せしをいつしか沖立と書き改めしと。その後、蟻に食害せられて半枯れる、因りて明治34年の春、伐採。その跡に石を建ててこれを標す	中魚沼郡誌上	613
	雑水山神明社のイタヤ古木	倉俣村字雑水山神明社：1丈余りのイタヤ1株あり、ほかに7、8尺のもの2株、共に天和の検地帳に載せしものという	中魚沼郡誌上	615
	璽檀杉	田沢村字上山諏訪神社の境内にあり。周囲3丈ばかりにして、高さおおよそ12丈なりと。昭和58年伐採	中魚沼郡誌上	614
	角間のねじり杉	角間の観音様境内のスギで、樹皮がねじれているため、ねじり杉と呼ばれている。胸高直径1.2m。昭和60年3月29日、県の天然記念物に指定された	中里村史通史編上	81
	田開稲荷社叢	桔梗ヶ原田開稲荷社の周りは、ブナの大樹が茂ってこんもりとした社叢を形づくっている。胸高直径35～120cmのブナが32本あり、ほぼ同じ太さのスギも数本見られる。県内の社叢は内陸部では杉林が普通であり、ブナの社叢は珍しい	中里村史通史編上	82
	コウヨウザンの大木	本屋敷の南雲雷一氏の庭にコウヨウザンの成木があり、県内では数少ない大木である	中里村史通史編上	83
	見通の杉	松代村大字松代にあり、樹齢400年。冬季通行人の目標	東頸城郡誌	508
	花立の松	松代村大字千年にあり、樹齢300年。冬季通行人の目標	東頸城郡誌	508
	塚本の松	松代村大字会沢にあり、樹齢300年	東頸城郡誌	508
	小屋丸熊野神社の大スギ	小屋丸熊野神社境内にある大スギで、目通り回り7.5m、樹高30m近く、樹齢400年以上と推定。松代町史上229頁にも記載あり	松代町史上	224
	桐山十二神社の大スギ	桐山十二神社境内にある大スギで、「夫婦杉」と呼ばれている。2本の大樹が地上2mのところまで合体し、合体部分の目通りは7.7mに達する。推定樹齢700年。松代町史上229頁にも記載あり	松代町史上	225
	筋平松茸神社の大スギ	筋平松茸神社境内にある大スギで、目通り5.55m、樹高20mに達する。松代町史上229頁にも記載あり	松代町史上	225
	室野松茸神社の大スギ	室野松茸神社境内にある大スギで、目通り5.05m、市指定文化財。境内には、このほかに目通り4.1m～2.5mのスギが十数本ある	松代町史上	225
	松代神社の大スギ	松代神社にある大スギで、目通り①4.88m、②3.5m	松代町史上	229
	松代小学校の大スギ	松代小学校にある大スギで、目通り①4.75m、②3.55m、③3.27m	松代町史上	229
	田野倉十二社の大スギ	田野倉十二社にある大スギで、目通り①4.85m、②3m	松代町史上	229
	田野倉の大スギ	田野倉の公園にある大スギで、目通り4.55m	松代町史上	229
	太平十二神社の大スギ	太平十二神社にある大スギで、目通り4.75m	松代町史上	229
	下山十二神社の大スギ	下山十二神社にある大スギで、目通り4.7m	松代町史上	229
	木和田原十二神社の大スギ	木和田原十二神社にある大スギで、目通り①4.45m、②3.66m、③3.17m	松代町史上	229
	池之畑鹿島神社の大スギ	池之畑鹿島神社にある大スギで、目通り4.4m	松代町史上	229
	奈良立八幡神社の大スギ	奈良立八幡神社にある大スギで、目通り4.35m	松代町史上	229
	犬伏犬伏神社の大スギ	犬伏犬伏神社にある大スギで、目通り4.3m	松代町史上	229
	蒲生松茸神社の大スギ	蒲生松茸神社にある大スギで、目通り①3.85m、②3.27m、③3.02m	松代町史上	229
	蒲生の大スギ	蒲生若山氏宅にある大スギで、目通り①3.05m、②3m	松代町史上	229
	片桐山諏訪神社の大スギ	片桐山諏訪神社にある大スギで、目通り①3.5m、②3.3m	松代町史上	229

分類	項目	内容	出典	頁
樹木	峠の大スギ	峠の祠にある大スギで、目通り 3.5m	松代町史上	229
	会沢の大スギ	会沢小野島氏宅にある大スギで、目通り 3.47m	松代町史上	229
	苧之島諏訪神社の大スギ	苧之島諏訪神社にある大スギで、目通り 3.4m	松代町史上	229
	千年八幡社の大スギ	千年八幡社にある大スギで、目通り 3.2m	松代町史上	229
	福島松茸神社の大スギ	福島松茸神社にある大スギで、目通り 3.18m	松代町史上	229
	竹所十二神社の大スギ	竹所十二神社にある大スギで、目通り 3.04m	松代町史上	229
	仙納松茸神社の大ケヤキ	仙納松茸神社にある大ケヤキで、目通り 4.10m	松代町史上	229
	池尻の大ケヤキ	池尻資料館にある大ケヤキで、目通り 3.6m	松代町史上	229
	海老の大ケヤキ	海老村山氏宅にある大ケヤキで、目通り①3.55m、②3m	松代町史上	229
	海老の大ケヤキ	海老若月氏宅にある大ケヤキで、目通り 3.28m	松代町史上	229
	峠の大ケヤキ	峠牧田氏宅にある大ケヤキで、目通り 3.5m	松代町史上	229
	峠の大ケヤキ	峠横尾氏宅にある大ケヤキで、目通り①3.31m、②3.18m	松代町史上	229
	蓬平の大ケヤキ	蓬平若井氏宅にある大ケヤキで、目通り 3.5m	松代町史上	229
	会沢の大ケヤキ	会沢小野島氏宅にある大ケヤキで、目通り 3.28m	松代町史上	229
	福島松茸神社の大ケヤキ	福島松茸神社にある大ケヤキで、目通り 3.13m	松代町史上	229
	洞泉寺の大ケヤキ	室野洞泉寺境内にある大ケヤキで、目通り 6.75m、樹高 25m 以上、推定樹齢 600 年は松代で最大のものである。市指定文化財。別の大ケヤキは目通り 5.65m。松代町史上 229 頁にも記載あり	松代町史上	226
	田沢十二社の大ケヤキ	田沢十二社境内にある大ケヤキで、目通り 6.35m、樹高約 30m。市指定文化財。松代町史上 229 頁にも記載あり	松代町史上	227
	松茸山の大五葉松	松茸神社社殿から菅刈登山道に向かって 350m ほど行った西斜面に生育しているキタゴヨウの巨木で、樹幹は目通り 4.02m であるが、上部はタコの足のよう大枝が二十数本に分かれ、特異な樹形となっている。昭和 62 年秋にマツクイムシの被害を受け枯死	松代町史上	226
	蒲生松泉寺の五葉松	蒲生松泉寺の五葉松、目通り 3.29m	松代町史上	227
	名平神社の五葉松	名平神社の五葉松、目通り 2.2m	松代町史上	227
	松代少林寺の五葉松	松代少林寺の五葉松、目通り 1.87m	松代町史上	227
	木和田原のヤマボウシ	木和田原から峠に抜ける農道の近くの耕作地に孤立して立っている。目通り 1.1m、樹高約 10m でヤマボウシとしては松代では最大ものである	松代町史上	226
	長命寺の大イチョウ	松代長命寺の境内にある大イチョウで、目通り 7.25m、樹高 30m、推定樹齢 500 年。市指定文化財	松代町史上	227
	田沢十二社の大イチョウ	田沢十二社境内にある大イチョウで、目通り 4.95m。市指定文化財	松代町史上	227
	桐山十二社の大イタヤカエデ	桐山十二社境内にあるイタヤカエデの古木で、目通り 3.45m	松代町史上	225
	寺田の大カエデ	寺田井上政身氏宅地内にある大カエデで、目通り 2.52m、樹高約 20m、推定樹齢 250 年。市指定文化財	松代町史上	227
	名平集落開発センターのカツラ	名平集落開発センターのカツラ、目通り 3m 以上	松代町史上	227
	竹所のカツラ	竹所五十嵐氏宅のカツラ、目通り 2.5m	松代町史上	227
	仙納のカツラ	仙納集会所のカツラ、目通り 2.2m	松代町史上	227
	洞泉寺のカツラ	室野洞泉寺のカツラ、目通り 2.05m	松代町史上	227
	蒲生のカツラ	蒲生若山氏宅カツラ、目通り 1.82m	松代町史上	227
	会沢神社のアカツ	会沢神社のアカツ、目通り 3.54m	松代町史上	228
	峠のモミ	峠牧田氏宅のモミ、目通り 2.79m	松代町史上	228
	竹所のシダレザクラ	竹所佐藤氏宅のシダレザクラ、目通り 1.47m	松代町史上	228
	名平神社のケンボナシ	名平神社のケンボナシ、目通り 2.05m	松代町史上	228
	小貫のドロノキ	小貫小山氏宅のドロノキ、目通り 1.91m	松代町史上	228
	筋平のオハツキイチョウ	筋平高橋氏宅のオハツキイチョウ、目通り 0.6m	松代町史上	228
	浦田諏訪の大杉	浦田村大字浦田諏訪神社境内にあり、樹齢 300 年	東頸城郡誌	507
	湯山松茸神社の大樺	松之山村大字湯山松茸神社境内にあり。樹齢 1,900 年以上と称せらるる稀有の大樹で県下においても比類少ないという。昭和 28 年 11 月 14 日国指定天然記念物になる。松之山町史 974 頁にも記載あり。倒木の危険があるため平成 8 年 6 月 16 日伐採	東頸城郡誌	505
	浦田の吉野枝垂桜	浦田村大字浦田字西の前南雲藤八郎氏宅内にありて、北国一の枝垂桜と称す。樹齢 300 年を経たり。松之山町史 976 頁（南雲良雄氏宅）にも記載あり	東頸城郡誌	506
	黒倉の抱瘡の松	浦田村大字黒倉字十文字にあり、樹齢 600 年	東頸城郡誌	508
	黒倉十二社の大樺	浦田村大字黒倉十二社にあり、樹齢 800 年	東頸城郡誌	509
小谷白山神社の大樺	松之山村大字小谷白山神社にあり、樹齢 700 年。平成 3 年 2 月松之山町指定天然記念物となる。松之山町史 975 頁にも記載あり。市指定文化財	東頸城郡誌	508	
大荒戸の庚申夫婦スギ	大荒戸の庚申塚にある大スギで、目通り 11.3m、双幹になっているところから、夫婦杉といわれている。市指定文化財。東頸城郡誌 506 頁にも「相生の大杉」として記載あり	松之山町史	975	

分類	項目	内容	出典	頁
樹木	中尾の大杉	松之山村大字中尾鏡が池畔にあり、樹齢1,000年。全体が亀の甲の形に似ていることから別名「中尾の亀杉」と言われている。昭和33年3月5日、新潟県天然記念物に指定される。松之山町史975頁にも記載あり。豪雨により倒壊し、平成24年指定解除	東頸城郡誌	508
	西之前諏訪神社の大スギ	西之前諏訪神社の大スギで、目通り7m	松之山町史	976
	新山十二神社の大スギ	新山十二神社の大スギで、目通り5.6m	松之山町史	976
	小谷白山神社の大スギ	小谷白山神社にある大スギで、目通り5.6m	松之山町史	976
	天水島熊野神社の大コナラ	天水島熊野神社にある大コナラで、目通り4.88m	松之山町史	976
	三桶の大イチイ	三桶志賀幸一氏宅にある大イチイで、目通り3.8m	松之山町史	976
	水梨白山神社の大ケヤキ	水梨白山神社にある大ケヤキで、目通り3.7m	松之山町史	976
	中尾十二社の大カツラ	中尾十二社にある大カツラで、目通り3.7m	松之山町史	976
	北浦田神明神社の大ケヤキ	北浦田神明神社にある大ケヤキで、目通り3.65m	松之山町史	976
	観音寺の大ケヤキ	観音寺観音寺にある大ケヤキで、目通り①3.6m、②3.2m	松之山町史	976
	西之前の大ケヤキ	西之前南雲得郎氏宅にある大ケヤキで、目通り3.5m	松之山町史	976
	湯本諏訪神社の大ケヤキ	湯本諏訪神社にある大ケヤキで、目通り3.5m	松之山町史	976
	中立山の大ケヤキ	中立山佐藤昇氏宅にある大ケヤキで、目通り3.2m	松之山町史	976
	上鰈池の大イチョウ	上鰈池重野忠男氏宅にある大イチョウで、目通り3m	松之山町史	976
	下鰈池大宝神社の大スギ	下鰈池大宝神社にある大スギで、目通り5.6m	松之山町史	976
	大荒戸十二神社の大ケヤキ	大荒戸十二神社にある大ケヤキで、目通り5.3m	松之山町史	976
	浦田松苧神社の大スギ	浦田(大宮)松苧神社にある大スギで、目通り5m	松之山町史	976
石	雨降石	十日町の東方、愛宕山に至る途中にある大石。石に手を触れると雨が降る	中魚沼郡誌上	561
	船石	水沢村水沢銀行庭園にあり。長さおおよそ7尺、幅3尺弱、両端高くしてあたかも船のごとし。中間平かにして数人を座せしむべし、その色灰黒にして、質甚だ密ならず。南方数町の溪間より出ずという	中魚沼郡誌上	615
	大石	小出温泉を距る1町、奥の景谷の入口、清津川の川中にあり。石上十余畳をしくべし	中魚沼郡誌上	576
	甌穴(ポットホール)	国道253号田沢スノーシェッド脇の渋海川高水敷に甌穴(ポットホール)が多くみられる。松代町史上90頁にも記載あり。市指定文化財	松代町史上	18
	山伏山の奇岩	松之山村天水越にあり。截石の如き形せる巨巖を畳みて峭立すること数百尺、これに千古の緑苔隙もなく密生してその天然の構造の偉大なる正に天下の一大偉観なり。大体の構造は七ツ釜の奇観と同形にして規模は遙かに彼に勝れり	東頸城郡誌	503
植生	小松原	倉俣村外3ヶ村の入会地を小松原と称す。方3里にして南北やや長し、1万町歩と称す。伝えいう、往昔小松原内大臣重盛の末孫、この地に潜栖す、命名これに起因すと。中里村史通史編下641頁にも記載あり。昭和51年12月28日新潟県自然環境保全地域に指定	中魚沼郡誌上	576
	美人林	松口の北、字外(そで)と呼ばれる丘陵は一面ブナ林である。樹齢約70年、直径30cm前後、樹高20mほどの若木が約3haの丘陵に広がる	松之山町史	935
	天水山麓のブナ原生林	三方岳と天水山の北方天水越に広がる約50haのブナの原生林。平成3年2月松代町指定天然記念物となる。市指定文化財	松之山町史	976
山	虚空蔵山	田沢村字田沢の東南丘上にあり。十二社の後方、羊腸たる小径を登ること50余折にして頂上に達す。堂あり虚空蔵を安置す	中魚沼郡誌上	581
	苗場山	中魚沼郡の南端に聳えて、南魚沼郡及び信濃国下高井郡に跨り、苗場・桐の塔の諸峰より成れる。小松原の記載あり	中魚沼郡誌下	1,273
	猫石山	田沢村大深山の北に峙つ。その東南に面せる懸崖に巨岩突起し、形怪猫の蹲踞せるのごとし、名づくる所以なり	中魚沼郡誌下	1,296
	岩見堂	浦田村大字浦田字岩見堂にあり、高さ50丈、幅20丈。宝暦3年8月、1人の僧が岩見堂の中腹にある岩穴に籠り百日の修業中、付近の庄屋衆からこの場所を修業の場として提供されたもの。平成3年2月松之山町の名勝に指定。松之山町史890・934・977頁にも記載あり。市指定文化財	東頸城郡誌	502
温泉	塩野の鉱泉	塩野に冷泉あり、塩野の湯と称し、塩分を含有す。発見年代詳らかならず、明治37、8年浴槽を開くも浴客極めて少なく数年前これを廃したり	中魚沼郡誌下	1,282
	六箇村の鉱泉	塩之又の南方湯ノ平にあり。冷泉にして文政11年、南雲長三郎の発見に係るといふ。浴舎2戸	中魚沼郡誌下	1,299
	川治村の鉱泉	八箇峠の山麓所々に冷泉湧出す。従前より浴舎ありしが、明治32年、今の地に移転す	中魚沼郡誌下	1,300
	小出温泉	字小出の清津川左岸にあり、小出温泉と称す。安政元年の発見にして、三右衛門の独力開削に係るといふ。松之山町史によれば小出温泉の発見は元禄年間温泉を活用できたのは文久年間と記述されている。中里村史通史編上869頁、同村史通史編下236頁にも記載あり。松之山町史897頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,295
	西田尻の鉱泉	西田尻に冷泉あり。中里村史通史編下450頁には、「瀬戸口温泉とも西田尻の湯とも呼ばれる現在の清津峡ホテルは、昭和12年10月、樋口亮策によって開かれた」との記述あり	中魚沼郡誌下	1,295
	田沢村の鉱泉	東田尻及び葎沢に温泉湧き、角間に冷泉出ず	中魚沼郡誌下	1,297

分類	項目	内容	出典	頁
温泉	筋平の鉱泉	筋平鉱泉は古くから利用されていたらしいが、現在はその位置が鯖石川の川底に近く全く利用されていない	松代町史上	104
	松之山温泉	温泉の由緒、効能、成分分析表などの記載あり 松之山町史 67 頁「松之山における温泉の分布は、大松山付近を中心とした松之山ドーム構造の周辺である」。温泉の水質調査結果は 114 頁に記載あり。松之山温泉の「沿革」「兎口温泉」「新温泉」「鉱泉」「温泉試掘」について松之山町史 897～928 頁に記載あり 「文化 14 年諸国温泉効能鑑」によると、越後松の山湯は東前頭 11 枚目に位置付けられており、越後の湯の中で右に出るものがない。松之山町史 489 頁、897 頁	東頭城郡誌	316
化石	マンモスの歯骨化石	大正 4 年 5 月 23 日、橘村大字野口丸山安太郎の同所地内字下タ金鉢、俗に津浦と称する地より発見せしものにて、該化石今橘小学校に保存す	中魚沼郡誌上	617
	シロウリガイの化石	水深 750m 以深の深海底にすむシロウリガイが松口東方の越道川右岸から採集された。平成元年松代町蒲生東方の論手川の砂防ダムから採集されている	松之山町史	4
地すべり	中魚沼郡内の地すべり地	中条村新水、水沢村野中、川治村関根、下条村慶地、田沢村東田尻・如来寺、六箇村二ツ屋・船坂等の地滑地記載あり	中魚沼郡誌下	1, 332
	松之山地すべり	昭和 37 年 4 月に兎口集落付近で発生した兎口地すべりから始まり、松之山地すべり、新山地すべり、光間地すべり、松口地すべりなど幾つかのブロックに分けられる。同町史 766 頁にも記載あり	松之山町史	70

(2) 生活空間関連

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 〔「中魚沼郡誌」に掲載されたもの〕	石器時代の遺跡	十日町地内字逢坂：磨製石斧	中魚沼郡誌上	597
	石器時代の遺跡	下条村大字上新田地内字戸屋：石鏃、磨製石斧	中魚沼郡誌上	597
	石器時代の遺跡	下条村大字上新田地内字長者屋敷：石鏃、磨製石斧	中魚沼郡誌上	597
	石器時代の遺跡	仙田村字赤谷渋海川：石皿	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	仙田村字田戸地内上ノ田：磨製石斧、丸石	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	橋村大字仁田地内字北沢の丸山：磨製石斧	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	中野村大字伊勢平治地内字上ノ原：石鏃、磨製石斧、石包丁、イハト笛	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	上野村大字小根岸地内字沢入：磨製石斧	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	上野村大字新町新田：磨製石斧	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	千手町村大字上新井地内字長者ヶ原：石鏃、石槍。川西町史資料編上 8 頁に縄文時代の記述あり	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	千手町村大字水口沢地内字南原：磨製石斧	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	吉田村大字南鑑坂地内字鉢道：石鏃、磨製石斧、打製石斧、凹石、石皿、土器破片	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	吉田村大字南鑑坂地内字幅ノ上：土器片	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	吉田村大字高島地内字南原：磨製石斧、石槍	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	吉田村大字高島地内字宮ノ上：石鏃	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	貝野村字安養寺地内字上原及び字久保：磨製石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	貝野村字新屋敷地内字打子田：土器破片	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	貝野村字新屋敷地内字万多倉：石鏃、土器破片	中魚沼郡誌上	598
	石器時代の遺跡	貝野村字堀之内地内字久保寺：土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	倉俣村字倉俣地内字稲荷平：石鏃	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	倉俣村字重地地内字寺尾：土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	田沢村字桂地内字三ノ坂：石鏃、磨製石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字馬場字水沢地内字坂上：石鏃	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字馬場字太田島地内字宮栗：磨製石斧	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字大戸見阪：石棒、磨製石斧	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字土市地内字貉原：磨製石斧、打製石斧	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村字南雲：石皿、石棒、石鏃、土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字伊達字伊達地内字北堀：磨製石斧	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字伊達字伊達地内字寺山：打磨石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字伊達字伊達地内字赤羽：凹石、打製石斧、石鏃	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字伊達字伊達地内字四塚：磨製石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字伊達字天池地内字天池原：石皿、丸石、打製石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字新宮地内字南原：打製石斧	中魚沼郡誌上	599
	石器時代の遺跡	水沢村大字新宮地内字牧之脇：石鏃、石棒、凹石、打製石斧、土器破片	中魚沼郡誌上	599
石器時代の遺跡	水沢村大字大黒沢地内字京の坂道下：石鏃、磨製石斧、打製石斧、凹石、土器破片	中魚沼郡誌上	599	
石器時代の遺跡	川治村大字川治地内字陣場：石鏃、打製石斧	中魚沼郡誌上	600	
石器時代の遺跡	川治村大字川治地内字伯父ヶ窪：土器破片	中魚沼郡誌上	600	
石器時代の遺跡	川治村大字北新田地内字諏訪林：石鏃	中魚沼郡誌上	600	
石器時代の遺跡	川治村大字北新田地内字森ヶ上：土器破片	中魚沼郡誌上	600	
石器時代の遺跡	川治村大字山本地内字城及び下段：石鏃、土器破片	中魚沼郡誌上	600	
石器時代の遺跡	川治村大字八箇字孕石地内字中田：土器破片	中魚沼郡誌上	600	
遺跡 〔市町村史に掲載されたもの〕	中段遺跡	下条地区貝ノ川にあり。下条小学校の北東約 350m、信濃川右岸の河岸段丘上（根深面）に位置する縄文時代後期・晩期、中世、近世、近代の遺跡で、標高 107m。遺跡の南方には信濃川の支流である貝ノ川が流れる。貝ノ川を挟んで南方約 350m には林の下遺跡がある。掘立柱建物跡および鍛冶工房跡は、出土遺物からすると、16 世紀後半から 17 世紀ころのものと考えられ、遺構の重複からしても数次にわたると見られる。また、調査区の西側にあった農道は、かつての「善光寺街道」であり、古くからこの辺りに主街道が通っていたと見られ、本遺跡はこれと何らかのかかわりをもって営まれていたと考えられる。十日町市史通史編 1 312 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	28
	林の下遺跡	下条地区為永にあり。下条中学校の東方約 250m、信濃川右岸の河岸段丘上（根深面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高約 110m。遺跡の北方を貝ノ川が流れる	十日町市史資料編 2	42
	池ノ端遺跡	下条地区山際にあり。行寺溜池の北西約 150m、信濃川右岸の丘陵平坦面上に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 185m。下の沖積面との比高は約 40m。本遺跡で採集されている独鈷石は、現在、市内で唯一の例である。この石は祭器と考えられており、遺跡の性格を考えるうえで注目される資料である	十日町市史資料編 2	47
	行塚遺跡	下条地区上新田にあり。上新田集落の南西約 400m、信濃川右岸の河岸段丘（石名坂面）の縁辺部に位置する縄文時代前期から後期の遺跡で、標高 122m。飯山線を挟んで南東約 250m には野首遺跡がある	十日町市史資料編 2	59
	野首遺跡	下条地区上新田にあり。上新田集落の南方約 300m、信濃川右岸の河岸段丘（石名坂面）の縁辺に位置する縄文時代前期から後期、平安時代、中世、近世、近代の遺跡で、標高 112m。遺跡の南方を流れる飛渡川を挟んで、対岸約 500m には北原八幡遺跡がある。十日町市史通史編 1 198、305 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	67

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡（市町村史に掲載されたもの）	北原八幡遺跡	中条地区北原にあり。飯山線の線路を挟んで、中条病院の東方約450m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の先端部に位置する縄文時代前期から後期の遺跡で、標高130m。遺跡の北方約100mには飛渡川が流れる	十日町市史資料編2	84
	北原東遺跡	中条地区北原にあり。中条病院の東方約250m、信濃川右岸の河岸段丘上（石名坂面）に位置する縄文時代中期・後期、弥生時代の遺跡で、標高約120m。飯山線の線路を挟んで西方約100mには、北原西遺跡がある。北原西遺跡と北原東遺跡は、採集されている遺物、遺跡の範囲から見て、同一の遺跡である可能性が高い	十日町市史資料編2	91
	笹山遺跡	中条地区上町にあり。旭ヶ丘団地の東方約350m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の緩斜面上に位置する縄文時代中期・後期、中世の遺跡で、標高170～180m。遺跡の北を水無川が南を才明寺川が流れている。縄文時代の遺構は、これらの川による土石流に覆われている。十日町市史通史編1 318頁にも記載あり	十日町市史資料編2	93
	中条上ノ原遺跡	中条地区上原にあり。上原集落の北東端、信濃川右岸の河岸段丘上（根深面）に位置する縄文時代、中世の遺跡で、標高約180m。南方約550mには舟山遺跡がある	十日町市史資料編2	187
	舟山遺跡	中条地区八幡にあり。八幡溜池の西側、信濃川右岸の丘陵緩斜面の縁辺部に位置する縄文時代前期・中期の遺跡で、標高約160m。	十日町市史資料編2	188
	社畑遺跡	中条地区八幡にあり。八幡集落の南方約100m、上之島神社の西側、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する縄文時代中期・後期、平安時代、中世の遺跡で、標高165m。遺跡の西側を下大井田川が流れている。縄文時代中期・後期の遺構は、大規模な土石流あるいは洪水によって、その大半が破壊され、また、土砂の堆積などにより、当時の地形も大きく変化しているものと見られる。平安時代の前期にあたる9世紀中ころから後半にかけて、この遺跡を取り巻く地域に、古代の行政機関である官衙や、初期荘園の管理・経営などに関連する何らかの施設が存在していたと推定される。この地が重要であったことは、ここが下大井田川の水利と、川に沿った山越えの道を押さえる位置にあることからもうかがえる。また掘立柱建物の北側に残る道は、かつての「善光寺街道」であり、古くからこの山裾に主街道が通り、この地は交通の要衝でもあった。十日町市史通史編1 199頁にも記載あり	十日町市史資料編2	190
	神宮寺遺跡	中条地区四日町第2にあり。神宮寺境内内、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する縄文時代、中世の遺跡で、標高125m。現在の地形から見て、境内を含むその周辺は、中世の館跡である可能性が高い	十日町市史資料編2	209
	新座原A遺跡	中条地区新座第1にあり。十日町中学校東方約600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山I面）の緩斜面上に位置する縄文時代前期・中期・後期の遺跡で、標高約250m。南北を沢に挟まれ、扇状に広がるこの緩斜面上（標高220～280m）には、新座原B～E遺跡が連なるように存在する	十日町市史資料編2	212
	新座原B遺跡	中条地区新座第1にあり。新座原A遺跡の北西約100m、河岸段丘縁辺部に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高約240m	十日町市史資料編2	214
	新座原C遺跡	中条地区新座第1にあり。新座原A遺跡の北西約250m、段丘の突端部に位置する縄文時代前期・中期・後期の遺跡で、標高約230m	十日町市史資料編2	215
	新座原D遺跡	中条地区新座第1にあり。新座原A遺跡の東方約200mに位置する弥生時代の遺跡	十日町市史資料編2	216
	御嶽山遺跡	中条地区新座第1にあり。十日町中学校の南東約300m、信濃川右岸の河岸段丘（城山I面）に位置する縄文時代早期の遺跡で、標高約220m。北側には沢、南側には段丘崖が迫る	十日町市史資料編2	217
	馬場上遺跡	十日町地区西本町1にあり。西小学校の敷地内、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する古墳、奈良・平安時代、中世の遺跡で、標高135m。竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが多数検出されている。南東約300mには下梨子遺跡がある。十日町市史通史編1 177・181・183・197・206頁、同市史通史編6 22頁にも記載あり	十日町市史資料編2	222
	下梨子遺跡	十日町地区稲荷町3丁目にあり。十日町市博物館の南方約300m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高142m。昔から注目されていた遺跡であり、十日町青年学級、小・中学生および高校生の自由研究やクラブ活動の場でもあった	十日町市史資料編2	274
	四ツ宮遺跡	十日町地区本町6丁目にあり。十日町中学校西方約300m、四ツ宮神社境内、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代中期、古墳時代、平安時代、近世の遺跡で、標高約150m。十日町市史通史編1 200頁にも記載あり	十日町市史資料編2	280
	一石苗遺跡	十日町地区本町7丁目にあり。職業安定所の東方約200m、飯山線と国道117号が交差する付近、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高141m。南側を田川が流れる	十日町市史資料編2	286
	田中町遺跡	十日町地区本町5丁目にあり。市民会館の北方約550m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代中・後期の遺跡で、標高約150m。南方約400mには愛宕山遺跡がある	十日町市史資料編2	287
愛宕山遺跡	十日町区川原町にあり。十日町小学校の北西約250m、信濃川右岸の河岸段丘（千手面）の先端部に位置する旧石器時代の遺跡で、標高187m	十日町市史資料編2	289	
城之古遺跡	川治地区城之古第1にあり。南中学校の南西約600m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する弥生時代後期の遺跡で、標高144m。南側には中沢川が流れる。弥生時代の遺跡が少ない本地域にあって、古くから知られている遺跡である。遺構などは検出されていないが、本遺跡は玉造り遺跡である可能性が高い	十日町市史資料編2	292	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 (市町村史に掲載されたもの)	上塚原 A 遺	川治地区塚原町にあり。南中学校の西方約 250m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高 145m。南西約 400m には西浦遺跡がある	十日町市史資料編 2	296
	西浦遺跡	川治地区城之古東町にあり。南中学校の西方約 650m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する弥生時代中期・後期の遺跡で、標高 145m。南方約 150m には城之古遺跡がある	十日町市史資料編 2	298
	川治百塚第 10 号塚	川治地区城之古東町にあり。南中学校の南西約 550m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する中世の塚で、標高 146m。現在は消失している	十日町市史資料編 2	299
	狐塚遺跡	川治地区北新田第 2 にあり。消防署の北方約 400m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代、平安時代、中世の遺跡で、標高 160m。十日町市史通史編 1 201 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	301
	川治上原 A 遺跡	川治地区川治上町にあり。織物工業団地の南東約 250m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺に位置する縄文時代中期・後期、中世の遺跡で、標高 165m。南側を羽根川が流れる。東方約 350m には川治上原 B 遺跡がある	十日町市史資料編 2	305
	川治上原 B 遺跡	川治地区川治上町にあり。織物工業団地の東方約 500m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺に位置する縄文時代前期・中期、中世の遺跡で、標高 172m。南側を羽根川が流れる	十日町市史資料編 2	309
	山本遺跡	川治地区山本町 2 丁目にあり。川治小学校の東方約 500m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）の縁辺部に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高 210m	十日町市史資料編 2	322
	栗ノ木田遺跡	川治地区大字川治にあり。妻有神社の東方約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代後期、中世の遺跡で、標高 190m。北側には川治川が流れ、遺跡は北を山本台地、南を川治台地に挟まれた川治川の氾濫原上に立地している。本遺跡は、縄文時代後期前葉から中葉と、室町時代後期の複合遺跡である。しかし、主体となる時期は、縄文時代後期前葉であり、この時期の遺構のほとんどが、配石墓や配石遺構で占められている。十日町市史通史編 1 308 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	324
	伯父ヶ窪 A 遺跡	川治地区大字川治（坂之上）にあり。妻有神社の南東約 650m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代早期から中期の遺跡で、標高 245m	十日町市史資料編 2	370
	伯父ヶ窪 B 遺跡	川治地区大字川治（伯父ヶ窪）にあり。伯父ヶ窪 A 遺跡の東方約 100m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）の縁辺部に位置する縄文時代前期の遺跡で、標高 250m	十日町市史資料編 2	373
	深沢遺跡	川治地区大字川治（深沢）にあり。伯父ヶ窪 B 遺跡の南東約 650m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）の縁辺部に位置する縄文時代前期から後期の遺跡で、標高 285m	十日町市史資料編 2	377
	麻畑原 A 遺跡	六箇地区麻畑にあり。麻畑集落の東方約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代前期から中期の遺跡で、標高 370m	十日町市史資料編 2	378
	麻畑原 B 遺跡	六箇地区麻畑にあり。麻畑 A 遺跡の南東約 450m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 430m	十日町市史資料編 2	379
	牛ヶ首遺跡	水沢地区小黒沢にあり。小黒沢集落の南端、信濃川右岸の河岸段丘（石名坂面）の縁辺部に位置する縄文時代中期、弥生時代中期の遺跡で、標高 150m	十日町市史資料編 2	384
	赤川遺跡	水沢地区大黒沢第 2 にあり。大黒沢集落の南端にある慈雲院の西側、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）に位置する中世の遺跡	十日町市史資料編 2	390
	城倉遺跡	水沢地区大黒沢にあり。大黒沢第 2 市営住宅の南東約 300m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）の先端部緩斜面上に位置する縄文時代前期から後期の大規模遺跡で、標高 220m。遺跡の推定範囲は 4 万 m <sup>2</sup> を超えるものと思われ、北側の緩斜面と南西の沢には豊富な湧水が見られる。発掘を行えば、笹山遺跡を超える規模の中期の集落跡が発見される可能性が高い	十日町市史資料編 2	393
	柳木田遺跡	水沢地区新宮第 2 にあり。新宮（牧新田）集落の北西約 250m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）の縁辺部に位置する縄文時代後期、弥生時代中期、古墳時代前期、奈良・平安時代、室町時代の集落跡で、標高 150m。東方約 400m には牧脇遺跡がある。古墳時代前期の集落跡が発見されたが、これは中魚沼郡地域では初例であり、古墳がまだ確認されていない当地域の古代史を解明するうえで、極めて重要である。同市史通史編 1 178・182・196・201 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	413
	牧脇遺跡	水沢地区新宮第 2 にあり。牧新田集落の北西約 100m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で標高約 160m	十日町市史資料編 2	453
	伊達八幡館跡	水沢地区伊達第 1 にあり。大黒沢集落の南方約 500m、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）に位置する縄文時代草創期・中期・晩期、中世の遺跡で、標高約 170m。縄文時代草創期の有舌尖頭器と両面調製の石槍及び中世の大規模な館跡が検出されている。十日町市史通史編 1 329 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	458
	寺大門北遺跡	水沢地区伊達第 1 にあり。伊達集落の南東約 400m、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）の舌状微高地の先端部に位置する中世の遺跡で、標高 186m。旧善光寺街道沿いに位置し、北方約 500m には同時代の伊達八幡館跡、南方約 200m には寺大門南遺跡がある。また、東方約 300m 伊達台地の先端部には伊達城跡が存在する。十日町市史通史編 1 317 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	461
寺大門南遺跡	水沢地区伊達第 1 にあり。伊達集落の南東約 400m、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）に位置する中世の遺跡で、標高 194m。旧善光寺街道沿いに位置し、南西約 150m には河原田遺跡がある	十日町市史資料編 2	471	
河原田遺跡	水沢地区伊達第 1 にあり。（移転前の）水沢中学校の北東約 400m、信濃川の支流である入間川によって形成された沖積地上に位置する平安・鎌倉・室町時代の遺跡で、標高 196m。十日町市史通史編 1 204、314 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	477	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡（市町村史に掲載されたもの）	つつじ原 B 遺跡	水沢地区大字伊達にあり。六箇小学校の西方約 550m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高 340m。東方約 400m には赤羽根遺跡がある	十日町市史資料編 2	496
	赤羽根遺跡	水沢地区大字伊達にあり。六箇小学校の南西約 300m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する旧石器時代、縄文時代前期・中期の集落遺跡で、標高 365～370m	十日町市史資料編 2	508
	天池 A 遺跡	水沢地区大字伊達にあり。池之尻集落の北方約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代前期・中期の遺跡で、標高 345m。沢を挟んで南西約 150m には天池 B 遺跡がある	十日町市史資料編 2	533
	天池 B 遺跡	水沢地区大字伊達にあり。天池 A 遺跡の南西約 150m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 352m	十日町市史資料編 2	534
	大清水遺跡	水沢地区大字伊達（池之尻）にあり。池之尻集落の北東約 300m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代早期から中期の遺跡	十日町市史資料編 2	536
	横割遺跡	水沢地区新宮第 1 にあり。新宮集落の西方約 300m、信濃川右岸の河岸段丘（石名坂面）に位置する縄文時代前期から後期の遺跡で、標高 156m	十日町市史資料編 2	541
	宮栗遺跡	水沢地区幸町にあり。養護老人ホーム妻有荘の南東約 150m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代前期・中期、弥生時代後期の遺跡で、標高 170m	十日町市史資料編 2	557
	南谷内館跡	水沢地区土市第 1 にあり。水沢中学校の敷地内、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）に位置する旧石器時代、縄文時代前期・中期、中世の遺跡で、標高 195m。十日町市史通史編 1 325 頁にも記載あり	十日町市史資料編 2	559
	江崎遺跡	水沢地区土市第 1 にあり。南谷内遺跡の北東約 150m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する旧石器時代、縄文時代草創期・前期・中期、中世の遺跡で、標高 195m	十日町市史資料編 2	565
	宮栗上原遺跡	水沢地区大字馬場にあり。太田島集落の北東約 650m、信濃川右岸の河岸段丘（下原 I 面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 200m	十日町市史資料編 2	574
	南雲遺跡	水沢地区南雲にあり。大石集落の北方約 800m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期・後期、奈良・平安時代、中世の遺跡で、標高 380m。笹山遺跡・城倉遺跡と並ぶ大規模遺跡である	十日町市史資料編 2	576
	朴ノ木清水 A 遺跡	水沢地区南雲にあり。大石集落北東約 1Km、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代草創期・中期の遺跡で、標高 410m	十日町市史資料編 2	590
	カタガリ下原遺跡	水沢地区馬場第 1 にあり。馬場小学校の北東約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する旧石器時代、縄文時代前期の遺跡で、標高 225m。南方約 200m には大石遺跡がある	十日町市史資料編 2	591
	大石遺跡	水沢地区馬場第 2 にあり。馬場小学校の東方約 500m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代前期の遺跡で、標高 250m。南西約 250m には馬場神社遺跡がある	十日町市史資料編 2	592
	馬場神社遺跡	水沢地区馬場第 1 にあり。馬場小学校の東方約 400m、信濃川右岸の河岸段丘（根深面）に位置する縄文時代前期・中期の遺跡で、標高 190m	十日町市史資料編 2	594
	カタガリ遺跡	水沢地区馬場第 3 にあり。飯山線水沢駅の東方約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代前期・中期の遺跡	十日町市史資料編 2	600
	桃山遺跡	水沢地区水沢第 3 にあり。飯山線水沢駅の南東約 650m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代早期から後期の遺跡で、標高 295m	十日町市史資料編 2	601
	水穴遺跡	水沢地区水沢市之沢にあり。飯山線水沢駅の南東約 1.1Km、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する旧石器時代、縄文時代早期から晩期の遺跡で、標高 310m	十日町市史資料編 2	607
	椿池遺跡	水沢地区水沢市之沢にあり。沢を挟んで市之沢集落の南西約 600m、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代前期・中期の遺跡で、標高 350m	十日町市史資料編 2	612
	大井久保遺跡	水沢地区珠川第 2 にあり。馬場小学校珠川分校の北方約 1.3Km、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 385m。南方約 300m にはぼんのう遺跡がある	十日町市史資料編 2	622
	ぼんのう遺跡	水沢地区珠川第 2 にあり。馬場小学校珠川分校の北方約 1Km、信濃川右岸の河岸段丘（城山 I 面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 400m	十日町市史資料編 2	643
	珠川 A 遺跡	水沢地区珠川第 3 にあり。沢を挟んで大石集落の南方約 700m、信濃川右岸の河岸段丘（米原面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高約 430m	十日町市史資料編 2	655
	石橋遺跡	吉田地区小泉第 3 にあり。吉田小学校の東方約 400m、信濃川左岸の河岸段丘（千手面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高 175m	十日町市史資料編 2	658
	岩原遺跡	吉田地区吉田山谷にあり。吉田小学校の北西約 450m、信濃川左岸の河岸段丘（上ノ山面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高約 220m	十日町市史資料編 2	660
	西山遺跡	吉田地区吉田山谷にあり。吉田小学校の西方約 400m、信濃川左岸の河岸段丘（上ノ山面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 215m	十日町市史資料編 2	664
	蟹沢遺跡	吉田地区小泉第 1 にあり。吉田小学校の南西約 500m、信濃川左岸の河岸段丘（上ノ山面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高 220m	十日町市史資料編 2	666
上ノ山遺跡	吉田地区小泉第 1 にあり。吉田小学校の南西約 600m、信濃川左岸の河岸段丘（上ノ山面）に位置する縄文時代中期・後期の遺跡で、標高約 220m。南東約 150m には上ノ山開墾地遺跡があるが、採集されている遺物の内容と遺跡の位置関係から見て、両者は同一遺跡の可能性が高い	十日町市史資料編 2	671	
上ノ山開墾地遺跡	吉田地区小泉第 1 にあり。吉田小学校の南西約 550m、信濃川左岸の河岸段丘（上ノ山面）に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高約 220m。西方約 250m には樽沢開田遺跡がある	十日町市史資料編 2	674	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 (市町村史に掲載されたもの)	樽沢開田遺跡	吉田地区大字樽沢にあり。吉田小学校の南西約 850m、信濃川左岸の河岸段丘(上ノ山面)に位置する縄文時代後期・晩期の遺跡で、標高約 230m	十日町市史料編2	675
	幅上遺跡	吉田地区大字南鑑坂にあり。北鑑坂集落の南東約 600m、信濃川左岸の河岸段丘(千手面)に位置する縄文時代中期の集落跡で、標高 176m	十日町市史料編2	680
	小坂遺跡	吉田地区高島第1にあり。鑑島小学校の南西約 600m、信濃川左岸の河岸段丘(上ノ山面)に位置する縄文時代中期・後期の集落跡で、標高 265m	十日町市史料編2	715
	宮ノ上 A 遺跡	吉田地区高島第1にあり。鑑島小学校の南東約 650m、信濃川左岸の河岸段丘(千手面)に位置する縄文時代中期の遺跡で、標高 183m	十日町市史料編2	738
	宮ノ上 B 遺跡	吉田地区高島第1にあり。鑑島小学校の南方約 650m、信濃川左岸の河岸段丘(千手面)に位置する縄文時代後期の遺跡で、標高 190m	十日町市史料編2	745
	山野田遺跡	大字山野田内、信濃川に流入する千手川下流部右岸にあり、標高 167m。縄文時代中期前葉から中葉の土器が表面採集されている	川西町史料編上	7
	裏ノ沢遺跡	河岸段丘千手面の千手川へ流入する右岸の用水路にあり、標高 169m。縄文晩期の土器が出土	川西町史料編上	7
	長者原遺跡	大字上新井地内(神社町)、主要地方道小千谷十日町津南線に沿う千手町並の東側の裏にあたり、千手川左岸の段丘端の台地上にあり、標高 169m。縄文時代前期後半～晩期前半の土器が表面採集されている	川西町史料編上	8
	滝ノ坂遺跡	伊勢平治集落の東南、低位段丘端にあり、標高 150m。縄文時代中期後葉～後期前葉の土器が出土	川西町史料編上	9
	山王原遺跡	大字伊勢平治地内、白山神社東北方の低位段丘上で、小海川と曾根川合流点付近の曾根川右岸にあり、標高 135m。時期を明確にしがたい土器片と石片、打製石斧 2 点が表面採集されている	川西町史料編上	9
	オノ神遺跡	大字水口沢地内、千手面より 1 段高い上之山段丘面にあり、標高 220m。千手町並より西方 1km 地点、浄水場西南の台地にある籠堤の南隣の大谷堤付近にあり。縄文時代中期中・後葉期の土器片が出土	川西町史料編上	9
	市ノ越遺跡	大字水口沢地内、オノ神遺跡と同一段丘上にあり、標高 220m。縄文時代中期中葉・後葉の土器片が出土	川西町史料編上	9
	籠堤遺跡	大字水口沢地内、オノ神遺跡と同一段丘上にあり、標高 220m。遺物は時期を明確にしがたい縄文土器片 3 点のみであり、市ノ越遺跡の東隣に接していることから、同遺跡の辺縁部分である可能性が高い	川西町史料編上	9
	角万寺遺跡	大字中屋敷地内、木島川左岸、長福寺の東北の低位段丘上之山面にあり、標高 205m。縄文時代中期前葉と中葉の土器片が出土	川西町史料編上	10
	久保山遺跡	大字中屋敷地内、低位段丘上之山面にあり、角万寺遺跡の東北北 100m 地点の小さな沢を隔てた所にある。標高 205m。縄文時代中期中葉の土器片が出土	川西町史料編上	10
	上ノ山遺跡	大字坪山地内、坪山神社裏にあり、標高 250m。縄文時代前期後葉・末葉期の土器片が出土	川西町史料編上	10
	水口沢遺跡	大字水口沢地内、水口沢西方の水田にあり、標高 180m。出土品は石皿 1 点のみ	川西町史料編上	10
	四郎兼遺跡	千手町並の西側裏で、千手川右岸にあり、標高 175m。遺物は表面採集された先土器時代第IV期の大型両面加工石器、縄文時代の打製・磨製石斧の 3 点のみ	川西町史料編上	10
	平林遺跡	霜条集落西北、低位段丘上之山面で標高 200m。遺物は先土器時代細石器文化期の細石刃核、土器は縄文時代前期・中期前葉・晩期のものが数点、晩期初頭から前葉期が表面採集されている	川西町史料編上	11
	上ノ平遺跡	霜条集落東北東 400m、あるいは 800m 地点の畑地にあり。遺物は縄文時代前期・中期の土器	川西町史料編上	12
	上ノ原(寺山)遺跡	鶴吉集落西方 500m の段丘上にあり、標高 270m。遺物は縄文時代中期前葉から中葉のもの	川西町史料編上	12
	クネガラム遺跡	鶴吉集落内西南部分の宅地、標高 190m。石棒 1 点出土	川西町史料編上	13
	一本杉遺跡	大字上野地内、元町集落中心部から西南方 500m、小海川左岸の上之山面の段丘上にあり、標高 240m。遺物は縄文早期中葉と後期の土器、石器は石匙と削器が表面採取されている	川西町史料編上	13
	赤羽根遺跡	大字上野地内、一本杉遺跡から西北西へ 400m、標高 290m。遺物は縄文時代後期前半の土器	川西町史料編上	13
	中子南遺跡	大字上野地内、元町集落から西へ 500m、標高 265m。遺物は縄文時代前期後葉から後期後葉まで続く。石錘が 118 点表面採集されている	川西町史料編上	13
	寒風遺跡	元町集落から東北方へ 400m、段丘台地の東南の縁にあり標高 180m。遺物は縄文時代早期中葉・前期・中期前葉まで	川西町史料編上	14
	中子北遺跡	元町集落から西北へ 500m、段丘の東南の縁にあり標高 270m。遺物は縄文時代早期後葉・中期後葉のものがあるが、主体は後期前半らしい	川西町史料編上	14
	坂ノ上遺跡	元町集落から北方 400m、標高 210m。遺物は縄文時代早期中葉・前期中葉・中期の土器が表面採集されている	川西町史料編上	14
	菅池遺跡	新町新田集落西方 400m、南沢川右岸の段丘台地上にあり、標高 180m。遺物は縄文時代中期後葉の土器	川西町史料編上	14
	新町新田遺跡	新町新田集落内にあり、南沢川右岸の段丘台地縁で、標高 165m。遺物は縄文時代中期前葉・後葉の土器	川西町史料編上	15
江北遺跡	新町新田集落東方 500m、南沢川右岸の段丘端傾斜地にあり、標高 160m。遺物は縄文時代中期後葉の土器片	川西町史料編上	15	
品ノ木田遺跡	上野集落から東南方へ 700m、小海川左岸の段丘台地端にあり、標高 150m。遺物は先土器時代第II期前半に相当する彫刻刀型石器、縄文時代前期後葉から中期後葉までの土器が少量表面採集されている	川西町史料編上	15	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 (市町村史に掲載されたもの)	小根岸遺跡	小根岸集落東南にある弁財天の周辺で、千手放水路左岸の段丘台地上にあり、標高 105m。遺物は弥生時代Ⅳ・Ⅴ期の土器	川西町史資料編上	15
	三領原遺跡	大字上野地内、三領集落の西方 300m、小海川左岸段丘端台地上にあり、標高 145m。遺物は縄文時代中期後葉の土器が表面採集されている	川西町史資料編上	15
	死人清水遺跡	大字上野地内、松葉沢溜池の北方 200m の段丘台地端にあり、標高 325m。遺物は異形石匙と石片 1 点が採集されている	川西町史資料編上	16
	天竺遺跡	塩辛集落西方 500m の段丘端台地上にあり、標高 135m。遺物は縄文中期後葉の土器	川西町史資料編上	16
	滝沢遺跡	仁田集落の西北方 700m、北沢川右岸の段丘端台地上にあり、標高 215m。遺物は少なく、縄文時代中期後葉と思われる土器小片があるが、他は明確にしがたい	川西町史資料編上	16
	野口遺跡	野口集落西北の段丘台地上にあり、標高 200m。縄文時代後期前葉の磨消縄文がある	川西町史資料編上	16
	大原遺跡	野口集落北方 400m、段丘端の台地縁にあり、標高 190m。縄文時代早期中葉、中期中葉・後葉、後期、晩期の土器がある	川西町史資料編上	17
	大原開墾地遺跡	大原遺跡東北方 150m、段丘端の台地縁にあり、標高 195m。縄文中期中葉・後葉の土器がある	川西町史資料編上	17
	大林遺跡	野口集落の東南の水田、地点は明確でない。標高 165m で段丘台地上にある	川西町史資料編上	17
	取安新田遺跡	原田集落の東北方の水田、取安川右岸で、南方の鴻島川とに挟まれた低位段丘台地上にあり、標高 110m。正確な位置は不明。縄文時代中期末葉の土器が 1 個出土	川西町史資料編上	17
	原田遺跡	根深集落の東北方の水田、鴻島川右岸の低位段丘上にあり、標高 110m。縄文時代後期中葉の土器がある	川西町史資料編上	17
	堂ヶ鼻遺跡	下原集落の東南方 500m、信濃川左岸の下原Ⅱ面と呼ばれる低位段丘端の台地縁にあり、標高は 146m。縄文時代前期後葉・中期後葉の土器がある	川西町史資料編上	17
	宮原遺跡	室島集落西北 300m、渋海川右岸の段丘台地縁にあり、標高 175m。縄文時代中期前葉・後期前半の土器がある	川西町史資料編上	18
	外ノ島遺跡	室島集落東北方 200m の丘陵傾斜地で、標高 140m。表裏から中央に磨滅痕があり、磨滅は深く貫通している丸石が 1 点ある	川西町史資料編上	18
	十二屋敷遺跡	赤谷集落内の十二社西南隣で渋海川左岸の台地上にあり、標高 120m。縄文時代中期後葉・後期中葉の土器がある	川西町史資料編上	18
	赤谷薬師遺跡	赤谷集落の西方 150m、西北の山腹から舌状に張り出した台地上にあり、標高 137m。縄文時代前期前葉・中期後葉・後期中葉の土器がある	川西町史資料編上	18
	雁田遺跡	赤谷集落の東方、渋海川右岸の台地端にあり、標高 120m。縄文時代後期後葉の土器がある	川西町史資料編上	18
	下原遺跡	岩瀬集落北方 500m、渋海川右岸の台地上にあり、標高 160m。縄文時代後期前葉の土器がある	川西町史資料編上	19
	岩瀬大原遺跡	岩瀬集落北方 500m、渋海川右岸の台地上にあり、標高 190m。縄文時代中期末葉の土器がある	川西町史資料編上	19
	ハシゴ田遺跡	岩瀬集落東南東方 1,700m の山腹傾斜地にあり、標高 310m。縄文時代前期前葉の土器がある	川西町史資料編上	19
	長者平遺跡	大白倉集落の西北西 1,500m 渋海川右岸の台地上にあり、標高 160m。縄文時代中期末、後期前葉・後葉の土器がある。石錘が圧倒的に多い。元町中子南遺跡と同様な傾向がみられる	川西町史資料編上	19
	下ノ平遺跡	大字小白倉地内、打製石斧 1 点と縄文時代中期末葉と思われる土器片が表面採収されているが、地点は未確認	川西町史資料編上	19
	中段遺跡	清津川右岸第 3 段丘に位置し標高 260m、田沢字中段（上山）にあり。旧石器、縄文前期	中里村史資料編上	1
	坂ノ上遺跡	信濃川右岸の最高位段丘に位置し標高 300m、田沢字坂ノ上（上山）にあり。旧石器、縄文前期・中期	中里村史資料編上	1
	一里塚遺跡	清津川右岸第 2 段丘端に位置し標高 210m、田沢字一里塚（荒屋）にあり。旧石器、縄文早期、弥生	中里村史資料編上	2
	中林遺跡	信濃川・清津川合流点右岸に位置し標高 212m、田沢字溝（干溝）にあり。縄文草創期	中里村史資料編上	3
	田沢遺跡	信濃川・清津川合流点右岸に位置し標高 209m、田沢字溝（干溝）にあり。縄文草創期	中里村史資料編上	4
	壬遺跡	信濃川・清津川合流点右岸、清津川最下流部の低位段丘の崖上に位置し標高 208m、田沢字溝（干溝）にあり。縄文草創期	中里村史資料編上	4
	原水無遺跡	信濃川右岸、七川右岸支流の水無川最上流部の右岸に位置し標高 450m、田沢字原水無（如来寺）にあり。縄文草創期	中里村史資料編上	6
	向田遺跡	信濃川右岸、清津川右岸第 2 段丘に位置し標高 223m、田沢字向田（上山）にあり。縄文草創期	中里村史資料編上	6
	古城遺跡	信濃川右岸第 2 段丘に位置し標高 220m、田沢字古城（桂）にあり。縄文草創期・後期	中里村史資料編上	7
	通り山遺跡	清津川右岸第 2 段丘に位置し標高 230m、田沢字荒屋道（通り山）にあり。縄文早期・中期	中里村史資料編上	7
穴川遺跡	信濃川右岸第 1 段丘端崖上に位置し標高 212m、田沢字穴川（干溝）にあり。縄文早期・前期	中里村史資料編上	8	
穴川北遺跡	信濃川右岸段丘端崖上に位置し標高 210m、田沢字穴川（干溝）にあり。縄文早期・前期	中里村史資料編上	8	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 (市町村史に掲載されたもの)	秋葉山遺跡	信濃川左岸の狭い段丘上に位置し標高300m、貝野字山ノ根(本屋敷)にあり。縄文早期・前期・中期	中里村史資料編上	9
	狐森遺跡	信濃川右岸の低位段丘端に位置し標高200m、田沢字狐森(干溝)にあり。縄文草創期・前期・後期	中里村史資料編上	9
	中林北遺跡	信濃川右岸、清津川右岸第2段丘上に位置し標高213m、田沢字中林(干溝)にあり。縄文早期・前期・中期	中里村史資料編上	10
	泉竜寺遺跡	信濃川右岸の高位段丘宮沢川右岸傾斜地に位置し標高350m、田沢字坂ノ上(田沢)にあり。縄文前期・晩期	中里村史資料編上	11
	屋敷の下遺跡	泉竜寺遺跡の南方1200mに位置し標高450m、田沢字中道(東田沢)にあり。旧石器、縄文前期	中里村史資料編上	10
	会所前南遺跡	清津川右岸第2段丘の西方突端に位置し標高220m、田沢字会所前(山崎)にあり。縄文前期	中里村史資料編上	11
	下袖遺跡	相吉面段丘上に位置し標高390m、倉俣字下袖(芋川)にあり。縄文前期	中里村史資料編上	12
	会所前遺跡	信濃川右岸第2段丘に位置し標高215m、田沢字会所前(田中)にあり。縄文前期・中期	中里村史資料編上	13
	山ノ根遺跡	信濃川左岸第2段小台地の南西に突出した先端部に位置し標高198m、貝野字山ノ根(宮中)にあり。縄文中期	中里村史資料編上	13
	白羽毛遺跡	清津川右岸西方へ傾斜する山腹の端部、清津川崖上に位置し標高340m、田沢字北山(白羽毛)にあり。縄文前期・中期・後期	中里村史資料編上	14
	寺尾遺跡	清津川左岸、釜川最下流部右岸の第2段丘突端に位置し標高225m、倉俣字大島段(重地)にあり。縄文中期	中里村史資料編上	14
	万田倉遺跡	信濃川左岸、深沢川と下沢川に挟まれた台地上に位置し標高290m、貝野字万田倉(本屋敷)にあり。縄文中期	中里村史資料編上	15
	森上遺跡	清津川右岸第2段丘端に位置し標高280m、田沢字森ノ上(高道山)にあり。縄文前期・中期	中里村史資料編上	15
	芋川原遺跡	清津川左岸の最高位段丘で南方に緩傾斜する段丘の先端部に位置し、標高353m、倉俣字芋川原(芋川)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	16
	仏子田遺跡	信濃川左岸の崖上台地に位置し、標高180m、貝野字仏子田(新屋敷)にあり。縄文早期・前期・中期	中里村史資料編上	18
	向原遺跡	信濃川右岸第2段丘上、七川左岸に位置し標高200m、田沢字向原(桂)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	18
	中田遺跡	清津川左岸段丘上に位置し標高285m、倉俣字中田(倉俣)にあり。縄文前期・中期・後期	中里村史資料編上	19
	寺川遺跡	清津川右岸最高位段丘に位置し標高380m、田沢字大原(上山)にあり。縄文中期	中里村史資料編上	20
	下寺川遺跡	清津川右岸最高位段丘に位置し標高400m、田沢字下寺川(朴木沢)にあり。縄文前期	中里村史資料編上	20
	貝野林遺跡	信濃川左岸第2段丘に位置し標高210m、貝野字貝野林(宮中)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	21
	天池遺跡	東頸城郡と接する境界の山脈天尾山山麓に位置し標高540m、貝野字雨池(本屋敷)にあり。縄文中期	中里村史資料編上	21
	下原遺跡	清津川右岸第1段丘の上流最先端部に位置し標高265m、田沢字下原(高道山)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	21
	小丸山遺跡	信濃川右岸の最低位段丘に位置し標高180m、田沢字小丸山(小原)にあり。縄文前期・中期	中里村史資料編上	22
	川道遺跡	信濃川右岸段丘上に位置し標高180m、田沢字川道(芋沢)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	22
	布場遺跡	清津川右岸最高位段丘上、七川左岸の山麓部に位置し標高450m、田沢字布場(市之越)にあり。縄文早期・中期・後期	中里村史資料編上	22
	沖ノ原遺跡	信濃川左岸第2段丘上に位置し標高190m、貝野字沖ノ原(堀之内)にあり。縄文後期	中里村史資料編上	24
	桂遺跡	信濃川右岸第2段丘上、七川右岸に位置し標高197m、田沢字早稻田(桂)にあり。縄文中期・後期・晩期	中里村史資料編上	24
	沢田遺跡	信濃川右岸第1段丘崖上に位置し標高180m、田沢字内沢田(芋沢)にあり。縄文早期・前期・後期	中里村史資料編上	25
	谷上遺跡	信濃川右岸の当間山扇状台地、水沢川左岸の中流部に位置し標高390m、田沢字追分(芋沢)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	25
	家ノ脇遺跡	清津川右岸第2段丘に位置し標高287m、田沢字家ノ脇(高道山)にあり。縄文中期・後期	中里村史資料編上	26
	下ノ原遺跡	清津川右岸第2段丘に位置し標高236m、田沢字下ノ原(通り山)にあり。古墳中期～後期。中里村史通史編上300頁にも記載あり	中里村史資料編上	26
	根ノ窪遺跡	清津川右岸の第1段丘に位置し標高223m、田沢字根ノ窪(通り山)にあり。古墳中期～後期。中里村史通史編上300頁にも記載あり	中里村史資料編上	27
	溝-1遺跡	信濃川右岸、清津川右岸の第2段丘に位置し、標高210m、田沢字溝(干溝)にあり。古墳後期～平安	中里村史資料編上	27
	草生水原遺跡	濁川右岸、標高約320m、室野字粒山にあり。縄文時代後期	松代町史上	287
林中遺跡	渋海川左岸、標高約230m、中子字林中にあり。縄文時代中期	松代町史上	288	
上小原遺跡	標高約220m、芋島字上小原にあり。縄文時代中期以降	松代町史上	292	
大久保遺跡	標高約300m、孟地字大久保にあり。縄文時代中期	松代町史上	292	

分類	項目	内容	出典	頁
遺跡 (市町村史に掲載されたもの)	原遺跡	標高約 290m、小屋丸字外山にあり。縄文時代前期～後期	松代町史上	294
	芳沢遺跡	標高約 250m、小屋丸字芳沢にあり。縄文時代前期～後期	松代町史上	300
	石平遺跡	標高約 210m、芋島字石平にあり	松代町史上	302
	向原Ⅰ遺跡	標高約 200m、松代字下島にあり。縄文時代中期～晩期	松代町史上	303
	向原Ⅱ遺跡	標高約 200m、松代字向原にあり。縄文時代後期	松代町史上	306
	道向遺跡	松代字道向にあり。縄文時代後期・晩期か	松代町史上	309
	畑ホコ遺跡	標高約 330m、小屋丸字畑ホコにあり。遺跡の範囲・時期不明	松代町史上	310
	池田遺跡	渋海川左岸、標高約 190m、松代字池田にあり。遺跡の範囲・時期不明	松代町史上	310
	旧松代病院跡遺跡	旧松代病院付近に存在したと考えられる遺跡	松代町史上	311
	菅刈東遺跡	菅刈集落から犬伏集落へ通じる旧道沿いにあったと考えられる遺跡	松代町史上	311
	犬伏遺跡	犬伏集落内にある遺跡で、遺物は集落の北寄りの場所から採集されている	松代町史上	311
	一本木遺跡	越道川流域、藤倉字一本木にあり。縄文時代前期前半と思われる繊維を含んだ土器片 2 点が採取されている。松之山町史 262 頁にも記載あり	松之山町史	219
	深田遺跡	越道川流域、三桶字深田にあり。縄文時代中期・後期の土器が出土。松之山町史 227 頁にも記載あり	松之山町史	220 227
	十文字遺跡	渋海川流域、黒倉字二ツ沢にあり。縄文時代中期前葉から後期中葉の土器が出土、堅穴住居跡も検出。松之山町史 249 頁にも記載あり	松之山町史	220
	本山新田遺跡	渋海川流域、浦田字本山新田にあり。縄文時代	松之山町史	242
	西之前遺跡	渋海川流域、浦田字西之前にあり。縄文時代後期・晩期と平安から室町時代と推定される土器が出土	松之山町史	242 266
	苜安遺跡	渋海川流域、小谷字苜安にあり。縄文時代中期	松之山町史	254
	樋ヶ平遺跡	渋海川流域、小谷字樋ヶ平にあり。縄文時代	松之山町史	256
	小谷居村遺跡	渋海川流域、小谷字居村にあり。縄文時代中期	松之山町史	256
	長者原遺跡	渋海川流域、小谷字長者原にあり。縄文時代	松之山町史	256
	大北沢遺跡	越道川流域、湯本字大北沢にあり。縄文時代中期	松之山町史	256
	中江遺跡	越道川流域、湯山字中江にあり。縄文時代中期	松之山町史	257
	向山遺跡	越道川流域、松之山字向山にあり。縄文時代中期	松之山町史	258
	橋詰居村遺跡	越道川流域、橋詰字居村にあり。縄文時代	松之山町史	258
	後田遺跡	越道川流域、古戸字後田にあり。縄文時代	松之山町史	260
	栃山遺跡	東川流域、中尾字栃山にあり。縄文時代	松之山町史	260
元屋敷遺跡	東川流域、中尾字元屋敷にあり。縄文時代	松之山町史	261	
吉池遺跡	東川流域、中尾字吉池にあり。縄文時代	松之山町史	261	
湯之町遺跡	三桶字深田にあり。平安時代の遺跡、須恵器・珠洲焼破片が出土	松之山町史	271	
城跡・館跡	赤城城跡	十日町の東方約 30 町の丘頂にあり。宝暦 11 年、十日町明細帳に関口伊賀守の居城なりと記す。十日町市史資料編 3 617 頁 (平面図は 684 頁) にも記載あり	中魚沼郡誌上	584
	城之越城跡	十日町の東方、溪流を隔てて諏訪山と対峙する小丘を俗に城の越と称ふ。十日町市史資料編 3 616 頁にも「城之腰城跡」記載あり (平面図は 683 頁)。同市史通史編 1 560 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	584
	中将ヶ嶽	十日町字赤倉にあり。口碑にいう、新田義興ここに築かんとし、材すでに集まりて城いまだ成らず。父の訃音に接して棄て去る	中魚沼郡誌上	585
	新座城跡	中条村大字新座の東 5 町、字小城にあり。壕塁の跡わずかに存す。大井田式部大輔の居城なりという 中条地区大字新座字大城にあり。新座の東約 700m、標高 343.4m の山頂より北西に延びる尾根上に築かれている城である (十日町市史資料編 3 602 頁、平面図は 659 頁)。同市史通史編 1 557 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	585
	尾崎館跡	中条村大字尾崎の西北端にあり。今はただわずかに壕塁の一部を存せるのみ。伝えいう、大井田経隆の築くところ。十日町市史資料編 3 616 頁 (平面図は 682 頁) にも記載あり	中魚沼郡誌上	585
	大井田城跡	中条村大字中条の東方 4 町なる城山の頂上にあり。本丸の跡東西 8 間、南北 12 間にして、東北に崩壊の痕あり。西南方一段低きところに平地あり、二丸ならん。なお下りてまた平地及び壕の跡存す。城址に老松群生し、鬱蒼として千古の往時を語る。城は新田の支族大井田経隆父子の築くところに係るといふ。十日町市史資料編 3 600 頁、同市史通史編 1 558 頁 (平面図は同市史資料編 3 655 頁) にも記載あり。県指定文化財	中魚沼郡誌上	585
	坪野館跡	中条村大字中条の西方水無川の下流右岸にあり。東北の 2 方に塁壕の趾を存し、西南 2 方は水流の浸食にあいて決壊せしものごとし。十日町市史資料編 3 604 頁、同市史通史編 1 562 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	586
	狐城跡	中条村字峠の西方にあり。形菱に似て南北に長し、また塁壕の一部を存す。峠になお 1 か所あり、また大峰・峰の薬師・陣ヶ轟・花水沢・高橋・魚田川・城山・柴倉・小貫・笠城の城址あり。これに前掲の新座・尾崎・坪野の諸城と下条村の原山・廿日城・道城とを併せて 18 城あり。もって大井田城を圍繞すと。十日町市史資料編 3 603 頁 (平面図は 660 頁) にも記載あり	中魚沼郡誌上	586
魚之田川城跡	中条地区大字中条字見坂 (魚之田川) にあり。文和 3 (正平 9) 年、宗良親王は新田義宗・脇屋義治と魚沼の新田一族を率いて堀之内町の宇加地城を攻めた。この時の道筋は飛渡川沿いに三坂峠を越えたとし、この時期にこの城が築かれたとする説がある	十日町市史資料編 3	598	

分類	項目	内容	出典	頁
城跡・館跡	後山城跡	中条地区大字中条字柴倉沢(柴倉)にあり。魚沼丘陵の主稜線上に築かれたこの城は、十日町市側の地籍は字柴倉沢に代表されるが、大和町後山との関係が深いものとみられ、後山では「見が峰」と呼ばれている。平面図は十日町市史資料編3 653頁	十日町市史資料編3	599
	花水城跡	中条地区大字中条字花水(梅沢)にあり。梅沢の東、標高306mの山頂に築かれた山城で、東面と南面には深い谷が刻まれ、大井田城の右翼を固め、飛渡川を隔てて原山城と相対する位置を占めている。十日町市史通史編1 555頁(平面図は同市史資料編3 654頁)にも記載あり	十日町市史資料編3	599
	大峰城跡	中条地区大字中条字上之山にあり。大井田城跡とマサクリ川の深溪を間にした南の山頂に築かれている。標高は約322m大井田城よりやや高く、左翼を固めるうえで絶好の位置を占めている。十日町市史通史編1 553頁(平面図は同市史資料編3 656頁)にも記載あり	十日町市史資料編3	601
	陣ヶ轟城跡	中条地区大字中条字桐ノ木平にあり。標高420mの山頂に位置するこの城は、花水・大井田・大峰・峰の薬師の諸城砦が築かれている山系がこの地点にまとまること、また、各集落からの沢沿いの道も城跡直下の峠を越えていることなどから、それぞれの城の背後を守り、最後の拠点ともなる「詰めの城」の役割を果たしていたものであろう。十日町市史通史編1 555頁(平面図は同市史資料編3 657頁)にも記載あり	十日町市史資料編3	601
	峰の薬師城跡	中条地区大字中条字薬師にあり。中条の東南、薬師如来をまつる標高375mの山頂に築かれた城跡である。十日町市史通史編1 555頁(平面図は同市史資料編3 658頁)にも記載あり	十日町市史資料編3	601
	下狐城跡	中条地区大字中条字道下(中条新田)にあり。信濃川の河岸段丘を梅沢川が侵食した逆L字形の地形を利用して築かれている。平面図は十日町市史資料編3 660頁	十日町市史資料編3	603
	高橋館跡	中条地区大字中条字原田(旭町)にあり。中条中学校の裏、河岸段丘の縁に位置し、藤ノ木沢が南を画し、L字状の地形が利用されている。平面図は十日町市史資料編3 682頁	十日町市史資料編3	615
	平城跡	下条村字平の後方なる山上にあり。その跡わずかに存す。かつてその西麓より古刀を発掘せしことありしという。十日町市史資料編3 597頁、同市史通史編1 553頁(平面図は同市史資料編3 651頁)にも記載あり	中魚沼郡誌上	586
	廿日城跡	下条村大字中新田の南字屋敷添にあり。西、信濃川に臨めるところ、漸く決壊してその址わずかに存す。下条治部少輔の住せしものという。十日町市史資料編3 598頁(平面図は同市史資料編3 653頁)にも記載あり	中魚沼郡誌上	586
	仁田平城跡	下条村大字上組の東方25町にあり。天正のころ下条治部少輔の住せし跡という。十日町市史資料編3 597頁には「仁田平の字名は原山城跡北側の地域に当り、原山城跡をさすものと考えられる」と記載あり	中魚沼郡誌上	587
	原山城跡	下条地区大字上新田字城之平にあり。上新田の東方1.5kmに角錐状にそびえる標高316mの山頂に築かれた城である。十日町市史通史編1 553頁(平面図は同市史資料編3 652頁)にも記載あり	十日町市史資料編3	597
	羽川城跡 (秋葉山城跡)	六箇村字麻畑の北方、秋葉山上秋葉社の後方にして南北は溪を以て天然の深隍をなし、丘上前後に壕址存す。羽根川刑部の居城なりという。秋葉神社前の老桜はその手植えなりと。十日町市史資料編3 619頁(平面図は同市史資料編3 687頁)、同市史通史編1 572頁にも「秋葉山城跡」の記載あり。市指定文化財	中魚沼郡誌上	595
	琵琶懸城跡	川治村大字城ノ古の西南にあり。塹堦の跡縦横に存す。広袤おおそ7、8反歩、西南二方は絶壁にして高さ10丈、城址規模の広壮なること郡内に冠たり。伝えいう、仁安2年、本間義秀平氏の命をもって始めてここに築き、関東より越中へ通ずる要路の固めとす。文治3年、源義経奥州に通るにあたり、これに与して城焼かる。元弘建武のころ羽川刑部大いに修理してこれに拠る。正平12年に至り、長尾氏これに居り、その裔上野の兵と戦い敗れて城ついに廃すと。秘密院殿の碑あり。十日町市史資料編3 618頁(平面図は同市史資料編3 686頁)、同市史通史編1 569頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	595
	川治	川治村字川治字陣場にあり。東北は川治川の溪谷にして西方また小溪あり。東南に小壕堦の跡存す	中魚沼郡誌上	596
	又	川治村字川治北新田南新田の間に一城址あり。今ことごとく畑に開墾せられてその墟を止めず。伝えいう、羽根川越前守の居城なりしと	中魚沼郡誌上	596
	山本城跡	川治村大字山本の東南丘上にあり。南方川治川の溪谷にして、北に小溪を控え西は村落を脚下に瞰、東は平原に連なる、壕堦の跡存す。伝えいう、天正年中、河内玄蕃頭の居住せしものと。十日町市史資料編3 617頁(平面図は同市史資料編3 685頁)、同市史通史編1 560頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	596
	赤城城跡	川治村同大字の東丘、数町の東にあり。伝えいう、上杉某の築くところと。付近に殿村林と称する森林あり。近傍数町歩の原野に小径多し、称して千本道という。また舟道と称する所あり、形舟底のごとし、また4ヶの古塚あり	中魚沼郡誌上	597
	小泉城跡	吉田村大字小泉にあり。新田の党某の築くところと口碑に伝う。十日町市史資料編3 649頁(平面図は同市史資料編3 767頁)、同市史通史編1 568頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	590
石橋城跡	吉田地区大字小泉字大道下にあり。信濃川と高木沢によって形づくられたV字状の地形を利用して築かれている。信濃川に面する急崖は登ることのできない要害堅固な場所である。平面図は十日町市史資料編3 766頁にあり	十日町市史資料編3	649	

分類	項目	内容	出典	頁
城跡・館跡	山谷城跡	吉田村大字山谷の西北、字西山にあり。上杉義景の居城なりと伝説す。あるいは、新田の党那波筑後守義景なりと。十日町史資料編3 648頁(平面図は同市史資料編3 765頁)にも記載あり	中魚沼郡誌上	590
	上の山	吉田村大字上の山地内にあり。伝えいう、南北朝の初期、小金左衛門尉これに居ると。天正年間に至り上杉家家臣藤木長左衛門勝久これに居る、今、俗に御影堂と称するところはその廟所なりと伝う	中魚沼郡誌上	590
	高島城跡	吉田地区大字高島字宮ノ上にあり。高島の東北、長楽寺の東にあたる河岸段丘の先端に築かれている。平面図は十日町史資料編3 767頁にあり	十日町市史資料編3	650
	姿城跡	貝野村字姿の北方18町にあり	中魚沼郡誌上	591
	水沢館跡	水沢村字水沢地内、県道魚沼線の東傍にあり、字を館という。東西30間、南北45間、輪郭に低堡のごときものあり。東南の外圍に壇址を存す、その付近に前堀・外堀等の字名あり。伝えいう、桂清水の居城なりと。これ前掲桂城主清水采女の意か。馬場の名称もまた本館に縁あるもののごとし。十日町市史資料編3 645頁(図版は同市史資料編3 746頁)にも記載あり	中魚沼郡誌上	594
	馬場	水沢村字馬場の北方にあり、城の内と字す。東西25間、南北39間にして、東北に壇址を存し、南側に外堀及び門口と俗称する所あり。北土井某の住するものと	中魚沼郡誌上	594
	馬場館跡	水沢地区大字馬場字古町(馬場)にあり。旧馬場小学校の敷地にあり、国道117号の西側に隣接している。信濃川右岸の河岸段丘先端部で、標高約177m。当館跡の東方約700mの高位段丘突端部には、この館の要害とみられる山城カタガリ城があり、南方約500mの水沢集落に水沢館跡、その東方裏山に桃山城がある。図版は十日町市史資料編3 740頁にあり	十日町市史資料編3	641
	カタガリ城跡	水沢村字馬場の東方丘上にあり。東より西へ湾曲し長さ23間、中央高く南端最も低し、名称蓋し地形に基づくものか。十日町市史資料編3 622頁(平面図は同市史資料編3 692頁)にも記載あり	中魚沼郡誌上	595
	伊達城跡	水沢村字伊達の東方、丘上にありて西北に向かい左右に小溪あり。左を上細山沢といい、右を下細山沢という。城址のあるところ細山沢と字す。西北端より約5間を隔てて深さ9尺長さ25間の壇址あり。さらに東南へ距てること25間にして深さ2尺余、長30間強の壇あり。その東北一帯の地を城平と称す。十日町市史資料編3 620頁(平面図は同市史資料編3 688頁)、同市史通史編1 329・560頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	595
	伊達八幡館跡	水沢地区大字伊達字八幡(伊達)にあり。伊達集落上村の北はずれ、大黒沢集落寄り水田地帯にあつて、国道117号に並行して走る旧道の東約100mに位置している(図版は十日町市史資料編3 694頁)。同市史通史編1 329頁にも記載あり	十日町市史資料編3	623
	土市城跡	水沢地区大字馬場字城ノ山(土市)にあり。観泉院の背後、城ノ山と呼ばれる河岸段丘の先端に築かれている。平面図は十日町市史資料編3 689頁。同市史通史編1 325頁にも記載あり	十日町市史資料編3	621
	当間城跡	水沢地区大字伊達字城ノ平(当間)にあり。当間の西、標高560mと564mの2つの峰を中心に築かれた城である。平面図は十日町市史資料編3 690頁	十日町市史資料編3	621
	市之沢城跡	水沢地区大字馬場字中山(市之沢)にあり。当間川と市之沢川に挟まれたV字状の河岸段丘端に位置する。先端部を深さ2mの空堀で断ち切った、単郭の城であるが、この地域に勢力を培った鳥山氏の城であることが確認されている。平面図は十日町市史資料編3 691頁	十日町市史資料編3	622
	桃山城跡	水沢地区大字馬場字水穴(水沢)にあり。水沢集落の東、比高約80mの河岸段丘端にあつて、北側が溪流によって浸食されたV字状の地形を利用して築かれている。西下方にある水沢館の要害城と考えられるが、城主・築城年代などについては語り伝えられていない。平面図は十日町市史資料編3 693頁	十日町市史資料編3	623
	南谷内館跡	水沢地区大字馬場字南谷内(土市)にあり。土市集落の南外れで、国道117号の東側約350mのところにある。東方約400mの高位段丘突端部には、この館の要害とみられる土市城があり、その北側の山麓に、観泉院が位置している。南谷内館跡は、室町時代にこの地域を支配していた豪族の館であり、土市城(山城)と対をなして機能していたことは明らかである(図版は十日町市史資料編3 729頁)。同市史通史編1 323頁にも記載あり	十日町市史資料編3	635
	桝形(室島)城跡	仙田村字室島にあり。壕井等の址今なお存し、往々礎石・古器を発掘することあり。伝えいう、堀久太郎秀治、高田在城の際、高倉勘解由というものここに住すと。川西町史通史編上376頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	588
	赤谷城跡	仙田村字赤谷の東南なる山嶺にあり。壕井等の址存す。伝えいう、上杉時代に三河玄蕃というもの居城せりと。付近に俎板倉・寺屋敷・桝形城沢等の字あり。川西町史通史編上373頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	589
	野口城跡	橋村野口峠の絶頂にあり。壕址存す、その下を俗に城場沢と称す。川西町史通史編上362頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	589
	伊勢平治城跡	中野村大字伊勢平治地内字上ノ原にあり。川西町史通史編上369頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	589
	坪山城跡	中野村大字坪山地内字北沢にあり。川西町史通史編上370頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	589
節黒城跡	上野村の西方20余町を隔てて城山の絶頂にあり。東西20間、南北120間、左右は溪谷をもって天然の大濠をなし、前方は展開して一陣全部をつくすべく、後方は仙田谷を経て刈羽方面に通ずべし。伝えいう、正平7年新田義宗等、武蔵に敗れて本郡に來り、にわかここに築き、楹柱すべて黒木を用う、節黒と命名する所以なり。川西町史通史編上364頁にも記載あり(節黒城二之木戸跡の図面掲載あり)。市指定文化財	中魚沼郡誌上	44 589	

分類	項目	内容	出典	頁
城跡・館跡	千手城跡	千手町の西方、覚満寺山の頂上にあり。濠をもって3区に画す。南部に老松枝を交え、仙田へ通ずる里道その中腹を迂回す。展望ほとんど節黒に似たり。伝えいう、建武中、新田の党、梁田播磨守正則の築くところにして千手城と称す。川西町史通史編上371頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	590
	沖立	千手町村大字沖立の東方にあり。東西20間、南北30間、下平修理亮の居城なりと。「十日町組地誌書上帳」には下平修理亮の居城の記載があるが、遺構などは確認されていない(川西町史通史編上373頁)	中魚沼郡誌上	590
	田戸城跡	田戸集落の北、字物見場の山頂にあり、標高310m	川西町史通史編上	374
	天尾山城跡	貝野村字堀之内の西方、城山の絶頂にあり、標高630m。倉俣主膳正あるいは下倉主膳との居城なりと口碑に伝う。中里村史資料編上339頁、同通史編上408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	591
	東山城跡(天尾山城跡)	松之山町大字東山字南谷1026-7にあり、標高641m。別名を「七通城」「天尾山城」「堀之内城」ともいう。通称「城山」という	松之山町史	323
	桂館跡	田沢村字桂の南方にあり。その東北に堡壕の跡なお存す。伝えいう、清水采女の居城なりしと。中里村史資料編上340頁、同通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	594
	倉俣城跡	倉俣村の南方字大中段(倉俣)にあり。わずかに壕址断礎を見るのみ。天和のころ、この地を斎の神と称す。中里村史資料編上341頁、同通史編上407頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	594
	牧畑城跡	倉俣字城山(清田山)にあり、標高590.2m。中里村史通史編上407頁にも記載あり	中里村史資料編上	342
	田代城跡	田代字南山にあり。中里村史通史編上408頁にも記載あり	中里村史資料編上	343
	宮中	貝野村字宮中の西方27町にあり	中魚沼郡誌上	591
	打野城跡	貝野字打野(宮中)にあり	中里村史資料編上	遺跡分布図
	室野城跡	奴奈川村大字室野字深山の高地にあり、標高509m。頂上は平坦にして一の丸と称す。東南は傾斜面をなしここに二の丸・三の丸の設けあり。東北は断崖数十丈、西北は傾斜少しく緩く北隅より後方山脈に連なる。時代詳らかならずといえども、城主は渡辺民部太夫と伝えたり。松代町史上343・349・379頁にも記載あり。市指定文化財	東頸城郡誌	478
	松代城跡	松代村大字松代字城の腰なる山の頂上にあり、標高386m。本城とも見るべきものは東西20余間、南北10間余。もう1つは東西7、8間に過ぎず。両城の間に残濠あり。城の創始及び撤退の年月並びに城主名変遷の状況等ならん記録に拠るべきなし。松代町史上374頁にも記載あり。市指定地域文化財	東頸城郡誌	480
	犬伏城跡	松代村大字犬伏字城山の頂上にあり、標高365m。本城は東西25間、南北15間。付城は本城の東、直下4間の処にあり。東西15間、南北7間余。上杉氏の盛時、清水采女正これを守り敵の斥候に備えたり。松代町史上368頁にも記載あり。二の廓に「かぶと清水」が湧き出ており、犬伏城の水源であった。市指定文化財	東頸城郡誌	481
	犬伏館跡	今日の犬伏集落は、戦国時代の犬伏城の館跡である。渋海川と越道川に三方を囲まれた断崖上にあり、堅固な構えがうかがわれる	松代町史上	371
	蒲生城跡	山平村大字蒲生字本城にありて、室野城の枝城なりと言い伝えり。標高377m。松代町史上376頁にも記載あり。市指定文化財	東頸城郡誌	483
	福島城跡	奴奈川村大字福島にありて、室野城の枝城なりと言い伝えり	東頸城郡誌	483
	藤原(福島)城跡	松之山町大字黒倉字丹明倉にあり、標高478m。「福島城」ともいう。通称「城山」という	松之山町史	324
	蓬平城跡	松代町大字蓬平字城にあり、標高375m。天文23年(1554)12月北条城(柏崎市北条)主北条高広が武田信玄に応じ長尾景虎(上杉謙信)に背いたとき、この城がかかわりを持ったという。市指定地域文化財	松代町史上	377
	橋詰城跡	松之山村大字橋詰字東表にあり、標高455m。四周は総て民有地にして城跡と称し居る部分は僅少な平坦地あるのみ。沿革を調べるも不明。橋詰城は高立城ともいい三桶にあり。松之山町史320頁にも記載あり	東頸城郡誌	482
	高館城跡	松之山町大字五十子平字大滝にあり、標高423m。長禄年間、伊勢盛富・盛種の居城と伝える	松之山町史	319
	秋葉山城跡	松之山町大字中尾字山之田にあり、標高638m。主郭に秋葉神社の石祠が鎮座する	松之山町史	322
	浦田城跡	松之山町大字浦田字城ノ越にあり、標高1,001m。別名を「深山城」ともいい、通称「城山」という、上越地方では一番標高の高い城跡である。城跡の西方、深坂峠から松之山町大字浦田へ下る道が「柏崎・善光寺街道」で、この街道を監視する重要な任務を持った山城である	松之山町史	326
	新山城	松之山町新山集落にあったという伝承があるも、城跡は確認できず。「温古之栞」によれば、建武年間、新田氏の勇将下坂又左衛門政成の居城と伝える。松代町史上350頁では、正平17年に新山城が落城し、城内の若い男女は簀巻きにされて松川の深淵に沈められたという哀話が語り継がれていると記載されている	松之山町史	328
	大荒戸城	松之山町大荒戸集落にあったという伝承があるも、城跡は確認できず。「温古之栞」によれば、建仁年間、佐々木盛綱の一族下野国那須郡の住人丹治左衛門俊秀がここに移住し、大関と姓を改め、上杉氏に属し一族繁栄したと伝える	松之山町史	328
	松之山街道と番城	松之山街道沿いの戦国時代の遺構を持つ城跡について	十日町市史通史編1	567

分類	項目	内容	出典	頁
城跡・館跡	大井田十八城	「大井田十八城」という呼び名は、楠正成の河内谷における「楠十八城」にあやかったもので、必ずしも18という数字にこだわるべきではないと思う 大井田城をはじめとする新座城・峰の薬師城・魚田川城・廿日城などの城と、狐砦・陣が轟砦・大峰砦・花水砦・原山砦・柴倉砦・城の越砦・平砦・枯木又砦などの砦のほか、尾崎館・坪野館・高橋館などの居館群を含めて「大井田十八城」と呼んでいる	随想妻有郷	110
	城館跡位置図	十日町市史資料編3 附録及び通史編1 343頁、川西町史資料編上巻161頁、中里村史資料編上附録にあり		
用水	五升苗堤	近世期川西地区最大の築堤事業は五升苗ダムの建設である。仁田・野口両村の畑田成を最初に出願したのは、万延元年(1860)5月のことである。堤自体は慶応3年(1867)に完成しているが、建設の関連事業である畑を水田に模様替える事業や、荒蕪地を開いての新田作りは明治9年(1876)によく成就した。堤を築くねらいは、用水不足で開田されない仁田村・野口村両村の畑を田に造成することを主目的とし、旱損場の両村古田の補給水を充分にすること及び荒蕪地の開田であった	川西町史通史編上	740
	留守原用水(宝用水)	文化9年、字白山・田の頭・留守原の新開発を願い出る。10年に用水の堰掘り作業に着手するも、危険な山腹での工事や凶作・飢餓などが重なり、文政6年まで工事を行う。また、明治になっても用水に手を加えている	松之山町史	444
	大明神用水	安政4年、浦田口村田辺与惣治が藤内名村で入手した田の用水として、橋詰地内から水を引くことを計画。用水開発者田辺与惣治を讃えた「大明神用水頌徳碑」が橋詰の地藏堂境内にある	松之山町史	447
	大倉用水	浦田地区の用水であるが、開発の経緯は不明。「浦田村誌」によれば、貞享2年(1685)の起工とされる	松之山町史	449
	伊之助用水	大肝煎村山伊之助が、浦田口村付近の荒地開発のために中立山からの用水開削を宝永8年(1711)に願い出る。元文5年(1740)に工事に着手したものの途中で断念した	松之山町史	450
石碑	御武家杉跡の碑	新田義宗が正平年中に十日町諏訪社に手植えたもの。中魚沼郡誌上巻611頁にも記述あり。昭和44年伐採、「御武家杉跡」の碑を45年に建立	中魚沼郡誌上	36
	河本貫之功烈之碑	明治21年、愛宕山に建立。十日町の人。名は一、字は貫之、幼字を杜太郎という、十一月十八日に生まれしをもって、その字数を総合して父の名づけしものという。筑川と号す。正安はその通称なり。祖父を道一、父を謙作といい、世々医を業とす。正安、医を尾台良作(父謙作の姉の夫)に学ぶ。その後、儒者芳野金陵に学ぶ。文久2年1月15日、坂下門外の変で死亡。十日町市史通史編3 474頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	704 1,395
	妻有の芭蕉句碑	長泉寺(中条)、広大寺(下条)、聖衆院(十日町)、中屋敷公民館(川西)	中里村史通史編上	976
	宮本茂十郎顕彰碑	絹織物の生産が始まったばかりの十日町へ招かれて、透綾という絹縮とそれを織る高機という新鋭織機の製法を伝授したのが、宮本茂十郎だと伝えられている。産地発展の功労者として大正12年に宮本公園が造成され、「国産絹縮之元祖」の顕彰碑が建立された。十日町市史通史編6 275頁にも記載あり	十日町市史通史編6	180
	金剛童子祠跡	川治村大字高山にありて、少彦名神を祀りしもの。祠は村社に合し、その跡に碑を立つ	中魚沼郡誌上	604
	川西町神社境内建立石碑	川西町神社境内建立石碑の一覧表(110基)	川西町史通史編上	1020
	川西の金石文	鶴寿道人碑(嘉永4年 木落三島神社)、霊木碑(明治24年 沖立集落センター)	中魚沼郡誌下	1,395
	川西地域の板碑	川西地域の板碑33基(市指定文化財)の解説。川西町史通史編上416頁に「川西町の板碑文化」、十日町市史通史編1 358頁に「妻有の板碑」の記述あり	川西町史資料編上	127
	殉職久保田先生之碑	昭和15年5月28日、水沢小学校5、6年生が清津峡へ遠足の帰路、瀬戸峡の雪洞が崩れ落ち、久保田訓導と児童2人が亡くなった	中里村史通史編下	414
	殉職者慰霊碑	信濃川水力発電宮中堰堤工事に伴う殉職者の慰霊碑。昭和11年9月、堰堤工事を請負った栗原組が小原集落の小丸山に建立	中里村史通史編下	437
	満洲共栄開拓団慰霊碑	昭和60年11月6日、共栄郷開拓団員生存者の手によって、敗戦の結果犠牲となった人々の慰霊碑が東田沢地内に建立された	中里村史通史編下	472
	五郎兵衛大明神の石塔	田開稲荷(桔梗原)のオニワには、「五郎兵衛大明神」と刻んだ小さな石塔が建っている。もと、通り山の村中が、シンデンセギの完工に尽くした村山五郎兵衛の功業を称え、また彼への深い感謝をこめて、実にその生前、シンデンセギから通り山のタバラへ分水する水口の前に建て、後年移転されたものである。シンデンセギの象徴である田開稲荷に対する、セギシタハチカソン(高道山・通り山・荒屋・田中・干溝・小原・桂・藤原新田)の人々の篤い敬仰を物語る記念碑ともいふことができよう	中里村史通史編下	862
	中里の金石文	藤木先生碑(明治27年 小出)	中魚沼郡誌下	1,395
	南北朝時代の墓塔郡	室野阿弥陀堂跡にある五輪塔・宝篋印塔の中に南北朝様式を示すものが数基ある	松代町史	349
	松之山の石碑	坂口安吾文学碑(松之山 松之山町史980頁にも記載あり)、滾々不尽(湯本)、歌碑(俳句1首 湯本)、歌碑(和歌3首 中尾)、御製碑(明治天皇御歌1首 坪野)、忠霊塔(水梨)、萬霊塔(慰霊碑 観音寺)、平和之御柱(湯山)、忠魂碑(湯山)、支那事変忠魂碑(湯山)、萬英霊塔墓(中尾)、忠魂碑(上鰈池)、誓忠碑(坪野)、戦後忠魂碑(上之山)、征清記念碑(上之山)、忠魂碑(北浦田)、三省校碑(小谷)、松里小百周年讃歌(天水越)、坪野小学校創立百周年碑(坪野)、浦田中創立40周年記念碑(湯之島)、浦田中学校跡(湯之島)、学び舎の跡(中立山)、黒倉校跡(黒倉)、庚申記念植樹碑(水梨)、御成婚記念植樹碑(小谷)、深山分収林植樹記念碑(統一地植樹記念 松口)、合祀60周年植樹記念碑(観音寺)、天水越団地造林記念碑(天水越)、	松之山町史	951

分類	項目	内容	出典	頁
石碑	松之山の石碑	町制施行記念植樹碑（藤倉）、伸卒業記念樹（東川）、坪野団地造林記念碑（坪野）、東山団地造林記念碑（東山）、中村先生頌徳碑（兎口）、百十三年無火災記念碑（小谷）、大工棟梁文吉之碑（小谷）、夜泣き松鎮魂の碑（小谷 松之山町史 934、1089 頁にも記載あり）、杜氏徳重之碑（松口）、諏訪神社改築記念碑（松口）、最福寺趾蹟碑（松口）、神堰碑（大明神用水碑 橋詰 松之山町史 448 頁にも記載あり）、伝水心（豪雨災害の記録碑 藤内名）、農本在人（圃場整備完成記念碑 古戸）、明治天皇遥拝記念碑（湯山）、松之山温泉記（湯山）、砂防竣工記念碑（湯山）、管領塚（天水越 松之山町史 301、962、976 頁にも記載あり）、謝恩碑（天水越）、以和為貴（留山ダム竣工記念碑 天水越）、鏡池碑（中尾 松之山町史 977 頁にも記載あり）、松山鏡（中尾）、人間国宝小野塚キイ之碑（中尾 松之山町史 971 頁にも記載あり）、深坂峠（林道竣工記念碑 浦田）、本山白峰先生顕彰碑（北浦田）、忠魂碑建立 50 周年記念碑（北浦田）、布施清山君筆塚（黒倉）	松之山町史	951
	家形墓塔	家形墓塔は頸城地方における戦国文化の名残を伝えるものと考えられ、上杉氏の京風文化の名残をとどめるものであり、松之山には比較的多く点在している。松之山町史 1014 頁にも記載あり	松之山町史	284
塚	文覚塚	下条村大字上新田の東北字原に近き用水堰の傍らにあり。俗にマンガクヅカという。小高き地にして約 2 尺の天然石を建つ。表に大僧都文覚法印と題し、上に 1 梵字を刻す。明暦のころこの地に修験者文覚新左衛門というものありし、これその塚なるべし	中魚沼郡誌上	605
	踊塚	水沢村字土市地内字細尾地内、大字伊達本村地内、字大坂上の 3ヶ所にあり。諸作豊熟の際、豊年踊りをなし、その時の祭り道具を埋めたるものなりという	中魚沼郡誌上	608
	業塚	水沢村字馬場に業塚あり、字伊達に上業塚あり。由来詳らかならず	中魚沼郡誌上	608
	百塚	橋村大字仁田より木落に通ずる旧里道に沿い 10 町の間にもわたり数十個の古塚累々散在す。開墾のため概ね毀れて残れるもの数個にすぎず。開墾の際、矛のごときもの、五輪塔に似たるものを発掘せしことあれど、由来は詳らかならず	中魚沼郡誌上	606
	糠塚	松代村大字松代字上原にあり。永正 4 年、上杉房能その臣長尾為景と戦い敗れてこの地に走る。為景追撃してこれに到り相戦い殺傷算なかりしという。記録は火災により焼失したため詳細を知るに由なきも、ただ古墳所々に存し遺骨往々現はるることあり	東頸城郡誌	498
	松山常盤翁筆塚	松山常盤は犬伏の林蔵寺に寺子屋「修斎学舎」を開き子弟を教育した、門人がその徳を慕い、松山邸内に筆塚を明治 36 年 8 月建立	松代町史下	451
	義方翁筆塚	大正 13 年 11 月、一洗庵義方（市川角蔵、私塾「一洗庵」で 48 年間子弟を教育）の徳を慕う門弟一同が国道 253 号沿いの田沢入り口に建立した	松代町史下	452
街道・舟運	北国脇街道（善光寺街道）	「北国脇街道の継立村」「十日町宿の業務と役割」	十日町市史通史編 2	433
	松之山街道と鑑坂村・六箇村	「高田藩と松之山街道」「代官所支配の松之山街道」「塩辻通りと六箇村」	十日町市史通史編 2	444
	飛渡入り通りと柏崎通り	「飛渡入り通りと魚之田川村」「海産物を運んでくる柏崎通り」	十日町市史通史編 2	454
	中世妻有の街道	「中世妻有の地勢と街道」「関田山脈の峠道」「善光寺街道」「川西回りの街道」「越後府内と妻有」「刈羽街道と関東への道」	十日町市史通史編 1	407
	脇道と枝道	江戸時代における十日町市内の脇道と枝道について	十日町市史通史編 2	47
	関東街道	川西地域を通る関東への 3 本の道筋について	川西町史通史編上	481
	近世の市川通り	信濃川沿いに信越をつなぐ道は市川通り（川西）・妻有（川東）と呼ばれ、妻有郷を縦貫する重要な道として、双方善光寺街道とも通称され公・私用の人馬・荷物が送り迎えされた	川西町史通史編上	940
	中里の街道	善光寺街道、清津川・中津川の渡船場、江戸道と高田道	中里村史通史編上	877
	松之山郷北組の街道	松之山道、柏崎街道、その他の郷内を通る道について	松代町史上	522
	松之山郷南組の道	松之山郷内南組の北通り、西之前・北浦田から西進する道、南進して信州へ入る道	松之山町史	483
	関東と妻有	「三国峠越えの古道」「中世の三国街道」「集九と宗祇の道」「聖護院道興の旅」	十日町市史通史編 1	416
	松ノ山街道	高田城市より隣国他郡に通ずる四大大路（越中国・信濃国野尻・刈羽郡鯨波・魚沼郡名木山）の一にして、妻有口・直峰街道・魚沼通・三国道・上田道と称す。川西町史通史編上 483 頁にも記載あり	東頸城郡誌	103
	妻有往来	頸城郡から中魚沼郡への道は、古代近世にかけては「松之山街道」、中世には「妻有往来」「三国街道」と呼ばれた	松代町史上	344
	三国街道	三国街道は大島・中野（大島村）から小豆峠を越え、室野・蒲生・松代・太平・菅刈・犬伏・薬師峠へと通じていた	松代町史上	369
	正保国絵図にみる妻有の街道	正保国絵図にみえる十日町から信州方面へ向かう北国脇街道（善光寺街道）について。集落名と 1 里塚の位置を示した図面の掲載あり	十日町市史通史編 2	28
	舟運	県道開通以前は物品の移出入は概ね水路に頼りしが、開通後明治 30 年までは舟運により岩沢・新光寺・二十日城・木落・孫左衛門・浅川原・姿の河戸に陸揚げしていた。その後陸運が主となり今は新光寺・浅川原の 2 河戸のみで、長岡・小千谷への通船 4 艘にすぎず 中魚沼郡誌下 1, 255 ページにも通船の記載あり。十日町市史通史編 4 204 頁、中里村史通史編上 905 頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1, 244

分類	項目	内容	出典	頁
私塾	円通寺 惟寛和尚	惟寛和尚は中条村円通寺第14世住職。博学多才にして、寺内に子弟を集めて教授す。小杉蘿齋・岡田雲洞・尾臺榕堂等その門に出づ。天保・弘化のころを盛とす	中魚沼郡誌下	894
	杉本周楨の寺子屋	中条村の医師杉本周楨の主宰する寺子屋は、弘化2年から明治5年まで28年間にわたって毎年正月から4月までの4か月間、周楨の自宅を教場として開かれていたと記録されている	十日町市史通史編3	384
	養文舎	中条村円通寺退隠僧高野本常主唱となり、明治16年7月、高橋茂一郎を聘し、円通寺内に設置せる漢学塾なり。19年9月に閉鎖す。十日町市史通史編4 60頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	935
	妻有学舎	養文舎の閉鎖後、「行余学舎」という学塾が明治25、6年ごろ樋口銀蔵・清水洞居の2人の尽力で中条村に設立され、27年4月、「妻有学舎」と改称した	十日町市史通史編4	61
	赤山義塾	中深見・秋成等の有志が長岡藩士長沢慎五郎(赤山と号す)を聘して、安政3年船山龍源寺門前に開設。初め下学齋と号し後に赤山義塾と改む。明治3年、赤山は高山村に移り姓を高橋と改む。同6年小学校令の実施せらるるに至りてこれを閉じる。十日町市史通史編3 382頁、同市史通史編4 30頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	894
	静雲精舎 (高橋茂一郎)	高橋茂一郎は明治5年、これまで養父高橋慎五郎(赤山)と開いていた赤山義塾を閉じ、十日町小学校に教員として勤めた。12年に職を辞して上京し、二松学舎で1年間研鑽を積み再び郷里に帰ってきた。高山に落ち着いた茂一郎は13年10月、自宅で静雲精舎という私塾を開いたが、15年4月にはその門を閉じた	十日町市史通史編4	59
	永照堂	文化・文政のころ、木落村田口藤内の私塾。藤内は鶴寿道人と号し、医を業とし書を善くす。業余子弟の教授を楽しみとす。教えを受ける者百有余人、嘉永4年門人その徳を思い「鶴寿道人」の碑を木落の三島神社前に建つ。川西町史通史編上1023頁・同町史通史編下76頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	894
	栄行寺 覚什和尚	千手の栄行寺住職であった覚什は、寛政年代から文化年間にかけて、民間教育の必要を感じて寺子屋教育を始めた。後年、南雲政蔵はこの塾頭となって明治に至り、ここでの教育の気風が千手小学校につらなり、政蔵は初代の千手小学校教師(校長)を務めた	川西町史通史編下	76
	敦厚塾	南雲政蔵が嘉永6年から明治5年まで開設し、各村々の旦那衆や富裕者の依頼を受けてその子弟を教えたほか、遠くは中条・宮中・姿にも出かけて教えた。川西町史通史編上1023頁にも記載あり	川西町史通史編下	77
	清水塾	野口村清水地内の長岡藩士による塾	川西町史通史編下	77
	川西の手習師匠	川西の明治維新前後の手習師匠として、千手に南雲政治・喜多甚蔵・南雲忠兵衛・清水秀之助・南雲権蔵・南雲徳平、沖立に柄沢惣八・教藤重右衛門がいた	川西町史通史編下	77
	修斎学舎	松代村犬伏にあり。教師松山常盤、創立は不明、明治6年廃止。明治36年門人が碑石を建立す。松代町史下449・451頁にも記載あり	東頸城郡誌	544
	北山学舎	松代村にあり。教師関谷周作、文政10年創立、嘉永2年廃止。松代町史下451頁にも記載あり	松代町史下	449
	宮澤学舎	松代村にあり。教師宮澤美濃正、天保3年創立、明治元年廃止。松代町史下450頁にも記載あり	松代町史下	449
	長命寺	上州藩士弓削田雪溪が長命寺を学舎として土地の子弟を教育したと伝えられている	松代町史下	452
	芋島塾	芋島菅井邸内の観音堂で、高田藩士法名形山一法沙弥(丹羽某、俗名不詳)が土地の子弟に手習いを授けた	松代町史下	452
	一洗庵	市川角蔵(義方。市川俊雄の父)が16歳から64歳まで郷里の子弟の薫育にあたった。大正13年11月、一洗庵義方の徳を慕う門弟一同が国道253号沿いの田沢入り口に「義方翁筆塚」を建立した	松代町史下	452
	私塾 関谷與平太	浦田村黒倉にあり。安政元年創立、慶応3年廃止、門人30人。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	543
	私塾 本山彦太夫	浦田村浦田にあり。安政元年創立、元治元年廃止、門人10人。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	543
	私塾 南雲團六	浦田村浦田にあり。安政元年創立、元治元年廃止、門人10人。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	543
	私塾 丸山豊八郎	浦田村浦田にあり。安政元年創立、元治元年廃止、門人10人。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	543
	私塾 田中與左衛門	浦田村浦田にあり。安政元年創立、元治元年廃止、門人10人。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	543
	私塾 志賀多左衛門	松之山村五十子平にあり。天保年間創立、明治元年廃止。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	544
	私塾 村山辰次郎	松之山村赤倉にあり。天保年間創立、明治元年廃止。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	544
	私塾 村山與平治	松之山村坪野にあり。天保年間創立、明治元年廃止。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	544
私塾 涌井良斎	松之山村坪野村山義輝方にて教授、魚沼郡の人。天保年間創立、明治元年廃止。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	544	
私塾 小野塚傳四郎	松之山村坪野福原喜太郎方にて教授、藤倉の人。天保年間創立、明治元年廃止。松之山町史720頁に掲載あり	東頸城郡誌	544	

分類	項目	内容	出典	頁
小学校	十日町小学校	明治5年4月10日創立、明治40年の就学児童数936人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 38・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	925
	大池小学校	明治9年4月創立、明治40年の学齢児童数106人。同21年4月、赤倉分教場を置く。同40年10月、軽沢分教場を置く。昭和56年10月、過疎により閉校、赤倉分校が本校に昇格する。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 39・311頁、同市史通史編5 477頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	926
	赤倉小学校	明治21年4月、大池小学校赤倉分教場として創立。過疎により大池小学校が閉校となったため、昭和56年11月赤倉分校が本校に昇格する。平成15年3月31日閉校	十日町市史通史編5	477
	西小学校	十日町小学校区の一部と川治小学校区の一部を合わせ、昭和50年4月西小学校が発足したが、校舎完成まで十日町校舎・川治校舎に分かれて通学し、51年4月から新校舎に通学するようになった	十日町市史通史編5	476
	新座小学校	明治9年10月、四日町村と分離し創立。同15年1月、中条校の附属となり、同年12月密山派出場を置く。同17年5月、中条村組合を脱す。同20年2月、合併して中条村となり、私立として授業を続行し、同22年8月新座校設置の認可を得る。明治40年の就学児童数111人。昭和47年4月1日、新座小学校と大井田小学校が統合し、東小学校となる。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 41・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	931
	大井田小学校	明治8年5月創立、四日町校と称す。同9年5月、中条校附属となる。同16年、中条校から分離独立。同24年11月大井田校と改称。明治40年の就学児童数277人。昭和47年4月1日、新座小学校と大井田小学校が統合し、東小学校となる。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 41・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	933
	東小学校	新座小学校・大井田小学校が昭和47年4月に名目統合し東小学校となり、48年9月校舎竣工とともに実質統合した	十日町市史通史編5	476
	中条小学校	明治7年2月10日創立、明治40年の就学児童数200人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 39・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	928
	飛渡第一小学校	明治8年2月創立、中条校附属新水校と称する。同18年独立、20年轟木に分場を置く。同25年4月、飛渡校と改称し、轟木分場を分教室と改め、池谷、山新田、枯木又に分教室を置く。同41年8月、山新田分教室を分割して飛渡第二校と称し枯木又分教室これに属す。同時に新水校を飛渡第一校と称す。明治40年の就学児童数193人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 40・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	928
	飛渡第二小学校	明治8年2月、中条校の分校新水校の派出場として山新田に置く。同25年12月校舎を新築し飛渡校山新田分教室と改称。同41年8月飛渡校から分離し飛渡第二校と改称、枯木又分教室がこれに属す。平成17年3月31日閉校。十日町市史資料編7 628頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	930
	(池谷分教場)	明治8年3月、寺子屋式のものを受け、同9年3月、四日町校の派出場として創立。同23年3月、中条校の分教室となり、同25年4月、飛渡校分教室に転ず。同42年、飛渡第一校の分教場となる	中魚沼郡誌下	933
	(轟木分場)	明治8年11月、中条校分校として創立。同20年4月、新水校の分場に転じ、同25年4月、飛渡第一校の分教室に転ず	中魚沼郡誌下	934
	下条小学校	明治8年4月創立、下組校、上組分校と称す。同18年5月、分校を脱して独立。同33年6月、合併により下条村となり校名を下条小学校に改む。明治40年の就学児童数260人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 41・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	937
	東下組小学校	明治8年4月創立、下組校附属平校と称す。同19年11月、校舎を渡野に移築し独立、簡易科東下組小学校と改称。同35年4月、尋常科に改む。明治40年の学齢児童数111人。平成21年3月31日閉校。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 42・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	939
	河内小学校	明治15年以前は十日町校の組合に属して同校に通学し、16年より川治校の組合となり、18年9月、校舎を山本に新築して山本校と称す、25年4月、河内校と改称。初め高山・北新田・城之古の3集落で1校を設け、同9年川治校の分校となり校舎を新築せしが、25年4月、廃校して河内校に入る。明治40年の就学児童数102人。大正12年3月15日、川治校・河内校を廃止し、川治尋常高等小学校となる。十日町市史通史編4 38頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	994
	川治小学校	明治7年2月創立。同8年3月、附属伊達校を置き、9年3月、附属高山校を置く。初め伊達・新宮・高山の3分校ありしが、同12年、伊達・新宮の分校を解き、19年、高山の分校を解く。明治40年の就学児童数119人。大正12年3月15日、川治校・河内校を廃止し、川治尋常高等小学校となる。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 37・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	993
	八箇小学校	明治8年9月、川治校の支場として関根・孕石の2ヶ所に開学せしが、13年11月孕石に校舎を新築し移る。同18年6月、高山校に属し、20年4月、山谷校に属し、22年4月、山本校に転属し、25年に独立して八箇校と称す。明治40年の就学児童数64人。平成20年3月31日閉校。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 38・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	994
麻畑小学校	明治8年4月、川治校分場として創立。同21年4月、川治校の附属を脱し田表校を廃し、独立して山谷校と称し、同時に船坂に分場を置く。同25年4月、麻畑校と改称す。明治40年の就学児童数70人。昭和35年4月1日、二ッ屋小学校と統合し六箇小学校となる。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 37・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	991	

分類	項目	内容	出典	頁
小学校	二ッ屋小学校	明治8年4月、川治校分場として創立。同20年、山谷校の分場と称す。同25年4月、独立して二ッ屋校と称す。明治40年の就学児童数44人。昭和35年4月1日、麻畑小学校と統合し六箇小学校となる。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 37・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	991
	六箇小学校	麻畑小学校・二ッ屋小学校を統合し、昭和35年4月1日創立。平成21年3月31日閉校	開校記念誌いねがわ	
	吉田小学校	明治7年3月の創立、第4番小学第3分校山谷校と称す。同12年独立し、25年吉田校と改称す。同36年4月、高等科を併置す。明治40年の就学児童数は143人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 35・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	957
	鏡島小学校	明治7年5月、第4番小学貝野校の分校として創立、当時は鏡坂と高島の2校なり。同12年11月、第9番小学山谷校の分校に転じ、18年5月、分校の称を廃す。同25年4月、2校を合して鏡島校と改称す。同41年4月、修業2ヶ年の高等科を併置す。明治40年の就学児童数117人、高等科29人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 35・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	958
	真田小学校	明治7年8月、第3番小学新町校の附属として創立し鉢校と称す。同12年9月、第9番小学山谷校の分校となる。同20年2月、真田校と改称す。明治40年の就学児童数55人。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 34・311頁にも記載あり。平成17年3月31日閉校	中魚沼郡誌下	959
	名ヶ山小学校	名ヶ山、樽沢の2集落は明治7年以来鉢校の通学区域に属すも、道路遠隔険阻なるをもって通学するものなし。同16年10月、鉢校より分離し名ヶ山校を設置、山谷校の附属なり。同20年4月、高島校の分場となり、22年7月、真田校の分場に転じ、25年4月に独立。明治40年の就学児童数86人。平成13年3月31日閉校。十日町市史資料編7 628頁、同市史通史編4 35・311頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	960
	汎愛村校 (馬場小学校)	明治4年7月、馬場村に開校。中魚沼郡初の官許を得た学問所なり。同7年9月、学制に基づき小学校を設置するに及び馬場小学校と改称。十日町市史通史編4 31頁・35頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	894
	馬場小学校	明治7年9月の創立(前身は汎愛村校)。同9年土市、太田島に分校を設け、12年沢入集落に巡回教場を設ける。同20年、巡回教場廃止。明治41年9月、馬場校・今泉校を併せて水沢校と改称。水沢村史394頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	987
	水沢小学校	明治8年3月の創立、伊達校と称し第8番小学川治校の分校なり。同12年10月分離独立。同22年合併により今泉校となり、今泉校と改称。明治41年9月、馬場校・今泉校を併せて水沢校と改称、高等科を併置す。明治40年の就学児童数751人。水沢村史395頁にも記載あり。十日町市史通史編4 36頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	987
	野中小学校	明治15年7月の創立、伊達校の分場なり。最寄集落をもって民家を借館して寺子屋的教授を開始す。同19年、池沢・源田、六箇村船坂・塩之又を組合として池沢校を置き、細尾・天池・池之尻・漆島・野中を組合として細尾校を置き、当間校・鉾柄沢校を置く。同21年9月、簡易科野中校と称し、鉾柄沢・当間に派出場を置く。同時に船坂は二ッ屋校に、池之尻・細尾・天池は今泉校に入る。平成19年3月31日閉校。水沢村史397頁にも記載あり。十日町市史通史編4 36頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	989
	橋小学校	明治6年12月創立、仁田校と称す。同7年に正教科に改む。同8年2月、真人付属校を設け、同年4月、若柄付属校を置き、同10年1月、北山付属校を置く、同17年、木落及び市ノ沢に分校を設ける。同18年、真人全村の組合を割き、20年木落校を廃して本校に併す。同38年5月、高等科併置し仁田尋常高等小学校と改称。同年10月6日、橋尋常高等小学校と改称。明治40年の就学児童数207人。川西町史資料編下293・469頁、同町史通史編下80頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	947
	仙田小学校(室島)	明治6年7月、室島の相国寺首座寮を学舎として仮開校。同7年2月、開学許可となる。8年1月白倉分場、9年2月田戸分場(25年7月独立して本校となる)・赤岩分場(10年4月廃場し、赤谷は田戸へ、岩瀬は仙田校へ併合)を置く。同38年5月、高等科を併置す。昭和49年3月31日、仙田小学校へ統合のため閉校。川西町史資料編下297・469頁、同町史通史編下82頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	950
	仙田小学校	昭和49年4月1日、仙田小学校(室島)・赤岩小学校・中仙田小学校を統合し、中仙田地内に開校。平成21年3月31日、上野小学校に統合のため閉校	川西町史資料編下	469
	田戸小学校	明治9年2月、仙田校の分場として創設。同25年7月独立す。大正13年9月、中仙田小学校の分校となり、昭和36年5月31日分校廃止、冬季分校となる。冬季分校は同49年廃止。川西町史資料編下297頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	951
	高倉小学校	明治20年6月、赤岩校の分場として創立。同25年4月独立。大正13年仙田小学校の分校となる。昭和47年4月独立。昭和61年3月31日仙田小学校へ統合のため閉校。川西町史資料編下298、469頁、同町史通史編下86頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	951
	赤岩小学校	明治20年6月の創立、同時に白倉分場を置く。同20年6月、高倉分教場を置き、同23年3月、中仙田分場を置く。同25年、修業3ヶ年の尋常科となり前記3分場を分離す。昭和49年3月31日、仙田小学校へ統合のため閉校。川西町史資料編下469頁、同町史通史編下86頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	952
白倉小学校	明治7年11月、仙田校の附属として創立。同20年6月、赤岩校の分校となり同25年7月独立す。平成6年3月閉校、児童は橋小学校へ通学	中魚沼郡誌下	952	
中仙田小学校	明治23年3月赤岩校の分場として創設。同25年独立す。昭和49年3月31日、仙田小学校へ統合のため閉校。川西町史資料編下469頁、同町史通史編下86・298頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	953	

分類	項目	内容	出典	頁
小学校	上野小学校	明治7年3月1日、上野村西浦の慈濟庵に開校、上野校と称す。同年6月新町新田に移転して新町新田校と改称し、上野校は千手校・伊勢平治校（明治20年廃校）・霜条校・鉢校・樽ノ沢校・名ヶ山校とともに新町新田校の分校となる。同11年4月、新町新田校・上野校の2校を合わせて上野校と称す。同29年高等科を併置す。明治40年の就学児童数129人。川西町史資料編下290・469頁、同町史通史編下83頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	954
	中野小学校	明治9年創立、霜条校と称す。同14年1月千手校に合併し、便宜上、伊勢平治、友重の2字は上野校に通学させる。同22年町村制実施に伴い中野村が成立すると、6月再びこれを設置して中野校と称す。明治40年の就学児童数91人。大正12年4月1日千手小学校へ統合。川西町史通史編下84頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	955
	千手小学校	明治7年1月16日、新町新田校の附属として創設。同13年、上野校の分校となる。同22年4月、千手町校と改む。同37年4月、修業4ヶ年の高等科を併置す。明治40年の就学児童数は189人。川西町史資料編下287・469頁、同町史通史編下84頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	956
	貝野小学校	明治7年第4番小学として姿に創立。同9年貝野校を分設す。後に共に第9番小学山谷校の分校となる。同19年馬場校の分校に転じ、22年6月、馬場校より分離独立し、25年7月、姿・貝野両校を合併して貝野校と称す。同39年5月、高等科を併置す。明治40年の就学児童数329人。中里村史通史編下159頁、十日町市史通史編4 37頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	964
	倉俣小学校	明治8年1月、第6番小学中深見校の第3附属として創立、同時に重地校を設ける。同15年独立、19年、清田山に分場を置き、22年7月、小出に分場を置く。同42年12月、小出を除き分場を廃す。大正6年4月、修業2ヶ年の高等科を併置す。明治40年の就学児童数341人。中里村史通史編下160頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	983
	田沢小学校	明治8年2月、馬場校附属として創立。同13年独立す。中里村史通史編下159頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	986
	高道山小学校	明治8年1月、馬場校附属として創立、同時に角間に1校を設ける。同13年、田沢校に転属し、角間校は小角校と改称、15年小角校土倉派出場を置く。同18年、各校独立し、25年、村立高道山尋常小学校と改称、34年4月、角間校と土倉校を高道山校の分場とす。平成13年3月31日閉校。中里村史通史編下160頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	986
	田所小学校	明治9年1月、中深見校の分校として田代に創立し田代校と称す。倉俣村宇清田山も田代校の組合なりしが15年に分離す。同41年5月田所校と改称す。昭和61年3月31日閉校。中里村史通史編下160頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	979
	清津峡小学校	昭和35年3月31日、高道山小学校角間分校・土倉分校、倉俣小学校小出分校を廃止し、4月1日、清津峡小学校（校舎は角間分校を利用）を新設。ただし土倉分校はそのまま分校として残る。平成8年3月31日土倉分校閉校。21年3月31日閉校	中里村史通史編下	514
	松代小学校	明治6年12月5日、長命寺の一部を借館して創立。明治45年の統計には小屋丸と菅刈の分教場が記載されている。松代町史下453・454・455・457・458・464・496頁にも記載あり	東頸城郡誌	551
	（松代小学校菅刈分校）	明治8年犬伏校菅刈分校として開校、16年菅刈小学校として独立、35年松代尋常高等小学校菅刈分教場と改称。平成6年3月31日閉校。松代町史下455・496頁にも記載あり	東頸城郡誌	558
	（松代小学校小屋丸分校）	明治9年8月浦田口校附属小屋丸校として開校、22年松代尋常小学校小屋丸分教場と改称、昭和58年4月1日本校に統合。松代町史下454・497頁にも記載あり	東頸城郡誌	551
	（松代小学校池尻分校）	明治34年庵堂を雪中派出場として1～3年冬期間授業、昭和28年松代小学校池尻分校と改称、46年本校に統合	松代町史下	497
	（松代小学校下山分校）	昭和23年小屋丸分校から独立して開校、昭和63年本校に統合	松代町史下	496
	清水小学校	明治6年6月12日民家を借り松代校会沢分校として創立。16年会沢校として独立。27年の学校統計表で峰方村清水にありと記載されている。大正9年、峰方小学校と改称。昭和22年清水小学校と改称。56年4月1日桐山小学校を統合。平成2年3月休校し、平成8年閉校。松代町史下455・456・457・458・464・497頁にも記載あり	東頸城郡誌	558 567
	孟地小学校	明治7年10月創立（松代町史下498頁では8年5月10日）、松代校付属苧島校として開校、11年犬伏に移転。明治17年松代校附属伊沢校を苧島に創立。18年松代校から分離独立。昭和16年孟地国民学校と改称、25年伊沢小学校と改称、39年孟地小学校と改称。平成26年3月31日閉校。松代町史下454・455・457・458・498頁にも記載あり	東頸城郡誌	551 567 558
	（孟地小学校海老分校）	明治8年7月創立（東頸城郡誌558頁では18年）、浦田口校の付属校。18年浦田口校から分離独立。平成2年3月31日閉校。松代町史下454・455・498頁にも記載あり	東頸城郡誌	551
	（孟地小学校滝沢分校）	明治8年ころ苧島校に通学困難のため雪中分教場の名目で通年授業、昭和3年伊沢尋常高等小学校滝沢分教場として開校、39年孟地小学校滝沢分校と改称、平成元年3月閉校	松代町史下	498
	北山小学校	明治9年松代校附属仙納校として創立（松代町史下499頁では明治8年創立）。27年12月学校統計表には「北山校」と掲載され、田代と小池の分教場が記載されている。37年北山尋常小学校と改称。東頸城郡誌558頁にも記載あり。45年の統計表には蒔平分教場が追加されている。平成5年3月31日閉校。松代町史下454・455・457・458・464・499頁にも記載あり	東頸城郡誌	551

分類	項目	内容	出典	頁
小学校	(北山小学校田代分校)	明治10年仙納校附属田代校として開校、35年北山尋常小学校田代分校と改称、昭和50年田代が松代町から高柳町へ分離したため閉校	松代町史下	499
	蒲生小学校	明治16年創立(松代町史下500頁では明治6年創立)。22年北平小学校と改称、35年蒲生尋常高等小学校と改称。45年の統計表には儀明分教場が記載されている。平成5年3月31日閉校。松代町史下455・457・458・464・500頁にも記載あり	東頸城郡誌	557
	(蒲生小学校寺田分校)	明治25年ころ北山尋常小学校小池分教場として創立、昭和16年北山国民学校寺田分校と改称、20年蒲生国民学校と合併蒲生国民学校寺田分校と改称。平成5年3月31日閉校	松代町史下	499
	室野小学校	明治7年3月1日、洞泉寺の院寮を借館して創立、浦田校の付属校。18年第13番小学室野校と改称。松代町史下453・454・455・457・458・464・503頁にも記載あり。昭和57年室野小学校と峠小学校が統合し奴奈川小学校となること決定し、59年3月31日閉校	東頸城郡誌	550
	峠小学校	明治9年7月10日浦田校附属竹所校として創立。12年峠に校舎を移し峠校として独立。昭和57年室野小学校と峠小学校が統合し奴奈川小学校となること決定し、59年3月31日閉校。松代町史下454・455・456・457・458・464・503頁にも記載あり	東頸城郡誌	551 559
	奴奈川小学校	昭和59年4月1日、室野小学校と峠小学校が統合し開校。平成26年3月31日閉校	松代町史下	500
	儀明小学校	明治12年ころ庵堂で創立、30年北平(蒲生)尋常小学校儀明分教場として開校。昭和54年儀明小学校として分離独立。平成5年3月31日閉校	松代町史下	501
	蒔平小学校	明治35年、仙納小学校分室として開校。昭和22年北山小学校蒔平分校と改称。昭和54年蒔平小学校として分離独立。平成4年3月閉校	松代町史下	501
	蓬平小学校	明治39年松代尋常高等小学校雪中派出所として開所、大正元年蓬平分教場、昭和22年松代小学校蓬平分校と改称。昭和54年蓬平小学校として分離独立。平成6年3月閉校	松代町史下	502
	桐山小学校	明治41年峰方尋常小学校桐山分教場として開校。昭和22年清水小学校桐山分校と改称。23年松代村・仙田村・高柳村組合立桐山小・中学校発足、47年松代町立桐山小学校と改称。56年3月31日清水小学校に統合のため閉校	松代町史下	504
	(浦田口校千年分校)	明治9年11月創立、浦田口校の付属校。松代町史下454頁にも記載あり	東頸城郡誌	551
	(峠小学校木和田原分校)	明治15年6月峠校の分校として開校。同25年4月峠校に合併(松代町郷土誌教育編217頁)。松代町史下455頁にも記載あり	東頸城郡誌	559
	浦田小学校	明治8年4月、浦田村大蔵寺に室野校の付属校として創立。同年10月、浦田村字入山に派出教場設置。同9年本校浦田校となる。同13年1月20日、浦田村月池へ派出教場を設置。同20年尋常科浦田小学校と改称(17年校舎新築移転)。同25年浦田村立浦田小学校と改称(同年分教場を中立山・黒倉に設置)。同32年浦田村立浦田尋常高等小学校と改称。昭和32年学区変更により、黒倉分校が浦田口小学校分校となる。同48年3月中立山分校閉校。平成25年3月31日閉校。松之山町史722・725・746・751頁に掲載あり	東頸城郡誌	550
	三省小学校	明治8年4月、小谷村大日堂に室野分校水梨校として創立。同年10月、水梨阿弥陀堂へ移転。同16年浦田分校小谷校となる。同20年簡易科小谷小学校と改称。同22年尋常科浦田口分場小谷小学校となり、黒倉は学区から分離する。同25年松之山村立三省尋常小学校として独立。昭和33年ミルク給食開始。同62年3月31日閉校。松之山町史722・724・746・751頁に掲載あり	東頸城郡誌	550
	松里小学校	明治8年4月10日、天水越村十王堂に室野校附属分校天水越校として創立。同9年、浦田校附属分校となる。同17年浦田校より分離、天水校となる。同20年簡易科天水小学校となる。同25年松里村立松里尋常小学校と改称。同38年松之山村立松里尋常高等小学校と改称。昭和30年校歌・校章制定。平成26年3月31日閉校。松之山町史722・725・746頁に掲載あり	東頸城郡誌	550
	松之山小学校	明治6年11月8日、観音寺村観音寺に観音寺校として創立。同8年浦田口校と改称し浦田口へ新築移転。同19年尋常科浦田口小学校と改称。同25年松之山村立浦田口尋常小学校と改称。同29年松之山村・布川村・松里村三村組合立松之山郷高等小学校を大字光間地内に設立、同校は36年浦田口尋常小学校に併置されて廃止される。同34年浦田口尋常小学校に川手分教場設置(昭和56年3月川手分校閉校)。同36年松之山村立浦田口尋常高等小学校と改称(大字光間)。同41年松之山村浦田口尋常高等小学校と改称、湯山に雪中派出場設置。昭和31年テレビ受像の初公開(県内学校では初の試み)、校歌制定。同33年4月1日、松之山小学校と改称。同62年3月黒倉分校閉校。松之山町史722・724・726・746・751頁に掲載あり	東頸城郡誌	551
	東川小学校	明治8年5月7日、浦田口分校東川校として東川村小野塚多吉宅を借りて創立。同12年、槇清記宅を借館。同18年中等科東川小学校と改称(前年に字中屋に校舎新築移転)。同20年簡易科東川小学校と改称。同25年東川尋常小学校と改称。同35年松之山村立東川尋常高等小学校と改称。昭和37年季節保育所を併置。平成9年3月31日、松之山小学校に統合のため閉校。松之山町史722・725・746頁に掲載あり	東頸城郡誌	551
	坪野小学校	明治9年8月(松之山町史では8年)、浦田口分校坪野校として坪野村山嘉久治宅を借りて創立。同18年初等科坪野小学校と改称。同20年、坪野村字西山に新築移転、簡易科東川小学校坪野分場と改称。同21年東山分校設置。同25年布川村立坪野小学校と改称。同36年松之山村立坪野尋常小学校と改称。昭和25年校歌制定。同56年3月閉校。松之山町史722・725・746・751頁に掲載あり	東頸城郡誌	551

分類	項目	内容	出典	頁	
中学校	十日町中学校	昭和22年5月15日、十日町小学校の一部を借りて創立。大池分校・軽沢分校設置	十日町市史通史編5	310	
	中条中学校	昭和22年5月15日、中条小学校の一部を借りて創立。大井田分校・飛渡第一分校・飛渡第二分校設置	十日町市史通史編5	310	
	下条中学校	昭和22年5月15日、下条小学校の一部を借りて創立。東下組分校設置	十日町市史通史編5	310	
	吉田中学校	昭和22年5月15日、吉田小学校（北校舎）・鑑島小学校（南校舎）の一部を借りて創立。真田分校・名ヶ山分校設置	十日町市史通史編5	310	
	川治中学校	昭和22年5月15日、川治小学校の一部を借りて創立。八箇分校設置	十日町市史通史編5	310	
	六箇中学校	昭和22年5月15日、麻畑小学校の一部を借りて創立。二ッ屋分校設置	十日町市史通史編5	310	
	南中学校	昭和42年4月1日、川治中学校・六箇中学校を統合して創立。実質統合は昭和43年1月	十日町市史通史編5	535	
	水沢中学校	昭和22年5月15日、水沢小学校の一部を借りて創立。野中分校設置	十日町市史通史編5	310	
	千手中中学校	昭和22年創立。36年3月31日、川西中学校へ統合のため閉校	川西町史資料編下	470	
	上野中学校	昭和22年創立。36年3月31日、川西中学校へ統合のため閉校	川西町史資料編下	470	
	橋中学校	昭和22年創立。46年3月31日、川西中学校へ統合のため閉校	川西町史資料編下	470	
	仙田中学校	昭和22年創立、第1分校（室島）・第2分校（白倉）。38年4月1日第2分校が白倉中学校として独立。39年4月1日第1分校を吸収。50年3月31日川西中学校へ統合のため閉校。川西町史通史編下463頁にも記載あり	川西町史資料編下	470	
	白倉中学校	昭和22年仙田中学校第2分校として開校。38年4月1日白倉中学校として独立。50年3月31日川西中学校へ統合のため閉校	川西町史資料編下	470	
	川西中学校	昭和36年4月1日、千手中中学校と上野中学校が統合し発足。46年4月1日、橋中学校を統合。50年4月1日、仙田中学校・白倉中学校を統合	川西町史資料編下	470	
	倉俣中学校	昭和22年4月30日、小学校の一部を借りて創立。昭和60年3月31日中里中学校へ統合のため閉校	中里村史通史編下	505	
	貝野中学校	昭和22年5月1日、小学校の一部を借りて創立。昭和60年3月31日中里中学校へ統合のため閉校	中里村史通史編下	505	
	田沢中学校	昭和22年5月15日、小学校の一部を借りて創立。昭和60年3月31日中里中学校へ統合のため閉校	中里村史通史編下	505	
	中里中学校	昭和60年4月1日、倉俣・貝野・田沢中学校を統合し中里中学校創立	中里村史通史編下	516	
	松代中学校	昭和22年5月1日、松代小学校で開校、孟地・清水小学校に分校を併設。54年4月1日統合松代中学校開校。松代町史下464・481・502・504頁にも記載あり	松代町史下	463	
	清水中学校	昭和22年5月1日、松代中学校清水分校として清水小学校に併設で開校。36年松代中学校から独立し清水中学校となる。54年4月1日統合松代中学校へ統合	松代町史下	505	
	孟地中学校	昭和22年5月1日、松代中学校孟地分校として孟地小学校に併設で開校。39年松代中学校から独立し伊沢中学校となる。同年5月1日孟地中学校と改称。54年4月1日統合松代中学校へ統合	松代町史下	505	
	山平中学校	昭和22年5月1日、蒲生小学校で開校、北山小学校に分校を併設。54年4月1日統合松代中学校へ統合。松代町史下464・481・506頁にも記載あり	松代町史下	463	
	奴奈川中学校	昭和22年5月1日、室野小学校で開校、峠小学校に分校を併設。54年4月1日統合松之山中学校へ統合。松代町史下464・506頁にも記載あり	松代町史下	463	
	桐山中学校	昭和22年新学制により松代中学校清水分校学区となり清水分校に通学。23年高柳村・仙田村組合立桐谷中学校が開校し、桐山地区は2分して清水分校と桐谷中学校に通学する。36年高柳町・川西町・松代町3町組合立桐谷中学校発足。47年松代町立桐山中学校と改称。54年4月1日統合松代中学校へ統合	松代町史下	507	
	松之山中学校	昭和22年5月1日、松之山村立松之山中学校開校、浦田口校舎（浦田口小学校に併設）、松里校舎（松里校舎に併設、同46年3月閉校）、東川校舎（東川小学校に併設、同48年3月閉校）、坪野校舎（坪野校舎に併設）。同37年松之山地すべりのため校舎が使用禁止となり分散授業開始。松之山町史747・748・751頁にも記載あり	松之山町史	741	
	浦田中学校	昭和22年5月1日、浦田村立浦田中学校開校、浦田小学校に併設。平成3年3月31日閉校。松之山町史747頁にも記載あり	松之山町史	741	
	庭園	村山家庭園	松之山の豪農村山家の庭園。平庭は2つの時代に区分される。1つは築山沿いに造成された江戸初期から中期の庭、もう1つは昭和20年代に旧宅の一部を取り壊しその跡に造成された新しい庭である	松之山町史	977
		観音寺庭園	大字観音寺字深谷にあり、松之山で一番古い寺である。庭園は本堂裏の平庭と大きな池、庫裡裏の庭園とに分けられる。大きな池には浮島があり、小林一茶が観音寺を訪れた際に「浮島や浮き沈みつ松の影」と詠んでいる	松之山町史	977
積翠荘		吉田村酒井留五郎の庭園なり。文化中、東都の碩学亀田鵬齋北遊の途次暫く寄寓す。会画伯釧雲泉もまた来たり寓す。共に相計りて築庭の配置を定む。園名また鵬齋の命名に係る。市指定文化財	中魚沼郡誌上	562	
地名	伊乎乃	承平年間（931年～938年）に編纂された『和名類聚抄』では、魚沼を「伊乎乃」（いおの）としている。川西町史通史編上160頁にも記載あり（「五百野」「五百沼」「大沼」「五芋野」説もある）	中里村史通史編上	307	
	津張庄	津張庄という荘園が立荘していたことを示す確実な史料は見当たらないが、『延慶本平家物語』第3に「津張庄司大夫宗親」なる武将が登場する。この武将が実在の人物ならば「庄司大夫」と名乗るからには、津張庄という荘園が存在していた可能性も否定できない	中里村史通史編上	333	

分類	項目	内容	出典	頁
地名	波多岐庄	『吾妻鏡』文治2年(1186)2月12日の条の「関東御知行国内乃貢未済沓々注文」の中に「波多岐庄」(はたきのしょう)が記載されている。中里村史通史編上329頁にも記載あり。16世紀後半以降になると、史料上からは「波多岐」の地名は消滅して「妻有」に統一される(同村史上341頁)。川西町史通史編上199頁、十日町市史通史編1 180・254頁にも記載あり	中里村史通史編上	326
	妻有の由来	ツマリという地域名は暦応4年(1341)の市河文書に「妻在庄」とあるのが初見と思われる。『平家物語』には「津張庄」または「津破庄」とみえ、『太平記』にも「津張郡」とある。中里村史通史編上334・338頁にも記載あり ツマリの語源については、「行き止まりの地」「アイヌ語起源説」「河岸段丘の断崖面から名づけられた地形名」「泊(トマル・トマリ)から変化したもの」「津守」など諸説がある。川西町史通史編上140・153頁にも記載あり	中里村史通史編上	311
	妻有の語源	この地域が妻有と呼ばれたのはどんな語源に由来するものなのだろうか ①「ツマリ」は奈良時代以前の宿駅を指した「泊」(とまり)が転化した語で、古代においても早くから信濃から千曲川沿いに越後に至る往還が発達し、宿駅も整備されていたことを立証する表現であるという説 ②自然景観や地勢上の特徴から説明しようとするもので、「ツマリ」は「行きづまり」の場所で、深奥の地の意であるという説 ③「ツマリ」は「津張」のなまった表現で、「ツバケル」(崩れる)という意味であり、信濃川の兩岸の河岸段丘の断崖面の上方から崩れ落ちている景観から名づけられた地形上の名称であるという説 ④①の「泊」説を承けて、津南町外丸を古代宿駅の「泊」とし、近世外丸の枝村となった鹿渡を古代からの重要な渡船場であったとみなし、古代では渡船場を「渡」(わたり)と称し、その「渡」を管理する在地の地方官が「津守」(つもり)で、この「津守」が荘園経営の在地主官の役目を担うようになり、転音して「津張」「妻有」「妻在」などと表記されるようになったという説 それでは、今日「ツマリ」の語源をめぐってどのように考えるべきであろうか。 ①の「泊」説では、集落名としての説明は可能であっても、地域呼称の論拠としては弱く、ここでは②「行きづまり」の場所で、深奥の地の意であるという説を妥当と見たい	十日町市史通史編1	159
	妻有庄	妻有庄(つまりのしょう)は、波多岐庄(はたきのしょう)と並ぶ中世の中魚沼地方の庄園である。妻有庄の名は、平安時代末の寿永元年(1182)が舞台となっている信濃国横田河原の合戦を記した『延慶本平家物語』の中に、「津張庄司大夫宗親」の記述があり、「津張庄」の存在を推測させる。妻有庄の初出例は、南北朝時代初めの暦応4年(1341)の市河文書である。この市河文書における表記は「妻在庄」であり、「妻有庄」ではないが、両者は同じ実体を指していると考えられる	十日町市史通史編1	257
	波多岐庄と妻有庄の範囲	ひとところ、波多岐庄と妻有庄の実体は同一で、波多岐庄は妻有庄の異称であるとみなす説もあったが、南北朝時代と戦国時代に、両庄の名が史料上、ほぼ同時期に別個に現れるところから、今日、両庄の実体が同じで庄域も重なるという説は説得力を失い、両庄はそれぞれ別個の庄域を持つと考える説が有力になってきている おそらく、両庄の庄域は現在の中津川の線が境界で、その南、志久見川の線までの範囲が妻有庄の庄域であったと考えられる。中津川を境界とする線の北から中魚沼地方の最北部を占める旧岩沢村と旧下条村との境界を画する檜沢川までが、信濃川東岸の波多岐庄の範囲と推定される。信濃川西岸では、旧真人村と旧橋村の境目が波多岐庄の北限であったと思われる この地域は、中世には波多岐庄と妻有庄があったが、16世紀半ば以降、全域が妻有と呼ばれるようになった(十日町市史通史編1 376頁)	十日町市史通史編1	259
	三坂峠	十日町市魚ノ田川の「三坂峠」の通路は、大和政権による会津方面への開発経路とみなされているなどの説からすれば、魚沼地方は大和政権による越地方あるいは東北地方内陸部への開発の前進基地であった可能性もあるわけである。311頁には「三坂峠は本来は「御坂峠」とすべきものであり、この地名はいわば古代における官道の名残であるという。そして、大和政権による越地方から会津盆地への開発経路は、この三坂峠の指向するルートによって進められたものとみている」と記載あり。川西町史通史編上141・155頁、十日町市史通史編1 161頁にも記載あり	中里村史通史編上	304
	石原道仙	中条村新座の長者、その屋敷跡今、石原と称す。常に観世音を尊信し、四日町に一字を建ててこれを安置す。邸より堂に至る相距ること約10町、石甃相接し以て参拝に便す。道仙後去って伊勢山田に転ず、何の故なるを知らず	中魚沼郡誌上	601
	長者平	下条村大字東下組字瀧野にあり。付近一帯畑にして、その間、長者屋敷と称する処あり。伝えいう、長者某の住みし所なりと	中魚沼郡誌上	600
	長者屋敷	下条村大字上新田にあり	中魚沼郡誌上	600
	長者屋敷	水沢村字太田島のうち水堀にあり。「水堀マンジウ」という長者の住せし跡なりという	中魚沼郡誌上	601
	オホトミ坂	太田島より姿渡船場に通ずる道にあり。これ長者の大門の見ゆるよりの称にして、また馬場に通ずる道のサイミ坂という小坂は、同じくその厨の見えしより名づけたるものなりと伝う	中魚沼郡誌上	601
	長者ヶ原	橋村大字仁田と野口との境界にあり。今は過半田圃に開墾す、由来詳らかならず	中魚沼郡誌上	600
長者原	松代村にあり。某長者の屋敷跡なりと伝う。土器・石斧等を掘り出すことあり	東頸城郡誌	499	

### (3) 伝統文化関連

分類	項目	内 容	出 典	頁
神社	諏訪神社	祭神：建御名方命、八千戈命、沼河媛命。初め、十日町の西方諏訪島という処にありしを、承德天永のころ信濃川洪水のため今の地に移せり 撰社：稻荷神社、金刀比羅神社、御機神社、天満宮、若宮祠、神明社、住吉祠、水天宮 御武家杉境内にあり 十日町市史通史編 4 466 頁に「諏訪社の大正期の改築」記載あり	中魚沼郡誌上	390
	神明社	祭神：豊受皇大神。十日町村字東裏にあり。明治 44 年諏訪神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	四宮神社 (熊野社)	祭神：熊野櫛御気野命、天津兒屋根命、誉田別尊、大山祇命。八幡社又は四ッ宮と称す、十日町五の丁にあり。社伝にいわく、熊野社にその後、三王・八幡・春日の 3 社を合わせたをもつて四ッ宮と称えしものなるべしと。昭和 11 年四宮神社と改称	中魚沼郡誌上	392
	西宮社	祭神：蛭子命。熊野社の傍らにあり。古老の説に曰く、天文の初め野村庄左衛門というもの蛭子命を信ず。縮布市場の守護神なきを以て問屋に謀り一社を建てて之を祀る	中魚沼郡誌上	393
	十二社神社 (十二社)	祭神：大山祇命、白山姫命 十日町大字原地内十二平にあり。方 9 尺の小社なりしを、文政 11 年高橋源八というもの尽力して 3 間 3 間半の社殿を改築す。昭和 17 年、十二社神社と改称	中魚沼郡誌上	393
	南方社	十日町大字原の南方、七曲山頂にあり。初め小川屋の守護神として小祠のみなりしが、明治 24 年高木仙五郎の社殿を建つるや、付近の有志これを助けて社道を開鑿す。仙五郎京都南方に至り、百金を納めて稻荷の位を受くる	中魚沼郡誌上	393
	諏訪社	祭神：建御名方命。十日町字島にあり。初め諏訪島にありしを、白髪水(万治 2 年、1659 年)の洪水に部落とともに今の地に移せり。境内に水天宮あり	中魚沼郡誌上	394
	稻荷社	祭神：倉稻魂命。十日町字逢坂にあり、逢坂の稻荷と称す	中魚沼郡誌上	394
	桐ノ木水天宮	十日町桐の木平に蓼池と称する池あり、清水湧出す、佐渡屋という者この水源に基づき墾田す、因て水天宮を建てて守護神としたるものならんと。今宮廃す	中魚沼郡誌上	394
	御嶽社	祭神：国常立尊、少彦名命、大己貴命。十日町字御塚に在り。安政 6 年の創立	中魚沼郡誌上	394
	御嶽	十日町田川町の東北端、天王山上 60 間の高所にあり。明治 5 年、波間嘉兵衛の創立	中魚沼郡誌上	395
	十二社	祭神：大山祇命。十日町字江道にあり。宝永 5 年の再建という	中魚沼郡誌上	395
	神明社	祭神：天照皇大神。十日町字猿倉にあり。宝永 5 年創建	中魚沼支那神社名鑑	34
	子之神社	祭神：大穴牟遲命。十日町字猿倉にあり。庭野金兵衛というもの柿の木より落ちて足を傷ふ、子之権現に祈りて験あり、因つて社殿を建つ。故に下躰を患うるもの祈らざるはなく、賽者常に絶えず	中魚沼郡誌上	395
	大伊弉神社(瓣才天)	祭神：市杵島媛命、大年神。十日町字大池にあり。安和 2 年創立、大池の弁天様と呼ばれてきた	中魚沼郡誌上	395
	諏訪社	祭神：建御名方命。十日町字菅沼にあり。宝暦 4 年創立	中魚沼郡誌上	395
	十二社	祭神：大山祇命。十日町字赤倉にあり。安永 5 年 6 月創立	中魚沼郡誌上	395
	十二社	祭神：大山祇命。十日町字津池にあり	中魚沼郡誌上	396
	十二社	祭神：大山祇命。十日町字軽沢にあり。正徳 5 年 8 月創立	中魚沼郡誌上	396
	高麗神社	祭神：高麗命、豊玉媛命。中条村字背戸の東方にあり。文禄 2 年、字上ノ山古屋敷より今の地に移して再建す。早魃に際し来りて水を請うもの多し	中魚沼郡誌上	396
	十二社	祭神：大山祇命。高麗神社の北方にあり。初め字西浦にありしを、明治 31 年今の地に遷す	中魚沼郡誌上	397
	矢放神社(矢放社)	祭神：高皇産靈尊。中条村字島にあり。昭和 13 年矢放神社と改称	中魚沼郡誌上	397
	上之島神社(八幡社)	祭神：誉田別尊、建御名方命、大山祇命。中条村字八幡にあり。明治 43 年字太子堂地内字諏訪田の諏訪社、字十二田の十二社を字八幡の八幡社に合して今の称に改める	中魚沼郡誌上	397
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字十二田にあり。明治 43 年上之島神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命。中条村字諏訪田にあり。明治 43 年上之島神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	清水神社(熊野社)	祭神：建御名方命、大山祇命、伊弉册尊。中条村字新座地内清水にあり。明治 42 年、姥堂裏の諏訪社・羽黒社、田の入の十二社、坊ノ入の三嶋社、十二ノ木の十二社、字軽井沢堂平の十二社、字蕨平の十二社、字原の十二社、字高場の十二社の 9 社を現地の熊野社に合し、清水神社と改称す	中魚沼郡誌上	397
	諏訪社	祭神：建御名方命。新座村字姥堂裏にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	三島社	祭神：大山祇命。新座村字坊ノ入にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。新座村字田ノ入にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。新座村字ミトラ平にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命、天御中主命。新座村字蕨平にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。新座村字原新田にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。新座村字高場にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。新座村字十二の木にあり。明治 42 年清水神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	祇園社	祭神：素盞男命、建御名方命、金山彦命。中条村大字四日町にあり。寛政 12 年 12 月再建。明治 6 年 5 月 20 日、建御名方命を合祀す	中魚沼郡誌上	397
	赤城社	祭神：土由岐入彦命。中条村大字四日町にあり。安政 7 年正月再建	中魚沼郡誌上	398
	十二社	祭神：大山祇命。中条村大字四日町新田にあり	中魚沼郡誌上	398

分類	項目	内容	出典	頁
神社	瓣財社	祭神：市杵島姫命。中条村大字尾崎にあり。明治18年、字上段の一ノ宮社、字堀之内の住吉社を合し、27年十二社を併す	中魚沼郡誌上	398
	一ノ宮社	祭神：天香久山命。尾崎村字上段にあり。明治18年瓣財社へ合祀	神社寺院明細帳	
	住吉社	祭神：表筒男命、中筒男命、底筒男命。尾崎村字堀之内にあり。明治18年瓣財社へ合祀	神社寺院明細帳	
	五社	祭神：大日靈貴尊、天忍穗耳尊、彦火瓊々杵尊、彦火々出見尊、鸕鷀草葺不合尊。中条村大字四日町新田（五軒新田）にあり。創立は正保元年9月の由、口碑に存す	中魚沼郡誌上	399
	八幡社	祭神：菅田別尊。中条村字北原にあり。口碑に伝う、天正2年字城に石祠を建て榊を植ゆ。しかるに該地地盤移動墜落するをもって、万治元年、社殿を字原に移し、元文3年5月5日、今の地に転じて改築すと	中魚沼郡誌上	399
	稻荷社	祭神：倉稻魂命、素盞鳴尊、大市姫命。中条村字花水にあり	中魚沼郡誌上	399
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字市ノ沢にあり	中魚沼郡誌上	399
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字嘉勝にあり	中魚沼郡誌上	400
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字轟木にあり	中魚沼郡誌上	400
	諏訪社	祭神：建御名方命。中条村字池谷にあり。明治42年境内社天満宮を合併す	中魚沼郡誌上	400
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字魚ノ田川字林平にあり	中魚沼郡誌上	400
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字入山にあり	中魚沼郡誌上	400
	大峰神社	祭神：大山祇命。中条村字入山にあり	中魚沼郡誌上	400
	六社	祭神：正面健須佐男命、猶大日靈尊、倉稻魂命、大物主命、大山祇命、健御名方命、湍津姫命。中条村字新水にあり	中魚沼郡誌上	400
	神明社	祭神：天照大神。中条村字蕨平にあり。元和2年創立	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字宇田ヶ沢にあり。元禄12年7月創立なりと口碑に伝う。境内崩壊せるをもって明治26年3月、今の地に移転す	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字菅沼にあり	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字山新田にあり	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字柴倉にあり	中魚沼郡誌上	401
	諏訪社	祭神：建御名方命。中条村字小貫にあり	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字東枯木又にあり	中魚沼郡誌上	401
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字西枯木又にあり	中魚沼郡誌上	402
	十二社	祭神：大山祇命。中条村字三ツ山にあり。文化7年改築し、明治42年10月、奥院を増築す	中魚沼郡誌上	402
	天満宮	祭神：菅原道真公。下条村大字上組字原にあり、応和2年の創立。1郷中に野首・野田・貝野川・仙野山・塩野・澁野・岩野の7部落あり、故に里人称して七野の天神と称す。社伝にいう、創立者を甚右衛門という。伊勢国度合春彦の裔にして世々里正たり。その後、下条七軒とて、寛治6年源義家、出羽の豪族清原武衡を討伐の帰途、この地経過の際、人馬の継立をなせし。人々主となり社殿を再建して一郷の鎮守とす	中魚沼郡誌上	402
	愛宕神社	祭神：火彦靈命、水波能咩命、植山昆咩命。下条村大字上新田地内字山脇にあり。神体木像の背後に承安3年の文字を刻すと。境内に慶安元年戊子3月と刻せる古碑存す	中魚沼郡誌上	403
	八幡社	祭神：応神天皇。下条村大字上組字行寺にあり。山田兵右衛門というもの鶴ヶ丘の八幡宮より勧請せしものと	中魚沼郡誌上	403
	八幡社	祭神：菅田別尊。下条村大字中新田字廿日城にあり。寛治6年、源義家出羽よりの帰途、この地に留まること20日間、因みて廿日城と称し、その白旗を立てし跡に1社を建てたるがこの社なりと	中魚沼郡誌上	403
	十二社	祭神：大山祇命。下条村大字中新田字桑原にあり。正平年間、南朝の遺臣桑原某というものこの地に来たり、土地を開きて桑原と名づけ、社を建ててこの神を祀ると。慶長年間再建	中魚沼郡誌上	403
	岩野神社（十二社）	祭神：菅田別尊、大山祇命。下条村字岩野にあり。明治35年11月、岩野の八幡社と字角田の十二社とを合して改称したるものなりと伝えいふ。八幡社は文治4年3月創立、十二社は嘉暦2年4月の創建なりと	中魚沼郡誌上	404
	八幡社	祭神：菅田別尊。岩野にあり。明治35年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字為永にあり。創立年月不詳、或いはいう文治年間の創立なりと	中魚沼郡誌上	404
	赤城社	祭神：豊城入彦命。下条村大字上組地内字萱峰にあり。永禄元年9月の創立、伝えいふ兵左衛門というもの、上野国赤城山麓なる山口よりこの地に来たり住みて、祖先崇敬の神を勧請せしものと	中魚沼郡誌上	404
	神明社	祭神：大日靈貴尊。下条村蟹沢地内字南原にあり。創立は寛文中と口碑に伝う	中魚沼郡誌上	404
	神明社	祭神：天照皇大神。下条村字貝ノ川地内字堀ノ内原にあり。寛文12年の創立。社伝にいう、貝ノ川新田開墾の際、水上に勧請して守護神となすと。嘉永5年9月改築す	中魚沼郡誌上	404
	諏訪社	祭神：建御名方命。下条村字山崎にあり。文暦元年の創立なりと口碑に存す	中魚沼郡誌上	405
	諏訪社	祭神：建御名方命。下条村字新保にあり。永正2年の創立なりと口碑に存す	中魚沼郡誌上	405
	伊夜日子神社（伊夜彦神社）	祭神：天香語山命。下条村字水口地内字山の平にあり。古老の説に承久年中、熊野高倉下命を祀りしものと。昭和2年、伊夜日子神社と改称	中魚沼郡誌上	405
	羽黒神社	祭神：伊邪那岐尊。下条村字下山地内字山谷にあり。永正年中の創立の由、口碑に伝う	中魚沼郡誌上	405
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字新光寺地内字山の越にあり。寛治年間の創立と伝う	中魚沼郡誌上	405

分類	項目	内容	出典	頁
神社	十二社	祭神：大山祇命。下条村字仙之山地内字原にあり。口碑にいう、文治の昔、中町忠右衛門の先祖創めて祀る所と	中魚沼郡誌上	405
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字戸渡地内字倉下にあり。仁治3年の創立、享保7年・文政10年改築す	中魚沼郡誌上	406
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字塩野地内字岩畑にあり。口碑にいう、樋口某は次郎兼光の後裔にして民間に下り、この地に来たり住し大山祇命信ぜしが、長禄年中始めて祠宇を建つと。寛永年中再建の棟札あり	中魚沼郡誌上	406
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字下り木にあり。口碑にいう、弘治年中願入より移し、十二円という所に祀りしが、承応元年今の所に遷すと。全戸転出により神社名のみ残っている	中魚沼郡誌上	406
	八幡社	祭神：菅田別尊、大山祇命、事代主命。下条村字平地内字前田にあり。伝えいう、源経基の二子満政の裔、小島重継小源太というもの承久3年、順徳院佐渡へ遷符の際供奉して寺泊に至り、別れてこの地に来たり。所持の黄金仏1軀、劔1口、及び轡を納めて神社を創立せしがこれなりと。劔を石割の太刀といい、轡を「ミユチエン」（妙珍か）という。轡は左右に桐の紋章あり、院の賜うところという。慶長年中、境内に大山祇命と事代主命を祀る。天明年間に至り、山壊崩して黄金仏の所在を失う	中魚沼郡誌上	406
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字瀧野にあり。古老の説にいう、正長年間より文禄の頃までは字倉下の神木の下に在りしを、文禄年中始めて祠を立て、文政5年に改築の由、棟札あり。その後、嘉永年間に至り今の地に遷すと	中魚沼郡誌上	407
	神明社	祭神：天照大神。下条村字願入字外山にあり。嘉禎年間創立の由、口碑に伝う	中魚沼郡誌上	407
	赤城社	祭神：豊城入彦命。下条村字ニタ子地内字沢田にあり。貞応年中、水落金之助の祖先、上毛野赤城山より勧請すとい伝う	中魚沼郡誌上	407
	神明社	祭神：天照大神。下条村字ニタ子地内字沢田にあり。口碑にいう、山田宇平治の祖先、伊勢神宮参拝の帰途当地に宿せしに、神札を結びし柳の杖、一夜に嫩芽を生ず、よってこれを祀る。天文年中に至り、社殿を建立すと	中魚沼郡誌上	408
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字ニタ子にあり	中魚沼郡誌上	408
	十二社	祭神：大山祇命。下条村字慶地にあり。口碑にいう、境内の付近に大同田と称する所あれば、大同年中より祀りしものかと、享保年中始めて祠を建つ	中魚沼郡誌上	408
	吉田社（諏訪社）	祭神：建御名方命、大山祇命。吉田村大字山谷地内字諏訪山にあり。明治41年4月20日、字十二ノ木の十二社を当諏訪社に合併し吉田社と改称す	中魚沼郡誌上	420
	十二社	祭神：大山祇命。山谷村字十二ノ木にあり。明治41年吉田社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。吉田村大字稲葉地内字藤六にあり	中魚沼郡誌上	420
	上原神社（熊野社）	祭神：伊弉諾命、伊弉册尊、天照大神。吉田村大字小泉地内字上ノ原にあり。明治43年11月14日、字北原の神明社を字上ノ原の熊野社に合併して上原神社と改称す	中魚沼郡誌上	420
	神明社	祭神：天照大神。小泉村字北原にあり。明治43年上原神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。吉田村大字樽沢地内字東にあり	中魚沼郡誌上	421
	十二神社	祭神：大山祇命、金山彦命、倉稲魂命。吉田村字南鑑坂にあり。明治41年4月21日、字幅上の金刀比羅神社、字姥沢稲荷神社を合併	中魚沼郡誌上	421
	金刀比羅神社	祭神：金山彦命。南鑑坂村字幅上にあり。明治41年十二神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	稲荷神社	祭神：倉稲魂命。南鑑坂村字姥沢にあり。明治41年十二神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命、猿田彦命、倉稲魂命。吉田村字北鑑坂にあり。明治43年9月8日、字上河原仙ヶ沢の稲荷神社、字浦びらの道祖神社を合祀	中魚沼郡誌上	421
	稲荷神社	祭神：倉稲魂命。北鑑坂村字上河原仙ヶ沢にあり。明治43年諏訪神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	道祖神社	祭神：猿田彦命。北鑑坂村字浦びらにあり。明治43年諏訪神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	松尾社	祭神：大山咋命。吉田村字高島にあり。明治40年4月、字オノ神より字ツブラへ移転す。境内に津島の小社あり	中魚沼郡誌上	421
	十二社	祭神：大山祇命。吉田村字鉢にあり。元文元年3月再建、明治11年5月5日焼失、同12年11月再建、同40年11月、字宮ノ平神明社を合併す	中魚沼郡誌上	421
	神明社	祭神：豊受媛命。大字真田字宮ノ平にあり。明治40年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	八幡社（石動社）	祭神：菅田別尊、大己貴命。吉田村字名ヶ山地内字家ノ浦にあり。明治41年1月16日、家ノ浦の石動社に字宮ノ越の八幡社を合併し、かつ社殿を改築して八幡社と称す	中魚沼郡誌上	422
	八幡社	祭神：菅田別尊。大字真田字宮ノ越にあり。明治41年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。吉田村字中平にあり	中魚沼郡誌上	422
	松茸神社	祭神：野那川姫命。吉田村字中手にあり	中魚沼郡誌上	422
	矢放社	祭神：高産霊尊。貝野村字姿地内字北田にあり	中魚沼郡誌上	422
	松尾神社	祭神：大山祇命。貝野村字安養寺地内字上ノ原にあり。天保3年改築す	中魚沼郡誌上	423
	白山媛神社	祭神：伊弉册尊、応神天皇。水沢村字馬場にあり。明治5年、白山・八幡の2社を合し白山媛神社と称える	中魚沼郡誌上	443
	八幡神社	祭神：応神天皇、建御名方命。水沢村字水沢にあり。八幡・諏訪の2社を合して八幡社と称す。境内に金刀比羅社あり、崇徳天皇を祀る	中魚沼郡誌上	443
	小牧社	祭神：天児屋根命、菅田別尊。水沢村字太田島にあり。明治40年7月、小牧新田の八幡社を合祀す	中魚沼郡誌上	444
	八幡社	祭神：応神天皇。小牧新田字深淵にあり。明治40年小牧社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二神社	祭神：大山祇命。水沢村字市の沢にあり	中魚沼郡誌上	444
	十二神社	祭神：大山祇命。水沢村字中在家にあり	中魚沼郡誌上	444
	十二神社	祭神：大山祇命。水沢村字二俣口にあり	中魚沼郡誌上	444

分類	項目	内容	出典	頁
神社	十二社	祭神：大山祇命。水沢村大字馬場（土市）にあり。馬場村字下干溝分の産土神	中魚沼郡誌上	444
	諏訪社	水沢村字土市にあり	中魚沼郡誌上	444
	八幡社（松尾社）	祭神：菅田別尊、建御名方命、大山咋命。水沢村字伊達にあり。古老の言う、字横諏訪の一角にある小丘を古来松尾山という。嘉永5年5月20日、村童ここに登りて遊びしに、長松というもの1の金像を拾得す。持ち帰りて医師阿部東朔に送る。東朔村民に謀りて1社を立ててこれを松尾社と号す、これその翌6年4月なりと。明治41年、字八幡の八幡社を合祀し、八幡社と改称	中魚沼郡誌上	445
	八幡社	祭神：菅田別尊。伊達村字八幡にあり。明治41年松尾社へ合祀	神社寺院明細帳	
	赤城社	祭神：大山祇命。水沢村字天池にあり。天明3年8月の創立、大正2年改築す	中魚沼郡誌上	445
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字細尾にあり。大正6年新田の十二社へ合祀	中魚沼郡誌上	445
	十二神社（十二社）	祭神：大山祇命。水沢村字細尾ノ新田にあり。享和2年再建す。大正6年細尾の十二社を合祀し、十二神社と改称	中魚沼郡誌上	445
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字池ノ尻にあり。寛政10年7月、暴風のため破壊せしをもって同12年4月再建	中魚沼郡誌上	445
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字漆島にあり。初め字沢口に創建せしを文政3年3月、今の地に移して改築す	中魚沼郡誌上	446
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字池沢にあり。安政5年再建す	中魚沼郡誌上	446
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字池沢のうち源田にあり。文政2年再建。昭和10年十二社へ合祀	中魚沼郡誌上	446
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字鍬柄沢にあり。享和2年、字岩下よりこの地に移して再建す	中魚沼郡誌上	446
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字当間にあり。安永5年再建の由伝う	中魚沼郡誌上	446
	三社	祭神：大日靈貴尊、菅田別尊、天兒屋根命。水沢村字当間にあり。天保5年4月、今の地に移し三社を合祀して改称す	中魚沼郡誌上	446
	辨天社	祭神：市杵島姫命。水沢村字当間にあり。初め字天池にありしを文化12年今の地に移す	中魚沼郡誌上	447
	新宮神社（十二社）	祭神：大山祇命、建御名方命。水沢村字新宮にあり。明治36年7月、字南浦諏訪社を合併して新宮神社と改称し、37年字牧新田の諏訪社を合併す	中魚沼郡誌上	447
	諏訪社	祭神：建御名方命。新宮村字南浦にあり。明治36年新宮神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命。新宮村字牧脇にあり。明治37年新宮神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。水沢村字野中にあり	中魚沼郡誌上	447
	八幡神社	祭神：菅田別天皇、高皇産靈命。水沢村大字大黒沢にあり。明治40年7月、矢放社を合併し八幡神社と改称す	中魚沼郡誌上	447
	矢放神社	祭神：高皇産靈命。大黒沢村字宮之前にあり。明治40年八幡神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命。水沢村大字小黒沢にあり。天明2年6月再建	中魚沼郡誌上	447
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字中村にあり	中魚沼郡誌上	448
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字山谷にあり	中魚沼郡誌上	448
	白髭社	祭神：倉稻魂命。六箇村字麻畑にあり。改築の時、柱栓に元禄年中建立の文字ありしと	中魚沼郡誌上	448
	熊野社	祭神：伊邪那岐尊。六箇村字田麦にあり	中魚沼郡誌上	448
	諏訪社	祭神：建御名方命。六箇村字二ツ屋にあり	中魚沼郡誌上	448
	巖島社	祭神：市杵島姫命。六箇村字二ツ屋にあり。口碑によれば、山城国伏見の愛染寺の建つる所なりとて、祠堂金を附されたり	中魚沼郡誌上	448
	諏訪社	祭神：建御名方命。六箇村字二ツ屋地内野中にあり	中魚沼郡誌上	449
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字二ツ屋地内字沓切にあり	中魚沼郡誌上	449
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字船坂にあり	中魚沼郡誌上	449
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字塩ノ俣新田にあり	中魚沼郡誌上	449
	十二社	祭神：大山祇命。六箇村字塩ノ俣新田辰ヶ平にあり	中魚沼郡誌上	449
	妻有神社（矢放神社）	祭神：高皇産靈尊。川治村字川治にあり。天正元年の創立にして、初め矢放社と称せしが、文政8年3月、吉田家に請い妻有神社と改称せしを、後又矢放神社と復称し、寛政2年8月改築す。明治30年3月、字南新田の矢放社を合し、42年4月、字十二沢の十二社を合併す。大正4年5月、御大典記念として奥院を新築。大正5年、妻有神社と改称	中魚沼郡誌上	449
	矢放神社	祭神：佐太大神。高山村字南新田にあり。明治30年矢放神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	川治村字十二沢にあり。明治42年矢放神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪神社	祭神：建御名方命。川治村字北新田にあり。境内に神明社あり、天照大御神を祀る。明暦2年8月創立という	中魚沼郡誌上	450
	諏訪神社	祭神：建御名方命。川治村字城ノ古にあり。神明宮に合祀	中魚沼郡誌上	450
	熊野神社	祭神：加夫呂岐熊野大神、櫛御氣野命。川治村字城ノ古にあり。神明宮に合祀	中魚沼郡誌上	450
	神明宮	祭神：豊受大神。川治村字城ノ古にあり。慶長5年9月の創立。境内に菅原神社あり、菅原道真朝臣を祀る。元禄2年4月の創立なりという	中魚沼郡誌上	450

分類	項目	内容	出典	頁
神社	八幡社	祭神：応神天皇、神功皇后、玉依姫命、豊城入彦命、少彦名命。川治村大字高山にあり。創立年月不詳、或いはいう享保元年山城国男山より勧請すと。明治40年5月、赤城社・金矢神社を合併す。境内に白山社（伊邪那美尊）、稻荷社（倉稻魂命）2社、市杵島社（市杵島姫命）、春日社（建御雷命）、妻有社（建御名方富命、八坂刀売命）の数社あり 社記にいう、往昔は琵琶懸にあり。仁安2年、本間義秀平家の命により来りて琵琶懸に築き、以て越中に備え、守護神として本社を建つ。文治3年源義経の奥羽に下るやこれに与して城を焼かれ、本社もまた池魚の災に遭う。羽川某刑部居るに及びて、また崇祀す。正平21年、長尾家代わり居るや、太刀2口を納む。その裔安久というもの上野の兵と戦い、敗れて社もまた兵燹に罹り、後この地に移る	中魚沼郡誌上	451
	宇麻志摩遅神社	祭神：宇麻志摩遅命。高山村字北にあり。明治40年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	金矢神社	祭神：猿田毘古命。高山村字北にあり。	神社寺院明細帳	
	稻荷神社（稻荷社）	祭神：保食命。川治村字山本にあり。延享2年4月再建、明治43年8月妙義社を合併す。妙義社は口碑に寛延2年、鈴木徳十郎上州妙義山より勧請し、宮を建てて祭りしが宝暦2年故ありて智泉寺に送りしも、同13年6月再び還付せしものという。境内に菅原神社あり、菅原道真朝臣を祀る、元禄2年4月の創立なりという。明治43年、妙義社を合祀し、稻荷神社と改称	中魚沼郡誌上	452
	諏訪社	祭神：建御名方命。川治村字関根にあり	中魚沼郡誌上	452
	諏訪社	祭神：建御名方命。川治村字浅ノ平にあり。男女2体の木像を奉安す、600年前のものという	中魚沼郡誌上	452
	十二社	祭神：大山祇命。川治村字笹ノ沢にあり	中魚沼郡誌上	452
	十二社	祭神：大山祇命。川治村字池ノ平にあり	中魚沼郡誌上	452
	十二社	祭神：大山祇命。川治村字落ノ水にあり	中魚沼郡誌上	452
	十二社	祭神：大山祇命。川治村字孕石にあり	中魚沼郡誌上	453
	諏訪社	祭神：建御名方命。川治村字長里にあり	中魚沼郡誌上	453
	十二社	祭神：大山祇命。川治村字稻子平にあり	中魚沼郡誌上	453
	諏訪神社	祭神：建御名方命。橋村大字野口地内字山ノ上にあり。川西町史通史編上1047頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	413
	熊野社	祭神：櫛御氣野命。橋村字仁田地内字家ノ下にあり。川西町史通史編上1046頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	413
	秋葉神社	橋村字仁田の南方丘上にあり。境内広くして老杉繁茂し、数基の石碑を建つ	中魚沼郡誌上	562
	三島社	祭神：大山祇命。橋村字木落地内字内島にあり。川西町史通史編上1044頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	413
	取安神社（熊野神社）	祭神：建御名方命、伊弉諾尊、伊弉册尊、建御名方命。橋村字野口地内字取安新田にあり。大正元年11月、元原田の熊野神社と字根深の諏訪神社を併しこの地に移し、取安神社と改称す。川西町史通史編上1047頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	413
	諏訪神社	祭神：建御名方命。野口村字根深にあり。大正元年熊野神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。橋村字寺ヶ崎地内字小丸山にあり。元禄元年の創立。川西町史通史編上1045頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	八幡社	祭神：蒼田別尊。橋村字塩辛地内字清水田にあり。寛政3年7月の創立。川西町史通史編上1045頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	神明社	祭神：天照大神。橋村字下原地内字谷内にあり。川西町史通史編上1048頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	新浮海川本神社	祭神：建御名方命。仙田村字室島にあり。川西町史通史編上1050頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	松茸社	祭神：大山祇命。仙田村字室島にあり。川西町史通史編上1051頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字桐山にあり（現在は松代町）。川西町史通史編上1060頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	414
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字小脇にあり。川西町史通史編上1051頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	高倉神社（十二社）	祭神：大山祇命、蒼田別尊。仙田村字高倉にあり。明治41年12月16日、従来の十二社に宇浦田の八幡社を合併して高倉神社と改称す。川西町史通史編上1052頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	八幡神社	祭神：蒼田別尊。高倉字浦田にあり。明治41年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字越ヶ沢にあり。川西町史通史編上1055頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字田戸にあり。川西町史通史編上1054頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	熊野神社	祭神：伊弉諾尊。仙田村字藤沢にあり。川西町史通史編上1053頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	諏訪社	祭神：建御名方命。仙田村字中仙田にあり。川西町史通史編上1049頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	洩海社	祭神：浮膏御玉命。仙田村字中仙田にあり。川西町史通史編上1049頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	415
	十二神社（十二社）	祭神：大山祇命、金山彦命。仙田村字赤谷にあり。大正元年10月25日、字下ノ原金比羅神社を合併して十二神社と改称す。川西町史通史編上1056頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416
	金刀比羅神社	祭神：金山彦命。赤谷字下ノ原にあり。大正元年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
十二社	祭神：大山祇命。仙田村字岩瀬にあり。川西町史通史編上1057頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416	
十二社	祭神：大山祇命。仙田村字大倉にあり。川西町史通史編上1057頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416	
天狗社	祭神：猿田彦命。仙田村字大倉にあり。川西町史資料編下682頁、通史編上1058頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416	

分類	項目	内容	出典	頁
神社	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字大白倉にあり。川西町史通史編上 1058 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字小白倉にあり。川西町史通史編上 1058 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416
	大貝社（十二社）	祭神：大山祇命、応神天皇。仙田村字大貝にあり（現在は小国町）。明治 40 年 3 月 13 日、従来の十二社に八幡社を合併し、大貝神社と改称す。川西町史通史編上 1059 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	416
	八幡社	祭神：応神天皇。大貝にあり。明治 40 年十二神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。仙田村字霧谷にあり。川西町史通史編上 1059 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	417
	八幡社	祭神：応神天皇。仙田村字室島にあり。川西町史通史編上 1051 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	417
	諏訪社	祭神：建御名方命、天照大神、雷神、表筒男命、蒼田別尊。上野村大字上野字山の根にあり。明治 42 年 7 月 23 日、字我鬼山の雷電社、大字星名新田字菊曾平の神明社を合併す。川西町史通史編上 1039 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	417
	雷電社 神明社	祭神：雷神。上野村字我鬼山にあり。明治 42 年諏訪社へ合祀 祭神：天照大神。星名新田字菊曾平にあり。明治 42 年諏訪社へ合祀	神社寺院明細帳 神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命。上野にあり。新潟県宗教法人名簿に記載なし。口伝によると元町諏訪神社の遥拝所といわれる	川西町史通史編上	1040
	神明社	祭神：天照大神。上野村字新町新田地内字西浦にあり。川西町史通史編上 1041 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	417
	十二社	祭神：大山祇命。上野村字三領地内字原にあり。川西町史通史編上 1042 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	417
	山王社	祭神：大己貴命。上野村字小根岸字宮平にあり。川西町史通史編上 1043 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	418
	神明社	祭神：天照大神。上野村大字下平新田地内字下の原にあり。川西町史通史編上 1042 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	418
	辨天社	祭神：市杵島姫命。上野村大字小根岸地内字丸山にあり。中魚沼郡誌上 562 頁、川西町史通史編上 1043 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	418
	十二社	祭神：大山祇命、蒼田別尊、白山姫命。中野村大字高原田地内字十二にあり。昭和 34 年、千手神社に合祀する（川西町史資料編下 669 頁）。川西町史通史編上 1036 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	418
	伊須流支社	祭神：伊弉諾尊、大名持命、石凝姫命、木花開邪姫命、市杵島姫命、天照大神、植安姫命。中野村大字鶴吉地内字宮の前にあり。明治 4 年 8 月、社号伊須流支大神と改称を許さる。昭和 34 年、千手神社に合祀する（川西町史資料編下 669 頁）。川西町史通史編上 1039 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	418
	神明社	祭神：天照大神、大彦命、大山祇命。中野村大字霜条地内字山田にあり。明治 8 年赤城社を合併す。川西町史通史編上 1038 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	419
	坪山神社（八幡社）	祭神：蒼田別尊、大山祇命、天照大神。中野村大字坪山山地内字上の山にあり。明治 36 年 12 月 11 日、上の山の八幡社に字杉の十二社を合わせて坪山神社と改称し、42 年 6 月 1 日、字平見字宮田の神明社を合併す。川西町史通史編上 1038 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	419
	十二社	祭神：大山祇命。坪山村字杉にあり。明治 36 年坪山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	神明社	祭神：天照大神。坪山村字宮田にあり。明治 42 年坪山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	白山神社（白山社）	祭神：白山媛命、大山祇命、天照大神。中野村大字伊勢平治地内字立野にあり。明治 43 年 6 月 24 日、字前田の十二社、字堤下の神明社、大字友重字谷内の十二社、字月見原の神明社を白山社に合併し、白山神社と改称す。川西町史通史編上 1037 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	419
	十二社	祭神：大山祇命。伊勢平治村字前田にあり。明治 43 年白山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	神明社	祭神：天照大神。伊勢平治村字堤下夕にあり。明治 43 年白山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。友重村字谷内にあり。明治 43 年白山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	神明社	祭神：天照大神。友重村字月見原にあり。明治 43 年白山神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	千手神社（羽黒社）	祭神：建御名方命、大山祇命、応神天皇、菅原道真朝臣、伊氏波命。千手町村大字上新井地内字長者原にあり。明治 40 年 8 月 18 日、大字水口沢字羽黒峰の羽黒社へ、山野田の十二社、東善寺の八幡社、中屋敷の八幡社・十二社・天満宮合祀、字上新井の諏訪神社を合併し千手神社と改称し、同年 11 月 10 日、これを上新井の元諏訪神社境内地に移転す 昭和 34 年、高原田の十二社神社、鶴吉の伊須流支社を合祀する。同 43 年、沖立神社を合祀する（川西町史資料編下 669 頁）。川西町史通史編上 1034 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	419
	十二社	山野田村字十二ノ浦にあり。明治 40 年羽黒社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	上新井村字長者原にあり。明治 40 年羽黒社へ合祀	神社寺院明細帳	
	八幡社	中屋敷村字家ノ下にあり。明治 40 年羽黒社へ合祀	神社寺院明細帳	
	八幡社	東善寺村字棚田にあり。明治 40 年羽黒社へ合祀	神社寺院明細帳	
	沖立神社（諏訪社）	祭神：建御名方命、天照大神。千手町村大字沖立地内字宮の脇にあり。明治 40 年 3 月 14 日、字宮の前の榊神社を諏訪社に合併して沖立神社と改称す。昭和 43 年、千手神社に合祀する（川西町史資料編下 669 頁）。川西町史通史編上 1035 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	420
	榊神社	沖立村字宮前にあり。明治 40 年羽黒社へ合祀	神社寺院明細帳	
矢放社	祭神：高皇産靈尊、建御名方命、金山彦命。貝野村字宮中地内字太田にあり。明治 40 年 5 月、字家ノ中の諏訪神社、字十二下の金刀比羅社を合併す	中魚沼郡誌上	422	

分類	項目	内容	出典	頁
神社	諏訪神社	祭神：建御名方命貝野村字家ノ中にあり。明治40年矢放神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	金刀比羅社	祭神：金山彦命。貝野村字十二下にあり。明治40年矢放神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	八幡社	祭神：菅田別尊、菅原道真朝臣。貝野村字堀之内地内字内後にあり。明治40年4月、字三ツ京塚の天神社を合併す	中魚沼郡誌上	423
	天神社	祭神：菅原道真朝臣。貝野村字三ツ京塚にあり。明治40年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	神明神社	祭神：大日靈尊、大山祇命。貝野村字新屋敷字宮ノ上にあり。明治39年7月、字深沢の十二社を合併す	中魚沼郡誌上	423
	十二社	祭神：大山祇命。貝野村字深沢にあり。明治39年神明神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。貝野村字本屋敷地内字清水出にあり	中魚沼郡誌上	423
	稲荷神社	祭神：倉稲魂命。貝野村字小沢地内字上村にあり	中魚沼郡誌上	423
	熊野三社	祭神：伊弉册尊、事佐加男命、速玉男命。貝野村字阿寺地内字ウツノにあり	中魚沼郡誌上	423
	矢放社	祭神：高皇産靈尊。倉俣村字倉俣にあり	中魚沼郡誌上	438
	石動社	祭神：思兼命、大山祇命、天照皇大神、宇賀之御靈命。倉俣村字芋川にあり	中魚沼郡誌上	438
	神明宮	祭神：天照皇大神。倉俣村字芋川新田にあり	中魚沼郡誌上	438
	神明宮	祭神：天照皇大神。倉俣村字雑水山にあり	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字重地にあり。明治10年代に八坂社を合祀	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字下山にあり	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字清田山にあり	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字牧畑新田にあり	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字牧畑地内字深山坂にあり	中魚沼郡誌上	439
	八幡社	祭神：菅田別尊。倉俣村字西田尻にあり	中魚沼郡誌上	439
	十二社	祭神：大山祇命。倉俣村字西方にあり	中魚沼郡誌上	439
	諏訪社	祭神：建御名方命。倉俣村字小出にあり	中魚沼郡誌上	440
	八坂社	祭神：素盞鳴命。倉俣村字重地にあり。明治10年代に十二社へ合祀	中魚沼郡誌上	440
	稲荷社	祭神：倉稲魂命。倉俣村字倉俣地内字稲荷平にあり。東光寺の有に係る	中魚沼郡誌上	440
	十二社	祭神：大山祇命田沢村字田沢にあり	中魚沼郡誌上	440
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字如来寺にあり。元禄12年の再建	中魚沼郡誌上	440
	二社	祭神：伊弉諾尊、伊弉册尊。田沢村字芋沢にあり	中魚沼郡誌上	440
	諏訪神社	祭神：建御名方命。田沢村字上山にあり。境内に老杉1株あり、800歳を経たるものという	中魚沼郡誌上	441
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字桂にあり	中魚沼郡誌上	441
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字小原にあり。享保16年、当地へ移転し、安政元年5月15日災に罹りその後再建す	中魚沼郡誌上	441
	諏訪社	祭神：建御名方命。田沢村字田中にあり	中魚沼郡誌上	441
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字干溝にあり	中魚沼郡誌上	441
	田開稲荷神社(稲荷社)	祭神：倉稲魂命。田沢村字桔梗原にあり。明治39年10月、稲荷社を田開稲荷神社と改称す、桔梗原・荒屋・上干溝・小原・田中・桂・藤原・通山・高道山開墾の守護神として祀れるをもってなり。明治43年、荒屋の十二社を合併す。中里村史通史編上720頁、同通史編下860頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	441
	十二社	祭神：大山祇命。荒屋敷新田にあり。明治42年田開稲荷神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字通山にあり	中魚沼郡誌上	442
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字高道山にあり	中魚沼郡誌上	442
	矢放神社	祭神：高皇産靈尊。田沢村字朴木沢にあり	中魚沼郡誌上	442
	矢放神社	祭神：高皇産靈尊。田沢村字朴木沢新田にあり	中魚沼郡誌上	442
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字市の越にあり	中魚沼郡誌上	442
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字白羽毛にあり	中魚沼郡誌上	442
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字程島にあり	中魚沼郡誌上	442
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字東田尻にあり	中魚沼郡誌上	443
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字角間にあり	中魚沼郡誌上	443
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字葎沢にあり	中魚沼郡誌上	443
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字倉下にあり。明治41年字山口の十二社を合祀	中魚沼郡誌上	443
	十二社	祭神：大山祇命。倉下新田字山口にあり。明治41年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。田沢村字土倉にあり	中魚沼郡誌上	443
	皇大神宮(山崎神社)	祭神：建御名方命。山崎にあり、大正14年創立	中里村史通史編上	1012
	十二社	祭神：大山祇命。東田沢にあり、昭和35年創立	中里村史通史編上	1012
	矢放神社	祭神：高皇産靈命。新里にあり、昭和52年創立	中里村史通史編上	1012
	十二神社	祭神：大山祇命。田沢村荒屋にあり。天和3年創建、明治43年田開稲荷神社へ合祀するも社殿はそのまま拝殿として残り、従前のおり祭祀は続けられる。社殿を新改築し昭和5年4月27日遷宮式を挙げる	中魚沼支那神社名鑑	210
	松茸神社	祭神：奴奈川姫命。大伏字松茸山にあり。大同2年、坂上田村麻呂將軍奥羽征討の際に創建せしものと伝う。往古より松之山・五十公郷・奴奈川庄66ヶ村の総社なり。松茸神社は松(北五葉松)と苧(苧麻)の神である(松之山町史318頁)。松茸山(350m)の頂にあり、修験道社殿の遺構として類例が少ないところから、昭和53年5月に国指定重要文化財に指定される。昭和55~56年の松茸神社(松代町大伏字松茸山)大修理の際に、明応6年(1497)の建立を物語る墨書の発見により、新潟県内最古の建造物であることが判明した(松代町史上385頁)。松代町史上346頁、松代町史上565・571・579頁にも記載あり。国指定重要文化財	東頸城郡誌	328

分類	項目	内容	出典	頁
神社	松苧神社	祭神：大山咋命。山平村蒲生宮ノ脇にあり。明治42年、松苧社(杉ノ下)合祀。松代町史下582頁にも記載あり	東頸城郡誌	360
	松苧神社	祭神：大山咋命。蒲生字杉ノ下にあり。明治42年松苧神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	松苧社	祭神：大山咋命。山平村名平薬師にあり。松代町史下582頁にも記載あり	東頸城郡誌	360
	十二社	祭神：大山祇命。山平村田野倉下村にあり。松代町史下581頁にも記載あり	東頸城郡誌	360
	松苧社	祭神：大山祇命。山平村仙納大峰にあり。松代町史下581頁にも記載あり	東頸城郡誌	360
	松苧社	祭神：大山祇命。山平村小池横手にあり。松代町史下582頁にも記載あり	東頸城郡誌	360
	松苧社	祭神：大山祇命。山平村小池岩平にあり	東頸城郡誌	361
	諏訪社	祭神：建御名方命。山平村小池スザギにあり	東頸城郡誌	361
	十二社	祭神：大山祇命山平村小池沢ノ入にあり	東頸城郡誌	361
	松苧社	祭神：大山咋命。山平村筋平上スダにあり。松代町史下582頁にも記載あり	東頸城郡誌	361
	松苧神社	祭神：大山咋命。山平村儀明下村にあり。松代町史下583頁にも記載あり	東頸城郡誌	361
	十二神社	祭神：大山祇命。山平村田代宮ノ脇にあり。昭和60年4月1日高柳町へ編入	東頸城郡誌	361
	諏訪神社	祭神：建御名方命。山平村田代高場にあり。昭和60年4月1日高柳町へ編入	東頸城郡誌	361
	池尻神社(十二社)	祭神：大山祇命。松代村池尻松峰にあり。大正元年9月20日、天神社合祀、池尻神社と改称。松代町史下577頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	天神社	祭神：菅原道真朝臣。池尻にあり。大正元年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	松代神社(諏訪社)	祭神：建御名方命外3神。松代村松代諏訪ノ越にあり。明治42年4月30日、白鬘社・羽黒社・石動社合祀し、松代神社と改称。松代町史下573頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	羽黒神社	祭神：倉稻魂命。松代村字大久保にあり。明治42年諏訪社へ合祀	神社寺院明細帳	
	石動社	祭神：素盞鳴命。松代村字田麦田にあり。明治42年諏訪社へ合祀	神社寺院明細帳	
	白鬘社	祭神：猿田彦命。松代村字原にあり。明治42年諏訪社へ合祀	神社寺院明細帳	
	松苧社	祭神：大山咋命、天津彦根神。松代村松代大沢にあり。松代町史下574頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	熊野神社	祭神：伊弉册命。松代村菅刈柿ノ久保にあり。松代町史下575頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村田沢トウバキにあり。松代町史下575頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村大平大林にあり。松代町史下574頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	八幡社	祭神：応神天皇。松代村千年宮ノ外にあり。明治41年、戸隠社・神明社・松苧社合祀。松代町史下576頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	戸隠社	祭神：天手力男命。千年村字上ノ山にあり。明治41年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	松苧社	祭神：布川姫命。千年村字飛岡にあり。明治41年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	神明社	祭神：豊受大神宮。千年村字上ノ山にあり。明治41年八幡社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命、天照大神。松代村小荒戸水上にあり。明治40年、神明社合祀。松代町史574頁にも記載あり	東頸城郡誌	362
	神明社	祭神：天照大神。小荒戸村字池ノ窪にあり。明治40年十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	八幡神社	祭神：菅田別尊。松代村清水葛平にあり。松代町史下577頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	十二神社	祭神：少名彦之尊、大山祇命。松代村会沢小丸山にあり。久寿2年創立。松代町史下565・577頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村桐山十二山にあり、文和4年(1355)銘の板碑あり。松代町史下578頁では「文和5年」にも記載あり	東頸城郡誌	363
	松苧神社	祭神：布川姫命。松代村蓬平十二林にあり。松代町史下578頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	十二社	祭神：大山祇命。松代村東山青草平にあり。松代町史下579頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	鹿島社	祭神：武甕槌命。松代村小屋丸家ノ上にあり。長和年中創立。松代町史下576頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	熊野社	祭神：伊弉册命。松代村小屋丸居村にあり。松代町史下575頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	十二社	祭神：大山祇命。松代村小屋丸坂ノ下にあり。松代町史下576頁にも記載あり	東頸城郡誌	363
	諏訪神社	祭神：建御名方命。松代村犬伏諏訪之原にあり。四海神社に合祀し、犬伏神社と改称(松代町史下579頁)	東頸城郡誌	364
	犬伏神社(四海神社)	祭神：水波売ノ命。松代村犬伏水上にあり。総社松苧神社の里宮で、もと「四海神社」であったが諏訪社と合祀して「犬伏神社」と改称(松代町史下579頁)	東頸城郡誌	364
	諏訪神社	祭神：建御名方命外1神。松代村片桐山浦田にあり。明治40年、十二社合祀。松代町史下580頁では「片桐山字宮ノ後」となっている	東頸城郡誌	364
	十二神社	祭神：大山祇命。片桐山字宮ノ後にあり。明治40年諏訪神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村孟地上孟地にあり。松代町史下580頁にも記載あり	東頸城郡誌	364
	矢放神社	祭神：菅田別命。松代村孟地佐開にあり	東頸城郡誌	364
	諏訪社	祭神：建御名方命。松代村孟地下村にあり	東頸城郡誌	364
	諏訪神社	祭神：建御名方命。松代村苧島坂ノ下にあり。明治40年、諏訪社(栃山)合祀。松代町史下581頁には「苧島字家浦」となっている	東頸城郡誌	364
	諏訪神社	祭神：建御名方命。苧島村字栃山にあり。明治40年諏訪神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村中子十二沢にあり。松代町史下581頁にも記載あり	東頸城郡誌	364
	十二神社	祭神：大山祇命。松代村滝沢居平にあり。松代町史下580頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	十二社	祭神：大山祇命。松代村海老道端にあり。松代町史下579頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	松苧社	祭神：大山咋命、大山祇命、天照大神。奴奈川村室野字苧ノ平にあり。明治42年、十二社・神明社・山王社を合祀。松代町史下584頁にも記載あり	東頸城郡誌	370
山王社	祭神：大山祇命。室野村字猩々にあり。明治42年松苧社へ合祀	神社寺院明細帳		
十二神社	祭神：大山祇命。室野村字上ノ山にあり。明治42年松苧社へ合祀	神社寺院明細帳		
神明社	祭神：天照大神。室野村字阿寺にあり。明治42年松苧社へ合祀	神社寺院明細帳		

分類	項目	内 容	出 典	頁
神社	十二社	祭神：伊弉奈岐命・伊弉奈美命（松代町史下では大山祇命）。奴奈川村室野字宮ノ下にあり。松代町史下 584 頁にも記載あり	東頸城郡誌	370
	十二社	祭神：大山祇命。奴奈川村室野字粒山にあり	東頸城郡誌	370
	八幡社	祭神：蒼田別尊。奴奈川村福島字宮前にあり。松代町史下 583 頁にも記載あり	東頸城郡誌	370
	松茸社	祭神：大山咋命。奴奈川村福島字大百刈にあり。松代町史下 583 頁にも記載あり	東頸城郡誌	370
	十二神社	祭神：伊弉諾尊、大山祇命。奴奈川村木和田原新田字原にあり。明治 41 年、熊野社・秋葉社を合祀。松代町史下 584 頁にも記載あり	東頸城郡誌	370
	熊野社	祭神：伊弉諾尊。木和田原新田字原にあり。明治 41 年十二神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	秋葉社	祭神：淤騰山津見命。木和田原新田字ヌケにあり。明治 41 年十二神社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二神社	祭神：大山咋命。奴奈川村峠字柱口にあり。明応年中の創立	東頸城郡誌	370
	諏訪神社	祭神：建御名方命、大山祇命。奴奈川村峠字柱口にあり。明応年中の創立。松代町史下 584 頁にも記載あり	東頸城郡誌	371
	松茸神社	祭神：天照大御神、素盞鳴男命、天津彦根命、天津兒屋根命、大国主大神、奴奈川姫命、四海彦命、四海姫命。浦田字宮ノ沖にあり。天智天皇 8 年の創建といひ伝う。浦田郷の総社なるを以て「浦田の大宮」と称し、中古は「松茸権現」と呼べり。松之山町史 866 頁にも記載あり	東頸城郡誌	333
	十二神社	祭神：大山祇命。浦田口字中之入にあり。慶長のころ浦田口村字十二下より現地に遷座勧請す。境内に「鳥追い地蔵」あり。松之山町史 861・896 頁にも記載あり	東頸城郡誌	335
	十二神社	祭神：大山祇命。松之山村浦田口字長坂にあり。享徳 2 年勧請。松之山町史 861 頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	十二社	祭神：大山祇命・稲田姫命。松之山村大荒戸字苗代田にあり。昭和 3 年 6 月 26 日歳神社を合祀。松之山町史 862 頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	歳神社	祭神：稲田姫命。松之山村大荒戸字苗代田にあり。昭和 3 年 6 月 26 日十二社に合祀。松之山町史 868 頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	十二神社	祭神：大山祇命。松之山村光間字宮林にあり。松之山町史 861 頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	十二神社	祭神：大山祇命。松之山村新山字上ノ山にあり。松之山町史 861 頁にも記載あり	東頸城郡誌	365
	松茸社	祭神：布川姫命・建御名方命・月読尊・大日靈尊。松之山村湯山字南原にあり。明治 41 年、字北の諏訪社、字丸山の日月社を合祀。松之山町史 863 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	諏訪社	祭神：建御名方命。湯山村字北にあり。明治 41 年松茸社へ合祀	神社寺院明細帳	
	日月社	祭神：大日靈尊・月読尊。湯山村字丸山にあり。明治 41 年松茸社へ合祀	神社寺院明細帳	
	白山神社	祭神：伊弉諾尊・猿田彦命・迦具突智命。松之山村小谷字上居村にあり。天文 3 年 7 月 5 日勧請。大正 11 年道祖神社と秋葉社を合祀。松之山町史 862 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	道祖神社	祭神：猿田彦命。松之山村小谷字崩ヶにあり。宝暦 11 年 3 月創立。大正 11 年 6 月白山神社に合祀松之山町史 868 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	秋葉社	祭神：迦具突智命。松之山村小谷字上居村にあり。弘化 2 年 2 月創立。大正 11 年 6 月白山神社に合祀。松之山町史 868 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	白山神社	祭神：伊弉諾尊・伊弉册尊。松之山村水梨字宮ノ下にあり。延宝 6 年 6 月創立。松之山町史 861 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村松口字下原にあり。松之山町史 862 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村藤内字名木ノ下にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 869 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	松茸社	祭神：布川姫命。松之山村橋詰字宮ノ下にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 869 頁にも記載あり	東頸城郡誌	366
	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村坂下字一枚田にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 868 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村観音寺字深谷にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 868 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	松茸社	祭神：布川姫命。松之山村猪之名字宮川にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 869 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村古戸字後田にあり。昭和 3 年 9 月 9 日三柱神社に合祀。松之山町史 869 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	三柱神社	祭神：布川姫命・建御名方命・大山祇命各 2 柱。松之山村観音寺字倉下にあり。上川手地区 6 大字はそれぞれ神社を奉斎してきたが、社殿を新築し昭和 3 年 9 月 9 日遷宮式を行い社名を三柱神社とした。祭神はそれぞれ 2 柱ずつ祀られている。合祀されたのは観音寺の十二神社・古戸の十二神社・坂下の諏訪神社・藤内名の諏訪神社・猪之名の松茸神社・橋詰の松茸神社	松之山町史	862
	白鬚社	祭神：猿田彦命。松之山村三桶字宮ツルネにあり。往古、大明神原より遷移す。松之山町史 863 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村五十子平字五十子平にあり。松之山町史 865 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村赤倉字上干場にあり。松之山町史 865 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	諏訪社	祭神：建御名方命・大山祇命。松之山村坪野字宮ノ脇にあり。明治 41 年 11 月、字十二谷の十二社を合祀。松之山町史 865 頁にも記載あり	東頸城郡誌	367
	十二社	祭神：大山祇命。坪野村字十二谷にあり。明治 41 年諏訪社へ合祀	神社寺院明細帳	
	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村東山字大入にあり。松之山町史 865 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368

分類	項目	内容	出典	頁
神社	諏訪社	祭神：建御名方命。松之山村湯本字中道にあり。松之山町史 863 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	松苧社	祭神：大山咋命。松之山村天水越字江尻にあり。松之山町史 863 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	熊野社	祭神：伊弉諾尊・伊弉册尊・事坂男命・大山祇命。松之山村天水島字鴨田にあり。明治 41 年 7 月字鴨田の白山社を合祀。昭和 56 年中坪の十二社を合祀。松之山町史 863 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	白山社	祭神：伊弉那岐尊。天水島村字鴨田にあり。明治 41 年熊野社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村藤倉字中坪にあり。昭和 56 年 9 月 5 日熊野社に合祀。松之山町史 869 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村中尾字鏡池にあり。天文 6 年 8 月勧請。松之山町史 864 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	十二社	祭神：大山祇命。松之山村藤倉字宮沢にあり。字宮沢の稲荷社を合祀。松之山町史 864 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	稲荷社	祭神：保食神。藤倉村字宮沢にあり。十二社へ合祀	神社寺院明細帳	
	十二社	祭神：大山咋命。松之山村上鰈池字前田にあり。松之山町史 864 頁にも記載あり	東頸城郡誌	368
	大宝社	祭神：大日靈神（松之山町史では武甕槌命）。松之山村下鰈池字前田にあり。松之山町史 865 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	松尾社	祭神：大山咋命（松之山町史では布川姫命）。松之山村東川字向山にあり。松之山町史 864 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	神明神社	祭神：天照皇大神。浦田村浦田字干場にあり。松之山町史 866 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	諏訪神社	祭神：建御名方命。浦田村浦田字下方にあり。応永 2 年 6 月 28 日勧請。松之山町史 866 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	熊野神社	祭神：伊弉諾尊。浦田村浦田字前田にあり。元禄 2 年創立。松之山町史 866 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	稲荷社	祭神：稲倉魂命。浦田村浦田字上り口にあり（松之山町史に記載なし）	東頸城郡誌	369
	十二神社	祭神：大山祇命。浦田村黒倉字越道にあり。寛永 3 年 3 月勧請。松之山町史 866 頁にも記載あり	東頸城郡誌	369
	秋葉神社（宗教法人外）	松之山町大字中尾山之田の秋葉山城跡山頂にあり石祠と石碑がある。昭和 18 年 9 月建立	松之山町史	322
	白山神社	祭神：菊理比咩命。松之山町浦田字下段にあり。元禄 2 年創立と伝える	松之山町史	866
	神明神社（宗教法人外）	祭神：天照大神・豊受大神。松之山字上之山にあり	松之山町史	867
	稲荷社（宗教法人外）	松之山町湯山字中島にあり	松之山町史	867
	秋葉神社（宗教法人外）	祭神：迦具突智命。松之山町天水越字千ノ坂にあり	松之山町史	867
	八幡社（宗教法人外）	松之山町浦田字山ノ脇にあり。浦田字宮ノ沖（大宮）にある松苧社が鎮座していたと伝えられる旧跡に建てられている	松之山町史	867
	神明社（宗教法人外）	祭神：天照大神。松之山町浦田字日照越にあり。延享 2 年創立、昭和 60 年新田集落センターに御神体を移す	松之山町史	867
金毘羅社（宗教法人外）	祭神：大穴牟遲命。松之山町浦田字大野にあり。洪海川の氾濫を鎮めるために建立されたと伝えられる。大岩の上に鎮座していたが昭和 59 年 11 月 22 日道路改良により現在地に移築	松之山町史	867	
神明社（宗教法人外）	祭神：天照大神。松之山町浦田字西之前にあり。創立年月は不詳なるも、石祠の軸部に元禄 4 年 8 月 18 日と刻んである	松之山町史	868	
川西町神社一覧表	川西町の神社一覧表（昭和 59 年秋現在）	川西町史通史編上	1, 034	
中里の神社一覧表	近世における中里の神社一覧表	中里町史通史編上	1, 009	
寺院・仏堂	智泉寺	曹洞宗通司派、本尊：釈迦如来。十日町大字十日町にあり。龍澤山と号し、上野国群馬郡車郷村瀧澤寺末。創立年代開山とも詳らかならず、初は真言宗にして丹波国永澤寺に属せしが、そのころ羽根川刑部某の祈願所として 200 石の寺領を寄せたり。後、羽根川滅び、天正の兵燹に一山鳥有に帰す。同 15 年、瀧澤寺の僧傳良来りて再興し、爾来瀧澤寺に隸すという	中魚沼郡誌上	453
	水月庵（寺）	曹洞宗通幻派、本尊：十一面観音。智泉寺の前にあり。明暦元年、智泉寺第 3 世大益の開山なり。境内に地藏尊の石像あり、初め二ノ町にありしものにて、延享元年 9 月の創建なり	中魚沼郡誌上	454
	永昌庵跡	十日町大字原にあり。智泉寺の隠庵なり、由緒詳らかならず、明治の初年廃庵す	中魚沼郡誌上	455
	正念寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀如来。十日町字十日町の東側にあり。古澤山と号し、京都本願寺末。明応 8 年 8 月、僧正念坊の開山に係り、初め下島字豊越にありしという。後、袋町に移り、宝暦中宮ノ下に転じ、回祿の災に罹りて一山鳥有に帰す。第 10 世正益今の地に移して再建す。明治 25 年 6 月 12 日・同 33 年 6 月 10 日火災により焼失す。今仮宇なり。十日町市史通史編 1 349 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	455
	最勝寺	本尊：阿弥陀仏。正念寺境内にあり。光澤山と号し、僧中道の開山とす	中魚沼郡誌上	456
	来迎寺	時宗遊行派、本尊：阿弥陀如来。十日町大字十日町字川東にあり。引接院放光山と号し、相模国藤沢町清浄光寺末、正応元年 8 月創立。初め田川山聖衆院と号し、中条村団子島にありしが、回祿の災に罹りて下条村字原に転じ、再び丙丁の変に遭いて今の地に移りしという。境内に愛宕堂（本尊：勝軍地藏、明治 9 年、愛宕山字城ノ平より境内に移す）、不動堂（明治 4 年、字不動堂より境内に移す）、辨天堂（明治 9 年、字城ノ平辨天池の中島より境内に移す）、吒枳尼天堂（明治 9 年、字城ノ平より境内に移す）あり。十日町市史通史編 1 346 頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	457

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	法全庵	時宗遊行派、本尊：釈迦牟尼仏。十日町字東裏にあり、来迎寺末。寛保元年、来迎寺17世法全の開山に係る	中魚沼郡誌上	460
	聖衆院	時宗遊行派、本尊：阿弥陀如来。十日町字東浦にあり、相模国藤沢町清浄光寺末。初め十王堂と称せしを、延宝8年遊行第42世南門巡化の際、水野五郎右衛門の妻妙泉尼というものの命名を請いて寺となし、因って南門を開山とす。明治25年6月12日・33年6月10日火災により焼失。今仮宇なり	中魚沼郡誌上	460
	本城院	天台宗寺門派、本尊：不動明王十日町大字原地内宇蕪沢にあり、神楽山と号し、近江国大津市園城寺末。慶長9年10月28日、僧意覚の開山にして、初めは聖護院に属せしが明治5年、園城寺の直末に改む。意覚諏訪山下の洞久庵の付近に草庵を結びて不動仏を安置し本乗院と号す。4世順道請うて最勝院と改む。元禄5年3月、池魚の災に罹り什宝多く火す、同年一の町に再建す。9代文意に至り本明院と改称す。宝暦10年火災により焼失、同年仮宇を高山小路に建てて移る。安永2年、今の地に移る	中魚沼郡誌上	461
	洞光院	天台宗寺門派、本城院末。元文のころ京都の人某当所に来たり留まり、二の町付近に草庵を結び本明院光運の徒弟となり智水と号す。宝暦中、田中町に堂宇を建てて移り定教院と号す。4世快隆に至り洞光院と改む。明治22年故あつて廃寺す	中魚沼郡誌上	464
	洞久庵	曹洞宗通幻派、十日町諏訪山下にあり。寛保2年、智泉寺10世嶺道の開山。洞久庵の傍らに高さ30尺鐘楼あり、安永4年2世師純が建てる。明治33年の災に罹り焼失	中魚沼郡誌上	464
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。大池字稲葉にあり	神社寺院明細帳	
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。軽沢字萱場にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。江道字山ノ根にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。津池字家前にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：千手観世音菩薩。菅沼字家浦にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：延命地藏菩薩。島字住吉にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：延命地藏菩薩。猿倉字家裏にあり	神社寺院明細帳	
	大慶院	天台宗寺門派、本尊：娑婆尊。中条村大字新座にあり。両澤山と号し、近江国園城寺末。伝えいう、寛治4年8月の創立。初め修験派なりしが、明治8年1月、天台宗に改む。十日町市史通史編1 247頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	465
	真福寺	曹洞宗、本尊：観世音。中条村大字新座にあり。寶林山と号し、初め時宗十日町来迎寺末なりしが、曹洞宗中条村円通寺末となる	中魚沼郡誌上	469
	娑婆堂	本尊：娑婆仏。新座村字石原にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観音。新座村字坊之入にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音。新座村字元屋敷下にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：延命地藏。新座村字田ノ入にあり	神社寺院明細帳	
	真浄院	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦牟尼仏。中条村字四日町にあり。天福山と号す、刈羽郡石曾根村安住寺末。天正19年安住寺4世義光の開山という。或いはいう、本院初め六ヶ村二ツ屋にありしを、山崩れのためこの地に転ず。元禄13年6月13日、火災にあい同年8月再建す	中魚沼郡誌上	469
	千手観世音	本尊：千手観音。中条村大字四日町にあり。伝えいう、大同2年の創立、宝暦13年8月、字山新に山門を建て、天明紀元6月本堂を改築す	中魚沼郡誌上	470
	神宮寺	曹洞宗通幻派、中条村字四日町にあり。千手観音の別当なり、初め天台宗なりしが、曹洞宗真浄院第6世道淳の隠居するに及び、同院の末寺となる。十日町市史通史編1 249・352頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	471
	上宮太子堂	本尊：聖徳太子。中条村字太子堂にあり	中魚沼郡誌上	471
	観音堂	本尊：正観世音。中条村大字尾崎にあり	中魚沼郡誌上	472
	長泉寺	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦如来。中条村字中条の東側にあり。龍王山と号し、真浄院末。伝えいう、往昔字舟山にありしが明暦3年火災により焼失、真浄院第4世寿清、今の地に移して再興す、今これを開山とす	中魚沼郡誌上	472
	円通寺	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦牟尼仏。中条村字上原にあり。桂澤山と号し、十日町智泉寺末。初め真言宗にして一時廃寺となりしを天正元年6月、玄瑞これを再興し曹洞宗に改む	中魚沼郡誌上	473
	大寿院	天台宗寺門派、本尊：不動明王。中条村字尾崎にあり。近江国滋賀郡大津園城寺末。口碑によると、元禄8年9月、法道の創立に係るといふ	中魚沼郡誌上	474
	大蔵院	天台宗寺門派、本尊：不動明王。中条村字尾崎にあり。大寿院末。宝暦4年4月、大寿院の二男林廣の創るところ。昭和2年新田字岩野に移転	中魚沼郡誌上	475
	萬寶院	天台宗寺門派、本尊：不動明王。中条村字四日町狐塚にあり。西京聖護院末。大寿院の僧元明を開山とす。十日町市史通史編1 247頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	475
	地藏堂	本尊：子安地藏。四日町新田村字久称並にあり	神社寺院明細帳	
	最明寺跡	中条村大字中条の東北、最明川の岸辺にあり。伝えいう、往昔北条時頼微服行脚の際来たり憩う所と。その草創廢毀とも年月を知らず	中魚沼郡誌上	475
	来迎寺跡	中条村大字中条の西北方3町ばかりにあり。伝えいう、時宗来迎寺の跡にして年月不詳下条村に移転し、その跡に阿弥陀堂留めしが、享保2年廢毀せりと	中魚沼郡誌上	475
	如願寺跡	修験派、中条村字中町の西浦にあり。京都醍醐三寶院末。往古は八海山如願寺を称し真言宗なりしという。明治の初に至り、死亡離散して廢寺となれり	中魚沼郡誌上	475
地藏堂	中条村大字新座字田ノ入にあり	中魚沼郡誌上	476	

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	観世音	本尊：十一面観世音。中条村大字中条長泉寺境内に接して建つ。伝えいう、十一面観世音は行基の作にして、建久4年、北条時頼守護し来たり、最明寺河畔に一字を建ててこれを安すと。その後年代不詳、この地に転じたり	中魚沼郡誌上	476
	馬頭観世音	本尊：馬頭観世音。中条村字花水の山麓にあり	中魚沼郡誌上	476
	薬師	中条村字下町の西端にあり。石を積み土を覆い尺余の木像をその中に安置す	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。中条村字中条新田字道下にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。中条村字新水字倉下にあり。伝えいう、天正8年、久保田某の創立なりと。中魚沼郡誌上477頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。中条村字小貫字大日影にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	中条村字池谷にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	中条村字北原にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。中条村字峠字谷内田にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	中条村字菅沼にあり	中魚沼郡誌上	476
	阿弥陀堂	中条村字魚の田川にあり	中魚沼郡誌上	476
	観世音	本尊：聖観世音。中条村字蔵平にあり。宝暦13年の建立	中魚沼郡誌上	477
	観音堂	本尊：大悲観世音。中条村字轟木にあり。延宝7年の創立	中魚沼郡誌上	477
	西方寺跡	中条村字新水の村上寺屋敷と称する所に清水山西芳寺という寺ありしが、年代不詳、南魚沼郡へ移転すといふ	中魚沼郡誌上	477
	広大寺	曹洞宗通幻派、本尊：正観音。下条村字新保にあり。鶴嶺山と号す、上野国群馬郡白郷井村雙林寺末。雙林寺第3世曇英の開山。十日町市史通史編1 353頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	477
	薬師寺	真言宗、本尊：薬師如来。下条村字岩野にあり。北林山と号し、山城国宇治郡醍醐三寶院末。明暦元年の創立なり、あるいは嘉暦元年7月村民多眼疾を患いこれが平癒を祈りて建つところなりといふ。昭和3年、大蔵院へ合併	中魚沼郡誌上	478
	黄梁庵	本尊：正観世音。下条村字下山にあり。広大寺第8世越州門超の開基。明治の初め廢庵して本尊は広大寺に移す	中魚沼郡誌上	479
	大蔵院	本山修験宗、本尊：大日大聖不動明王。古くは北林山薬師寺と称し、醍醐の三寶院の末寺であったが、明治初期の廢仏毀釈のため表向きは廢寺となり、以後、大正中期に至り、信者の努力により隣村の大蔵院合併再建、現在は薬師山大蔵院と称す	県寺院名鑑	443
	観音堂	本尊：観音仏。上組村字為永にあり	神社寺院明細帳	
	天龍寺	天台宗寺門派、下条村字上新田の東方にあり。西京聖護院末。明治の初め廢寺となせり	中魚沼郡誌上	479
	宝泉寺	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦牟尼仏。吉田村大字小泉にあり。水澤山と号し、上野国群馬郡白郷井村雙林寺末。天正8年8月雙林寺第13世關鐵の開山。十日町市史通史編1 354頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	510
	東光寺	曹洞宗大源派、本尊：正観世音。吉田村大字南鑑坂の西南にあり。玉重山と号し、上野村長安寺末。天正11年8月の創立にして、長安寺第2世泉策を開山とし、春日山城主上杉景勝を開基とす	中魚沼郡誌上	511
	長楽寺	曹洞宗太源派、本尊：釈迦牟尼仏。吉田村大字高島字宮ノ上にあり。龍澤山と号す、南魚沼郡雲洞庵末。天正14年9月創立、雲洞庵第15世宗達を開山とし琵琶懸城主長尾義景を開基とす。寺初め字鴨田にあり、明治41年、今の地に移る	中魚沼郡誌上	512
	石仏（松林庵）	吉田村大字真田字鉢を距ること数町の西にあり。宝暦12年夏、僧明屋の開基。中魚沼郡誌上564頁にも記載あり。市指定文化財	中魚沼郡誌上	514
	順禮堂	吉田村大字鑑坂にあり。常福寺第10世格宗の中興するところにして、西国三十三番の観音仏を安置す	中魚沼郡誌上	515
	薬師堂	本尊：薬師如来。吉田村大字真田字ヶ山薬師峠の絶頂にあり	中魚沼郡誌上	516
	薬師堂	本尊：薬師如来。吉田村大字鑑坂地内字薬師にあり	中魚沼郡誌上	516
	観音堂	吉田村大字真田字中平にあり	中魚沼郡誌上	516
	観音堂	本尊：正観世音。吉田村大字北鑑坂字上ノ山にあり	中魚沼郡誌上	516
	観音堂	吉田村大字真田字中手にあり	中魚沼郡誌上	516
	大日堂	本尊：大日如来。吉田村北鑑坂字ニツ塚にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観音。貝野村字安養寺にあり。本尊は慶長年中、板場太左衛門の勧請するところなり。初め森下と称する所にありし由記録に存すれど、その地今詳らかならず	中魚沼郡誌上	517
	願王庵	曹洞宗太源派、本尊：延命地藏。貝野村字姿にあり。初め東光山興源寺と号し、南魚沼郡上田村雲洞庵第32世普宗の隠居庵として創立せしもの。明治25年、雲洞庵の楠木国定本尊と寺号を携えて新潟に転じ、廢寺して尼寺となし願王庵と称す	中魚沼郡誌上	518
	観泉院	曹洞宗通幻派、本尊：聖観世音。水沢村字土市にあり。吉祥山と号し、上野国群馬郡白郷井村雙林寺末。弘治2年雙林寺第9世吞與の開山。十日町市史通史編1 354頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	535
	慈雲庵(寺)	曹洞宗通幻派、本尊：十一面観世音。水沢村大字大黒沢にあり。大沢山と号し、観泉院末。明和6年、観泉院第14世祖海の開山	中魚沼郡誌上	536
	十王堂	本尊：正観世音、十王、三十三体仏。水沢村大字伊達にあり。甘棠庵を付す	中魚沼郡誌上	537
観音堂	本尊：正観世音。水沢村大字新宮にあり。龍王山と号す	中魚沼郡誌上	537	
観音堂	本尊：正観世音。水沢村大字新宮のうち宮ノ下字上ノ原にあり。初めは字横割というにありしが洪水により今の地に転じたりといふ伝う	中魚沼郡誌上	538	
馬坂観音堂	本尊：観世音。水沢村大字馬場太田島の東方馬坂にあり。文政3年地藏仏を併安す	中魚沼郡誌上	538	

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	薬師堂	本尊：薬師如来。水沢村字細尾にあり。薬師如来のほか十二神を安置す	中魚沼郡誌上	538
	北向馬蹄観音堂	本尊：馬蹄観世音。水沢村大字新宮にあり。金北山と号し、大正5年8月の創立	中魚沼郡誌上	538
	薬師堂	本尊：薬師如来。水沢村字干溝地内沖にあり	中魚沼郡誌上	539
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。新宮村字南浦にあり。口碑によれば万治元年、村中申し合い建立す	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：十一面観世音。二俣新田口字居平にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：十一面観世音。水沢村字ノ沢にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。楯柄沢新田にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。当間字堂ノ下にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：聖観世音。中在家字中田にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：閻魔王。大黒沢村字東原にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：阿弥陀如来。池ノ尻新田にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：阿弥陀如来。漆島新田字家ノ平にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：地藏菩薩。池沢字平沢にあり	神社寺院明細帳	
	如来堂	本尊：薬師如来。小黒沢字西にあり	神社寺院明細帳	
	真常院	天台宗、馬場丙 281	県寺院名鑑	
	祇園庵(寺)	曹洞宗明峰派、本尊：釈迦如来。六箇村字山谷にあり。聖寿山と号し、備中国玉島の津円通寺末。僧良高を開山とす	中魚沼郡誌上	539
	秋葉山	本尊：三尺坊。六箇村字麻畑にあり、寛延3年8月創立	中魚沼郡誌上	540
	薬師堂	六箇村字船坂地内南魚沼郡界字踏切にあり	中魚沼郡誌上	540
	不動堂	六箇村字田麦にあり	中魚沼郡誌上	540
	観音堂	本尊：観世音菩薩。六箇村字田麦地内林ノ下にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	六箇村字麻畑にあり	中魚沼郡誌上	541
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。六箇村字麻畑地内家の沖にあり	神社寺院明細帳	
	大慈庵	本尊：観世音。六箇村字田麦にあり。正徳年中の建立なりという	中魚沼郡誌上	541
	金剛院	本尊：正観音。六箇村字二ツ屋にあり。京都伏見稲荷山愛染寺の末	中魚沼郡誌上	541
	瓣才天	六箇村字二ツ屋の池中にあり	中魚沼郡誌上	541
	観音堂	本尊：観世音菩薩。六箇村字二ツ屋地内江上にあり	神社寺院明細帳	
	愛宕堂	本尊：勝軍地藏。六箇村字船坂地内字一丁場にあり	中魚沼郡誌上	541
	不動堂	六箇村字船坂地内字ナギノにあり	中魚沼郡誌上	541
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。六箇村字中村地内字クリ山にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観世音。六箇村塩ノ俣新田字居平にあり	神社寺院明細帳	
	不動堂	本尊：不動明王。六箇村田麦字シキリ沢にあり	神社寺院明細帳	
	大泉寺(現・観音寺)	天台宗門派、本尊：大日如来。川治村大字川治にあり。寶敬山と号し、近江国大津市園城寺末。大同元年、僧元響の開基(昭和50年代に大泉山観音寺)。十日町市史通史編1 247頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	542
	琵琶懸観音堂	本尊：正観世音。川治村大字城ノ古古城址内にあり。境内に秘密院殿の石碑及び一石一字塔あり	中魚沼郡誌上	543
	塚原観音堂	本尊：千手観世音。川治村大字北新田字塚原にあり。この付近塚多し、「塚原」の称のよって起るところなり。受け持ち寺院：智泉寺	中魚沼郡誌上	543
	十王堂	本尊：十王。川治村大字高山にあり。明治維新のころ観音堂に合す	中魚沼郡誌上	543
	栽松庵	本尊：馬頭観世音。川治村大字高山にあり。瀧高山と号し、十日町智泉寺の末庵。後に子安堂の延命地藏を併置す	中魚沼郡誌上	543
	十王堂	本尊：十王。川治村大字川治にあり。享保9年7月、高野山永光寺の僧来たりて中興すという。明治43年、字城内の十一面観世音を合併す	中魚沼郡誌上	544
	常楽庵	本尊：十一面観世音。川治村大字山本にあり。仙月山と号し、初め字城にありしを元禄5年6月、今の地に移して改築す。大正5年3月1日、焼失	中魚沼郡誌上	544
	地藏堂	川治村大字八箇字関根にあり	中魚沼郡誌上	544
	観音堂	川治村大字八箇字浅ノ平にあり	中魚沼郡誌上	545
	観音堂	本尊：正観世音。川治村大字八箇字笹ノ沢にあり	中魚沼郡誌上	545
	地藏堂	川治村大字八箇字池ノ平にあり	中魚沼郡誌上	545
	観音堂	本尊：準提観世音。川治村大字八箇字落ノ水にあり	中魚沼郡誌上	545
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。川治村大字八箇字孕石にあり	中魚沼郡誌上	545
	観音堂	本尊：如意輪観世音。川治村大字八箇字長里にあり	中魚沼郡誌上	545
	地藏堂	川治村大字八箇字稲子平にあり	中魚沼郡誌上	545
	観音堂	本尊：十一面観世音。川治村大字八箇字榎木にあり	中魚沼郡誌上	545
相国寺	曹洞宗太源派、本尊：釈迦如来。仙田村字室島にあり。松林山と号し、上野村曹洞宗長安寺末。川西町史通史編上 403頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	488	
木股地藏	仙田村字室島相国寺山門の左側にあり。初め相国寺の古屋敷と称する地の榎の枝間に安置せり。慶応3年、相国寺第14世愚参門側に堂を建ててこれを移安すという。川西町史通史編上 407頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	489	
薬師堂	本尊：薬師瑠璃光如来。仙田村字高倉の西方なる山頂にあり。川西町史通史編上 407頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	489	
阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。仙田村字田戸の字横マクリにあり。川西町史通史編上 408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490	
阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。藤沢字山ノ上にあり。明治43年相国寺へ合併	川西町史通史編上	408	
薬師	本尊：阿弥陀如来。仙田村字中仙田の薬師山頂にあり。川西町史通史編上 407頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490	

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	地藏尊	本尊：地藏菩薩。仙田村字越ヶ沢干場にあり。昭和9年3月20日、明細帳より削除。川西町史通史編上408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。仙田村字中仙田の上ノ山にあり。川西町史通史編上407頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490
	観音堂	本尊：正観世音菩薩。小脇字宮ノ越にあり	川西町史通史編上	407
	薬師堂	本尊：薬師瑠璃光如来。仙田村字大倉の宮ノ内にあり。川西町史通史編上408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490
	地藏堂	本尊：地藏菩薩。仙田村字大白倉ウツノにあり（川西町史では字細田）。川西町史通史編上408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490
	観音堂	本尊：馬頭観音。仙田村字大貝の前畑にあり（川西町史では字水上）。川西町史通史編上408頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	490
	地藏堂	本尊：地藏菩薩。霧谷字上ノ山にあり	川西町史通史編上	408
	薬師堂	本尊：薬師如来。橋村大字仁田の南方丘上にあり。明治維新前守僧住し、後尼僧住す。本堂住年龍雲寺に付属。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	491
	龍雲寺跡	曹洞宗、橋村大字仁田庄司山の北方、薬師堂より1町ばかりの上にあり、今なおその地を龍雲寺原と称す。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	491
	廣傳寺跡	橋村大字仁田字下モ原にあり。寺の興廢年月詳らかならず。遺址に松尾社の石祠あり。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	492
	本行寺跡	橋村字寺ヶ崎にあり。本行坊勝戒の草創なりしが、明暦天保の二度焼失し、今はただ名称を存するのみ。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	492
	北田如意庵	本尊：如意輪観世音。橋村大字仁田の北端にあり、補陀落山と号す。真人村圓蔵寺の末庵にして、田村四郎左衛門の創立なりという。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	492
	不動堂	橋村字根深にあり、真人村圓蔵寺の管するところなり	中魚沼郡誌上	493
	地藏堂	本尊：地藏仏。橋村大字仁田にあり。安永4年創立	中魚沼郡誌上	493
	毘沙門堂	本尊：多聞天。橋村大字仁田字下モ原にあり、文政6年の創立。大正5年、北田如意庵の傍らに移転改築す	中魚沼郡誌上	494
	長安寺	曹洞宗太源派、本尊：釈迦牟尼仏。上野村字元町にあり。積雲山と号す、信濃国北佐久郡岩村田龍雲寺末。伝えいう、元亀元年3月、布支黒城主上野中務長安、龍雲寺の2世存龍を請じ伽藍を建立して、これを開山となす。寺は初め新町新田字太田原にあり真言宗なりし、年月不詳、今の地に移し宗旨もいつのころにや曹洞宗に改む。川西町史通史編上403・412頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	494
	西永寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀如来。上野村字上野諏訪山にあり。長栄山と号す、山城国愛宕郡常葉町本願寺末。伝えいう、元亀3年、上野長安の母、その夫長栄の死を悼みて薙髪し妙善尼と号し、橋村字寺ヶ崎の本行寺をここに移し、西永寺と改称す。川西町史通史編上403・413頁、十日町市史通史編1 349頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	495
	圓成寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀仏。上野村字新町新田にあり。玉泉山と号し、山城国愛宕郡常葉町本願寺末。貞享元年6月15日、僧了祐の開基に係るといふ。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	496
	慈濟庵	曹洞宗太源派、本尊：十王仏。上野村大字上野字西浦にあり。長安寺末。初め村の東方にあり、十王堂と称して十王を安置す。文化元年5月、今の地に移し慈濟庵と称し地藏を併せ置く。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	497
	蓮明寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀仏。上野村大字上野字西浦にあり。山城国愛宕郡常葉町本願寺末。7世にして無住となり、西栄寺これを兼務す。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	497
	永徳寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀仏。上野村大字上野字西浦にあり。龍雲山と号す、山城国愛宕郡常葉町本願寺末。元禄年間、僧法寛の開山するところ、あるいはいう、宝永2年5月5日、西永寺10世栄孝の弟子法寛の開基なりと。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	497
	如意庵	曹洞宗、本尊：地藏・達磨。新町新田法印田にあり。当所丸山佐忠太・内山珍之蒸先祖代々茶湯料として宅地72坪寄進。信徒2人。小泉村曹洞宗宝泉寺末庵	川西町史通史編上	405
	長徳寺	曹洞宗通幻派、本尊：千手観世音。中野村大字友重字月見原にあり。白雲山と号し、千手町村長福寺末。長福寺第6世存盛を開山となす。川西町史通史編上403・409・411頁、同通史編下778頁に「伊勢平治の千手観音」記載あり	中魚沼郡誌上	498
	清龍寺	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦如来。中野村大字霜条山山田にあり。赤城山と号し、千手町村長福寺末。長福寺第6世存盛を開山となす。川西町史通史編上403・411頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	500
	浄正院	天台宗寺門派、本尊：毘沙門天。中野村大字友重にあり。高澤山と号し、京都府下聖護院門跡末。伝えいう、天保年度の創立にして、初めは真言宗龍澤山寶教院末に属し高澤山千手院と号せしが、寛文中故ありて改宗し延宝2年高山村和合院の徒弟となり福正院と称し、明和のころより浄正院と称す。川西町史通史編上403頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	501
	山田観音堂	中野村字霜条にあり。初め普門寺と称し浄土宗なりし、あるいは真言宗という。川西町史通史編上405頁に「現在堂字なく神明社あり」と記載あり	中魚沼郡誌上	502
長福寺	曹洞宗通幻派、本尊：釈迦牟尼仏。千手町村大字中屋敷にあり。龍雲山と号し、越前国南条郡神山村寶圓寺末。応永15年、寶圓寺第4世高嚴理柏を請じて開山とす。長福寺はもと犬伏地内にあった（松之山町史318・873頁）。川西町史通史編上403・410頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	503	

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	栄行寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀如来。千手町村大字水口沢にあり。光雲山と号す、山城国京都東本願寺末。永正10年僧法教の開山。川西町史通史編上403・414頁、十日町市史通史編1 349頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	508
	不動寺	天台宗寺門派、本尊：不動明王。千手町村大字水口沢にあり。神明山または千手閣と号し、近江国大津園城寺末。元亀元年、多田満仲の臣元動法印の開基にして、初め文殊院と称せりとぞ。後、数十年を経て常願院玄貞と云うもの不動寺と改めてその開山となる。川西町史通史編上403・409頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	509
	浄雲寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀仏。千手町村大字水口沢にあり。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	509
	観音寺	天台宗、本尊：大日如来。千手町村大字水口沢にあり。昭和5年10月18日廃寺。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	510
	芳樹庵	曹洞宗、本尊：地蔵菩薩。千手町村大字沖立にあり。元文4年、長福寺第16世芳樹の創立。川西町史通史編上405頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	510
	地蔵院	曹洞宗、本尊：延命地蔵願王菩薩。千手町村大字水口沢にあり。開山は長福寺15世、享保12年の創立、文政7年3月改築す。川西町史通史編上403頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	510
	十王堂	本尊：十王仏。東善寺にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀仏。木落字坂下にあり。天明2年7月開創。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	薬師堂	本尊：薬師如来。仁田字上ノ原にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	地蔵堂	本尊：地蔵仏。仁田字家ノ下にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	観音堂	本尊：観世音。仁田字下モ原にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	地蔵堂	本尊：地蔵菩薩。仁田にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	毘沙門堂	本尊：多聞天。仁田字下モ原にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	地蔵堂	本尊：地蔵尊仏。野口字郷平にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	406
	地蔵堂	本尊：地蔵尊仏。野口字取安新田にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	407
	地蔵堂	本尊：地蔵仏。野口字根深にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	407
	観音堂	本尊：観世音。野口字郷平にあり。住職なく信徒によって営まれているもの。妻有百三十三番札所の一つ	川西町史通史編上	407
	不動堂	本尊：不動尊仏。野口字下金鉢にあり。住職なく信徒によって営まれているもの	川西町史通史編上	407
	清浄寺	曹洞宗	県寺院名鑑	
	日本山妙法寺小僧加	日本山妙法寺大僧加、小白倉にあり（廃寺）	県寺院名鑑	
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀。貝野村字堀ノ内にあり	中魚沼郡誌上	518
	慈眼寺	曹洞宗通幻派、本尊：聖観音。貝野村字小沢にあり。福聚山と号し、十日町智泉寺末。慶長16年、智泉寺第2世玄瑞の創立するところにして、上杉景勝の家臣倉俣主膳正を開基とす。中里村史通史編上996頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	516
	東光寺	曹洞宗通幻派、本尊：薬師瑠璃光如来。倉俣村字倉俣にあり。雙玉山と号し、千手町村長福寺末。嘉吉元年、長福寺第3世舜皐の開基とす。或いは伝う嘉吉元年は中興にして創立の歳月詳らかならずと。中里村史通史編上992頁、川西町史通史編上411頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	531
	地蔵堂	倉俣村字倉俣にあり	中魚沼郡誌上	532
	十王堂	本尊：十王。倉俣村字芋川にあり	中魚沼郡誌上	532
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字重地にあり	中魚沼郡誌上	532
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字下山にあり	中魚沼郡誌上	532
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字清田山にあり	中魚沼郡誌上	533
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字牧畑新田のうち牧にあり	中魚沼郡誌上	533
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字牧畑新田のうち深山坂にあり	中魚沼郡誌上	533
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字西田尻にあり	中魚沼郡誌上	533
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字西方にあり	中魚沼郡誌上	533
	観音堂	本尊：正観世音。倉俣村字小出にあり	中魚沼郡誌上	533
	薬師堂	本尊：薬師如来。倉俣村字小出湯本にあり。安政5年の創立	中魚沼郡誌上	533
	泉龍寺	曹洞宗通幻派、本尊：十一面観世音。田沢村字田沢にあり。廣河山と号し、古志郡鷺巣村浄正院末。慶長8年8月、浄正院第10世廣林の開山。中里村史通史編上994頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	534
	正覚院	天台宗寺門派、本尊：不動明王。田沢村字田中にあり。宝永4年9月、慈光院の開山。中里村史通史編上998頁にも記載あり	中魚沼郡誌上	534
	真常院	天台宗寺門派、本尊：不動明王。田沢村字朴木沢にあり。近江国大津市園城寺末。元文2年8月6日、元順坊の開山	中魚沼郡誌上	534
	薬師堂	田沢村字上干溝にあり	中魚沼郡誌上	535
	如来堂	本尊：阿弥陀如来。如来寺字山ノ根にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：正観音。貝野村己分（宮中）字家ノ中にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：観音仏。倉俣村雑水山新田字林木下にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：阿弥陀如来。貝野村己分（堀之内）字風張にあり	神社寺院明細帳	
十王堂	本尊：十王仏。倉俣村重地字居平にあり	神社寺院明細帳		
薬師堂	本尊：薬師瑠璃光如来。貝野村己分（宮中）字家ノ中にあり	神社寺院明細帳		
観音堂	本尊：十一面観世音。田沢村藤原新田字早稲田にあり	神社寺院明細帳		
観音堂	本尊：観世音菩薩。田沢村小原分字居平にあり	神社寺院明細帳		
観音堂	本尊：観世音菩薩。田沢村荒屋新田分字居平にあり	神社寺院明細帳		
観音堂	本尊：十一面観音。田沢村通り山分字前田にあり	神社寺院明細帳		

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	観音堂	本尊：聖観音。田沢村下朴木沢分字前のはばにあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：聖観音。田沢村市之越分字土峰にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：聖観音。田沢村白羽毛分字沢田にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：聖観音。田沢村程島新田分字下モグ子にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：聖観音。田沢村倉下分字家之脇にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：聖観音。田沢村角間分字コシバにあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：千手観音。田沢村葎沢分字牧之下にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：十一面観世音。田沢村東田尻分字家ノ脇にあり	神社寺院明細帳	
	観音堂	本尊：如意輪観音。田沢村土倉分字家ノ脇にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：閻魔大王。田沢村桂分字前田にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：老婆子。田沢村高道山分字宮之脇にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：老婆子。田沢村上山分字上道にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：延命地藏。田沢村本村分字中通りにあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：子安地藏菩薩。田沢村芋沢分字川道にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：岩船地藏菩薩。田沢村田中分字居平にあり	神社寺院明細帳	
	地藏堂	本尊：子安地藏菩薩。田沢村朴木沢新田分字宮ノ下にあり	神社寺院明細帳	
	瑠璃光庵	本尊：薬師瑠璃光如来。田沢村上干溝分字溝にあり	神社寺院明細帳	
	靈空蔵堂	本尊：靈空蔵大菩薩。田沢村本村分字ノウキにあり	神社寺院明細帳	
	梵天堂	本尊：大日如来。田沢村市之越字梵天前にあり	神社寺院明細帳	
	長命寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。松代村松代字馬場塚にあり。越中国新川郡上滝村大川寺の末寺なり。寛政6年3月創立（松代町史下では永享2年創立）。松之山町史874頁、松代町史下597頁にも記載あり	東頭城郡誌	445
	少林寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。松代村大字松代字前田にあり。中魚沼郡中屋敷村長福寺の末寺なり。天正4年5月創立。松代町史下604頁、川西町史通史編上411頁にも記載あり	東頭城郡誌	446
	廣徳寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。松代村大字松代字大久保にあり。石川県鳳至郡広瀬村覚皇院の末寺なり。寛正3年4月創立（松代町史下では宝徳元年創立）。松代町史下603頁にも記載あり	東頭城郡誌	447
	洞泉寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。奴奈川村大字室野字狸々にあり。中魚沼郡元町村長安寺の末寺。元和元年5月創立。松代町史下600・625頁にも記載あり	東頭城郡誌	456
	松泉寺	曹洞宗、本尊：釈迦如来。山平村小池にあり。山平村大貫にあった真言宗松泉寺は寺坂から仙納へ移転し無住となる。天正16年曹洞宗に改め開山、その後地すべりにより移転。松代町史下595・606頁にも記載あり。	東頭城郡誌	458
	林蔵寺	真言宗、松茸山大権現の別当養泰寺は大永年中（1521～7）無住となり、そのうえ火災のため断絶。その後、天文年中（1532～54）大熊備前守朝秀が伊沢の上の間に再建復興して寺号を林蔵寺と改めた。明治2年6月廃仏毀釈により廃寺となる	松代町史下	594
	最勝寺	真言宗。最勝寺は初め犬伏城の北西蔵川の流通称寺屋敷に創建。その後清水地内に移り、さらに岡野町に移転し西照寺と改め、浄土宗に改宗する	松代町史下	594
	長松庵	本尊：馬頭観音ほか。松代字上山にあり、本寺長命寺	松代町史下	607
	普門庵	本尊：聖観音ほか。千年字堂前にあり、本寺少林寺	松代町史下	607
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。太平村字前田にあり、現在は仏像は開発センターにあり	松代町史下	608
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。筋平村字中向にあり、現在仏像は研修センターにあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：聖観世音。千年村字堂ノ前にあり。現在仏像は普門庵にあり	松代町史下	608
	観音堂	本尊：千手観世音菩薩。孟地村字サビラキにあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：馬頭観世音。松代村字トドメキにあり。昭和5年12月、十王堂と合併。松代上の山に移転	松代町史下	608
	観音堂	本尊：馬頭観世音。蒲生村字宮ノ脇にあり、現在仏像は改善センターにあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：馬頭観世音。儀明村字コガン倉にあり。現在仏像は福祉会館にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：観世音菩薩。小池村諏訪峠字サズキにあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	609
	堂	本尊：千手観世音菩薩・阿弥陀如来。小池村寺田字寺坂にあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：馬頭観音。名平村字中ノ林にあり、廃堂となる	松代町史下	609
	観音堂	本尊：馬頭観音。田野倉村字下村にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：仙納村字前田にあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	608
	釈迦堂	本尊：釈迦如来。菅刈村字柿ノ久保にあり、仏像は現在公民館にあり	松代町史下	608
	十王堂	本尊：地藏仏。松代村字坂之下にあり。昭和5年、字トドメキの観音堂に合併	松代町史下	608
十王堂	本尊：閻魔王。蓬平村字山ノ越にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608	
大日堂	本尊：大日如来。海老村字倉下にあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	608	
地藏堂	本尊：延命地藏。小荒戸村字かんのうにあり。明治42年全焼。現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608	
地藏堂	本尊：地藏菩薩。犬伏村字家浦にあり、本寺広徳寺	松代町史下	608	
地藏堂	本尊：地藏仏。会沢村字居村にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608	
薬師堂	本尊：薬師如来。会沢村字越道にあり、本寺長命寺	松代町史下	608	
観音堂	本尊：馬頭観音菩薩。田沢字トウハギにあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	608	
堂	本尊：観音菩薩。小屋丸字下山スギナ畑にあり、現在仏像は集会所にあり	松代町史下	608	
十王堂	本尊：観世音菩薩ほか。池之畑にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608	
観音堂	本尊：大日如来ほか。下山にあり	松代町史下	608	

分類	項目	内容	出典	頁
寺院・仏堂	十王堂	本尊：釈迦如来ほか。池之尻居村にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来ほか。清水字居村にあり、現在仏像は改善センターにあり	松代町史下	608
	観音堂	本尊：千手観音菩薩。桐山字小松にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	608
	直指庵	本尊：観世音菩薩。東山字青芋平にあり、産土社へ合祀	松代町史下	608
	中院	本尊：馬頭観音。犬伏字松芋山にあり、現在仏像は地藏堂にあり	松代町史下	608
	堂	本尊：観音菩薩ほか。片桐山字居村にあり、現在仏像の所在は不詳	松代町史下	609
	阿仏堂	本尊：阿弥陀如来。滝沢字清水沢にあり、現在仏像は共同墓地内の堂にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：阿弥陀如来ほか。中子字家浦にあり、廃堂となる	松代町史下	609
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来ほか。芋島字上原にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	609
	堂	本尊：観世音菩薩ほか。寺田字寺坂にあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：観世音菩薩ほか。福島大字百刈にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：観世音菩薩。福島大字上の山にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	609
	松寿院	修験、本尊：毘沙門天。室野字芋平にあり、廃院となる	松代町史下	609
	安入堂	本尊：釈迦如来。室野字安入堂にあり、現在仏像は洞泉寺にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：三十三観音。室野字中通にあり、現在仏像は洞泉院寺にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：阿弥陀如来。竹所にあり、現在仏像は改善センターにあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：観世音菩薩ほか。濁にあり、現在仏像は改善センターにあり	松代町史下	609
	堂	本尊：阿弥陀如来ほか。峠字柱口にあり、現在仏像は公民館にあり	松代町史下	609
	観音堂	本尊：聖観世音菩薩ほか。木和田原字原にあり、現在仏像は開発センターにあり	松代町史下	609
	大照院	本尊：不動明王。木和田原字原にあり、現在仏像は中沢正世家にあり	松代町史下	609
	大蔵寺	真宗大谷派、本尊：阿弥陀如来。浦田字湯之島にあり。往昔、大字天水越の山上大蔵寺原という所に堂宇を建立しありたり。元禄17年、大蔵寺原から移転し、開基僧好縁により真宗大谷派に帰依して大蔵寺と改称せり。松之山町史 886・945 頁にも記載あり	東頸城郡誌	403
	観音寺	曹洞宗、本尊：十一面観世音菩薩。松之山村大字観音寺字深谷にあり。長野県下高井郡塚村常慶院の末寺なり。長禄4年(1460)6月創立。松之山町史 284・873・879・977 頁にも記載あり	東頸城郡誌	448
	陽廣寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。松之山村大字浦田口字中ノ入にあり。松代村長命寺の末寺なり。文安2年創立。鉄造聖観音菩薩立像は鎌倉時代から南北朝時代の特長を表した細美な持仏である。松之山町史 284・873・877 頁にも記載あり	東頸城郡誌	450
	正法寺	曹洞宗、本尊：釈迦牟尼仏。松之山村大字藤倉字高倉にあり。中魚沼郡中屋敷村長福寺の末寺なり。天正元年創立。松之山町史 873・884 頁、川西町史通史編上 411 頁にも記載あり	東頸城郡誌	452
	松陰寺	曹洞宗、本尊：聖観世音。松之山村大字湯山字中島にあり。中魚沼郡外丸村善政院の末寺。寛永7年8月創立。松之山町史 882 頁にも記載あり	東頸城郡誌	455
	善光寺堂	上杉房能公の位牌を納めし善光寺堂が管領塚前にあったが、明治7、8年ころの大雪で倒壊す	東頸城郡誌	487
	不動堂	本尊：銅造地藏菩薩・不動明王。もと天水越集落内にあったが、字滝ノ前に移転。不動堂前の小瀑中には飛騨の工匠の作と伝えられし龍の彫物あり。不動滝は山伏の水垢離修業の場であったが、昭和52年8月の大雨及び地すべりのため決壊した。改修のため堂と多数の石仏が大蔵寺高原の現在地(天水越字アンバ)に移築された。堂に安置されている銅造地藏菩薩立像のうちの1体に「永禄9年(1566)」の紀年銘が刻されている(十日町市指定文化財)。これは山伏によって納められたともいわれている	松之山町史	871 889
	清学寺	真言宗、坪野にあり。明治5年9月15日「修験廃止令」により清学院は真言宗清学院として存続し、昭和23年9月に宗教法人単立清学寺となる。昭和50年住職の死亡により廃寺となる	松之山町史	875
	薬師堂	東川字中屋にあり。境内に「千手院」(修験道)の石碑あり。明治5年9月15日「修験廃止令」により、千手院・大龍院(小谷)・不動院・明王院(湯山)は廃寺となる	松之山町史	875 890
	常照寺	真宗高田派、本尊：阿弥陀如来。松之山町浦田字湯之島にあり。大正12年三重県安芸郡一身町にある真宗高田派本山専修寺境内にあった常照院を移転創立。昭和21年5月常照寺と改称	松之山町史	887
	地藏堂	本尊：延命地藏。橋詰字宮下にあり。天和の検地帳に除地記載あり。昭和6年道路改良のため松芋神社跡地に移築	松之山町史	889
	薬師堂	本尊：薬師瑠璃光如来。湯本字ヒシにあり。創立年月不詳、明治25年焼失、同26年再建	松之山町史	889
	観音堂	本尊：聖観世音菩薩。中尾字鏡ヶ池にあり	松之山町史	889
	観音堂	本尊：子安地藏・不動明王。上鰻池字池之尻にあり	松之山町史	890
	十王堂	本尊：延命地藏菩薩・十王像。黒倉字越道にあり。元禄年間の創立	松之山町史	890
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。水梨村字宮之下にあり	神社寺院明細帳	
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。五十子平村字五十子平にあり	神社寺院明細帳	
	阿弥陀堂	本尊：阿弥陀如来。新山村字土橋にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：地藏仏。天水越村字江尻にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：十王仏。湯山村字南原にあり	神社寺院明細帳	
	十王堂	本尊：閻魔王。藤倉村字宮沢にあり	神社寺院明細帳	
十王堂	本尊：閻魔王。坪野村字西山にあり	神社寺院明細帳		
十王堂	本尊：十王仏。松口村字下原にあり。明治43年、雪により倒壊	神社寺院明細帳		

分類	項目	内容	出典	頁	
寺院・仏堂	大日堂	本尊：大日如来。小谷村字上居村にあり	神社寺院明細帳		
	地藏堂	本尊：地藏菩薩。下鰈池字舞台にあり	神社寺院明細帳		
	地藏堂	本尊：地藏菩薩。大荒戸村字苗代田にあり	神社寺院明細帳		
	薬師堂	本尊：薬師如来。光間村字宮ノ下にあり	神社寺院明細帳		
	仏野巖岩観堂	宝暦3年(1753)8月、1人の僧が岩見堂の中腹にある岩穴に籠り百日の修業中、付近の庄屋衆からこの場所を修業の場として提供されたもの。その絵図と証文が残っている	松之山町史	890	
	その他の松之山の仏堂	「松之山の個人所有の仏堂一覧」「廃仏堂一覧」「修験道一覧」「仏堂本寺所在地一覧」	松之山町史	891	
	三十三観音	黒倉集落入口の旧道沿いと水梨(鳥屋の観音)の2か所にある	松之山町史	933	
仏像	妻在百三十三番札所	妻在百三十三番札所の所在地と御詠歌の一覧表	十日町市史通史編3	337	
	薬師如来坐像(懸仏)	松代会沢の薬師堂にあり、鎌倉期の作と思われる	松代町史下	617	
	銅造阿弥陀如来立像	松代蒲生大字小池字小貫出土、鎌倉期の作と思われる。市指定文化財	松代町史下	618	
	木造十王像附脱衣婆	地藏堂(松代犬伏)の木造十王像附脱衣婆11軀、慶長期の作と考えられる	松代町史下	627	
	韋駄天像	地藏庵(松代犬伏)の韋駄天像	松代町史下	627	
	十王像	地藏庵(松代犬伏)の十王像	松代町史下	628	
	木造菩薩形立像	松代大字桐山の菩薩立像、室町末期の作と考えられる	松代町史下	623	
	木造地藏菩薩立像	大日堂(松代海老)の地藏菩薩立像、一見して江戸時代の作とみるべきであろうが、室町末期の可能性も捨てきれない	松代町史下	624	
	木造聖観音坐像	大日堂(松代海老)の木造聖観音像、慶長期の作。市指定文化財	松代町史下	626	
	濁の厨子と扉	濁にあった観音堂に置かれていたもの、現在は公民館に置かれている	松代町史下	628	
	木造延命地藏	濁にあった観音堂に置かれていたもの、江戸前期の作と考えられる。現在は公民館に置かれている	松代町史下	629	
	内兜のお守り仏	中世武士団の所持品と思われる。松代蓬平若井俊二家蔵	松代町史下	629	
	鑄鉄仏地藏	鑄鉄製の粗製の地藏菩薩であるが戦国時代の様式をよく伝えている。松代蓬平若井俊二家蔵	松代町史下	629	
	木造子救い地藏	十二神社(松代孟地)の木造子救い地藏	松代町史下	630	
	厨子入り三十三体観音	長命寺(松代)の厨子入り三十三体観音、江戸後期の作	松代町史下	633	
	木造不動明王像	松代木和田原の不動明王像、室町末期ころの作か	松代町史下	623	
	マリア観音・マリア地藏	昭和41年秋、高田茂博士により、湯山松陰寺のマリア観音と松之山陽広寺のマリア地藏が発見される	松之山町史	956	
	石仏	石造馬頭観音	菅刈字小丸山にあり。「右つまりみち」「左松芋山道」の刻銘あり。市指定文化財	松代町史上	345
		鳥屋の観音	松之山村大字水梨にあり。海拔3,000尺の丘頂に薬師如来、三十三番の観音等を安置し、往時武田氏領有せし所にして鳥屋城を築きたりと伝え、城名に因みて鳥屋と称す	東頸城郡誌	503
工芸品	薬師堂鰐口	薬師堂(松代会沢)の鰐口、貞享4年(1687)の刻銘あり	松代町史下	632	
	薙刀	荒沢不動堂(松代木和田原)の薙刀、銘「備州住祐定」	松代町史下	631	
彫刻	中世の田楽面	中世の桐材田楽面が田野倉公民館に所蔵されている	松代町史上	350	
織物	アンギン	松之山ではアンギンを「バトウ」という所もある。アンギンは編み布、アンギン帯は織り布に属する。中里村史通史編下818頁、川西町史資料編下517頁、十日町市史通史編1 100・184頁、同市史通史編6 8頁にも記載あり	松之山町史	988	
	苧麻	苧麻は和名を「からむし」といい、その幹の靱皮繊維からとった糸を青苧(あおそ)という。一般には苧(お)と呼び、古くは紵とも書いている。苧麻という植物は、寒冷肥沃な土地を好むので、魚沼地方は適地で、ここから産出された青苧は、近世初頭にいたるまで越後布の素材に利用されるとともに、室町時代には関西地方の麻織物の原料として大量に移出された。同市史通史編1 383頁にも「からむし」の記載あり	十日町市史通史編1	376	
	青苧	松之山の青苧についての記述。松之山町史453頁に、天和3年(1683)の松之山南組31か村の青苧畑面積と漆木の本数一覧掲載あり	松之山町史	316	
		松代地域は青苧の特産地であったこと、松苧神社は青苧の神と崇められた	松代町史上	381	
	カラムシの栽培	青苧は上杉氏にとって極めて重要な財源であった。中里村史通史編上824頁にも「青苧の産出と流通」記載あり。川西町史通史編上474頁、十日町市史通史編2 271頁、同市史通史編6 34、56頁にも記載あり	中里村史通史編上	415	
	女衆は冬の夜なべ仕事に青苧の繊維を細かく裂き、更に口にくわえて湿り気を与えながら長くつないでいく。川西町史資料編下640頁、中里村史通史編下830頁にも記載あり	松代町史下	525		

分類	項目	内容	出典	頁
織物	白越・越布・越後布	『政治要略』の長保元年(999)の法令では、官衙や貴族の家の下働きの者たちが「細美」や「白越」を用いることを禁じている。白越とは越後産の晒布のことで、カラムシを原料とした麻織物のことと解されている。白越はその後、「越布」と呼ばれるようになったらしい 室町時代の記録によれば、武家の式服である素襖・袴の生地は越後布を用いることが幕府によって規定され、僧侶の社会でも、端午の節句に菖蒲帷子と称して越後布を着用する習慣があったことが知られる 越後布は室町時代には武家・公家などの夏物衣料として盛んに用いられたが、このことは見方を変えれば、越後国に越後布の原料である青苧と、それを織り上げる労働力が豊富にあって、優れた越後布が相当量作られていたことを意味している。そして、この越後布及び青苧の主産地は、その後の歴史的な経過を見ると、越後の中でも雪深い魚沼地方とその周辺部であったものとみられる。中里村史通史編上 811 頁、川西町史通史編上 456・851 頁、十日町市史通史編 6 29、37、44、131 頁にも記載あり	中里村史通史編上	411
	松野山布・松山布	越後上布は室町時代には都でその名を「松野山布」「松山布」ともいわれていた	松之山町史	317
	越後上布	「苧麻(山苧、自苧)について」「青苧と長尾家」「青苧と上杉謙信時代」「縮布と徳川時代」「苧の名と地名」「現代の景況」「天保10年ごろの縮布と諸物価の比較」	東頸城郡誌	1,015
	越後縮	越後縮の歴史、原料、紡績、晒法、織法、種類、御召縮、産額、産地と種類について記載あり	中魚沼郡誌下	1,128
		青苧、縮布づくりの工程	松代町史上	505
	縮織の工程	「苧の調製」「糸ごしらえ」「染色及び縞と緋」「イザリバタの仕組み」「機ごしらえ」。十日町市史通史編 6 75 頁に「績麻録と縮の生産工程」記載あり	川西町史資料編下	573
	いざり機	麻織物の素材が大麻から苧麻へ転換するとともに、製織用の織機にも大きな変化が起こった。弥生時代の織機は、アイヌ機のような無機台織機といわれる原始機であった。経巻きから中筒・綜統・布巻きまで水平面に配置され、経糸が水平に張られるので水平機ともいい、綜統は手で操作する構造である。やがて5世紀ごろになると、大陸から綜統を足で動かす新しい機構の織機が導入された。この織機は、中筒から布巻きに向かって経糸が傾斜して張られるので傾斜機といい、織機の部品が機台に据え付けられ、織り手が腰を下ろして居坐って織るので、いざり機と呼ばれた	十日町市史通史編 6	36
	縮市	古来、十日町・小千谷・堀之内の3か所に開設し来たり。開市は堀之内を最初とし小千谷これに次ぎ、最後に十日町においてするの例にて、各市とも10日間を定日とす。嘉永以降は多くは十日町のみにて開市し、他の2市場は名を存するのみ。中里村史通史編上 819 頁、十日町市史通史編 2 25、316 頁、同市史通史編 4 166 頁、同市史通史編 6 81 頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,078
	市場(十日町)	二之町より三之町にわたる間に、東西相対して数十棟の小屋を掛け、柏崎・長岡・小千谷等より呉服を始め雑貨商出張開店して市人の需要に応ず。十日町市史通史編 2 23 頁にも記載あり また秋市というあり、陰暦10月中、2週間の開催とす。これ苧市にして、会津・米沢・小千谷等の商人来りて開店す。郡内の婦女自家用の苧麻を購入す。この市縮布の衰退と共に衰えて今はその跡を絶つに至る。 年の市は、古来12月の10日、15日、20日、25日の4日間をもって開催し来たり。およそ4里方内より各自その生産物を持ち集いてこれを鬻ぎ、所要の物品を購入して帰る。藁帽子・箆是水野町、箆・籠類は神明町など商う品によって場所が決まっている。十日町市史通史編 4 167 頁にも記載あり 太神宮市：正念寺の付近に太神宮の社殿ありて、陰暦正月1日、15日の両日、近隣より参拝するもの多し。故に当日、その付近に多くの小店を張り土産を鬻ぎたり。明治33年の大火で社殿焼失し廢絶す	中魚沼郡誌下	1,103
	上野市	11月15日より7日間、上野村大字上野に開設す。昔は青苧市なりしが縮布の衰微と共に廢れ、呉服・四十物・農産物の市場と変ず。商人は小千谷・柏崎等より来たり、農産物は千手・仙田等より来る。川西町史通史編上 925 頁、同町史通史編下 106 頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,104
	千手市	元馬市にして、起源は永禄・天正の昔にあり。天和のころより7月6日より12日に至る7日間を定日とし、いつのころよりか縮市となりしが、今は雑貨と変じ、8月7日より5日間を定日とす。昔は商人は小千谷・長岡・柏崎・信濃・加賀・越中・奥州等より来集す。川西町史通史編上 913 頁、同町史通史編下 105 頁、十日町市史通史編 2 23 頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,104
	大割野市	明治12年のころ馬市として創設せしものにして、3、4年を経て青苧市となり、幾ばくもなく雑貨販賣組織に変更す。商人は長岡・小千谷・柏崎・与板・見附・十日町・南魚沼郡・飯山などから来る	中魚沼郡誌下	1,105
	秋市	松代には古くから秋市が立った。天保12年の記録に、「毎年11月20日より26日まで市を立て、大小豆・青苧・楮等専ら売買す」とある。夏の観音市と同じく方々から商人が集まった	松代町史下	524
	晒川	この水質国産の縮布を晒すに適す。これを以て古来沿岸一帯晒場たり、川名これより起こる。また茶湯に可なり、故に雅人「金光水」と名づけて茶をたてて詩歌を詠じてこれを賞す	中魚沼郡誌下	1,278
	水沢桑	大正7、8年ごろから一般に販売され始めた。水沢桑は普及されて間もなく、萎縮病といって葉が縮んで小さくなり、枝の発育が悪くついに枯死してしまう病気にかかりやすいことが災いして、広く普及することなく退陣してしまつた	十日町市史通史編 4	440
橘桑	明治後期から昭和初年にかけて新潟県で広く栽培された橘桑は、生産地の橘村の名を採つたものである。十日町市史通史編 4 440 頁にも記載あり	川西町史通史編下	169	

分類	項目	内容	出典	頁
織物	十日町蚕業取締所	明治30年、蚕種検査法の発布に伴い十日町蚕種検査所を設置。同38年、蚕病予防法に改まると蚕病予防事務所と改称、45年1月、蚕糸業法に改まると蚕業取締所に改称	中魚沼郡誌下	1,075
	蚕糸同業組合	明治20年、中魚沼郡蚕糸業組合設立。同27年、重要物産同業組合法に基づき、蚕糸同業組合設立。中里村史通史編下202頁、十日町市史通史編4 155頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,064
	長者原の蚕種小屋	小谷の相沢卯吉が蚕種保存のために使用していたもの。松之山町大字小谷字長者原にあり、自然の地形と雪を利用して作った蚕種小屋。小屋の所在地略図と断面図あり	松之山町史	641
	北越燃糸株式会社	明治27年創立、米國式燃糸器械15台を据え付ける	中魚沼郡誌下	1,076
	貝野製糸組合	明治44年2月、貝野製糸組合設立、同年8月15日製糸工場創業。大正2年組合理事長の高橋直が工場を買い受け、丸五製糸として13年まで営業、同年11月26日丸五製糸株式会社となり昭和5年まで営業する	中里村史通史編下	241
	松代製糸(株)	東頸城郡最初の製糸工場として松代の池田地内に明治40年6月発足。50釜で操業開始したが、やがて100釜で操業するようになった。大正3年株式会社を解散し松代製糸組合を組織するが、5年8月の火災により解散する	松代町史下	103
	繭市場	大正12年、十日町に繭市場の建物が建設され、川西・大割野に出張所を設け、郡内の繭の売買はほとんど公設市場で取り扱われるようになった。十日町市史通史編4 437頁、同市史通史編5 45頁にも記載あり	中里村史通史編下	361
		松代における繭市場は大正10年7月10日、大字松代字トドメキに開設、昭和6年県の統制下に入り、戦後は東頸城郡養蚕連合会へ移譲、昭和43年8月中魚沼郡十日町製糸会社に合併した	松代町史下	280
	黒姫講	文久元年(1861)に織物業者が初めて結成した同業者団体である黒姫講は、当初14名の講員で発足したといわれている	十日町市史通史編6	219
	十日町織物同業組合	明治22年、旬街織物協会創立、24年、十日町機業改良組合と改称、32年、範囲を拡張し中魚沼郡織物同業組合に改めるが、後に十日町織物同業組合と改称す。工場表(工場名称・創立年月・主要製品・従事者数など)の掲載あり。十日町市史通史編6 219頁にも「旬街織物協会」「機業改良組合」「織物同業組合の設立」記載あり。昭和15年3月、解散。同市史通史編6 328頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,152
	十日町織物工業組合	昭和6年に同業組合法が廃止されて、新しく共同事業を目指す工業組合法が制定された。十日町産地では織物の改良発達を図るために共同施設を行うことを目的とする十日町織物工業組合を10年8月に設立した。19年8月、統制組合法施行により十日町織物繊維工業施設組合に改組。22年2月、商工協同組合法施行により十日町織物工業協同組合に改組。24年9月、中小企業等協同組合法による十日町地区だけの新組合設立準備を進め、12月には小千谷・塩沢が独立して独自の協同組合を結成した。十日町市史通史編6 350・368頁にも記載あり	十日町市史通史編6	326
	東頸城郡染織組合	郡農会主催者となり染織講習会を開催して斯業の普及を促し、明治35年染織組合を設立、東頸城郡役所に置いた組合事務所を大正2年に松之山に移転(松之山町史673頁)	東頸城郡誌	1,057
	上郷織物 (南部織物)	中里地域の織物は戦前には津南地区と合わせて「上郷織物」といわれ、戦後も「南部織物」と呼ばれて、良心的な製品の産地として知られてきた。中里地域には岡民工場・山保工場・鈴富工場・保熊工場・山根工場など戦前からの長い歴史を持ったメーカーが少なくないが、特に倉俣地区出身の業者が多かった	中里村史通史編下	588
	松之山燃糸株式会社	大正14年10月、松之山燃糸株式会社結成し松之山村内40余の機屋を企業化する。約4年で解散し、十日町織物組合松之山小組合となる。昭和14年、松之山絹織物工業組合となり、同16年8月19日、松之山織物工業小組合に譲渡。大正から昭和15年ころまでの織物工場と経営者の一覧あり	松之山町史	678
	栄養食共同配給組合	織物工業組合の設立による最初の共同事業として、昭和12年2月に全県下の産地に率先して十日町栄養食共同配給組合が発足した	十日町市史通史編6	327
	十日町輸出絹燃会社	昭和23年には十日町産地全体の広幅織機の設備は、戦前の3倍に及ぶ660台にまで復元した。しかし、織りの準備設備の燃糸機は転廃業のため戦前の20%まで縮小され、不足は甚だしいものがあつた。23年8月28日、十日町輸出絹燃会社の創立総会を行い、24年3月から操業を開始した	十日町市史通史編6	348
	十日町小唄	昭和4年、作詞永井白淵、作曲中山晋平による十日町小唄が誕生。「明石ちぢみの十日町」の名声を全国に普及する大きな力となった。十日町市史通史編6 438頁に「十日町小唄歌碑建立」の記載あり	十日町市史通史編6	298
	十日町織物工場歌	昭和14年7月、作詞宮川嫩葉(どんよう)、作曲中山晋平による「十日町織物工場歌」がつくられた	十日町市史通史編6	325
	文平織	明治27年、千手町村丸山文平が10種の本綿織物を発明し、文平織として特許を取得す。その後、壁織と称する輸出品を発明する。川西町史通史編下176頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	1,152
	明石ちぢみ	大正時代の十日町地の主力製品は、これまでの紹・紗・壁織に加えて、飛躍的に生産を伸ばした明石ちぢみを中心とした絹織物の夏物が主体であった。十日町市史通史編6 297・303頁にも記載あり	十日町市史通史編6	247
意匠白生地	昭和初年を迎えて、産地多年の悲願である冬物開拓への道は、京都の白生地問屋によって指導された意匠白生地の誕生によって実を結び、予想外の方角へ転進していった。明石ちぢみの伝統と御召・銘仙開発による貴重な経験を積み、高度の燃糸応用の繊細な絹織技術と精巧なジャカード織技術と意匠の妙がマッチして、初めて白生地縫取縮緬が時代の要望にこたえて花が開いたのである。十日町市史通史編6 409頁にも記載あり	十日町市史通史編6	309	

分類	項目	内容	出典	頁
織物	ベルベット	昭和25年6月から28年8月停戦までの3年間にわたって、隣国朝鮮では南北の激しい戦闘が行われ大きな被害を受けたが、日本では特需景気を受け、敗戦の痛手から立ち直った。その間に最も光彩を放った織物にシフォンベルベットがある。人絹との交織で、広巾29インチと36インチの起毛した広巾パイル織物で、十日町産地の主力製品となった	十日町市史通史編6	381
	マジヨリカお召	昭和34年、戦後復興を軌道に乗せた十日町産地に彗星のごとく登場し、全国のきもの業界の話題となって、数年の生命で消えたマジヨリカお召が誕生した。地中海のスペイン領マジョルカ島に産出される豊かな彩色のラスターと呼ばれる金属光沢で有名なマジヨリカ陶器から連想してこの織物は命名された。マジヨリカお召とは、模様捺染の緯緋、後に経緋とジャカード紋織の両者の特技を組み合わせて、金属光沢のラメを織り込むという斬新なアイデアで、実用新案特許となった華麗なお召である。37年に十日町の量産型のタテマジヨリカと桐生・米沢とで生産する交織・値ごろ品の滞貨が増大し、10月にはマジヨリカ会で5割減産を決議する苦境に追い込まれた。十日町市史通史編6 455頁にも記載あり	十日町市史通史編6	418
	黒絵羽織	昭和37年、マジヨリカが5割減産に追い込まれたときに登場したのが黒絵羽織であり、その後、十数年にわたりヒット商品としてその名声を全国にとどろかせた。黒絵羽織は44年に単品で最高の110万枚の生産を記録し、実に産地総生産の41%を占めた。黒絵羽織は誕生以来20年間にわたり1,100万点が生産され、1,800億円の圧倒的な売り上げを達成し、産地最大のヒット商品となった。そして、この黒絵羽織のヒットが、十日町産地が本格的な染呉服生産へ踏み出していく決定的な契機となった。十日町市史通史編6 477頁にも記載あり	十日町市史通史編6	454
	友禅中振袖	本格的な中振袖の生産は、昭和39年東京オリンピックの開会式の演出で、華やかな振袖のコンパニオンがテレビで全国に報道され、その美しさに衝撃を受け感動したことからはじまる。間もなく戦後のベビーブームに生まれた世代が成人式を迎え、その後のブライダル人口をもターゲットにしたフォーマルの中振袖の有望性は、市場調査の結果完全に計算できた。十日町産地での中振袖のスタートは、睦が白生地に裾ぼかしを行い、華やかな金銀糸で刺繍して草花模様の打ち掛けを長振袖に作って好評を博したことからはじまる。その後、エドヤが白地にワインカラーの濃淡で桐の文様のロウセキ出しの技術で、本格的な型友禅中振袖を創作したことからはじまる。十日町市史通史編6 472・478頁にも記載あり	十日町市史通史編6	461
紙漉き	仙田和紙	仙田紙は小国紙とともに江戸時代には近郷一帯で広く知られていた。仙田村は川西郷唯一の和紙生産村であった。川西町史通史編下179頁にも記載あり	川西町史通史編上	880
	紙漉き	中里における紙漉きについて。田代・貝野で生産された和紙は秋成村の商人の手を経て反里口紙として流通した。中里村史通史編下226頁、川西町史資料編下582頁にも記載あり	中里村史通史編上	842
	伊沢紙	松代の紙漉きについて。松代町史下104、526頁にも記載あり。中里村史通史編下226頁には「仙田村で生産された和紙は伊沢紙又は小国紙の名で販売され、仙田紙の名はあまり知られていない」と記載あり	松代町史上	517
芸能	十日町地域	神楽：赤倉神楽（市指定文化財）、北鑑坂神楽 労作唄：田植え歌、米搗き唄、餅搗き唄、酒屋唄、石場かち（市指定文化財）、だいもち唄、木挽き唄、船歌、追分 祝い唄：天神ばやし、松坂、祭文松坂 踊り唄：甚句、三階節、大の坂（市指定文化財）、鳥踊り、よいやな、よいやさ、法界節、べート踊り、新保広大寺（市指定文化財）、踊りおけさ、はねおけさ、細か広大寺 中魚沼郡誌下1,444頁にも記載あり	十日町市史通史編8	756 814
	川西地域	田打謡（天神ばやし）、石場かち謡、三階節、甚句、だいのしゃか（大の釈迦）、おけさ、伊勢音頭、松坂、松前、追分、露香（市指定文化財）、都々々、志げさ、酒田節、広大寺節、壁ぬりおけさ、石投げ甚句、よいやらさ、笠おどり、国一節	川西町史資料編下 川西町史通史編下	799 409
	松代地域	松坂、天神ばやし、酒造り唄、広大寺、嫁送り唄、嫁寝唄、よしよし、甚句、ショングイナ、ヨウヨサ、上げ音頭、室野神楽（市指定文化財）、芋島神楽（市指定文化財）	松代町史下	534 636
	松之山地域	藤倉神楽、天水越神楽、中尾面神楽、天水島神楽、湯山太鼓神楽、石場かち、上げ音頭、湯山甚句、越後松坂、よいやさ	松之山町史	972 1,073
年中行事	若水汲み	1月1日、若水を汲みて盥嗽し、神棚・仏壇に灯火を捧げ礼拝す。中里村史通史編下1224頁、十日町市史資料編8 655頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	857
	若宮参り	1月1日、若水汲みのあと、家内打ち揃って産土神をはじめ村内の神社仏宇を詣でる。これを若宮参りと称す。中里村史通史編下1224頁、川西町史資料編下723頁、十日町市史資料編8 655頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	858
	初ジロ	1月1日、新しい縄に取り替えた自在鉤に若水を入れた鍋を掛け、火打石で点火して沸かした。マメになるようにと豆木を燃やしたりする	十日町市史資料編8	655
	裸参り	1月1日、年男や若者は裸になり頭から水をかぶって身を清め、禪にしめ縄を巻き、わらぐつをはいて裸姿で鎮守様にお参りする者もあった	松代町史下	515
	歯堅め	1月1日、若宮参りのあと、家に帰って歯堅めと称し勝栗などを食べ茶を喫す。次に雑煮餅を喫す。松代町史下515頁、中里村史通史編下1225頁、川西町史資料編下723頁、十日町市史資料編8 656頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	858
	イザナキ	1月1日、雑煮を食べ終わると、イザナキと呼ぶ行事がある。ツノボンという、クシガキ・栗・昆布で結んだアカマツの小枝と3つ重ねたフクデを載せたお盆を、正座した家族の1人ひとりに主人がイザナカ（頭の上に頂か）せる。これで、めいめいが1つずつ年を取ったことになる。川西町史資料編下722頁にも記載あり	中里村史通史編下	1,225

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	書初め	2日の朝するもあれど、多くは元旦をもって例とす。児童の試筆は明治初年のころまでは賽の神とともに焼きたるものなりし	中魚沼郡誌下	858
	回礼	1月1日、まず本家、その他常に愛顧を受ける家を訪い新正を賀し旧歳の厚情を謝す。それより戸毎に賀詞を述べて回る。今は便を計りて一所に会して賀詞を交わす。中里村史通史編下1226頁、川西町史資料編下724頁、十日町市史資料編8 656頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	858
		1月1日、軒に注連縄を張り松飾を立て、屠蘇を酌み雑煮に腹ふくらし、菩提寺を始め一族知人へ年賀の礼に回るなり。松之山町史1017頁、松代町史下515頁にも「年始まわり」の記載あり	東頸城郡誌	525
	仕事始め	1月2日、未明に起床し、藁を打ち種々の藁細工をなして恵比寿の神棚に捧げる。女は縮布の盛んなりしころは、芋を績みたり。松代町史下515頁、中里村史通史編下1227頁、川西町史資料編下724頁、十日町市史資料編8 656頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	858
		1月2日、文筆を弄するものは試筆をなし、農家は藁を打ち縄を緋い、商家は初荷初売りをなし、地方よりは買初めとて都会に出ず。松之山町史1017頁、松代町史下515頁にも記載あり	東頸城郡誌	525
	蔵開き	除夜に鎖したる戸前を2日に初めて開く。鍵を開き携えた酒肴を大國主命に供し、小宴をなして帰る	中魚沼郡誌下	859
	寺年始	1月2日、白米1升到重餅を持参するを通例とす。松代町史下515頁、中里村史通史編下1227頁、川西町史資料編下725頁、十日町市史資料編8 657頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	859
	ババネンシ	1月2日か3日のころ、ババネンシも行われる。子供たちが、自分を取り上げてくれたトラゲバサのもとへ、年賀の挨拶に向かうものである	中里村史通史編下	1,228
	竈祭・釜神様	1月3日、夕食に小さき握り飯6個を作り、これに真っ直ぐな棒を3本、頭を1寸ばかり折り曲げた棒を3本挿し、竈に供して点灯す、これを竈祭という。中里村史通史編下1228頁、川西町史資料編下725頁、十日町市史資料編8 657頁にも「カマガンサマノトシトリ」の記載あり	中魚沼郡誌下	859
		1月3日にする所と4日にする所がある。かまどにかけてある釜のふたの上に13個のむすびを膳に入れて載せ、豆がらの棒を立てて供え、火の用心を祈願した	松代町史下	515
	婦人年始	1月3日、村中の婦人あるいは新婚の婦人、その美を飾りて村中の親戚及び主家へ年賀の礼に詣でるなり	東頸城郡誌	525
	四日坊主	1月4日、四日坊主とて近隣の僧侶緇衣を被りて年賀に回礼す。川西町史資料編下725頁に「もるもる」（寺方の檀家回り）の記述あり	東頸城郡誌	525
	七種	1月7日の朝、小豆粥に餅を入れたるを煮て、七種粥に代える。この日塩水を撒布する者あり。邪を拂い家を清むるの意なるべし。中里村史通史編下1230頁に「ナノクサショウグツ」、川西町史資料編下726頁に「七草」、十日町市史資料編8 658頁に「七日正月」の記載あり	中魚沼郡誌下	860
		1月7日、古来七種の節句と称し、七種の野菜を交えたる雑炊を啜るを例とせしが、今は唯名のみ存せり。松之山町史1017頁に「七草粥」、松代町史下516頁に「七草」の記載あり	東頸城郡誌	525
	年始呼び	新年の初めにおいて親戚知己出入の者等を招き饗する者あり。これを年始呼または節饗という。中里村史通史編下1228頁、川西町史資料編下724頁、十日町市史資料編8 658頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	860
	ハルヒマチ	1月7日は、テンイチジン（天一神）という厄神が、家々の悪口を記した帳面を持って天に昇り、天の神様にそれらを告げる日だとされている。それで、前日のうちからボンサマまたは修験者を招き、ムラのソーデー宅に泊まってヤクジンヨケの祈祷をしてもらう。そして7日の早朝、ムラの各戸を回ってもらい、読経をしてもらう。これは年に2回繰り返されるヒマチ行事の1回目のもので、ハルヒマチといい、お札も配ってもらう。この日の夜には、コーシンゾトメをした。オカネサマ（青面金剛童子）にテンイチジンの帳面を奪ってきてもらい、それを15日のドーラクジンヤキで焼いてしまうために、庚申講中ごとに集まって、オカネサマノシンゴンを唱える行事である。十日町市史資料編8 658頁に「荒神日待ち」記載あり	中里村史通史編下	1,229
セッキイチ	十日町の町方に立つセッキイチは、近郷近在の農家の人々が、冬籠りのセッキンゴトに作り上げた種々の日用品を持ち出して商う、1月の雪上市である。文化2年（1805）の記録によれば、12月の5と10の日に立つ六斎市とある。ただし、よほど前から、市日は2日を減じて、1月の10日・15日・20日・25日の4回となっている。最初と最後の市日を、それぞれハツイチ・シメイチと呼ぶ。市に並んだあまたの商品の中でも、村域にほとんど産しなかったツケギは、だれもが求めてくる生活の必需品であった。自ら生産して売りに行った品々としては、新屋敷のザル、桂と藤原新田のゴザ、高道山・如来寺・上山のミノなどがある。こうした物を作って売りに出ることを、藤原新田ではイチカセギといていた。市場でひさがれる品々をイチモン、イチモンを売る人々や買う人々をイチドと称する。同種のイチモンを商うイチドたちは、大体一定の場所に固まって並んでいた	中里村史通史編下	852	
十一日正月	1月11日朝、小豆がゆを炊いて神々に供える。以前は正月の注連飾りを外し、ドンド焼きをこの日するところ（田戸）もあった。また、「帳祝い」といって、この日大福帳を作るものともされていた。十日町市史資料編8 658頁にも「十一日正月・蔵開き」の記載あり	川西町史資料編下	726	

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	若木の迎え	1月11日朝、餅粥を食す。若木の迎えと称し、三角に切りたる餅に米塩引きを添えて山に持ち行き、適宜の場所にて携えた鉦を雪に立て、木の枝をその前方両側に立て、その内方に餅、米、塩引きを供えて山の神を祀る。その後、豆団子を挿す木を伐採して持ち帰る。伐採する木は所有者の誰たるを問わず。伐採してきた木の元で道祖神を作り、紙の着物を着せて床の間に飾り置く。また割札を作り、これに12月と書いて家の口々の両側に立て置く。これは悪魔を避ける呪法なり。松之山町史1018頁、松代町史下516頁、中里村史通史編下1069、1230頁、川西町史資料編下727頁、十日町市史資料編8 659頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	860
	蔵開き	1月11日。歳末には1年の収穫を蔵の内に納め、新年早々出すを忌みて堅く閉じおき、当日初めて開き用うるなり。松之山町史1017頁、松代町史下516頁にも記載あり	東頸城郡誌	526
	豆団子	1月12日または13日に米の粉で豆団子とて種々農作物に擬して作りこれを蒸し、11日に伐採してきた若木の枝に挿す。また稲穂とて藁の芯に豆大の餅を丸めて貫き、これに掛ける。なお色煎餅を吊るすものもある。これを台所の隅等に掲げ置き、17日の朝、これを取り払う。松之山町史1018頁にも「花餅飾り」として、中里村史通史編下1231頁にも「サッカザリ（作飾り）」、川西町史資料編下727頁に「餅つきと団子飾り」、十日町市史資料編8 659頁に「作飾り」の記載あり	中魚沼郡誌下	861
	鳥追い・バイト	1月14日の昼間に鳥追堂を作り、その夜、児童相集いその中で飲食後、拍子木を打って鳥追謡を歌いつつ練り歩く。隣村と追い争うことあり、勝てる方は豊穰の兆しとして喜ぶ。松之山町史1018頁にも記載あり。兎口の十二神社には「鳥追い地蔵」が安置されている。松代町史下516頁、中里村史通史編下1231頁、川西町史資料編下729頁（大白倉のバイト）、十日町市史資料編8 660頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	861
	小年・小年取り	1月14日を小年という。翌日はいわゆる上元にて元日同様に祝賀するを以て、前年の歳除を大年というに倣いたるなり。川西町史資料編下728頁にも記載あり	東頸城郡誌	526
		小正月は小年ともいい、14日の夜か15日の昼ごろに、31日の大晦日あるいは元日の昼の年取りと同じように膳が並べられ、再び年取りが行われる	十日町市史資料編8	662
	十二月様	1月14日には小正月に訪れる魔物や疫病神を退治するために、戸や窓に「十二月大吉日☆」と書いた張り紙をし、魔除けとする	松之山町史	1,018
	(モグラ追い)	1月15日未明に児童、下男等が横槌の柄に縄を結び「鼯鼠（もぐらもち）はどけどけ横槌どんの御通りだ」と唱えつつ家屋、土蔵の周囲を引きまわる。松之山町史1019頁、中里村史通史編下1233頁、川西町史資料編下731頁、十日町市史資料編8 661頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	863
	(成り木責め)	1月15日、果樹の実らぬものは、この朝2人にて鉦と餅粥を持ちゆき、甲が声荒く「なるかならぬか、ならぬとたたきるぞ」といいつつ鉦を振って切り付けられ、乙は木に代わりて「なるからゆるしてくれ」という。かくして切り口に餅粥を詰めて帰る。その年は必ず実ると迷信す。松之山町史1019頁、川西町史資料編下732頁、十日町市史資料編8 661頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	863
	口祝い・孕箸	1月15日、朝食前に昆布を少しずつ摘み切りて食う。これを口祝いという。朝食は餅粥を食う。これに用いる箸は栗の木を割り、両端を細く中程を太く削って作る。これを孕箸と称する	中魚沼郡誌下	863
	ジョーゴンチレー	白羽毛では、1月15日の朝にはジョーゴンチレーが行われる。分家の主人が本家に年始に来るものであるが、オーショークッツとは違って、ただ1軒、その直接の本家へ行けばそれで終わる。本家では、これに答礼しない	中里村史通史編下	1,234
	サイの神・どんど焼き	1月15日、神飾りの松、注連縄その他を取り払い、これを集めて青竹と松を立て、これに松飾、注連縄等を纏い書初めの清書、道祖神を結び付け、竿の頭には紙を細く長く切りのぼしたるを吊るして火を移し焼く。中里村史通史編下1234頁、川西町史資料編下733頁にも「ドーラクジンヤキ」、十日町市史資料編8 661頁にも「サイの神・ドウラク神」の記載あり	中魚沼郡誌下	863
		1月15日、各家の門松・七五三縄・書初などを集めてこれを焼く。朝は小豆粥を食い、その一部を柿・桃の木に与えて結実を祈れり。苗代祝とて鳥を追い、地鼠を掘るに擬し板を叩きて鳥追歌を歌うも、払曉に行うを例とせり。松之山町史1019頁、松代町史下516頁にも記載あり	東頸城郡誌	526
	スミ塗り	1月15日、松之山温泉の湯本に伝わる小正月行事。塞の神の灰と雪を混ぜた墨を、「おめでとう」と言いながらお互いの顔に塗りつけて回る。市指定文化財	松之山町史	974
	予祝演技	大白倉などでは、1月15日の早朝にワラ仕事をし、そのとき「かっじき散らかし」といって、ワラを家中にまき散らす。田に刈り敷きの草や堆肥を撒布する意味である。また、「田の草取り」だといって、家の中を何度も掃き出したり、1人が馬の役を務め、1人が鼻取りをして「田掻き」を演じたり、大きくふくらんだ稲の穂の姿を真似る人と、それを喜んでほめ言葉という人など、豊作を願うさまざまな予祝演技が行われた。十日町市史資料編8 660頁にも記載あり	川西町史資料編下	733
	田植祝い	田植祝いとて1月15日の朝には多くの小豆粥を残しおき、この朝これを食するなり。粥上の亀裂有無を見て当年の水災早魃を卜すという	東頸城郡誌	527
	道具の年取り	金物の年取りともいう。1月15日の朝、箕の中または臼の上に、鉦や鎌などの道具類を並べ、供え物をして灯明をあげる	川西町史資料編下	733
ねぶつ除け	1月15日の朝は、家の主人より先に便所へ行くとねぶつ（根太）ができるようになって禁じられていた。がまんにならないときは、箒を持って便所の中を叩いて回りながら、「ねんぶつはれものどっか行け」と唱えて、ねぶつ除けをした	川西町史資料編下	733	

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	婦人の正月	1月16日、仏祭と称えて精進料理なり。この日は婦人の正月とて婦人は休み、食事の一切を男子の手に料理するところあり。中里村史通史編下1235頁に白羽毛の15日の行事として「オンナシヨノシヨウグツツ」の記載あり。川西町史資料編下735頁、十日町市史資料編8 663頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	864
	ホツケサマノシヨウグツツ	白羽毛では、1月16日はホツケサマノシヨウグツツである。饅頭を打ち、ホツケサマノニナワと称して仏前に供える。朝食後、家族が揃ってオハカメーリに出掛ける(15日に、お墓があると思われる場所に雪で祭壇を作っておく)。帰ると、自分のマキとムラにある親類の家々のホツケサマメーリをしてあるく。十日町市史資料編8 663頁にも記載あり	中里村史通史編下	1,235
	マメオトシ	白羽毛では、1月17日にマメオトシを行う。家族一同して、サクギに刺してあるマメダマその他を抜き取る。これらは保存しておき、焼いて子供のヒリョー(おやつ)に与える。イナボヤアワボは、マメイリ(炒り豆)をする時に混ぜ、炒って食べる。川西町史資料編下735頁にも記載あり	中里村史通史編下	1,236
	婿投げ	江戸時代から天水越に伝わる小正月行事で藪入りの翌日17日朝に行われていたが、現在は15日に行っている。村の娘を嫁にもらった他村の婿が藪入りで嫁の家に泊まりにくるとこの洗礼を受けた。松之山町史1020頁にも記載あり。市指定文化財	松之山町史	974
	十八がゆ	1月15日の朝炊いた小豆がゆを残しておいて、18日の朝に食べる。これを食べると、夏蜂に刺されないとか、中風にならないといった。十日町市史資料編8 663頁も記載あり	川西町史資料編下	735
	二十日正月	1月20日、二十日正月と称え、若木を焚き餅粥を煮て食う。二十日灸とて灸を据えるものあり。この夜、えびす神へ膳を供える。松之山町史1020頁、松代町史下517頁、中里村史通史編下1236頁、川西町史資料編下735頁、十日町市史資料編8 663頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	864
	ヨーベッサマノトシトリ	白羽毛では、1月20日はヨーベッサマノトシトリでもある。正月に食べたアジの頭やナカツギ(背骨)を、コンマキ(昆布巻き)にして食べるため、コンマキシヨウグツツの別名がある。この日は、いかなることがあっても、現金を家から出してはならない	中里村史通史編下	1,236
	天神祭	1月25日、学神北野神社の祭日なれば、学童は菅公の像に供えし御酒をいただき、蜜柑を下物とし餅を食う。松之山町史1020頁にも「天神講」の記載あり	東頸城郡誌	527
		毎月1日、15日、28日を三ヶ日と称し、業を休みて苦勞を慰せり	東頸城郡誌	527
	喉くびり団子	1月30日夕食に団子汁を調して婢僕を饗す。俗にこれを「喉くびり団子」と称す。中里村史通史編下1237頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	つじょう団子	1月31日または2月1日は小正月の神飾り、団子飾りを取り払って「つじょう団子」を供えて正月様を送った	松之山町史	1,020
	ミソカシヨウグツツ	白羽毛では、1月31日はミソカシヨウグツツで、午後からはギョージャツトメが催される。その年のソーデー宅に、ムラの全戸の主人たちが集い、沐浴し、般若心経10クワンを読み、「南無行者神変大菩薩」と唱えて、礼拝を12回繰り返す。あとはお茶を飲むだけで散会する。ギョージャサマというのは役行者のことで、カワヨケノカンサマとして信仰されている。十日町市史資料編8 664頁にも記載あり	中里村史通史編下	1,237
	(出替一日)	2月1日、「出替」と称し婢僕等被雇者の交替日となす。去る者は朝に辞し、入る者は正午までに来るを例とし、昼食に蕎麦切を饗す。これを「繋蕎麦」と称す。川西町史資料編下735頁、十日町市史資料編8 665頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	いんのご朔日	2月1日を正月様送りともいい、この日、正月様は十二支の動物に守られながら高い所に帰る。また、十二支の動物を団子粉でつくって長押の所に並べたりした	十日町市史資料編8	665
	ひとへ正月	2月1日、「ひとへ」は一阻(へだて)の義にて正月と一夜を隔つ、故に正月の名残として遊ぶなり。この日は団子を作りて祝う。婢僕は本年初めて主家に行き業を執るなり。これを厭て縊死するものありしより、頸縊団子と言えり。村中の戸主を庄屋宅に呼び寄せ、五人組の法度を読み聞かせ、かつ本年中の村政計画を定むるを例となす	東頸城郡誌	527
	シヨウグツツオサメ	白羽毛では、2月1日の朝には、下げたフクデを焼いて、ミソツケを添えて食べる。モチノハコバタキだという。正月中は、ミソツケルことがないようにと縁起を担ぎ、ミソツケを食べない。また、ツケナといえはノザワナの塩漬けを指すが、これも「菜食う」が「泣く」に通ずるというので、正月中は食さず、2月1日になって初めて食膳に出し始めた。アツキケの昼食が終わると、シヨウグツツノカンサマを鎮守様へ送ってゆく	中里村史通史編下	1,237
	節分	寒の終了日とす。炒りたる豆を柵に盛り、「福は内、鬼は外」と唱えつつ家内を撒きまわす。松之山町史1020頁、松代町史下517頁、中里村史通史編下1238頁、川西町史資料編下736頁、十日町市史資料編8 665頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	十二月吉日	節分の日の朝、飛渡など山あいの地区では、豆木やヨシの棒に十二月吉日と紙に書いて玄関先に吊るし、鬼や魔物の侵入を防ぎ、さらにニシンやヤキボシの頭を焼いて串に刺し、入口の所に立てて鬼除け、魔除けにした。これをヤイカガシと呼んでいる。この日を伊達では節分正月ともいった	十日町市史資料編8	665
	初午	2月最初の午の日をもって稲荷社を祭るなり。学童はこの朝、神号を記した小旗を稲荷社に捧ぐ。また稲荷を祭る家には神職を請じて湯立等をなし、小豆飯に蝦・金頭等を添えて神に供し、自らも食うなり。松之山町史1020頁、中里村史通史編下1240頁、川西町史資料編下736頁、十日町市史資料編8 666頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	イナリサマノイチ	桔梗原の田開稲荷神社のイナリサマツリにも、最近まで雪上の祭札市がそのオニワに立っていた。小規模ながらも、村内唯一の冬季の定期市で、イナリサマノイチといった。田開稲荷は、サクガンサマとしてはもちろん、カイコガンサマとしても、セギンタハチカソン（高道山・通り山・荒屋・田中・干溝・小原・桂・藤原新田）の範囲を遙かに超える広い信仰圏を持つに至っていた。もとの市日は、旧暦2月の初午の日で、遠近のムラムラからのマイリド（参詣者）の数も夥しかった	中里村史通史編下	860
	事始め	2月8日、事始めと称し、小豆団子を調して田の神に供える。田の神は師走8日に去りて、この日再び来臨せらるるとぞ。中里村史通史編下1238頁、川西町史資料編下736頁、十日町市史資料編8 666頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	山の神の祭り	2月9日、農稼の害をなす獣類を山神が狩り殺すとの義なり	東頸城郡誌	527
	十二講	2月12日、十二講と称え、山の神を祭る。弓1張、矢3筋を作り、郊外に出て山に向かい「十二山の神」と唱えて矢を射て帰る。小豆飯を調して供える。松之山町史1020頁、松代町史下517頁、中里村史通史編下1067頁、1239頁、川西町史資料編下736頁、十日町市史資料編8 666・701頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	涅槃会	2月15日、涅槃会とて寺院に賽す。寺院にては団子を撒し、賽者これを拾って帰り家人に分かつ。これを食えば悪疫を避け、また身に付ければマムシ等に噛まれることなしという。東頸城郡誌528頁、松代町史下517頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	865
	天神講	2月25日、天神講とて菅原道真公を祭るなり。学童は公の画像を床の間に掛け、茶、豆炒等を供える。中里村史通史編下1240頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	866
	かかの節句	3月2日の晩を室島ではかか（嬢）の節句といった。3日の朝餅をついて食べ、そのあと嬢たちは「花見」といって、山へマンサクの花を見に餅を持って出かけた。「女の節句」は月遅れの新暦4月3日にするところが多く、餅をついて祝い、若夫婦は嫁の実家へ春泊りに行く習わしであった	川西町史資料編下	737
	桃の節句	3月3日、雛飾りをする家も多かりしが、今はほとんどなし。餅のみ旧慣により調して食うもの多し。新夫婦は入籍者の実家に行きて宿す	中魚沼郡誌下	866
		3月3日、女兒は雛飾りをなして互いに往来遊嬉し、かつ蓬餅を馳走す。松之山町史1021頁にも記載あり	東頸城郡誌	528
	サンヨ	3月3日、毘沙門天の押し合い祭りが、3月3日に十日町の聖衆院（昭和24年からは来迎寺で開催）と新座の大慶院で行われる	十日町市史資料編8	667
	団子まき	3月15日は釈迦の涅槃の日であり、お寺やお堂で法要が営まれ団子まきをする。この団子を食うと風邪をひかない、蛇やマムシに食いつかれぬなどという。川西町史資料編下736頁、十日町市史資料編8 667頁にも記載あり	松之山町史	1,021
	ミソツキ	白羽毛では、彼岸の時分には、ミソツキが決まりの仕事である。ミソダマを臼の中でタテギネで搗き潰してから、味噌桶に仕込む。その麴を入手したついでにアマサケも造るので、ミソツキの日には、近所の老人や子供たちをアマサケノミに招く	中里村史通史編下	1,241
	春の彼岸	彼岸の入り口の日かその前日に、墓ごしらえと云って墓地の所に雪の墓を作る。入り口の夕方には、迎え火のワラを焚き、中日にはぼた餅を供えて親戚や近隣の仏様参りに歩き、立ち日には送り火を焚いた。中魚沼郡誌下866頁、十日町市史資料編8 668頁、松代町史下517頁、中里村史通史編下1241頁にも記載あり	川西町史資料編下	737
	灌仏会	4月8日、釈尊の誕生日なり、寺院にては堂内に釈迦の像を安置し、賽者は柄杓で甘茶を汲んで仏頂に灌ぐ。東頸城郡誌528頁にも記載あり。十日町市史資料編8 669頁には「シンガツ八日」として記載あり	中魚沼郡誌下	866
	山遊び	中条地区や上新田では、山遊びという風習があった。すしや煮つけの御馳走を重箱に詰め、近くの山の土がまだらに出ている所へ行き、みんなで食べて遊んできた	十日町市史資料編8	668
	春祭り	4月26・27日は十日町の諏訪神社の春祭りで、近郷からたくさんの方が集まり、出店が延々と道路の両側に並び、町中は大変にぎわった	十日町市史資料編8	669
	七つ参り	5月8日、七つ参りは松代・松之山だけでなく中魚沼郡や刈羽郡の一部までその慣習がひろまっていたという。七つ参りに関する記録はないが、真言密教の修験道場としても松茸神社並びにその神域が信者には聖域とあがめられてきた。修験者にとっては春の雪解けの時節がお山開きであり、7歳を機にお山登りをさせたその伝統が、今日の5月8日の七つ参りになったことは充分考えられることである。松代町史下519頁にも記載あり	松代町史上	545
	端午の節句	6月4日の夕方、菖蒲と蓬を家のロウの廂等に挿し、また菖蒲と蓬を入れて沸かした風呂に浴す。これ夏日山に入りて毒虫の害を除くまじないなりという。粽を調して食す。5日の好晴を願い、6日の降雨を望む。これ豊穰の徴なりという（中魚沼郡誌では5月の行事）。中里村史通史編下1244頁、川西町史資料編下738頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	867
		6月5日、笹粽を作り、菖蒲湯に浴すを例とす。松之山町史1021頁にも「男の節供」の記載あり。菖蒲湯に入ると蛇やマムシなどにかまれないという。松代町史下517頁にも記載あり	東頸城郡誌	528
	ヨモギショウブ	6月5・6日は男の節供といい、ヨモギ・ショウブで魔除けや邪気払いをする行事が各地で行われる。軒先や戸口などに、ヨモギとショウブを束ねて吊るすのは、へびや毒虫あるいは魔物が家に入らないようにという呪いである。4・5日の夜には菖蒲湯をたてて邪気・悪霊を払った。5日夕方に各地で子供たちによる菖蒲たたきの風習が伝わっている	十日町市史資料編8	670

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	六郎いん・六日菖蒲	6月6日は、田掻きと機織を禁ず。これを犯せば百日の間、晴雨一方に偏して凶作を招くという。一方、人知れずこれを行えば富裕の身になるという。犯したるものあれば、農夫等雲集し、その建物を破壊する。これを「叩き壊し」という(中魚沼郡誌では5月の行事)。松之山町史1021頁にも「ロクロウ日」の記述あり。中里村史通史編下998、1244頁、川西町史資料編下739頁、十日町市史資料編8 109・427・671頁、同市史通史編3 246頁にも「ロクロウイン」の記述あり	中魚沼郡誌下	867
	稲虫送り	6月1日に行う所もあれど、多くは定日なく適宜これを行う。大なる松明を作り、夕食後これを持って産土神の境内に集まり、神職祝詞を誦し、その後松明に火を点じ、「送れ送れ送れや稲虫を送れや」と唱えつつ列をなして境内を出て耕地を回る	中魚沼郡誌下	868
	マンガ洗い	田植えの終わった日、あるいは都合のいい日を選び、マンガ(馬鍬)洗いという祝いをした。エイや手伝いの人たちを招き、慰労の酒宴を催した	十日町市史資料編8	672
	黒姫参り	7月1日、刈羽の黒姫山の祭礼で、若い衆や娘たちはつまきを持ってお参りに出かけた。特に女の子は機織りの上達を願って13歳の厄年を期して登るものが多かった	川西町史資料編下	740
	キンヌギ朔(ついたち)	7月1日、人間がこの日をもって脱皮すとの迷信からキンヌギ朔という。この日、桑の木の下に入れば脱皮の状見ゆるとしてこれを忌む。小豆団子または小豆茶の子として小豆の粉を入れたる焼餅を食う(中魚沼郡誌では6月の行事)。川西町史資料編下740頁、十日町市史資料編8 673頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	867
		7月1日、春の衣を脱ぎて夏支度に入るが故なりとぞ。頸城郡一般に米山薬師へ参詣す	東頸城郡誌	528
	ハゲン田休み	7月の初め、暦の上で半夏生が来る。これをハゲンといい、この日を田休みにしたところもあり、ハゲン田休みといった	十日町市史資料編8	673
	七夕	7月7日の夜、女子月光にて仕事をなせば、その技上達すとして針に糸を通し、苧績みなどするもの多かりしが、今は絶えたり	中魚沼郡誌下	869
		7月7日、学童は師家に会して祝賀を述べ、門人中の高弟を先導となし、各自の書せし筆を竿頭に掲げ、各門人中の家を訪問するなり	東頸城郡誌	529
	(馬とばせ)	7月17日、観世音の縁日。馬を飼う農家の者は馬を飾って最寄りの観世音に参拝し、堂を3回巡って大門を駆け出づ。老若男女馬を見んとて集まる。参拝する場所は伊勢平治観世音、四日町観世音、十日町水月庵、新宮龍王山など(中魚沼郡誌では6月の行事)。川西町史資料編下741頁、十日町市史資料編8 673頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	868
	観音市	7月19日～21日、柏崎のえんま市と並ぶ県下の3大市の一つといわれるほど賑わった。十日町・小千谷・柏崎・上越市方面から商人が入り、数十軒の小屋がで近郷から大勢の人が集まってきた	松代町史下	519
	盆ボチ	8月1日、菩提寺に詣でる。川西町史資料編下742頁、十日町市史資料編8 675頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	869
	盂蘭盆	8月13日の夜に始まり16日に終わる。祖先以来の靈魂を祀るなり。13日に床の間に精霊棚を設ける。墓にも葦簾の棚または葦にて鳥居門のごときものを作るもあり。夜に一家挙って墓所に詣で、一族親戚の墓も詣でる。松之山町史1022頁、松代町史下518頁、中里村史通史編下1248頁、川西町史資料編下743頁、十日町市史資料編8 676頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	869
	盆踊り	8月14日から16日までの夜を通例とすれど、17日は観世音、松尾社等の縁日なればその夜まで踊る所もあり。三階節を主とし甚句、大の坂などこれに次ぐ。松代町史下518頁、川西町史資料編下744頁、十日町市史資料編8 677頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	870
	裸祭り	8月18日、松茸神社の秋の祭礼	松代町史下	519
	諏訪祭り	郡内に鎮座する28社の諏訪社は多くは8月27日を祭日とす。十日町諏訪社の祭典は25日から27日の3日間。十日町市史資料編8 677頁にも「シンチチ祭り」記載あり	中魚沼郡誌下	871
	八海山の祭り	十日町市域の川東(信濃川右岸)地区からは八海山はほとんど見ることはできないが、この山を作神とする信仰は広くみられた。8月31日の夜には、長い竹竿の先端にろうそくや灯籠をつけて立て、明かりが八海山に届くようにと祈った。また、有志や講仲間が、峠を越えて八海山に向かった所もある	十日町市史資料編8	678
	風祭り	9月1日は立春から数えて210日となる。例年台風の最も近づくころであり、風の神様、風の三郎様を祀る所が多い。松代町史下518頁にも記載あり	松之山町史	1,022
	二百十日	立春より210日目という。風祭りとして楓の枝を切り来りて、二十三夜塔の前の両脇に立ててこれを祭る。紅葉祭りととも称す。川西町史資料編下745頁、十日町市史資料編8 679頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	873
	重陽の節句・菊の節句	9月9日、初九日といい、餅を搗きて祝うなり	中魚沼郡誌下	873
火焚祭り	9月11日、東山集落のみに見られる行事で、夕食後家族そろって東山集落の海老側にある少し高い会場に集まる。各戸が持ち寄ったぼえ(薪)に火をつけ祠に豊作や息災を祈る	松代町史下	520	
十三夜・栗名月	9月13日、文人は十五夜に次ぎて月を賞せしが、民間にてはほとんど与り知らざるものごとく、まれに芋牡丹餅など調して祝うものあるのみ。川西町史資料編下570頁、十日町市史資料編8 680頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	873	
十四日九日	9月14日、俗に十四日九日と称え、餅を搗きて祝う所あり	中魚沼郡誌下	873	

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	十五夜	9月15日、十五夜とて戸々餅をつきて丸盆に盛り、鏡餅と称え大根、芋などと共に月に供え、自らも雑煮として食す。鏡餅は翌朝家内一同にて食するなり(中魚沼郡誌では8月の行事)。川西町史資料編下746頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	871
		9月15日に行う所と、旧暦の8月15日に行う所がある。団子を飾り里芋・野菜・果物などを供え、尾花を飾って満月の十五夜様にあげて祀る。川西町史資料編下746頁、十日町市史資料編8 680頁にも記載あり	松之山町史	1,022
	彼岸	行事は春の彼岸と概ね同じ。松代町史下518頁、川西町史資料編下746頁、十日町市史資料編8 680頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	873
	十日夜	10月10日、十日夜と称え、餅、蕎麦切りなどを調して案山子を祭るなり。松之山町史1022頁、松代町史下518頁、川西町史資料編下570・746頁、十日町市史資料編8 681頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	874
	二十三夜	10月23日、三夜様とて女衆は夜籠りをして月を待つ。団子12個を床の間に飾り、持ち寄った食べ物を供えて月が出ると灯明をつけて拜んだ	松之山町史	1,022
	おこもり	1か月遅れの神無月。神々が出雲の国に行かれるというので、出立する10月31日から氏子たちは神社や堂でおこもりを始める。夕食後、夜食や酒を持って氏子たちは当番を決めておこもりをしてくる	十日町市史資料編8	681
	アキヒマチ・クンチ	白羽毛では、11月3日はアキヒマチで、ハルヒマチと同じく、ボンサマか修験者に悪病除けの祈禱をしてもらう。また、この日はクンチとて、ごく親しい少数の親類の人々を招き、1泊してもらってでもなした。クンチヨビ・クンチヨバレである。他のムラムラでは、クンチといえは10月9日・19日・29日のいずれかとするところが多いので、もとの日取りが変更されたものと思われる	中里村史通史編下	1,254
	夷講	11月20日、蛭子の神あるいは事代主命を祭る。夷棚に塩引鮭、塩鱈等の一切れを供える。松之山町史1022頁、松代町史下519頁、川西町史資料編下571・746頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	874
	太子講	11月21日、小豆粥を煮、黍団子を調うを例とせり。東頸城郡誌530頁、松之山町史1003頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	874
	大師講	智者大師の忌日とて、諸山11月21日より23日まで大師講を修す。23日の夕食に団子入り小豆粥を煮て栗の箸とやや長き杖を添えて大師に供える。松之山町史1023頁、川西町史資料編下571・748頁、十日町市史資料編8 685頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	874
	御正忌	11月28日、真宗の開祖見真大師入寂の日に当たるを以て、老若男女相集いて寺院に参詣す	東頸城郡誌	530
	川ふたぎ朔日	12月1日から雪が川を埋めてしまうので「川ふたぎ朔日」という。水沢では、この日の朝食にイリゴアンブをして食べた	十日町市史資料編8	683
	えびす・大黒の年取り	えびすは12月5日、大黒は9日が年取り。町では商売繁盛を願うえびす講が盛んで、塩鱈や白なます、豆腐汁の御馳走をした。大黒の年取りのとき、鉢では精進料理のけんちん汁やイモガラを醬油煮にした御馳走をつくった	十日町市史資料編8	684
	事納め	12月8日、小豆団子を調して事の神に供える。中里村史通史編下1255頁、川西町史資料編下718頁、十日町市史資料編8 683頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	874
	煤掃き	煤掃きの夜は、煤男とて竿の先に結び付けたる藁束を壁に寄せ掛け、膳を供える。今は廃れたり。十日町市史資料編8 651頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	875
		12月20日から30日の間の天気の良い日を選んで行う。すすはらいともいい、2、3mの竹棒の先に草ぼうきか藁束を束ねてつけた「すすおとこ」を作り、屋根裏や高い所の煤や蜘蛛の巣を払う。老人や子供は「すすぬげ」といって親類や他家へ行き、そこで昼食をもらって食べるが多かった。中里村史通史編下1219頁、川西町史資料編下718頁にも記載あり	松代町史下	514
	松迎え・団子木採り	日は特に決まっていなくても、正月前になると、年男や若い衆が松飾用の松を山へ切りに行く。これを正月様迎えとか松迎えといった。このとき小正月用の団子木(ミズキ)・若木を迎える所もあった	十日町市史資料編8	652
	納豆煮	12月24日を定日とせしが、今は定まりし日もなし。中里村史通史編下1220頁、川西町史資料編下719頁、十日町市史資料編8 652頁にも「ナットネセ」の記載あり	中魚沼郡誌下	875
	甘酒・スマシづくり	甘酒は年取りや正月うちの飲み物として欠かせなかった。正月前につくる甘酒は、家々により出来・不出来があり、それがまた正月の話題の一つになった。スマシの材料は味噌で、タマリともいい、年取りや正月料理の調理には欠かせないので、正月前に準備した	十日町市史資料編8	652
	餅搗き	12月27日より29日までに搗くことに定まりしも、今は28、29日ころ搗くもの多し。川西町史資料編下720頁、十日町市史資料編8 652頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	875
12月28日か30日に餅搗きをする。29日は「苦日餅はつくな」といって避ける家が多い		松代町史下	514	
オッカサマノトシトリ	白羽毛では、12月30日に餅搗きをし、オーショウグワツに食べる分を搗く	中里村史通史編下	1,222	
	12月28日は、オッカサマノトシトリである。オッカサマに膳部を用意して、舅・姑の寝間であるオーベヤの出入りに置いてある、ケシネバコ(米櫃)の上へ供える。オッカサマとは淡島大明神のこととされ、御神体は祀らないが、お札が手に入れば、ケシネバコの後ろに張っておく。淡島大明神は女性の守り神であり、オを績む女たちの慰労の飲み食い集いである、オブケナガシにおいても祀られた	中里村史通史編下	1,221	
スミノアネサノトシトリ	12月29日の晩には、膳部を調べて、チャノマに積んである米俵の陰に置く。これがスミノアネサノトシトリで、スミノアネサこと鼠が喜んで朝までにきれいに平らげてしまう	中里村史通史編下	1,221	

分類	項目	内容	出典	頁
年中行事	メードシトリ	12月30日はメードシトリの日である。1日早いヨーベッサマだけのトシトリで、恵比寿棚の前にアジのイチノキレ・スルメ・クリ・クシガキ・昆布を組み合わせてヨーベッサマカザリをしつらえ、ハタイモ・昆布・ワラビのヒラとイブリデーコのケズリナマスを夕刻に供える	中里村史通史編下	1,221
	年取り・年越し・大晦日	12月31日、年越しの準備整い料理なれば、浴を取り、一家長幼の序を正して膳に着き、団欒和楽の間に食を終わり、夜に入れば神棚に神灯を捧げ厳粛に拝礼す。中里村史通史編下1223頁、川西町史資料編下721頁、十日町市史資料編8 653頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	875
		この日(12月31日)までに1ヶ年間の貸借その他の総勘定をなし、一家団欒のうちに旧を送るの祝杯を挙げ、食後各戸にては歳暮の礼として互いに寺院あるいは郷党の親戚等を訪問し、また寺院にては百八煩惱とて鐘聲殷々、午後12時の至るを待ち、新年の若風を迎えて寝につくを常とせり。松之山町史1017頁、松代町史下515頁にも記載あり	東頸城郡誌	530
	年中行事の食べ物	年中行事に伴う食べ物について。年中行事と行事食の一覧表が十日町市史資料編8 289頁に掲載あり	十日町市史資料編8	286
	江戸時代の年中行事	「六箇村船坂の文政9年(1826)の年中行事」「町場の寛政3年(1791)の年中行事」	十日町市史通史編3	238
信仰	庚申待・庚申講	6人をもって1組となし、庚申の日ごとに順次各人の家に会し、酒食の饗を受くるなり。その年の最終の会において抽選によって次年の順次を定む。肴は精進にして晩酌の後、蕎麦切りを饗するを常とす。夜に入れば雑話に時を移し零時ころに及んで夜食の饗ありて退散す	中魚沼郡誌下	876
	二十三夜待ち・二十三夜講	松之山の庚申講について。川西町史資料編下672頁、十日町市史資料編8 712頁にも記載あり	松之山町史	1,001
		俗には三夜待と称す。勢至菩薩を祀るものにて、毎月陰暦23日をもって行う。肴は豆炒、煮付物等にて、煎茶を饗するなり。さらに甘酒を饗するものもあり。月の上がるを待ちて心経を誦して退散す。11月は三夜講と称し、特に酒食の饗応あり	中魚沼郡誌下	876
	二十六夜講	松之山の二十三夜講について。川西町史資料編下680頁にも記載あり	松之山町史	1,001
	甲子会	松之山の二十六夜講について	松之山町史	1,002
	甲子会	甲子の日をもって大国主命を祭るものにして、方法は三夜待ちと同じ。明治の中ごろより始まりしもの	中魚沼郡誌下	876
	念仏講	または地藏講、善光寺講などと称え、老婆打集い念仏を誦し、その後、茶または酒を飲みて打ち興ず。11月には特別の料理を設けて饗応すること三夜講のごとし	中魚沼郡誌下	877
	百万遍講と念仏講	松之山の百万遍講と念仏講について	松之山町史	1,003
	伊勢講	松之山の伊勢講について	松之山町史	1,003
	太子講	聖徳太子を信仰する講で、日取りは一定していないが一般に正月・5月・9月の17日に主として職人によって構成される。特に大工を中心に、木挽き・屋根葺き職人などが守り神としている	松之山町史	1,003
	機織と黒姫様	縮織が女衆の最大の仕事であったときには、娘が12、3歳になると、黒姫山(刈羽郡高柳町)に登り、機織技術の上達と女の幸せを祈願してくる習慣があった。十日町市史資料編8 721頁に「機織りの信仰と習俗」の記載あり	川西町史資料編下	671
	金毘羅様と川神様	船頭衆や筏師などが金毘羅講中を編成して信仰してきたといい、信濃川沿いの集落に多く祀られている。川西地域の金毘羅碑分布図あり	川西町史資料編下	680
	道祖神	川西地域の道祖神について	川西町史資料編下	683
	根の権現など	根の権現(上野)、オノコ様(三領)、陽石(小脇)について	川西町史資料編下	684
	雨乞い	水不足に悩む時、雨乞いの方法として「水貰い」があった。行先は八海山・黒姫山・戸隠などであった	川西町史資料編下	741
	厄日待ち・厄年・厄年と年祝い	男子は7歳、15歳、25歳、42歳、女子は13歳、19歳、33歳を厄年と称す。1月中の吉日を選んで修験者等を請じて厄除けをなし、親戚、朋友を招きて祝宴を設ける	中魚沼郡誌下	877
		男は5歳・7歳・13歳・15歳・25歳・42歳・49歳、女は5歳・7歳・15歳・19歳・33歳。川西町史資料編下695頁にも記載あり	松之山町史	1,012
「厄年」「年祝い」「その他の通過儀礼」「儀礼行事の記録帳」		十日町市史資料編8	167	
妻在百三十三番札所	妻在百三十三番札所の所在地と御詠歌の一覧表	十日町市史通史編3	337	
古文書	正平文書	正平17(1362)年5月13日から21日まで大雪が降り農家が困っているので、上杉家の町奉行と代官が村々を巡り改めた、という口碑を後世になって覚書に残したものである(浦田の高沢亮治氏所蔵)	松之山町史	328
	村山家所蔵古文書2点	「堀監物文書」「松平忠輝家老衆定書」。市指定文化財	松之山町史	968

(4) その他の事柄

分類	項目	内容	出典	頁
中世の記述に登場する人物	津張庄司大夫宗親	『延慶本平家物語』によると、寿永元年(1182)5月、平家の命を受けた城四郎長茂は木曾義仲を討つため6万の大軍をもって木曾勢を3方から挟撃する際に、「津張庄司大夫宗親」なる武将が登場する。史上初めて現れる妻有郷の支配者であるが、系譜や本拠地及び勢力範囲など詳しいことは全く分からない。川西町仁田の西方にそびえる荘司山が津張氏の居城だという伝承もあるが、荘司山には城郭の痕跡もないし、付近に居館跡等も見当たらない。川西町史通史編上 212 頁、十日町市史通史編 1 179 頁にも記載あり	中里村史通史編上	346
	大井田氏	大井田氏の波多岐庄への入部を立証する史料としては「市河文書」の元亨元年(1321)市河盛房譲状が初出である。中里村史通史編上 350 頁には、「里見義成の子義継は、新田庄大島郷に土着して大島義継と名乗ったが、後に隣国越後の魚沼郡波多岐庄が里見家の所領になると、大島郷の地を3男時継に譲り、2男氏継と共に波多岐庄大井田郷へ入って、大井田家の始祖となった」とある。川西町史通史編上 217・268 頁、十日町市史通史編 1 264 頁にも記載あり 鎌倉時代半ばごろ、越後魚沼郡大井田郷の在地領主として定住していた大井田氏は、その後、鎌倉時代末期には、本拠地を中魚沼地方南部の妻有庄に移し、同庄内の赤沢台地を拠点として城館を築いたものと考えられる。鎌倉時代末から南北朝時代初めにかけて、妻有庄は大井田氏とその一族が領有し、強固な在地領主支配を広がっていたとみられる(十日町市史通史編 1 290 頁) 南北朝動乱期の初め、暦応3、4年(1340、41)の暦応合戦が信越国境で行われ、市河氏をはじめ信濃の北朝勢と戦って、大井田氏など越後新田氏一族はこの地から敗走し、赤沢台地を中心とする妻有庄の主要部を放棄した。しかし、大井田氏は南北朝動乱が終息した後、再びこの地に復帰し、在地的勢力を取り戻したようである。南北朝動乱後の14世紀前半の応永年間(1394~1427)に大井田氏がこの地に定住し、市河氏と親交を取り戻したことを示す「市河文書」がある。その後、およそ1世紀間にわたって大井田氏の動向は史料上から姿を消し、歴史上の動向は不明になる。下って16世紀に入ると、府内長尾氏の長尾為景の被官として仕えていたことが、「米沢大井田家系譜」の傍注に記されている(十日町市史通史編 1 294 頁)	中里村史通史編上	351
	大井田経隆	大井田義隆の子。経隆遠江守と称し、大井田城に居る。元弘3年5月8日、新田義貞大塔宮の令を奉じて生品祠前に義兵を挙ぐるや、その兵僅々150騎に過ぎざりしを、経隆同族里見・鳥山・田中・羽川等と共に2千余騎を率いてこれに参加す。北条高時を鎌倉に誅す	中魚沼郡誌下	701
	大井田氏経	大井田経隆の次子。延元元年5月、備中国福山城に兵2千とともに籠城し、足利直義軍20万を迎え撃ち奮戦するも備前国三石城に逃れる。川西町史通史編上 233 頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	702
	大井田藤七郎	永禄8年(1565)5月22日の酉の刻(午後6時ごろ)、武田軍が安中口に出たという厩橋(前橋)城代北条高広の注進が到来した。上杉輝虎(謙信)は即座に上田の長尾伊勢守と栗林二郎左衛門あてに書状を書き、上田の兵士たちに触を出し、次の指示があったら出兵できるよう準備させよと命令する。ところが、この書状を書き終わらないうちに、また北条からの急使が来たので、「大井田藤七郎」と同心して、夜を日に継いで進んで倉内(沼田)に移れと追筆している。ここで「大井田藤七郎」という人物が初めて文書に登場する。米沢の大井田正雄氏所蔵の「大井田氏系図」によれば、大井田藤七郎景国の注記に、「実は景勝公叔父、長尾修理亮」と書かれてあり、彼が景勝の叔父に当たる人物であったことが分かる。十日町市史通史編 1 517 頁にも記載あり	十日町市史通史編 1	487
	大井田藤三	大井田藤三は、後に活躍する大井田平右衛門俊継と同一人物らしい。米沢大井田家系図の俊継の項には、「大井田藤三郎、のち平右衛門。実は島倉孫左衛門泰明弟」と書かれており、この「大井田藤三郎」はおそらく「大井田藤三」の誤りと考えられるからである。この大井田俊継は系図によれば、大井田平右衛門景能の子であり、大井田藤七郎の甥にあたる。なお、文禄3年(1594)に作成された「定納員数目録」には、大井田平右衛門俊継は大井田藤七郎の養子であると記されている。俊継が平右衛門景能の養子か藤七郎の養子かは確定できない。十日町市史通史編 1 514 頁にも記載あり	十日町市史通史編 1	510
	大井田監物房仲	米沢大井田家の系図によれば、大井田監物房仲は大井田氏景の兄弟の刑部大輔義房の子であり、大井田平右衛門景能や藤七郎景国の従兄弟にあたる。監物の官途を得た房仲は、景勝の佐渡制圧後、佐渡支配の担い手として異例の抜擢を受けるのである。十日町市史通史編 1 525 頁にも記載あり	十日町市史通史編 1	521
	鳥山氏	「長楽寺文書」の正応4年(1291)12月21日付の鎌倉幕府下知状により、鳥山氏の所領が十日町市水沢から中里村倉俣、津南深見等妻有郷の中南部地域一帯に広がっていたことが立証される。川西町史通史編上 219・269 頁、十日町市史通史編 1 271・520 頁、同市史通史編 2 4 頁にも記載あり	中里村史通史編上	351
	下条氏 中条氏 小森沢氏	新田田中氏流の下条・中条・小森沢氏が信濃川の川東の地を領し、新田に従って活躍したが、新田義宗の敗死後もこの3氏は残り、川東を治めていたようである。小森沢・中条系図を信ずれば、中条・小森沢氏は室町・戦国まで残ったことになる。下条氏については系図には書かれていないが、下って天文18年(1549)下条新右衛門尉茂勝という武士が中条玄蕃允・上野家成らにあてた手紙を書いており、彼は川東の武士と考えられるから、下条氏もやはり家を残して下条を治め続けたとみてよからう。十日町市史通史編 1 267・444・464・467・493・499・506・519・520・525 頁にも記載あり	川西町史通史編上	267

分類	項目	内容	出典	頁
中世の記述に登場する人物	倉俣勘解由左衛門実経	永正5年(1508)11月の「関沢頭義等書状」(中里村史資料編上資料No.74)に倉俣勘解由左衛門尉実経ほか5人連署の文書あり。倉俣氏に関する史料はこの1通のみで、史料から倉俣氏の性格を明らかにすることはできないが、倉俣を称しているところから中里村倉俣に関係する武士で、在地名を姓としているところから上杉氏入国以前、恐らく鎌倉時代に倉俣に土着していたものと考えられる。川西町史通史編上271頁、十日町市史通史編1 268・296頁にも記載あり	中里村史通史編上	385
	田中氏	波多岐庄の北部から藪神庄南部を領有していたのが田中氏である。「小森沢系図」によると、田中義清の孫田中重経の長子重継は「下条太郎蔵人」と名乗っている。土着は十日町市下条だと思われ、次男の経氏は「中条惣地頭、七郎蔵人、法名浄阿」となっている。十日町市中条の領主であり、十日町市来迎寺の寺宝「一遍上人絵詞伝」に載っている2世他阿上人真教に帰依した中条七郎蔵人浄阿に比定される人物である。川西町史通史編上221頁、十日町市史通史編1 267頁にも記載あり	中里村史通史編上	355
	羽河氏	羽河氏は大井田・里見・鳥山等とともに新田氏より出づといえども、その先詳らかならず。元弘3年5月8日、新田義貞の挙兵に際し、羽河某が大井田・里見・鳥山・田中等と共に参加す。応永13年8月、羽河安芸守景康・同安房守景国、大井田等と尹良親王を奉じて三河に入らんとし、その15日に信濃大野村にて戦死す。川西町史通史編上269頁、十日町市史通史編1 295頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	703
	羽川氏	羽川氏は「尊卑分脈」にも載っていないので確証はないが、大井田氏の支族で波多岐庄羽根川郷(十日町市川治・六箇・水沢の一部)に土着したので羽川氏と称したと伝えられている	中里村史通史編上	356
	上野氏	上野氏については、明確な史料は残っていないが「上野氏系図」によると、大井田氏や鳥山氏、田中氏などと同じ新田系里見流の一門になっている。川西町史通史編上264・285・306頁、十日町市史通史編1 268・430・436・462・472・489・504・524頁にも記載あり	川西町史通史編上	224
	下平氏	千手の下平氏についても、室町期のことは全く分からない。戦国期には中屋敷に館を構え、裏山の千手城を持城としていたが、中屋敷の長福寺はもと沖立にあったといわれ、沖立の南に下平という地名が残っているから、下平氏は下平が出身地で、はじめは沖立地方を本拠とし、のちに中屋敷に移ったとも考えられる。川西町史通史編上306頁、十日町市史通史編1 457・462・472・484・512頁にも記載あり	川西町史通史編上	266
近世以降の人物	相澤松三	松之山村大字小谷の人。嘉永5年生まれ、石油事業、鉱山経営、田の開拓、養蚕など殖産興業に尽力	東頸城郡誌	926
	相澤良伯	松之山郷医師の元祖たり。中頸城郡針村生まれ、松之山村水梨相澤忠左衛門没後を再興したるなり。医業の傍ら郷党の子弟を教育す。明治24年9月没す	東頸城郡誌	963
	阿部禎斎	貝野村新屋敷の人。名は精定、字は子正、禎斎は号なり。十日町服部瀬海に就いて医学を学び、業成り伊達村に來りて信古堂を構え業を開く。導尿器カテーテルを本郡で初めて使用する。嘉永6年6月20日没す、68歳。中魚沼郡誌下1,403頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	784
	新井文圭	元幕府旗本の士にして、谷文晁に学びて画を善くす。故ありて越後長岡に來たり、20余歳の時に十日町に來りて諏訪山下に住す。門人に根津東陵・湯沢雪巒など。明治11年9月23日没す、73歳。十日町市史通史編3 444頁、同市史通史編4 344頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	715
	荒波松治郎	十日町大池の産の力士、寛政中江戸に出て幕下三段目に入りたりという	中魚沼郡誌下	721
	池の海庄左衛門	十日町大池の産の力士、寛政中江戸に出て幕下三段目に入りたりという	中魚沼郡誌下	721
	石原信	福井県出身で貝野村の人、碧洲と号す。滋賀県立師範学校を終え、流浪して貝野村に住みついた。明治32年ころ貝野塾を起こす。十日町新聞主筆、大正元年「中魚沼郡風土誌」を刊行。その後、外丸村・下船渡村・新潟市へ移住。「中魚沼郡地主鑑」「芦ヶ崎村誌」を著述	中里村史通史編下	313
	井之川吉治	桂出身、画号佳仙、美術学校で油絵を学び肖像画で知られている	中里村史通史編下	315
	井之川平七郎	如来寺出身、川端絵学校で郷倉千靱に師事し、知白と号す。花鳥風景を得意とする。昭和8年31歳で亡くなる	中里村史通史編下	315
	岩田(杉本)周楨	周楨の父岩田三郎左衛門は、自ら尾台榕堂に漢学を学び、天保元年、10歳になる周楨の医師になることを榕堂に託す。榕堂の医師門下生の第1号となった。天保12年秋、父の病氣によって江戸から帰郷した周楨は、まず中条新田で開業し、弘化2年(1845)中条村上町に移る。同年から医業のかたわら寺子屋を開き、近郷の子弟教育にも力を入れていく。明治2年に杉本と改姓。十日町市史通史編3 384頁にも「杉本周楨の寺子屋」の記載あり	十日町市史通史編3	379
	岩田與八郎	中条村中条新田の人。若くして角力を好み勇綱と称し、一時郷里に名を轟かせしが、感ずるところありてこれを廃し、御嶽の行者となる。忠魂碑及び歴史記念碑6基を長泉寺境内に建てる。日清戦役の起こるや弥彦神社に詣でて戦勝を祈り、帰って産土神なる八幡神社に参籠、爾来社内に起臥し以て平和克復して村出征者の凱旋の日に至る。明治39年1月16日没す	中魚沼郡誌下	732
	太田培稼	水沢村大字馬場の人なり。字は備公、戒堂または松琴と号す。父は培則、代々里正たり。幼にして丸山湘雲に就いて学ぶ。明治14年中魚沼郡長、同20年県会議員。同27年5月没す、56歳	中魚沼郡誌下	783
岡田梅壑	中条村の人、雲洞の子、龍松の弟、政徳と称す。幼にして経国の志を抱く。19歳のとき上信2州を漫遊し佐久間象山の知遇を得る。33歳の時江戸に遊び半江琴谷等と交わり大書画会を開き江戸文人社会に名声を博す。また、千葉周作の門に入り免許を得る。維新後、柏崎・静岡の諸県に歴任す。大蔵省会計検査院、内務省会計検査課長を経て、明治26年新潟県議員。その後、東都に遊び南画を門生に授ける。大正4年10月25日没す、75歳	中魚沼郡誌下	730	

分類	項目	内容	出典	頁
近世以降の人物	岡田雲洞	中条村の人、名は和、字文鳴、栄蔵と称す。雲洞は号、香雪の長子なり。幼にして円通寺荷笠上人に学び、経義に通じ最も歴史を嗜む。画法を父香雪に受け、嘉永版の南面総覧に越後四大家の第2に挙げらる	中魚沼郡誌下	727
	岡田皚々齋	中条村の人、名は有名、喜兵衛と称す。皚々齋また香雪と号す。幼より文事を嗜み、書画を善くす。亀田鵬齋とも交流あり	中魚沼郡誌下	726
	岡田葭堂	中条村の人、通称寛蔵、葭堂は号なり。壮より俳句を嗜み、小杉蘿齋に就いて学ぶ	中魚沼郡誌下	728
	岡田龍松(耕雲)	中条村の人、雲洞の子。幼にして文武の道を修め、長じて江戸に遊び武技を千葉周作に学ぶ。明治8年新潟県第12大区長、12年中魚沼郡長、その後、新潟県議会議員・中魚沼郡議会議員・衆議院議員を務める。大正2年7月没す、75歳。十日町市史通史編4 345頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	728
	岡田正平	昭和22年4月の新潟県知事選挙(5日投票、15日決選投票)において、中条村の岡田正平が初代民選知事に当選し、2期8年務める	中里村史通史編下	494
	尾台良作(榕堂)	中条村小杉三鼎の4男、家世々医を業とす。名は逸、字は士超、榕堂また敲雲と号す。幼名を四郎治といい良作は通称なり。円通寺惟寛禅師について経書を学ぶ。文化11年江戸に出て医家尾台浅岳の僕たらんことを請い許される。後に内弟子となり名を玄逸と改む。文化13年亀田綾瀬の門に入り学ぶ。文政7年帰郷して業を開く。天保5年師尾台浅岳没したため東上し、孀孤養育の任にあたる。且つ尾台良作と改称す。明治3年11月29日没す、72歳。十日町市史通史編3 370・378頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	723
	小野塚キイ	中尾の小野塚キイ(明治20年生まれ)が国指定無形文化財越後縮の苧績み部門の技術保存者(人間国宝)に指定される	松之山町史	971
	尾身彦一郎	吉田村字鉢の人。志気堅実にして卓見あり、よく公益を計る。鉢は水利不便にして良田に乏しく収穫少なくして米質不良なり。彦一郎甚だこれを憂い、村の東北なる丘上は畑及び荒野にして水利の便を得れば幾多の良田を得べきことを認め水源を猫山川に求む。慶応元年に起工し3年の日時を費やし同3年8月に至って竣工す。良田を得ること10有6町歩、米質甚だ良好なり。明治31年5月15日没す、79歳	中魚沼郡誌下	759
	河本正安	十日町の人。名は一、字は貫之、幼字を杜太郎という、十一月十八日に生まれしをもって、その字数を総合して父の名づけしものという。筑川と号す。正安はその通称なり。祖父を道一、父を謙作といい、世々医を業とす。正安、医を尾台良作(父謙作の姉の夫)に学ぶ。その後、儒者芳野金陵に学ぶ。文久2年1月15日、坂下門外の変で死亡。十日町市史通史編3 474頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	704
	願海智堅大和尚	浦田村大字黒倉布施磯右衛門の2男、天明6年2月生まれ。12歳の時、信州飯山町永行寺に入りて剃髪す。駒込吉祥寺第36世住職、嘉永4年7月28日没す	東頸城郡誌	955
	吉楽宗一郎	田沢村の人、終天堂と称し号を樗散といい、漢詩に巧みで文章家でもあった。短歌もよくし琢磨能尚風の号で古典にちなんだ歌作が多い。明治10年~17年まで田沢校の校長を務め、後年神官となる。「中魚沼郡風土誌」に序文を寄せている	中里村史通史編下	313
	木村瀬平	十日町の産なり。江戸に出て相撲行事となる。そのころ、木村正之助幼なるをもってこれが後見となりて養育す。安政の初め没す。安政5年6月、門弟一力及び木村正之助養育の恩を思い相撲を率いて八幡社に興行すること3日、碑を立てその追福を祈るといふ。十日町市史通史編3 450頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	720
	小杉蘿齋	中条村小杉三鼎の長子、三省と称す、蘿齋は号なり。世々医を業とす。幼にして漢籍を円通寺惟寛和尚に学ぶ。長じて博覧強記また書を善くし、俳諧に巧みで見付の茶山と併称せられて「北越の二匠」となす。十日町市史通史編3 374頁にも記載あり 中条の小杉家は三伯~三適~三省~三圭と、明治初年に至るまで5代の医家である。ことに三省の末弟尾台榕堂は幕末を代表する名医であり、14代将軍家茂公の御典医として将軍に単独謁見を許された医師であった(十日町市史通史編3 378頁「小杉家の系譜」)	中魚沼郡誌下	726
	佐藤周治	奴奈川村大字室野生まれの画家、明治14年没。号は三禅、明治23年建立の碑文掲載あり	東頸城郡誌	968
	积惟寛	俗姓佐藤氏、中条村字峠の人なり。新雨庵荷笠と号す。6歳にして円通寺に入り徒弟となる。長じて江戸に出て駒込吉祥寺に入り勉学具に辛酸を嘗む、後に越後寮の学監となる。帰りに円通寺に主たり、博学強記、詩文を善くし当時の碩儒亀田鵬齋・釧路雲泉等と交わる。小杉蘿齋・岡田雲洞・尾台榕堂等皆その門に出づ。嘉永7年3月没す。十日町市史通史編3 369頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	721
	积岳善	中条村の人、岩田銀右衛門の2男。江戸浅草日輪寺に学び、東部学寮の学頭となり、後に高田称念寺に住す。文政4年本山藤沢山に入りて衆領軒となり、同8年山形の光明寺に主たり、天保7年8月16日没す、68歳	中魚沼郡誌下	723
积義忠	魚沼郡中島村万行寺の生まれ、18歳の時、上野村西永寺に入りて後嗣となる。初め柿崎西念寺住職歎喜庵に学び、東本願寺高倉学寮に学ぶ。晩年、俗塵を避け諏訪山に退隠し庵を耻傷と号し、自ら寿和丘隠士と称し、著書法談をもって楽しみとす。文政10年3月6日没す、76歳。川西町史通史編上 1015頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	750	
积桂芳	仙田村赤谷の産なり。丹山と号す。博学にして禅に深く、信陽明庵門下四哲の一なり。天明中、四日町真浄院第15世住職として開法し、門下すこぶる隆盛なりき。文政3年1月19日没	中魚沼郡誌下	723	

分類	項目	内容	出典	頁
近世以降の人物	釈仙巖	中条村の人、岡田伊兵衛の弟なり。江戸駒込吉祥寺の越後寮に入りて学ぶ。座禅を修するに夜に小塚原の林中に入りて鍛錬す。後に中山林興庵に主たり。仏画を善くし山水花鳥を描き、六幽と号す	中魚沼郡誌下	722
	釈千丈	長養道者と号す、上野村長安寺の方丈たり。幼名を伝七といい、高田町松右衛門の子なり。幼にして剃髪、22歳の時、駒込梅檀林に入りて越後寮司となる。その後、各地で修業を重ね業成り長安寺に住す。来たり学ぶもの多く、雲水常に10人を下らず。瀧谷琢谷もその門より出ず。安政5年8月29日没す、56歳	中魚沼郡誌下	749
	釈道淳	俗姓松田氏、刈羽郡小国法坂の人なり。字は巴山、素庵と号し又黄峰・如雲・少林等の号あり。幼にして禅門に入り、仏庵和尚に師事してその衣鉢を伝う。下条村新保広大寺第19世。画技を嗜み野口介石に就いて学び、山水花竹を善くす。天保6年2月18日没す、64歳	中魚沼郡誌下	735
	釈良高	江戸の人。外丸村慈雲庵及び六箇村祇園庵の開山なり、徳翁と号す。13歳にして吉祥寺の離北重公に依りて驅鳥となり、15歳にして剃髪す。下総正泉寺、越前総持寺、備中定林寺に歴住し、玉島円通寺、矢野龍洞・永寿、武蔵徳照等を開基する。宝永6年2月7日没す、61歳	中魚沼郡誌下	761
	杉本周徳	杉本周植の子。医学を父と尾台榕堂に学ぶ。慶応2年10月から父周植とともに医師として活躍している	十日町市史通史編3	380
	鈴木元貞	重地の人なり。壮にして医術を志し、吉益東洞の門に入りて学ぶ。郷に帰りて医を業とす	中魚沼郡誌下	778
	鈴木寛隆	初め嘉蔵と称し、のちに寛隆と改む、濤洋と号す。牧野侯家臣中島半太夫の2男。戊申の役で長岡藩が敗れ8歳の時に漂泊して重地に来たり鈴木氏に寄食し、その姓を名乗る。高橋赤山に学び強記にして詩文を能くし、また書に巧みなり、長じて子弟を薫陶し、村治の改善に与って力あり。明治35年2月6日没す、43歳。中里村史通史編下313頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	777
	関口孫一郎	十日町の人。人となり慷慨にして忠直。嘉永6年外艦の浦賀に至るや鎖国攘夷の説を唱う。明治維新後は心を開墾に傾け、字猿倉地内増沢の山野を開墾し、830間の用水路を疎通し、また字田川町より分岐し江道・津池・赤倉を経て南魚沼郡に通ずる里道を開鑿す。明治19年8月26日病没。明治44年郷人相謀り江道線の路傍に石を建ててその功績を勸せり	中魚沼郡誌下	710
	関口雪翁	十日町の人。名は世植、字は子郷、初め寛二と称し、後に多仲と改む、雪翁はその号なり。幼より学を好み長じて才幹あり。里正を務める。文化2年、家督を子に譲って江戸に出る。同年から文政5年まで津山侯の儒員となる。書を善くし、画に巧みに、その墨竹風韻もつとも高し、また詩を善くす。天保5年12月12日、没す。享年84。十日町市史通史編3 364頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	712
	関谷延八郎	嘉永4年、松之山郷菅刈生まれ。戸長・松平村長・東頸城郡教育会長・松代村会議員等を歴任	東頸城郡誌	924
	関谷源十郎	松代村松代の人。明治6年松代校の創立に尽力、以後、学校経営を援ける	東頸城郡誌	925
	大訥愚禪	上野村上村六郎右衛門の子なり、幼名を久治郎という。10歳の時、松代長命寺白龍和尚に就いて剃髪し愚禪と改む。性が魯鈍のため、お経を覚えられず生家に送り返されるも、父親の懇願により修行の継続を許される。享和3年、大乘の愚禪に従い各所に移錫して研鑽すること十余年、学大いに進み徳望高し、文化13年、師の跡を承く。その後、築地対雲寺に住すも火災により焼失し、愚禪が対雲寺再建を果たす。これにより愚禪の名が四方に馳せ、ついに吉祥寺に主たるに至る。その後、各地の住職を務め、安政6年9月4日没す、74歳。東頸城郡誌956頁にも記載あり。川西町史通史編上1015頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	746
	高橋赤山	長岡藩士長沢赤水の弟なり。名は茂由、慎五郎また泰介と称す、赤山は号なり。藩籍を脱して江戸に出て文武を兼修す。長崎の外商と貿易を謀り投獄され、赦されてのち秋山に隠れる。安政3年、船山に下学斎(後に赤山義塾と改める)を開く。明治3年、高山村に移り姓を高橋と改む。同6年小学校令の実施せらるるに至りてこれを閉じる。同9年11月23日没す、67歳。姪孫茂一郎を養い継嗣とす。茂一郎翠村と号し、また篤学の士なり。十日町市史通史編4 347頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	788
	高橋茂一郎	高橋赤山の姪孫で赤山の継嗣となる。高橋茂一郎は明治5年、これまで養父高橋慎五郎(赤山)と開いていた赤山義塾を閉じ、十日町小学校に教員として勤めた。12年に職を辞して上京し、二松学舎で1年間研鑽を積み再び郷里に帰ってきた。高山に落ち着いた茂一郎は13年10月、自宅で静雲精舎という私塾を開いたが、15年4月にはその門を閉じた。明治16年7月、中条村円通寺退隠僧高野本常主唱となり、高橋茂一郎を聘し、円通寺内に漢学塾「養文舎」を設置。19年9月に閉鎖す。(十日町市史通史編4 60頁)	十日町市史通史編4	59
	高橋芳謙	松之山村大字中尾生まれ。戸長・布川村長・松之山村長等を歴任し、村治経営に尽力	東頸城郡誌	931
	瀧谷琢宗	仙田村赤谷小川六左衛門の次子、魯山また蘇翁と号し、幼名を吾三郎という。14歳の時、刈羽郡上小国村真福寺祖珊に就いて得度。嘉永6年江戸に出て駒込吉祥寺で修業、明治18年大本山永平寺貫主、同22年曹洞宗管長。同30年1月31日没す、62歳。川西町史通史編下209頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	742
田口藤内	字は良庵、鶴寿道人と号す。木落の人、幼にして書を学び頭角を現す。医を服部乗山に学ぶ、業成りて一堂を構え業を開く、扁して永照堂という。業余子弟の教授を楽しみとす。教えを受ける者百有余人、嘉永4年門人その徳を思い碑を三島祠前に建つ。天保8年6月19日没す、66歳。中魚沼郡誌下1,396頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	744	

分類	項目	内容	出典	頁
近世以降の人物	千曲川万助	文政4年から同12年まで江戸相撲の番付に見られる千曲川万助は、中条村上町出身の力士で、本名は和田万助である。千曲川は番付には千熊川・千回川とも見られる。文政9年伊勢海・花籠部屋力士一行83名とともに郷土入りをし、長泉寺境内の観音堂前で相撲興行をしている	十日町市史通史編3	451
	忠兵衛	中屋敷村の庄屋。天明2年の検地の際に、大肝煎等が新田畑反別の大幅増加の内容を知らせずに調印させたのはおかしいと柏崎代官所に直訴する。天明6年投獄されても大肝煎の非理を訴え、同年9月許され出獄する。翌年検地の再調査が行われ、大肝煎以下36人は座して官を免ぜられる	中魚沼郡誌下	755
	津端儀兵衛	外丸村の人。家号を丸茂と称し、嘉永のころ越後縮布を持ち江府に来往してこれ売を業とす。性篤実にして道義を重んじ、公益を計るをもって楽となす。鹿渡新田より貝野村へ通ずるところに鷹の巣の嶮あり、牛馬往々転落して惨死を遂げるものあり。儀兵衛これを憂い貝野村の庄屋五右衛門に崖路改築の急務を説き工費の全額寄付を申し出る。貝野村民大いに喜び工事に従い、道幅9尺、長さ48間の道路竣工す。妹登美は十日町河本謙作に嫁す、正安の母なり	中魚沼郡誌下	763
	津端仙蔵	外丸村の人。儀兵衛の子なり。河本正安とは従兄で共に芳野金陵の門で学ぶ。文久2年8月9日没す、26歳。正安からの書簡の掲載あり	中魚沼郡誌下	764
	富井固山	中条村の人、通称孫蔵、牛石亭と号す。初め湖山に作り後に固山に改む。小杉蘿齋の門に入りて俳道を学ぶ、蘿齋死後は岡田葎堂に就いて学ぶ。明治35年12月22日没す、78歳	中魚沼郡誌下	731
	富澤虎次	天保13年松之山村大字浦田口生まれ、田邊與一郎の3男。慶応3年、小荒戸村富澤家を継ぐ。戸長・小区長・副大区長・県会議員・松代銀行専務取締役等を歴任	東頸城郡誌	923
	秧針庵文瑛	中条村の人、姓は大熊、平太郎と称す。文瑛はその俳号なり。岡田葎堂に就いて俳諧を学び、農業の余暇を以て研鑽して倦まず。公職に就くことを欲せず慈仁深くして常に細民を恤み、俳道に隠れて陰徳多し。明治42年3月1日没す、71歳	中魚沼郡誌下	731
	中村喜一郎	佐賀藩士で蘭学者中村喜助の長男として嘉永2年(1849)、現佐賀市水戸口町に生まれた。生来頭脳明晰で、幼くして藩校に学ぶ。明治6年官命によりウィーン万国博覧会の伝習生として渡欧、スイスからドイツへ入って応用化学や染色法を学ぶ。8年帰朝すると京都の舎密舎(せいみしゃ)の染殿で染色法を教授する。これがわが国における洋式化学染法の始まりである。その後、八王子織物染色講習所長、八王子染織学校校長を務め、34年に中魚沼郡立中魚沼染織学校校長に招かれる	十日町市史通史編6	234
	中村喜遊	十日町の人。芳草庵と号す。湯屋を業とし、酒を好み俳句を善くす。釜の火を焚きつつ俳句を推敲し、火の消えしを知らざること屡なり。明治8年5月17日没す、79歳	中魚沼郡誌下	716
	南雲平格	天保13年、浦田村大字浦田生まれ。庄屋・戸長を歴任	東頸城郡誌	935
	根津閑得	十日町の人。翠松菴と号し、曾兵衛と称す。十日町陣屋設置についての強訴を嘉永4・5年の2回行ったことで幕吏から目をつけられ、以後、世事を棄て好むところの俳諧に隠れて以て世を終う	中魚沼郡誌下	716
	野上敬斎	吉田村大字高島の人、父を尚斎という。幼にして伊達村阿部禎斎に就いて学を修めかつ医を学び、医業を自宅に開く。人となり文雅を好み信州佐久間雲窓に画を学び、のち瀧和亭の筆意を慕い凌雲と号しのちに雲嶽と改む。また俳歌を嗜み通信をもって備前の花廬庵岱山に学び、初め一羅と号しのちに竹宇と改む。和歌を弥彦神社宮司石丸忠胤に学ぶ。明治39年4月21日没す、69歳	中魚沼郡誌下	758
	野村ミス	倉俣村の野村ミスが、戦後初めて行われた衆議院議員選挙(昭和21年4月10日投票)に立候補し当選。22年4月第1回参議院議員選挙に挑戦するが落選	中里村史通史編下	493
	服部泰庵	十日町の人。諱は元伯、字松郷、積翠堂と号し、また大衡道人、黙仙と号す。乗山の嫡子、幼にして関口雪翁について学び、寛政の初め江戸に出て吉田快庵の門に入って医を学ぶ。その後、東北地方を漫遊し、松前奉行に仕える。郷に帰ってからは、弟道斎と共に父の業を助ける。晩年、伊勢に移って天保4年4月17日没す。十日町市史通史編3 306頁に「火の神の回状」として記述あり。中里村史通史編上 927頁に「諏訪山の天狗騒動」として記述あり。川西町史通史編上 556頁に「米穀不足と落文一件」として記載あり	中魚沼郡誌下	714
	服部道斎	十日町では近世中期以後明治期まで、原村で開業していた服部家が連綿として医家を継承していた。服部家の医家としての始期は明らかでないが、乗山～泰庵～(道斎)～惇庵～(藪軒)～祥山と続く。泰庵と道斎、藪軒と祥山はともに兄弟であるから、少なくとも4代6人の医師が近世の医療に携わってきたことになる(十日町市史通史編3 376頁「服部家の医系」)	中魚沼郡誌下	714
服部道斎	十日町の人。服部泰庵の弟。江戸の吉田快庵の門に入って医を学ぶ。次いで医学館で外科・産科を学ぶ。業成りて大和に開業す。郷に帰ってからは、兄泰庵と共に父の業を助ける。文化4年9月7日没す。十日町市史通史編3 377頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	714	
服部鼎	十日町の人。貞治と称し、藪軒と号す。惇庵の子、17歳の時に弟貞利(後に祥山と改む)と共に祖父泰庵に従って伊勢国山田に移居す。19歳の時に侍講清原宣明の門に入る。安政5年、十日町に帰り弟祥山と窮民の施療に力む。明治13年7月23日没す、67歳	中魚沼郡誌下	714	
藤ノ木徳三郎	小出出身、馬場村の汎愛村校で漢学を教える。角間校を建て、その遺徳を慕われて明治27年に碑が建てられた	中里村史通史編下	313	
不動ヶ瀧市蔵	十日町津池産の力士、9歳にして大なる臼を背負いて能く走るという。長じて江戸に出て九文龍の弟子となり幕の内に入りたりという。十日町市史通史編3 451頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	721	

分類	項目	内容	出典	頁
近世以降の人物	星名保	上野村の人。人となり篤厚にして愛国の念深く、国利民福に意を注ぐ。安政6年、上野・新町新田・下平新田・祖師・寺ヶ崎の入会山野を購買し、開墾して星名新田を起す。生計に窮し嬰兒を遺棄する者あるを憐み、これら乳幼児を養育し、その数16人の多きに達する。明治14年10月20日没す、64歳	中魚沼郡誌下	751
	堀次郎将俊	播州明石から堀次郎将俊が小千谷市郊外の山谷なる地へ移住し、従来の白布に改良を加え、緯糸に強い撚りをかけて縮ませ、あるいは紋彩を織り出す技法を伝授したことから、越後縮の生産が始まったと伝えられている。堀が小千谷に来た時期について「寛文のころ」（新編会津風土記）と「寛永のころ」（明石堂再建のための奉加帳序文）の2説あり。十日町市史通史編2 290頁にも記載あり	中里村史通史編上	813
	増田多郎左衛門	仙田村室島の人、俳号二川。寛政10年(1798)に松代犬伏の松茸神社に俳額を献額する。鈴木牧之の句も4首含まれている。編著に「笠の祓」	松代町史上	546
	増田枕石	中野村字友重高橋某の子、明治12年仙田村字室島の増田氏を継ぐ。名は讓、字は子謙、通称瓣治郎、枕石はその号なり。人となり謙譲にして理財に長じ、学を好み書を能くし、また詩に巧みなり。明治41年8月17日没す	中魚沼郡誌下	743
	丸山湘雲	水沢村字水沢の人。名は頌、字は楚香、退三と称す。湘雲または鷗江と号す。古志郡福戸村大字大荒戸の産にして田中退三と称す。橘三州に就いて医学を学び、その後梁川山嵐に師事す。慶応の初め国に帰り水沢村に隠れ丸山佐蔵の娘に入婿し、医をもって業となす。明治27年9月没す、72歳。十日町市史通史編4 346頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	782
	水野宴夕	十日町の人。水野嘉泰、一友軒宴夕と号す。風雅を好みて滑稽の奥義を究め、俳友多し。寛政2年12月29日没す、54歳	中魚沼郡誌下	717
	宮本茂十郎	京都西陣の人、あるいは上野桐生の産という。文政の末年、流浪して越後に来たり、五泉・村松・三条等を漫遊し十日町に来りて僑居す。十日町にて製出する縮布に改良を加え、苧糸を経とし絹糸を緯とし、絹苧混成の織物を按出す。後に茂十郎十日町を去りてその終わる所を知らず。中里村史通史編上 833頁にも記載あり。十日町市史通史編6 180・275頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	718
	村山玠庵	下条村大字下組の人なり。名は如璋、字は●郷、玠庵はその号、また薦施軒、鬻々狂生等の号あり。幼名昌吉、玠庵をもって称とす。父を芥菴といい医を業とす。刈羽郡南条村藍沢南城の三餘堂に学び、嘉永4年江戸に出て於玉ヶ池の磯野文鼎に就いて医学を学び、帰りて業を開く。河本正安等とともに攘夷運動に奔走するも、母親の病により再び上京を果たせず、元治元年12月18日没す、33歳	中魚沼郡誌下	736
	村山孝三	明治初年の田沢村戸長を務める。古今の金言・格言・比喩や教を編集した「知恵袋」を昭和3年に出版	中里村史通史編下	313
	村山五郎兵衛	田沢村の人。家は代々里正たり。田沢村は用水に乏しく旱損に苦しむこと甚だしく、五郎兵衛これを憂い、自ら救済の任に当たる。天明5年、溝口を東田尻地内に探して工事に着手し、30有余年の辛酸を嘗め、清津の溪流を引き来りて9ヶ部落、28町余の田に灌漑し、剰水を利用して桔梗ヶ原を墾開すること29町9反余歩、田沢新田を立てるに至る。中里村史通史編上 671頁に「桔梗原の開墾」記載あり	中魚沼郡誌下	779
	村山定四郎	水沢村大字新宮の人。雲樵と号す。長岡の仲沢雪城の門で学び、書において師の衣鉢を得たりという。郷に帰りて父四郎右衛門の職を継ぎ里正となる。これより以前の天保5年、祖母が蚕種を得て飼育を始め、父もその業を継ぐとともに桑園を開く。定四郎も2町歩余の桑園を開き養蚕に従事し、明治14年、蚕室を建てる、本郡蚕室建築の嚆矢なり。同17年、養蚕奨励のため近里300戸余りに対し「高助」と称する桑苗2本ずつ頒与す。明治26年8月没す、57歳	中魚沼郡誌下	785
	村山政栄	刈羽郡岡野町村山氏に生まれる。明治14年、松之山村山氏を継ぐ(29世)。戸長・県会議員等を歴任し、教育の普及に心を注ぐ。美術鑑識の能に長ず	東頸城郡誌	932
	村山政之輔	松之山村村山家26世。刈羽郡高田村生まれ、学を好み経史を藍澤南城に受け、詩を水落雲涛に問う、長じて村山氏を継ぐ。東頸城郡誌 854頁にも記載あり	東頸城郡誌	928
	本山彦吉郎	文化元年、浦田村大字浦田生まれ。庄屋・大区副長等を歴任。浦田校創設に尽力	東頸城郡誌	933
柳門平	松代村孟地の人。明治33年1月15日、新潟県知事より教育功労賞下賜	東頸城郡誌	925	
伝説	中魚沼郡誌	中屋敷村の庄屋。人となり剛直にして狭気あり。名子が百姓を僭称しようとした訴訟において、名子が幕吏に賄賂を贈り名子の勝訴になりかかったが、與三兵衛が名子の勝訴になれば村落の秩序が乱れるとして一書を認め自殺し、幕吏の反省を促した	中魚沼郡誌下	753
	渡辺芝谷	刈羽郡上小国村字岩田生まれ、幼にして新保広大寺の徒弟となり、諸寺の住職を経て雲洞庵の執事となる。芝谷画を好み富取芳斎に就いてこれを学ぶ、また書を善くす。十日町の縮問屋蕪木八郎右衛門の支援で支那に遊学する。帰朝後、十日町正念寺の傍らに住し書画をもって余年を過ごし、明治33年12月17日没す、73歳。十日町市史通史編4 345頁にも記載あり	中魚沼郡誌下	740
伝説	中魚沼郡誌	護良親王遺蹟(十日町)、石原道仙(中条村新座)、月槌(中条村蕨平)、仁田と木落開祖、黒鳥兵衛討伐人夫(橋村仁田)、千手海嘯(千手町村)、龍馬(千手町村水口沢)、五郎狐(吉田村鉢)、上杉氏遺法(貝野村本屋敷)、溪流瀬替(貝野村本屋敷)、小松重盛裔(倉俣村倉俣)、小松原、富士野巻狩力士(倉俣村)、太田新右衛門(水沢村馬場)、楫(水沢村)、寺池(六箇村二ツ屋)	中魚沼郡誌下	1,414
	十日町市史	「東光寺のケヤキ」「八幡社のカツラの木」「茶塚の松」「ナンジャモンジャの木」「熊石権現」「雨降り石」「鉢の石仏」「牛池」「七ツ釜と片目の魚」「竜王池」「大池」「弘法清水」「観音塚」「踊り塚」「十二様」「新保の観音様」「城之古の観音様」「背戸の竜王様」「高瀬屋の櫓」「水堀まんじゅう」	十日町市史資料編8	797

分類	項目	内容	出典	頁
伝説	川西町史	「信濃へ移住した仁田村」「川端治助の地藏様」「隠如塚」「竜馬」「仁田と木落の開祖」「塩辛」「火伏の地藏尊」「南堂稻荷備中守」「千手海嘯」「雷獣」「藤造ヶ淵」「岩瀬の観音様」「岩瀬の火伏地藏」	川西町史資料編下	822
	郷土なかさと	「不思議な狐」「ヘソ喰いカッパ」「薬師の森」「姉如来」「しくじりムジナ」「腹切り田」「殿さま塚」「船石」「ねじり杉」「七つ釜」「白羽毛観音」「瀬戸口の湯」「にかっこ滝」「阿弥陀様の由緒」	郷土なかさと第7集	85
	東頸城郡誌	「松山鏡」「松苧大権現」「嗚呼、柰田主膳正」「音の神の由来」「鬼婆」「五鬼火事」「蛇切丸物語」「弘法大師の足跡」。松之山町史 1059 頁にも	東頸城郡誌	附録
	松代町史	「松苧大権現」「五鬼火事」「海老の牛池」「蛇切丸物語」「七ツ釜物語」「八百比丘尼」	松代町史下	556
	松之山町史	「松山鏡」「奴奈川姫」「竜の尻尾と河童の爪跡」「名匠」「弘法清水」。同町史 75 頁に「柰坂」の記述あり	松之山町史	1,059
昔話	十日町市史	「ワラとスミとマメ」「魂のいれかわり」「古やのもり」	十日町市史資料編8	791
	川西町史	「地藏様とだんご」「ケチくらべ」「一貫しめこの兎」「隠しぼた餅とシグゲエル」「きのこの化け物」「古屋の漏る屋」「魚釣り爺さときつね」「主人も猫も鶏もひととし」「イゴの子むかし」「かにとかえるの恩返し」「木の又年」「節分の赤鬼と青鬼」「藤五郎の粟種」「炭焼き長者」	川西町史資料編下	808
	松代町史	「猿むかし」「鳥呑み爺さ」「手品師と軽業師と医者」「三九郎とおべん」「ほととぎすの兄弟」「オモと山姥」「せいじょ」	松代町史下	543
	松之山町史	「あややちようちよう こやちようちよう」「和尚とあま酒」「ふしぎな刀」「うば捨て山」「地藏金」	松之山町史	1,064
異聞	中魚沼郡誌	「熊人を助く」「塩吹穴」「雷獣」	中魚沼郡誌下	1,408



## **2. 郷土の歴史文化に関する既刊資料**

分 類	頁
(1) 合併前に刊行された旧市町村史	63
(2) 郷土の歴史に関する資料	64
(3) 織物に関する資料	69
(4) 雪に関する資料	70
(5) 雪まつりに関する資料	71
(6) 民俗・芸能に関する資料	71
(7) 食に関する資料	72
(8) 文化財調査報告書	73
(9) 十日町市歴史資料目録	75
(10) 旧市町村史編さんに伴う資料目録	76

## (1) 合併前に刊行された旧市町村史

No.	資料名	著者／発行者	出版年
1	十日町市史 資料編1 自然	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1992
2	十日町市史 資料編2 考古	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1996
3	十日町市史 資料編3 古代・中世	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1992
4	十日町市史 資料編4 近世 1	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1992
5	十日町市史 資料編5 近世 2	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1993
6	十日町市史 資料編6 近・現代 1	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1993
7	十日町市史 資料編7 近・現代 2	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1995
8	十日町市史 資料編8 民俗	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1995
9	十日町市史 通史編1 自然・原始古代・中世	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1997
10	十日町市史 通史編2 近世 1	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1995
11	十日町市史 通史編3 近世 2	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1996
12	十日町市史 通史編4 近・現代 1	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1996
13	十日町市史 通史編5 近・現代 2	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1997
14	十日町市史 通史編6 きもの産地・十日町のあゆみ	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1997
15	十日町市のあゆみ	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1998.03
16	十日町の昔ばなし	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1993
17	市史リポートとおかまち 第1集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1987.06
18	市史リポートとおかまち 第2集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1988.07
19	市史リポートとおかまち 第3集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1989.07
20	市史リポートとおかまち 第4集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1990.07
21	市史リポートとおかまち 第5集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1991.08
22	市史リポートとおかまち 第6集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1992.11
23	市史リポートとおかまち 第7集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1993.12
24	市史リポートとおかまち 第8集	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1995.01
25	十日町市郷土資料双書1 縮問屋加賀屋資料1	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1991
26	十日町市郷土資料双書2 縮問屋加賀屋資料2	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1992
27	十日町市郷土資料双書3 縮問屋加賀屋資料3	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1993
28	十日町市郷土資料双書4 雪のしじまに絹織る箴言	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1994
29	十日町市郷土資料双書5 縮問屋加賀屋資料4 元治元年江戸・京出役書状	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1995.1
30	十日町市郷土資料双書6 縮問屋加賀屋資料5	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1996
31	十日町市郷土資料双書7 縮問屋加賀屋資料6 慶応二年江戸出役書状	十日町市史編さん委員会 編／十日町市博物館	1998.01
32	十日町市郷土資料双書8 越後縮の生産をめぐる生活誌	十日町市史編さん委員会 編／十日町市博物館	1998.01
33	十日町市郷土資料双書9 縮問屋加賀屋資料7 慶応三年江戸・京出役書状	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1998.01
34	十日町市郷土資料双書10 縮問屋加賀屋資料8 慶応四年江戸・京都出役書状	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2001.12
35	十日町市郷土資料双書11 加賀屋の年中行事1 永用年中行事記	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2002.12
36	十日町市郷土資料双書12 徳永重光家資料1 松前歌舞伎興行衣装方の記録	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2003.12
37	十日町市郷土資料双書13 縮問屋加賀屋資料10 加賀屋の年中行事2	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2004.11
38	十日町市郷土資料双書14 田村タニ家資料1 地すべりに挑んだ村人たち	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2006.03
39	十日町市郷土資料双書15 古文書から読み解くふるさとの歴史 縮問屋加賀屋の世界	十日町市博物館友の会古文書グループ 編／十日町情報館	2009.03
40	聞き取り 十日町産地を語る 第1集 別冊市史リポート 部内資料	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1988.06
41	聞き取り 十日町産地を語る 第2集 別冊市史リポート 部内資料	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1988.12
42	聞き取り 十日町産地を語る 第3集 別冊市史リポート 部内資料	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1989.09
43	聞き取り 十日町産地を語る 第4集 別冊市史リポート 部内資料	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1990.03
44	手記わたしの証言 第1集 別冊市史リポート	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1988.09
45	手記わたしの証言 第2集 別冊市史リポート	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1989.12
46	手記わたしの証言 第3集 別冊市史リポート	十日町市史編さん委員会 編／十日町市史編さん委員会	1991.08
47	十日町市史編さん日誌	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1997.09
48	十日町市史 編さん室だより 資料紹介	十日町市史編さん委員会 編／十日町市博物館	1997.09
49	川西町史 資料編 上巻	川西町史編さん委員会 編／川西町	1986.01
50	川西町史 資料編 下巻	川西町史編さん委員会 編／川西町	1986.01

No.	資料名	著者／発行者	出版年
51	川西町史 通史編 上巻	川西町史編さん委員会 編／川西町	1987. 03
52	川西町史 通史編 下巻	川西町史編さん委員会 編／川西町	1987. 03
53	町史こぼれ話 第1集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1981. 11
54	町史こぼれ話 第2集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1982. 07
55	町史こぼれ話 第3集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1983. 02
56	町史こぼれ話 第4集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1983. 09
57	町史こぼれ話 第5集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1984. 03
58	町史こぼれ話 第6集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1984. 11
59	町史こぼれ話 第7集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1985. 11
60	町史こぼれ話 第8集	川西町史編さん委員会 編／川西町史編さん室	1987. 09
61	中里村史 資料編上巻 原始・古代・中世	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1985
62	中里村史 資料編下巻 近世・近代・現代	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1987
63	中里村史 通史編上巻 自然・原始・古代・中世・近世	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1988
64	中里村史 通史編下巻 近代・現代・民俗	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1989. 03
65	郷土なかさと 第1集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1981. 12
66	郷土なかさと 第2集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1982. 12
67	郷土なかさと 第3集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1983. 12
68	郷土なかさと 第4集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1984. 12
69	郷土なかさと 第5集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1985. 12
70	郷土なかさと 第6集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1987. 01
71	郷土なかさと 第7集	中里村史編さん委員会 編／中里村教育委員会	1988. 01
72	松代町史 上巻	松代町史編纂委員会 編／松代町	1989. 03
73	松代町史 下巻	松代町史編纂委員会 編／松代町	1989. 03
74	松代町史 平成版	松代町史編纂委員会 編／松代町	2005. 01
75	松之山町史	松之山町史編さん委員会 編／松之山町	1991. 06

## (2) 郷土の歴史に関する資料

### 【昭和20年以前に刊行・作成された郷土の歴史に関する資料】

No.	資料名	著者／発行者	出版年
1	十日町誌 上下巻	十日町役場 編／十日町役場	1915
2	中魚沼郡誌 上下巻	中魚沼郡教育会 編／中魚沼郡教育会	1919. 12
3	中魚沼郡風土志	石原信 著／石原信	1912. 1
4	東頸城郡誌	東頸城郡教育会 編／東頸城郡教育会	1923. 03
5	飯山鉄道名勝案内	石原信 著／石原信	1927
6	十日町一覽表 大正7年度	十日町役場 編／十日町役場	1918
7	十日町一覽表 大正10年度	十日町役場 編／十日町役場	1921
8	新潟縣東頸城郡是	新潟縣東頸城郡役所 編／新潟縣東頸城郡役所	1921. 07
9	殉烈餘響 全 (坂下門外の変で死亡した河本杜太郎について)	丸山拳石 著／丸山拳石	1889. 06
10	芝蘭 (大正時代の中魚沼郡内の写真集)	宮川重雄 編／宮川重雄	1914
11	中魚沼郡地誌	石原信／石原信	1917
12	十日町市街略図 十日町各営業者案内	吉田吉治郎 編／吉田吉治郎	1925
13	十日町線建設工事概要	鉄道省長岡建設事務所 編／鉄道省長岡建設事務所	1927

### 【昭和21年以後に刊行・作成された郷土の歴史に関する資料】

No.	資料名	著者／発行者	出版年
14	大日本地誌大系 29 新編会津風土記 第5巻	雄山閣	2002. 05
15	北越雪譜 複製	鈴木牧之 撰／名著刊行会	1968
16	秋山記行	鈴木牧之 著／信濃教育会出版部	1962
17	越後野志 上巻・下巻	[小田島允武 著]／歴史図書社	1974
18	十日町組地誌書上帳 郷土研究資料 第3輯	十日町市教育委員会 編／十日町市教育委員会	1961. 03
19	郷土関係文献・資料目録 考古 歴史 民俗	十日町市教育委員会 編／十日町市教育委員会	1970. 03
20	旅つれづれ 江戸時代の旅と越後・佐渡の名所	新潟県立歴史博物館 編／新潟県立歴史博物館	2010. 04
21	十日町市博物館常設展示案内	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1995. 12
22	十日町市博物館常設展示ガイド 雪 織物 信濃川	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1986. 03
23	十日町市博物館常設展示解説書 別冊 民家	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1987. 03
24	十日町市博物館常設展示解説書 2 信濃川	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1982. 03
25	常設展示ガイド 雪と織物と信濃川、国宝・火焔型土器	十日町市博物館／十日町市博物館	2014. 02
26	妻有地方の精神文化 地域の心をさぐる	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1989. 03
27	十日町新聞 第一巻 明治四十一年～大正二年	山内正胤 編／十日町新聞社	1986. 01
28	十日町新聞 第二巻 大正三年～大正七年	山内正胤 編／十日町新聞社	1986. 01
29	十日町新聞 第三巻 大正八年～大正十二年	山内正胤 編／十日町新聞社	1989. 02
30	十日町新聞 第四巻 大正十三年～昭和三年	山内正胤 編／十日町新聞社	1989. 02
31	十日町新聞 第五巻 昭和四年～昭和八年	山内正胤 編／十日町新聞社	1993. 05
32	十日町新聞 第六巻 昭和九年～昭和十三年	山内正胤 編／十日町新聞社	1993. 05
33	諏訪神社物語	十日町諏訪神社誌編集委員会 編／諏訪神社	1995. 01

No.	資料名	著者／発行者	出版年
34	七んち祭りの下町	下町若衆連中 編/下町若衆連中	2001. 12
35	中魚沼支部神社銘鑑	中魚沼神社銘鑑編集委員会 編/中魚沼神職会	2000. 06
36	松尾社遷座百年祭記念誌	松尾社遷座百年祭実行委員会 編/松尾社遷座百年祭実行委員会	2010
37	明治期の中魚沼郡の神々と神社 中魚沼郡誌を基にして	柳幸宏 著/柳幸宏	1997. 03
38	瑞穂 三柱神社合祀五十周年記念誌	松之山町上川手部落 編/松之山町上川手部落	1978. 11
39	川西町の板碑 越後板碑サミットの記録	川西町 編/川西町	2003. 07
40	妻有の百三十三番 ふる里の霊場めぐり	十日町市中魚沼郡曹洞宗青年僧侶の会 編/十日町市中魚沼郡曹洞宗青年僧侶の会	1985. 06
41	曹洞宗青年僧侶による妻有百三十三番霊場紀行	曹洞宗新潟県第一宗務所第八教区青年僧侶の会 編/曹洞宗新潟県第一宗務所第八教区青年僧侶の会	2015. 12
42	妻有のみほとけたち 写真集	山内景行 撮影/曹洞宗青年僧侶の会	1985. 06
43	聖寿山祇園寺 結制記念	祇園寺 編/祇園寺	1981. 07
44	智泉禅寺 その歴史と四季折々	田村泰宏/智泉寺	1990. 05
45	長期大開帳記念誌 観音の森 妻有神宮寺観世音の歴史と信仰	竹内道雄 編/神宮禅寺	1995. 07
46	来迎寺略縁起	来迎寺略縁起編集委員会 編/小林賢有	1996. 09
47	こころの文化財長栄山西永寺 そのあゆみと可能性	西永寺再建百五十年記念事業実行委員会 編/西永寺再建百五十年記念	2000. 06
48	ぬくもりの修行 一生かされて 生かして 生きる— 郷土の高僧 滝谷琢宗禅師顕彰事業	曹洞宗都市青年僧侶の会 編/曹洞宗都市青年僧侶の会	2006
49	愚禅和尚物語 庶民とともに生きた名僧	上村政基 著/上村政基	2009. 08
50	琢宗禅師 郷土の高僧	金子幸作 著/中魚沼郡・十日町市曹洞宗青年僧侶の会	2006. 08
51	妻有八十四番札所願王庵	姿部落 編/姿部落	1988. 08
52	十日町教会七十年史	日本基督教団十日町教会 編/日本基督教団十日町教会	1987. 01
53	年表で見る昭和からの主な出来ごと 世界・日本・郷土と我が家の記録	中条再発見講座一同/中条地区公民館	2013. 05
54	つまり 上 「つまり」1号～33号の合本	妻有の文化遺産を守る会 編/妻有の文化遺産を守る会	1999
55	つまり 下 「つまり」34号～64号の合本	妻有の文化遺産を守る会 編/妻有の文化遺産を守る会	1999
56	妻有の里歴史街道 創刊号	歴史街道同人会 編/歴史街道同人会	2000
57	妻有の里歴史街道 第2号	歴史街道同人会 編/歴史街道同人会	2001. 03
58	妻有の里歴史街道 第3号	歴史街道同人会 編/歴史街道同人会	2002. 04
59	十日町市の遺跡 ガイドブック	十日町市博物館 編/十日町市博物	1988. 03
60	火焔形土器のクニ 国指定重要文化財考古資料笹山遺跡出土品一括	十日町市博物館 編/十日町市博物館友会の会	1992. 07
61	火焔土器研究の新視点 縄文人の技と心に迫る	十日町市博物館 編/十日町市博物館友会の会	1996. 01
62	図録 笹山遺跡 国宝指定笹山遺跡出土品のすべて	十日町市博物館 編/十日町市博物館	1999
63	国宝笹山遺跡出土品のすべて	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2011. 03
64	火焔型土器をめぐる諸問題 笹山遺跡の謎に迫る	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2000. 01
65	十日町市の縄文土器	十日町市博物館 編/十日町市博物館友会の会	2007. 08
66	縄文人の道具箱 野首遺跡	十日町市博物館 編/十日町市博物館友会の会	2009. 08
67	縄文式土器の形と文様 笹山遺跡出土国指定10周年記念	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2010. 02
68	縄文前期のムラ 赤羽根遺跡 一火焔型土器の出現前夜—	十日町市博物館/十日町市博物館	2014. 09
69	縄文後期の墓 栗ノ木田遺跡 一縄文人の死と弔い—	十日町市博物館/十日町市博物館	2015
70	壊されるモノ 一土偶・石棒・石皿からみた縄文の祭祀— 2010年夏季特別展 展示リーフレット	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2010. 07
71	縄文のKAKARI 一顔を飾る縄文人— 2011年夏季特別展 展示リーフレット	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2011. 07
72	異形の縄文土器 2012年夏季特別展 展示リーフレット	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2012. 09
73	ビジュアル縄文博物館 縄文人の衣食住、そして土器	十日町市博物館/十日町市博物館	2013. 09
74	平和への証言 その時わたしは 終戦50年を迎えて	大井田賢老大学 編/大井田賢老大学	1995. 08
75	「戦争の記録」語り継ぐあの日の時 「ゆずり葉」に託す過去の戦争の記録と体験そして平和を願う思い	十日町市中央公民館 編/十日町市中央公民館	2012. 07
76	平和の碑	十日町市遺族会 編/十日町市遺族会	1995. 03
77	平和のいしづえ 妻有・大井田の史話と戦歴	平和のいしづえ編修委員会 編/大井田戦友会	1972. 12
78	屍山屍水	中里村連合遺族会 編/中里村連合遺族会	1972. 12
79	妻有郷 新潟県中魚沼郡学術調査報告書	新潟県教育委員会	1958
80	随想妻有郷 十日町地方の歴史と民俗	佐野良吉 著/国書刊行会	1982. 07
81	妻有郷の歴史散歩	佐野良吉著 /国書刊行会	1990. 05
82	妻有郷 ムラと人びと	週報とおかまち社 編/週報とおかまち社	1989. 1
83	訂正越後頸城郡誌稿 上巻	越後頸城郡誌稿刊行会 編/豊島書房	1969
84	訂正越後頸城郡誌稿 下巻	越後頸城郡誌稿刊行会 編/豊島書房	1969. 11
85	越後頸城郡誌稿 附図	越後頸城郡誌稿刊行会 編/豊島書房	1969
86	新潟県の合戦 小千谷・十日町・魚沼編	いき出版 企画・制作/いき出版	2009. 11
87	中魚沼の城 高校生による城跡調査報告書	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1959
88	十日町の城跡	丸山克己 著/十日町市博物館	1987. 02
89	図説中世の越後 春日山城と上杉番城(犬伏城・琵琶懸城あり)	大家健 著/野島出版	1997
90	躍進 本町東1丁目 東友会30周年記念誌	東友会 編/東友会	1993. 05

No.	資料名	著者／発行者	出版年
91	軽澤史	阿部 孫三郎 著／阿部勲	1996.07
92	上川町二十年の歩み 上川町20周年記念誌	上川町20周年実行委員会	1992.01
93	上川町四十年の歩み 上川町40周年記念誌	上川町40周年実行委員会 編	2012.12
94	年輪 丸山町三十年のあゆみ	三十周年実行委員会 編／丸山町	1996.01
95	十日町のルーツ かわらちょう 写真集 20世紀の思い出	高橋健吉郎 編／大島義隆	2000.12
96	島から西部へ 西部分館開設10周年記念誌	十日町市中央公民館西部分館(西部会館)	2009.11
97	本町六の三丁目 五十年のあゆみ	50周年記念事業実行委員 編／本町六の三丁目町内会	2015.12
98	榎川と榎町の物語	滝沢栄輔 著／滝沢栄輔	2011.06
99	新座の里	新座の里編集委員会 編／新座振興会	1991.03
100	皇国地誌編輯 越後国魚沼郡新座村	須藤重夫 翻刻／中条地区公民館	1994
101	資料に基づいた大井田物語	小川元 著／中条地区公民館	1984.06
102	昭和還暦大井田物語	昭和還暦大井田物語編纂委員 編／十日町市公民館大井田分館	1989.01
103	四日町 古文書集	四日町歴史保存会 編／四日町評議委員会	2004.01
104	郷土史 飛渡	橋本亀三郎 著／橋本亀三郎	1972.06
105	郷土中条のしおり 新潟県十日町市	岩田七郎 著／野島出版	1986.01
106	旭町百年誌	旭町百年祭実行委員会記念誌部会 編／旭町百年祭実行委員会	1987.03
107	皇国地誌編輯村誌書上簿 明治10年 越後国魚沼郡中条村	佐藤英一 翻刻／佐藤英一	1998.04
108	小貫 閉村記念誌 閉村記念誌 小貫 (H19.11.11 閉村)	小貫閉村実行委員会	2008.03
109	上宮太子堂と円通寺 上之島の歴史	桂会 編／桂会	1984.08
110	入山物語 新潟県十日町市入山物語	山本丑松 著／山本丑松	2012.07
111	北原の歴史物語	北原の歴史物語作成委員会	2014.03
112	下山とその周辺の昔語り	長谷川一郎 著／長谷川一郎	1986.01
113	原部落と天満宮の昔と今	生越好雄 著／生越好雄	1987.08
114	十年のあゆみ	十日町市下条中央通り十周年記念行事編集委員会／十日町市下条中央通り	1976.04
115	飛躍のあしあと 下条栄町創立30周年記念誌	下条栄町30周年記念実行委員会 編／下条栄町30周年記念実行委員会	2001.11
116	戸度の伝記	田村仙一郎 著	2012.02
117	川治史話	徳永正夫 編著／川治地区公民館	1998.04
118	20年のあゆみ 妻有会20周年記念誌	20周年記念誌編集委員会 編／妻有会	1995.08
119	寿町のあらし	寿町親和会 編／寿町親和会	1995.03
120	春日町50周年記念誌	春日町50周年記念事業実行委員会 編／春日町地区振興会	2013.12
121	羽根川のうた	加藤次馬 著／十日町市立六箇小学校	1980.01
122	六箇史話	加藤次馬 著／六箇史話刊行会	1983.03
123	おらが村の聞き書き帳	尾身美教著／尾身美教	1986.08
124	北鑑坂の記録	北鑑坂の記録有志の会 編／北鑑坂の記録有志の会	2012.08
125	水沢村史	水沢村史調査委員会 編／水沢村史刊行会	1970
126	むかしのくらし 「水沢村史」別冊	十日町高校社会科クラブ 編／水沢村史刊行会	1965.11
127	姿のあゆみ	保坂巖 著／姿部落	1982
128	幸町十五年のあゆみ	十日町市幸町 編／十日町市幸町	1988.11
129	お私たちの緑町も20歳になった	土市緑町20周年事業実行委員会 編／土市緑町	1994
130	中山 龍次	松岡讓 編／中山龍次先生顕彰会	1958.05
131	十日町の父中山龍次	平野幸作／めぐみ工房	1992.06
132	人間 岡田正平	高橋虎 編	1962.09
133	源氏新田系 岩田家々系の栞	岩田鍊 著／岩田鍊	1993
134	高橋赤山先生 関係資料集 川治小学校初代校長	十日町市立川治小学校 編／十日町市立川治小学校	2004
135	我家の歴史、祖先、神社・お寺のこと、集落行政、しきたり、財産管理、巻親類のことなど(八箇・関根地区)	南雲徳栄	2004.08
136	積翠荘之記	酒井米三郎 編／酒井米三郎	1963.07
137	酒井家の歴史 三百五十年祭記念	酒井米三郎 著／酒井米三郎	1967.09
138	雪国に生きて(鉢集落の記述あり)	尾身ミノ 著／新潟雪書房	1999.06
139	モノづくり わが70年の記(鉢集落の記述あり)	尾身勝	2015.11
140	かわにし郷 川西町文化財総合調査報告書 1960	川西町教育委員会 編／川西町教育委員会	1960.05
141	史料川西町のあゆみ	川西町教育委員会 編／川西町教育委員会	1973.03
142	会津戦争と川西町	金子幸作 著／川西町公民館	1979.08
143	おらムラの話 広報かわにし特別編集	上村政基 著／川西町	2005.03
144	歴史は語る(「広報かわにし」の連載記事ほか)	金子幸作 著	2003.09
145	川西町の歴史(草稿)	上村政基 著	2003
146	上野ムラのはじまりと城山のむかし 普及版	上村政基 著／上野地区振興会／節黒城址保存会	2009.02
147	上野のムラと城山のむかし 節黒城の二つの時代	上村政基 著／上村政基	2009.08
148	ふるさとの記録 藤井の里 藤沢集落の歴史と民俗	茂野寅一・茂野宗平 共編	1973.01
149	村史と美しき村造り ふるさとの記録(新町新田の歴史、川西ダム建設編)	若山三郎 著／若山三郎	1982.12
150	小根岸四方山 信濃川はわが友	小海正太郎 編／小海正太郎	1991.06
151	熊野社再建竣工記念誌	仁田区・神社再建委員会 編／仁田区・神社再建委員会	1999
152	村の歩みを友と語らん(下原村・根深の歴史)	須藤寛蔵 編／須藤寛蔵	1993
153	星名新田の人々	星名い志 著／星名い志	1977.12

No.	資料名	著者／発行者	出版年
154	丸山伊太郎征露陣中日誌(橘村出身者の日露戦争従軍日誌)	上村政基 編/上村政基	2006.04
155	御先祖様の思いをつなぐ 仙田地区の起こり 1200年の歴史	高橋政子 著/高橋政子	2013.07
156	百周年記念誌 むらの記録～白倉その百年～	白倉小学校百周年記念事業実行委員会 著/白倉小学校百周年記念事業実行委員会	1975.02
157	マンガ中里物語	ナート 編/中里村役場	1992.03
158	桔梗原 中里村郷土資料	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1996.03
159	新潟県精髄東頸城郡誌 復刻版	東頸城郡教育会 編輯/千秋社	1999.08
160	松代・松之山 文化財総合調査	新潟県教育委員会	1975
161	松代町郷土誌 教育編	松代町郷土誌編纂委員会 編/松代町郷土誌編纂委員会	1964
162	松代町郷土誌 沿革編 上巻・下巻	松代町教育委員会 編/松代町教育委員会	1971.07
163	松代町の歴史を語る 上 市川牧人遺稿集	市川俊雄 著/松代町教育委員会	1979.03
164	松代町の歴史を語る 下 市川牧人遺稿集	市川俊雄 著/松代町教育委員会	1982.01
165	蒲生ヶ池 松代町部誌 第1号 蒲生の歴史	蒲生の歴史編纂委員会 編/松代町教育委員会	1969
166	古老からの伝承 ふるさとの歴史・記録集 第二集	福島村ふるさと文化を守る会 編/福島村ふるさと文化を守る会	1996.03
167	郷土史 近世伊沢の村村	山本善平 著/山本善平	
168	中山間地域松代区誌	高橋芳平 編/中山間地域等直接支払第二期松代集落	2011.12
169	道程 松代町制施行50周年記念写真集 松代町制施行50周年記念写真集	松代町	2005.01
170	新潟県東頸城郡松之山町郷土史 第1集 江戸時代	松之山町文化財保護委員会 編/松之山町文化財保護委員会	
171	郷土史 第2集	松之山町文化財調査委員会 編/松之山町文化財調査委員会	1971.04
172	郷土史	松之山町郷土資料館運営委員会	1979
173	浦田村誌	浦田村 編/浦田村	1955.03
174	松口・沢口・三桶誌	松口・沢口・三桶誌編集委員会 編/下川手集落	1999.12
175	松之山 天水越集落史「温故知新」	天水越集落史編纂委員会/松之山天水越集落	2017.02
176	松之山郷の歴史散歩	関谷哲郎 著/野島出版	1997.04
177	大井田氏探訪	佐野良吉 著/大井田氏サミット準備会	1990.12
178	太平記に登場する大井田氏一族 太平記抜萃	全国大井田氏サミット実行委員会 編/全国大井田氏サミット実行委員会	1991.04
179	全国大井田氏サミット鼎談要旨	大井田氏サミット実行委員会 編/大井田氏サミット実行委員会	1991.06
180	大井田城物語	佐野良吉 著/全国大井田氏サミット実行委員会	1993.04
181	清風萬里大井田城 第二回 全国大井田氏サミット記念誌	全国大井田氏サミット実行委員会 編/全国大井田氏サミット実行委員会	1993.07
182	大井田一族のすべて	全国大井田同族会 編/全国大井田同族会	1996.05
183	大井田氏の軌跡 福山城合戦	福崎静香 著/福崎静香	2002.11
184	越後信濃地域史の構造と伝承 地域史の構造と伝承	赤沢計真 著/第一書店	1979.05
185	越後新田氏の研究 環日本海歴史民俗学叢書 8	赤沢計真 著/高志書院	2000.03
186	越後上杉氏の研究 環日本海歴史民俗学叢書	赤沢計真 著/高志書院	1999.05
187	越佐歴史散歩 上越編	中村幸一 編著/野島出版	1973
188	越佐歴史散歩 中越編	中村幸一〔ほか〕編著/野島出版	1970
189	母なる信濃川	毎日新聞新潟支局 編/北陸建設弘済会	1970
190	妻有と信濃川	十日町市博物館友の会 編/十日町市博物館友の会	1984.08
191	山内写真館の世界	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2012.03
192	ふるさとの思い出 写真集 明治大正昭和 十日町	十日町市博物館友の会 編/国書刊行会	1982.01
193	十日町・中魚沼・松之山郷今昔写真帖 保存版	佐野良吉 監修/郷土出版社	2002.09
194	写真集ふるさとの百年 十日町・中魚沼	新潟日報事業社出版部 編/新潟日報事業社	1981
195	写真集ふるさとの百年 東頸城・中頸城2	新潟日報事業社出版部 編/新潟日報事業社	1982
196	目で見ると十日町・小千谷・魚沼の100年 十日町市・小千谷市・北魚沼郡・中魚沼郡・南魚沼郡	郷土出版社	1992
197	図説十日町小千谷魚沼の歴史 新潟県の歴史シリーズ	小野坂庄一 監修/郷土出版社	1998.01
198	妻有の人物史 1 先人の生き方に学ぶ	十日町市博物館 編/十日町市博物館友の会	1990.03
199	妻有の人物史 2 先人の生き方に学ぶ	十日町市博物館 編/十日町市博物館	1991.03
200	妻有郷人物傳	週報とおかまち社 編/週報とおかまち社	1994.01
201	中条の人物史 地域の発展・興隆の先達	中条地区公民館 編/中条地区公民館	1976.11
202	北越詩話 上・下	阪口五峰 著/歴史図書社	1974.11
203	新潟県人物百年史 頸城編(松之山 保坂玉泉、十日町 島田久吉)	新潟県上越人物史研究会 編/東京法令出版	1967
204	新潟県人物百年史 続頸城編	新潟県上越人物史研究会 編/東京法令出版	1968
205	「尾台土超墓碑銘」並びに河本杜太郎関係資料	尾台榕堂没後140年記念事業実行委員会	2010.11
206	尾台榕堂先生伝	佐野良吉 著/榕堂会	1991.11
207	尾台榕堂全集 1～8	尾台榕堂 著/オリエント	1997.08
208	尾台榕堂全集 訓注 第一巻～第四巻 訓注 尾台榕堂全集 第一巻～第四巻	横田観風 訓注/日本の医学社	2010.04
209	尾台榕堂と漢方を語る 漢方医学の最高峰	中条地区振興会	2009.02
210	尾台榕堂140年祭のしおり	尾台榕堂没後140年記念事業実行委員会	2010.11
211	尾台榕堂没後140年記念のしおり	尾台榕堂没後140年記念事業実行委員会	

No.	資料名	著者／発行者	出版年
212	尾台榕堂物語 越後妻有が生んだ漢方の巨星	齊藤ひさお 画/榕堂会	1994. 11
213	かがり火 尾台榕堂之碑建立記念誌	尾台榕堂没後140年記念事業実行委員会	2011. 01
214	近世漢方医学書集成 57～59 尾台榕堂 1～3	大塚敬節 責任編集/名著出版	1980. 11
215	儒医両道の仁医尾台榕堂先生伝	藤平健/著 東亜医学協会	2010
216	榕堂先生みつけ隊報告書 その一・その二合併号 現代漢方医学の祖 尾台榕堂の人物掘りおこし	十日町青年会議所まちづくり委員会 編/十日町青年会議所まちづくり委員会	1990. 12
217	榕堂会々誌 第二号	榕堂会 編/榕堂会	1994. 11
218	榕堂会々誌 第四号	榕堂会 編/榕堂会	1995. 06
219	類聚方広義 重校薬徴 和訓	吉益東洞 原著/創元社	1976. 02
220	醫餘	尾台良作 著/勝村治右衛門	1863. 01
221	方伎雑誌	尾台良作 著/森屋治兵衛	1871. 04
222	中魚沼の物語	小林存 著/中魚沼の物語刊行会	1954. 09
223	中魚沼の物語 増補版	小林存 著/中魚沼の物語刊行会	1956. 09
224	十日町の風土	高橋喜平 編/十日町の風土刊行会	1960. 11
225	妻有地方の暮らしと歩み 郷土記録賞入賞作品集 1985年～1989年	十日町市博物館友の会郷土記録賞作品編集委員会/十日町市博物館友の会	1990. 12
226	松之山郷の歴史・文化・史跡散策ガイドブック	村山達三 著/村山達三	2009
227	松之山郷の景観そして棚田散策ガイドブック	村山達三 著/村山達三	2009
228	妻有の社会科資料	十日町市・中魚沼郡中学校教育振興会社会科/十日町市中魚沼郡中学校教育振興会	1977. 01
229	私たちの妻有 小学生に妻有の歴史を語り聞かせるための資料	品川睦 著/品川睦	
230	社会科資料集 1958	十日町市社会科資料作成委員会 編/十日町市教育委員会	1958
231	わたしたちの十日町市 第2版 社会科副読本 3・4年生用(8版まであり)	十日町市教育振興会 編/十日町市教育委員会	1975. 04
232	わたしたちの十日町市 新訂一部改訂 社会科学習資料 3・4年生用	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2016. 04
233	わたしたちの川西町 小学校社会科副読本(渋海川の瀬替あり)	川西町教育振興会 編/川西町教育委員会	1989. 04
234	わがふるさと高道山 郷土教材研究資料集	中里村立高道山小学校 編/高道山小学校	1981. 03
235	津南郷土讀本(倉俣村の記述あり)	南部初等教育研究会 編/南部初等教育研究会	1937. 12
236	わたしたちの松代町 小学校社会科 3・4年生用(1997年、2002年版あり)	松代町教育委員会 編/松代町教育委員会	1990. 01
237	「ふるさと教材」ふるさと十日町～魅力・誇り・宝もの～	十日町市教育委員会	2017. 04
238	図解にいがた歴史散歩 十日町・中魚沼	新潟日報事業社出版部 編/新潟日報事業社出版部	1984
239	図解にいがた歴史散歩 東頸城・中頸城2	新潟日報事業社出版部 編/新潟日報事業社出版部	1985
240	新潟「地理・地名・地図」の謎 意外と知らない新潟県の歴史を読み解く!	新潟郷土史研究会 監修/実業之日本社	2015. 01
241	にいがた歴史紀行 12 十日町市・中魚沼郡・南魚沼郡	新潟日報事業社出版部	1995
242	にいがた歴史紀行 15 新井市・東頸城郡・中頸城郡	新潟日報事業社	1996
243	写真で語る奥越後風土記	中丸高太郎 著/中越書房	1982. 05
244	消防史	消防史編纂委員会 編/十日町地域広域事務組合	2000
245	中魚沼郡勢要覧 第2編 昭和28年度版	上村淳作 編/中魚沼郡産業振興会	1954. 05
246	新潟県市町村合併誌 上巻・下巻	新潟県総務部地方課 編/新潟県	1962
247	十日町市50年の歩み 市制施行50周年 市制施行50周年記念	十日町市 編/十日町市	2004. 11
248	未来につなぐ 新潟県中里村50周年記念誌	中里村役場 編/中里村役場	2005. 03
249	とおかまち未来Story 十日町市制施行10周年記念誌	十日町市企画政策課広報聴係/十日町市	2015. 01
250	豪雪地渋海川流域の景観と環境 川西町仙田の町づくり	宮澤智士 編/川西町	2000. 03
251	わたしの昭和史	十日町市公民館 編/十日町市公民館	1976
252	出稼ぎのムラへの修学旅行 新潟県東頸城郡松之山町実態調査報告	駒場学園高等学校 編/人間の科学社	1974
253	郷土よみもの 田沢村・貝野村・水沢村・六箇村・川治村の教員会が昭和12年に刊行したものの復刻版	新潟県中魚沼郡五ヶ村教員会 編/久保田雄一郎	2005. 08
254	広報げじょう 下条の夢と記録. 18年間のあゆみ	広報げじょう編集委員会 編/広報げじょう編集委員会	1995. 09
255	広報 げじょう: 創刊200号記念DVD版	広報げじょう編集委員会 編	2012. 05
256	中条再発見 やまて・中条交流のかけはしに	中条再発見講座 編/中条地区公民館	2003. 05
257	おぼえがき 下条の歴史講座	下条地区公民館 編/下条地区公民館	2000. 07
258	ろばた 2000 激動の時代を生きて	大井田賢老大学 編/大井田賢老大学	2000. 03
259	田舎はいつまでも田舎であってほしいから 地元のタクシー屋が語る 越後国頸城郡松之山郷(松代・松之山)の民俗文化の雑学	村山達三 著/村山達三	2005. 11
260	北越雪譜と魚沼の風土 雪文化三館提携10周年記念企画	十日町市博物館 編/十日町市博物館	2002. 09
261	橋詰地蔵堂	橋詰村地蔵堂	2012. 11
262	龍乃あれこれ	岩田七郎 著/野島出版	1988. 01
263	松之山自然誌	松之山自然友の会事務局 編/松之山自然友の会事務局	1991. 07
264	古老の作柄記録と雪のこと色々	中条地区公民館 編/中条地区公民館	1980
265	松之山地すべりの記録	新潟県東頸城郡松之山町 編/新潟県東頸城郡松之山町	1968. 01
266	地すべりの話	山川栄/松之山大地すべり防災五十周年事業実行委員会	2013. 11
267	大地と共に生きる 松之山大地すべり防災50周年記念誌	松之山大地すべり防災50周年事業実行委員会 企画/松之山大地すべり防災50周年事業実行委員会	2014. 03

No.	資料名	著者／発行者	出版年
268	新潟応用地質研究会誌 抜粋 松之山町大松山周辺地滑り地の地形発達史 1 地形と地質	布施弘 著／新潟応用地質研究会	2005
269	苗場の自然 苗場山・小松原自然観察ガイドブック	十日町市立理科教育センター 編／十日町市立理科教育センター	2005. 03
270	松之山の植物	松之山町教育委員会 編／松之山町教育委員会	1984. 03
271	妻有の植物	十日町市立理科教育センター 編／十日町市立理科教育センター	1985. 03
272	十日町・弁天池二千年蓮物語り	敬愛塾 編／敬愛塾	1994. 01
273	十日町市のチョウ図鑑	大脇淳 著／十日町市立里山科学館「森の学校」	2010. 11
274	十日町市身近なありんこ図鑑 アリス in Wonder land!!	岩西哲 著／十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ	2014. 05
275	笹山遺跡の自然をとりまく谷川のゲンジボタルとそのなかま 十日町市立中条小学校創立130周年記念事業一小学生の研究一	越佐昆虫同好会	2005. 05
276	松代町の野鳥	松代町 編／松代町	1993. 06
277	松葉沢溜池建設工事経過録	富井源蔵 著／富井源蔵	2007. 05
278	当間山自然環境学術調査報告	当間山自然環境調査団 編／十日町市	1973. 12
279	十日町市上野第二藤巻医院本館・石垣研究	宮沢智士 著／宮沢智士	2010
280	旧滝文社屋建造物調査報告書	十日町市	2014. 01
281	信濃川水力発電所の材料運搬用軽便線	上村政基 著／上村政基	1999
282	五十年のあゆみ	川西町土地改良区 編／川西町土地改良区	2002. 01
283	つまりの明治農業と中魚沼郡農事試験場	上村政基 著／上村政基	2001. 04
284	越後・佐渡の定期市	新潟県教育委員会 編／第一法規出版	1977
285	新潟県歴史の道調査報告書 第3集 松之山街道	新潟県教育委員会	1992. 03
286	三国街道物語	高橋興平 著／山内正豊	1980. 12
287	東下組地域道路の変遷	中町保夫 著／下条公民館	2010. 03
288	飯山線が織り成す歴史と文化 2007年秋季企画展示	津南町教育委員会 編／津南町教育委員会	2007. 01
289	実録 ほくほく線誘致運動のあゆみ	松代町町制施行50周年記念事業実行委員会	2004. 01
290	中条の遺墨	なかじょう遺墨展実行委員会 編／中条地区公民館	1995. 11
291	今に伝える中条の遺墨 ふれ愛なかじょう	なかじょう遺墨展実行委員会 編／中条地区公民館	1993. 12
292	とおかまち大辞典 雪国ものがたり (雪国の伝統文化と克雪の記録をCD-ROMで記録)	十日町市発行	2000. 03
293	妻有郷の文化財	佐野良吉 編／週報とおかまち社	2003. 02
294	松代町の文化財	松代町文化財保護審議委員会 編者／松代町教育委員会	1982. 01
295	妻有の文化財 十日町・川西・中里・津南	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1982. 01
296	妻有の画人たち 博物館夏季特別展解説書	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1982. 08
297	妻有の画人たち 十日町の文化を育んだ人々	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1987. 01
298	岡田紅陽作品展 霊峰富士	岡田紅陽 著／J C I I フォトサロン	1992. 01
299	岡田紅陽展 光と風と雲がかなでるシンフォニー	岡田紅陽 著／武蔵野市	1996
300	岡田紅陽写真美術館 四季の杜 おしの公園	岡田紅陽 著／忍野村	2004. 07
301	富士	岡田紅陽 著／朋文堂	1959
302	富士こそわがいのち 岡田紅陽	坂本徳一 執筆／忍野村役場	1997
303	雪国春耕 越後松之山昭和の山村の記録	橋本紘二 著／農山漁村文化協会	2015. 02
304	十日町小唄物語 越後十日町サツメ節	十日町市観光協会	1991
305	妻有地方の暮らしと歩み 郷土記録賞入賞作品集 1985年～1989年	十日町市博物館友の会郷土記録賞作品編集委員会／十日町市博物館友の会	1990. 12
306	妻有地方の暮らしと歩みⅡ 郷土記録賞入賞作品集 1990年～1995年	十日町市博物館友の会郷土記録賞作品編集委員会／十日町市博物館友の会	
307	安吾のいる風景 坂口安吾松之山文学碑建立記念	関井光男 編／村山政光	1987. 01
308	つまり俳諧と俳人たち 夏季特別展解説書1990	須藤重夫 著／十日町市博物館	1990

### (3) 織物に関する資料

No.	資料名	著者／発行者	出版年
1	越能山都登	平千秋 著／中央出版	1973
2	越能山都登 別冊	山内軍平 編／中央出版	1973
3	越能山都登 附録 越後縮の工程	鈴木寅重郎 著／中央出版	1973
4	十日町機業案内	十日町織物同業組合 編／十日町織物同業組合	1924
5	十日町織物同業組合史	十日町織物同業組合 編／十日町織物同業組合	1940
6	十日町織物史	宮川邦雄 著／十日町織物工業協同組合	1968. 01
7	雪と織物の十日町	滝沢栄輔 著／十日町織物工業組合	1957
8	十日町織物の歩み	滝沢栄輔 著／十日町織物工業協同組合	1958. 01
9	きもの十日町その伝統と現況	十日町織物工業協同組合 編	1973
10	きもの十日町現代に生きる伝統	十日町織物工業協同組合 編／十日町織物工業協同組合	1976
11	きもの十日町50年の歩み	佐野良吉 著／十日町織物工業協同組合	1985
12	十日町市史 通史編6 きもの産地・十日町のあゆみ	十日町市史編さん委員会 編／十日町市役所	1997
13	十日町市博物館常設展示解説書 3 織物 生産工程	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1983
14	十日町市博物館常設展示解説書 4 織物 歴史	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1984

No.	資料名	著者／発行者	出版年
15	図録妻有の女衆（おんなしよ）と縮織り 重要有形民俗文化財越後縮の紡織用具及び関連資料	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1987
16	四大麻布 越後縮・奈良晒・高宮布・越中布の糸と織り	十日町市博物館 編／十日町市博物館	2012. 07
17	日本染織発達史	角山幸洋 著／三一書房	1965
18	越後縮布の歴史と技術	渡辺三省 著／小宮山出版	1971
19	雪の中のきれ 北越織物史	石崎忠司 著／文化服装学院出版局	1966
20	デバタ従事婦人に関する医学的調査研究 第2編	十日町市教育委員会ほか編／十日町市教育委員会	1966. 08
21	出稼ぎとハタ織り 雪の山村の生活	玉井成光 著／未来社	1967
22	十日町織物産地の発展分析と展望 地場産業についての一考察	小浦力 著／小浦力	1977
23	十日町機業地域の生産構造	上野和彦 著／上野和彦	1978. 02
24	十日町染織業の地域的展開	上野和彦 著／上野和彦	1983. 12
25	明治・大正・昭和を彩る明石ちぢみの物語	滝沢栄輔 著／滝沢栄輔	2000
26	深い雪がはぐくんだとおかまのきもの	十日町市織物工業協同組合 編／十日町市教育委員会	2010. 09
27	越後織物史の研究 環日本海歴史民俗学叢書 4	赤沢計真 著／高志書院	1998. 11
28	隆吉一生活	隆吉一生活編集委員会 編／睦織物	1967. 1
29	庭野家〈巾治〉の人々（巾治家の歴史）	庭野隆雄 著／庭野隆雄	2002. 04
30	庭野家〈巾治〉の人々 続 巾治家の歴史	庭野隆雄 著／庭野隆雄	2007. 05
31	三井文庫論叢 第47号（2013年）（縮問屋加賀屋の経営の展開と為替取引）	三井文庫 編／三井文庫	2013. 12
32	越後のアンギン	津南町教育委員会 編／津南町教育委員会	1963
33	アンギンと釜神さま 秋山郷のくらしと民具	滝沢秀一 著／国書刊行会	1990. 01
34	図説越後アンギン 縄文からのメッセージ	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1994. 11
35	編布の発見 みんなの叢書 1	滝沢秀一 著／つなん出版	2005. 07
36	植物繊維を「編む」 予稿集 アンギンの里 津南の編み技術と歴史	佐藤雅一 編／津南町教育委員会	2011. 09
37	すてきな布 アンギン研究100年 展示解説図録－総合研究「アンギンの復元的研究」の成果－	新潟県立歴史博物館 編／新潟県立歴史博物館	2017. 01

#### （４）雪に関する資料

No.	資料名	著者／発行者	出版年
1	豪雪地十日町市	十日町市 編／十日町市	1967
2	雪害調査とその考察	十日町青年会議所 編／十日町青年会議所	1969
3	雪害経費調査結果報告書	十日町市 編／十日町市	1973
4	豪雪と過疎と 新潟県十日町周辺の主婦の生活記録	妻有の婦人教育を考える集団 編／未来社	1977
5	雪との闘い 記録 56豪雪の十日町	56豪雪の記録編集委員会 編／新潟県十日町市	1981. 12
6	56豪雪の記録	松之山町役場 編／松之山町役場	1981. 12
7	59豪雪の記録 新潟県中魚沼郡中里村	中里村 編／中里村	1984. 09
8	雪にもめげずー59豪雪の記録ー 新潟県中魚沼郡川西町	川西町59豪雪記録編集委員会 編／川西町	1984. 11
9	克雪 59異常豪雪と克雪都市への歩み	十日町市 編／十日町市	1984
10	旬街座 昭和13年雪禍大惨事	十日町雪禍遺族会 編／十日町雪禍遺族会	1987
11	十日町市博物館常設展示解説書 1 雪	十日町市博物館 編／十日町市博物館友の会	1981
12	雪国十日町の暮らしと民具 十日町の積雪期用具図録	十日町市博物館 編／十日町市博物館	1992. 01
13	雪処理の科学技術 博物館講座「十日町を知る」 7	栗山弘 著／十日町市博物館	1985
14	十日町雪ものがたり120 雪とともに生きる	十日町商工会議所	2010. 03
15	豪雪を生き抜いた農民たち 越後松之山の歴史を証す	関谷哲郎 著／光陽出版社	2001. 07
16	検証桁越え「三六豪雪の記録」	住吉順二 著／オーガン出版局	2005. 01
17	雪国の人びと	高橋喜平 著／創樹社	1979. 01
18	冬鳥の詩 児童詩集	中町保夫 編／中町保夫	1991. 07
19	雪里 ー世界一の雪が育んだ里山ー	十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ	2013. 03
20	雪里のプナ林のめぐみ 雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ 3	十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ／十日町市	2011. 03
21	雪 ーめぐみ降るさとー 雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ 4	十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ／十日町市	2012. 03
22	新潟県十日町市の気象 70年報 1918～1987	森林総合研究所十日町試験地 編／森林総合研究所十日町試験地	1990
23	新潟県十日町市の気象 80年報 1918～1997年	森林総合研究所 編／森林総合研究所	1999
24	市立気象観測所積雪観測記録総括表（20年報） 昭和44年11月～平成元年4月	十日町市 編／十日町市	
25	積雪観測記録 平成11年11月～平成12年5月	十日町市 編／十日町市	2000
26	積雪観測記録 平成12年11月～平成13年5月	十日町市 編／十日町市	2001. 05
27	積雪観測記録 平成17年11月～平成18年5月	十日町市 編／十日町市	2006. 05
28	積雪観測記録 平成25年11月～平成26年5月	十日町市建設部建設課維持係 編／十日町市	2013. 05

## (5) 雪まつりに関する資料

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	雪の祭典	高橋喜平 著/明玄書房	1953
2	十日町の雪まつり	十日町市雪まつり委員会	1965
3	白い愛の祭典 十日町雪まつり30年	十日町:十日町市雪まつり委員会	1979.01
4	雪花の譜 白い愛の祭典、十日町雪まつり40年	十日町雪まつり実行委員会 編/十日町雪まつり実行委員会	1989.02
5	雪国の祭典 現代雪まつり発祥の地	十日町:十日町雪まつり委員会	1998.12
6	思い出の十日町・雪まつり	高橋喜平 著/十日町市文化協会連合会	1999.11
7	十日町雪まつり60年 現代雪まつり発祥の地	十日町雪まつり実行委員会 編/十日町雪まつり実行委員会	2009.05

## (6) 民俗・芸能に関する資料

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	十日町のホンヤラドウ 雪国十日町の聞き語り	上村政基 著/上村政基	2008.08
2	越後のむらと伊豆のむらと 民俗調査報告	東京学芸大学民俗学研究会 編/東京学芸大学民俗学研究会	1975.11
3	奴奈川の民俗 昭和59年度調査報告	東洋大学民俗研究会 編/東洋大学民俗研究会	1985.07
4	川治集落と昭和の子	長津シン 著/長津シン	1996.01
5	しんばあちゃんのむかしむかし話	長津シン 著/長津シン	2011.03
6	しんばあちゃん子供の頃	長津シン 著/長津シン	
7	田舎はいつまでも田舎であってほしいから 地元のタクシー屋が語る 越後国頸城郡松之山郷(松代・松之山)の民俗文化の雑学	村山達三 著/村山達三	2005.11
8	越後まつだいの民俗 フィールドへようこそ!2008	筑波大学民俗学研究室 編/筑波大学民俗学研究室	2009.03
9	貝野の子供 越後妻有郷の生活と遊び	かいかい 著/奈良新聞社	2009.04
10	こどもの四季	駒形さとし 著/こどもの四季刊行会	1966.01
11	明治・大正子どもの遊び	十日町市公民館 編/十日町市公民館	1980
12	春喜山 妻有土俗記	池田又治 著/池田又治	1984
13	野山のおやつ 子どもたちの暮らしと遊び	十日町市博物館民俗研究グループ 編/十日町市博物館民俗研究グループ	2004.09
14	節季市のチンコロとトットッコ 雪国十日町の聞き語り	上村政基 著/上村政基	2007.07
15	つまり民俗 1 十日町中魚沼の通過儀礼特集	新潟県立十日町高等学校西校舎地歴地歴クラブ 編/	1957.11
16	つまり民俗 2 正月行事特集	新潟県立十日町高等学校西校舎地歴地歴クラブ 編/	1958.08
17	郷土の行事 婦人学校すみれ 学習のまとめ	松代町公民館 編/松代町公民館	1977.02
18	小正月行事とモノツクリ 秩父・越後・中部	日本常民文化研究所 編/日本常民文化研究所	1978.03
19	妻有の庚申さま 1980(昭和55)庚申年庚申供養祭取材記	十日町市博物館友の会妻有の民俗研究グループ	1980
20	中条のお庚申さま	中条の歴史講座 編/中条地区公民館	1980.11
21	雪国の庚申さま	上村政基 著/野島出版	1980.04
22	稲葉のお庚申さま	庚申様六十年祭奉賛会 編/庚申様六十年祭奉賛会	1998
23	庚申世之中夜話録 翻刻本	友の会古文書研究グループ 編/十日町市博物館友の会	1998.03
24	庚申講中萬歳記 庶民の書いた庶民の歴史	上村政基著/上村政基	2002.03
25	つまり 山内軍平翁遺稿・追悼集	山内軍平 著/山内軍平翁遺稿追悼集刊行会	1986.08
26	愛の神々 越後の道祖神	山内軍平 著/中央出版	1986.08
27	鉢の民間信仰 ふしぎな天燈といしぼとけ	尾身六十六 著/尾身六十六	1967.07
28	民間信仰を探る	上村政基 著/十日町市博物館	1987.01
29	東頸城の風神(風のサブロウ) 東頸城地方の風神を訪ねて	吉村博	1998.01
30	道祖神を尋ねて	関谷哲郎 監修/松代町教育委員会	2001.03
31	講集団の存続要因に関する一考察—新潟県妻有地方の庚申講を事例として—	中川大志 著/中川大志	2014.03
32	妻有の民俗芸能	郷土資料調査研究会 編/郷土資料調査研究会	1971.1
33	伝承芸能 赤倉神楽	住吉順二 著/オーガン出版局	1996.08
34	赤倉神楽 先人たちのおくりもの	赤倉神楽保存会 編/赤倉神楽保存会	2000.05
35	中里村田代神楽	中里村公民館 編/中里村公民館	1973.02
36	新保廣大寺 民謡の戸籍調べ	竹内勉 著/錦正社	1973.06
37	新保廣大寺 民謡	新保廣大寺保存会 編/下条地区公民館	1974.09
38	新保廣大寺物語 民謡のふるさと	藤田庚二 著/十日町新聞社	1982.06
39	新保廣大寺節 新潟県十日町市無形民俗文化財	新保廣大寺節保存会 編/新保廣大寺節保存会	2003
40	民謡のふるさと 全国新保廣大寺大会 新保廣大寺節保存会 設立40周年記念	全国新保廣大寺大会実行委員会 編	2012.11
41	祝「水沢の石場かち」十日町市無形民俗文化財指定記念	水沢地区伝統芸能保存会 編/水沢地区伝統芸能保存会	2003.04
42	妻有甚九集 十日町地方盆踊り唄	妻有甚九愛好会 集録/妻有甚九愛好会	1984.09
43	盆踊り考 新潟県川西町のよいやさを中心として	関口武三郎 著	1992.11
44	ふるさとのうた 妻有の伝承唄集	十日町市教育委員会 編/妻有唄集保存会	1994.04
45	ふるさとの唄 おらどこの小さな玉手箱	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1992.07
46	松之山のわらべ歌	松之山町教員協議会音楽部 編/北越出版	1977.07
47	天神ばやし 魚沼の祝い唄	大島伊一 著/みらい印刷	2001.08
48	ふるさとのうた—天神ばやし—	十日町青年会議所	2014.01
49	つまりの民話 第一集 アンボころりん	十日町青年学級 編/越路新報社	1958.01
50	つまりの民話 第二集 あやチュウチュウ こやチュウチュウ	十日町市公民館 編/越路新報社	1959.05

No.	資料名	著者・発行者	出版年
51	つまりの民話 第三集 こめふく むかふく	つまりの民話刊行会 編/越路新報社	1961. 01
52	つまりの民話 集大成版	越路新報社	1969. 08
53	枯木又のうた 絵本	枯木又婦人学級 編/枯木又婦人学級	1994. 07
54	龍王様のはなし	枯木又婦人学級 編/枯木又婦人学級	1997
55	鉢のむかしばなし	真田婦人学級 編/吉田地区公民館	1978. 05
56	入山のやかんころばし 妻有の昔話	山本謂永 著/妻有の昔話を保存する会	2000. 08
57	かわにしの民話	川西町公民館 編/川西町公民館	1981. 03
58	かわにしの昔話	立命館大学説話文学研究会 調査/山際博	1990. 03
59	なかさとの昔話	中里村公民館 編/中里村教育委員会	1995. 03
60	くびきの民話	新潟県立松代高等学校 編/新潟県立松代高等学校	1978. 02
61	むかし あったと	松代町連合婦人会 著/松代町連合婦人会	1981. 03
62	越後松代の民話 新潟	樋口淳 編著/国土社	1987. 11
63	松之山の民話と民謡	松之山町教育委員会 編/松之山町教育委員会	1980. 03
64	松山鏡考	平野幸作 著/平野幸作	1984. 11
65	越後・松之山の伝承 民話と文学 第29号	民話と文学編集委員会 編/民話と文学の会	1996. 01
66	雪国の民話 新潟県中魚沼地方	中村和三郎 著/文憲堂七星社	1971
67	方言で読む越後魚沼の昔咄	山田左千夫 著/野島出版	2002. 07
68	キンばっばのどんとん昔があったとお	左近司マサ江 著/つくしんぼ企画(発売)	1990
69	左近司マサ江のどんとん昔があったとお キンばっばのどんとん昔から三十年	左近司マサ江 著/つくしんぼ企画	2014. 07
70	オッカナカッタ話とカッパやムジナの話 雪国十日町の聞き語り	上村政基 著/上村政基	2010. 09
71	古老の作柄記録と雪のこと色々	中条地区公民館 編/中条地区公民館	1980
72	森の手紙 奥越後・松代の里から	高橋八十八 著/恒文社	2001. 03
73	わが玉石集 創刊号～第5号 高橋八十八博物誌	高橋八十八 著/高橋八十八	1995. 08
74	奥越後雑記帳 1～5 高橋八十八博物誌シリーズ 1～5	高橋八十八 著/高橋八十八	1991. 05
75	雪国の四季と草木と人間と 山村の博物誌	高橋八十八 著/白日社	1986. 04
76	越後の民家 中越編 新潟県民家緊急調査報告 2	新潟県教育委員会	1979
77	とおかまちの碑 ガイドブック	十日町市公民館 編/十日町市公民館	1979. 01
78	十日町地区の石碑を訪ねて	根津甲作 著/根津甲作	1989. 05
79	妻有のいしぶみ 新潟県十日町市・中魚沼郡地方の石造文化財	十日町市博物館友の会妻有のいしぶみ編集委員会/十日町市博物館友の会	1997. 01
80	松代のいしぶみ 新潟県十日町市松代地域の石造物	十日町市博物館友の会妻有のいしぶみ編集委員会/十日町市博物館友の会	2016. 06
81	松代の石仏一里山の祈りと信仰一	十日町市博物館/十日町市博物館	2014. 07
82	十日町の方言 第1集 小学生の書きことばの中に現れた方言	土井清史 編/土井清史	1979. 09
83	十日町の方言 第2集 小学生の書きことばの中に現れた方言	土井清史 編/土井清史	1980. 03
84	十日町の方言 第3集 川治小学校の児童が採集した言葉	土井清史 編/土井清史	1983. 08
85	ふるさと中条の方言と年中行事	中条地区公民館 編/中条地区公民館	1995. 03
86	せなかあぶり 名ヶ山の方言	桑原昭夫 著/桑原昭夫	1993. 01
87	方言 方言集 せなかあぶりに添えて	桑原昭夫 著/桑原昭夫	1996. 05
88	越後十日町語会話講座	根津桃郎 著/十日町新聞社	1997
89	はちゃ 中魚・十日町の暮らしと言葉 1	十日町市博物館友の会方言研究グループ 編/十日町市博物館友の会方言研究グループ	1998. 01
90	川西町の方言集	川西町教育委員会 編/川西町教育委員会	1978. 05
91	中魚沼のムラ言葉 抜粋五千語	小海正太郎 著/小海正太郎	1994. 02
92	懐かしい仙田(岩瀬)言葉 随筆風方言集	登坂勉 著	2006. 07
93	おらあたりのことば 十日町市川西地域橋区方言集	村越家 監修/十日町市川西地区橋地区振興会	2015. 03
94	ふるさとのことば	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	2000
95	中里村のほうげん 千語集	小柳定夫 選/小柳定夫	
96	松之山方言集	松之山町歴史民俗資料館 編/松之山町歴史民俗資料館	19894

## (7) 食に関する資料

### 【郷土料理に関する資料】

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	ふるさとの四季の味	いろり会 編/いろり会	1980. 12
2	ふるさとの四季の味 伝えよう次の世代へ	いろり会 編/いろり会	1988. 01
3	レシピ十日町・母の味 わたしの手料理&おすすめ30選	田村シゲ 著/田村シゲ	1996. 01
4	レシピ十日町母の味 増補 わたしのおすすめ家庭料理	田村シゲ 著/雪華書林	1998. 01
5	レシピ・黒米のオリジナル料理 ちょっとおしゃれでヘルシー	笹山縄文どんぐりクラブ 編/笹山縄文どんぐりクラブ	2005. 04
6	ふるさとの味 第2集 マナビイ講座ふるさと料理教室	川西町公民館 編/川西町公民館	1994. 03
7	じろばた ふるさとの暮らしと食べ物	風無草の会 編/風無草の会	1997. 03
8	伝えていきたいわが家の味と香り	松之山町産業課 編/松之山町	1992. 03
9	美味しさだんだん とおかまちの郷土レシピ 2006十日町市勢要覧別冊	十日町市総務課 編/十日町市	2006. 01

## 【山菜に関する資料】

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	山菜讃歌 採りかた&料理バリエーション	高木国保 著/立風書房	1987.04
2	おいしい山菜50選	高木国保 著/広済堂出版	1991.05
3	高木国保の雪国季行 雪国の四季を観る採る味わう	高木国保 著/日本芸社	2000.03

## (8) 文化財調査報告書

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	十日町市文化財調査報告 1 小坂遺跡 新潟県十日町市南鏡坂小坂遺跡発掘調査報告	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1961.03
2	十日町市苗場山麓地域農業開発事業予定区域内遺跡分布調査	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1974.03
3	十日町市における文化財の調査 1 昭和48年度 十日町市文化財調査報告 5	新潟県十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1974.12
4	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報 十日町市文化財調査報告 6	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査団/十日町市教育委員会	1975.03
5	馬場上遺跡 第1次・第2次発掘調査概報	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1975.03
6	十日町市における文化財の調査 2 昭和49年度 十日町市文化財調査報告 9	新潟県十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1976.03
7	馬場上遺跡第3次・第4次発掘調査概報 十日町市文化財調査報告 10	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1976.03
8	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査概報 2 十日町市文化財調査報告 11	十日町市広域パイロット地域内遺跡群調査団/十日町市教育委員会	1976.03
9	国道252号線埋蔵文化財発掘調査報告書 北原八幡遺跡	新潟県教育委員会 編/新潟県教育委員会	1976.03
10	十日町市における文化財の調査 3 昭和50年度 十日町市文化財調査報告 12	新潟県十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1977.03
11	十日町市における文化財の調査 4 昭和51年度 十日町市文化財調査報告 13	新潟県十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1978.04
12	つづじ原B遺跡 十日町市文化財調査報告 14	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1979.03
13	十日町市における文化財の調査 5 昭和52年度 十日町市文化財調査報告 15	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1979.09
14	十日町市における文化財の調査 6 昭和53年度 十日町市文化財調査報告 16	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1980.03
15	十日町市における文化財の調査 7 昭和54年度 十日町市文化財調査報告 17	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1981.03
16	坪野館跡 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1981.03
17	野首遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1997.03
18	島A遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1997.03
19	寿久保・春山遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1998.03
20	原田B遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1998.03
21	つづじ原C遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1998.03
22	笹山遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1998.09
23	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成10年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	1999
24	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成11年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2000
25	県営ほ場整備事業上組工区内遺跡発掘調査概要報告書 平成10・11年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2000
26	道下南遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2001.03
27	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成12年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2001.03
28	道端A・B遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2001.03
29	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成13年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2002.03
30	馬場上遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2003.03
31	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成14年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2003.03
32	江道A遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第24集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2004.03

No.	資料名	著者・発行者	出版年
33	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成15年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第25集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2004.03
34	伊達八幡館跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第26集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2005.03
35	江道B・C遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2005.03
36	笹山遺跡確認調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2005.03
37	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成16年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2005.03
38	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成17年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第30集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2006.03
39	中島遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2006.03
40	内後遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第32集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2006.03
41	土橋遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第33集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2006.03
42	幅上遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第34集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2007.03
43	上ノ山開墾地遺跡発掘調査概要報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第35集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2007.03
44	十日町市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第36集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2007.03
45	貝野久保遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第37集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会	2008.03
46	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成19年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第38集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2008.03
47	梶花遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2009.03
48	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成20年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2009.03
49	真萩田遺跡・貝野大道下遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第41集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2010
50	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成21年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第42集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2009.03
51	野首遺跡発掘調査報告書 1 遺構編 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第43集	十日町市教育委員会文化財課 編/十日町市教育委員会	2011.03
52	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成22年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第44集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2011.03
53	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成23年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第45集	十日町市教育委員会 編/十日町市教育委員会文化財課	2012.03
54	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成24年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第46集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2013.03
55	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成25年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第47集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2014.03
56	樽沢開田遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2014.03
57	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成26年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第49集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2015.03
58	橋詰居村遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第50集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
59	上屋敷遺跡発掘調査報告書・溝遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第51集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
60	白羽毛遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第52集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
61	清津宮峰遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第53集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
62	天尾山城跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第54集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
63	笹山遺跡発掘調査報告書 第8~10次調査 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第55集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
64	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成27年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第56集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
65	野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ(遺物編Ⅰ) 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第57集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2017
66	千溝東遺跡発掘調査報告書・小原遺跡発掘調査報告書 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第58集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2017

No.	資料名	著者・発行者	出版年
67	十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書 平成28年度 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第59集	十日町市教育委員会文化財課/十日町市教育委員会文化財課	2016
68	節黒城一之木戸調査報告書 川西町文化財調査報告書 第1輯	金子拓男ほか/川西町教育委員会	1974.02
69	森上遺跡発掘調査概報	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1974
70	苗場山麓地域農業開発事業区域内遺跡発掘調査報告書 下袖・芋川原遺跡概報	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1975
71	鷹之巣遺跡 中里村文化財調査報告書 第3集	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1986.03
72	一里塚・通り山遺跡	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	
73	壬遺跡 第6次調査	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1992.03
74	千溝遺跡 中里村文化財調査報告書 第6輯	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1994.03
75	小丸山遺跡・おざか清水遺跡 中里村文化財調査報告書 第7輯	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1994.03
76	御屋敷遺跡発掘調査報告 中里村御屋敷館跡	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	1994
77	久保寺南遺跡 県営中山間地域総合整備事業(圃場整備)宮中・堀之内地区に伴う発掘調査報告書	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	2001.03
78	中田B遺跡・中田D遺跡 中里村文化財調査報告書 11輯	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	2004.03
79	布場遺跡・原屋敷遺跡 中里村文化財調査報告書 12輯	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	2004.03
80	堂ノ上遺跡 中里村文化財調査報告書 13輯	中里村教育委員会 編/中里村教育委員会	2005.03
81	壬遺跡 1983	國學院大學文学部考古学研究室 編/國學院大學文学部考古学研究室	1983.03
82	向原2遺跡発掘調査報告書 2000 松代町埋蔵文化財報告 第1集	金子拓男 監修/松代町教育委員会	2000.03
83	黒倉十文字遺跡 松之山町文化財報告書 第1集	松之山町教育委員会 編/松之山町教育委員会	1978.03

### (9) 十日町市歴史資料目録

No.	資料名	著者・発行者	出版年
1	蕪木元昭家文書 1 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
2	蕪木元昭家文書 2 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
3	蕪木元昭家文書 3 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
4	蕪木元昭家文書 4 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
5	蕪木元昭家文書 5 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
6	蕪木元昭家文書 6 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
7	蕪木元昭家文書 7 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
8	蕪木元昭家文書 8 十日町市歴史資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2007.12
9	高島区有文書 1 十日町市歴史資料目録 2	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2009.08
10	高島区有文書 2 十日町市歴史資料目録 2	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2009.08
11	野口村・野沢家文書 1 十日町市歴史資料目録 3	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2009.12
12	野口村・野沢家文書 2 十日町市歴史資料目録 3	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2009.12
13	星名四郎家文書 1 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
14	星名四郎家文書 2 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
15	星名四郎家文書 3 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
16	星名四郎家文書 4 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
17	星名四郎家文書 5 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
18	星名四郎家文書 6 十日町市歴史資料目録 4	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.04
19	関口宗夫家文書 1 十日町市歴史資料目録 5	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.05
20	関口宗夫家文書 2 十日町市歴史資料目録 5	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.05
21	小林了介家文書・庭野功家文書 十日町市歴史資料目録 6	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.05

No.	資料名	著者・発行者	出版年
22	阿部治郎家文書 十日町市歴史資料目録 7	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2010.12
23	藤田一義家文書・長谷川淑夫家文書 十日町市歴史資料目録 8	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2011.03
24	近藤哲雄家文書・樋熊敏和家文書 十日町市歴史資料目録 9	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2012.03
25	蕪木元昭家文書 9 十日町市歴史資料目録 10	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2012.03
26	佐藤慎一郎家文書・高橋平八郎家文書・大久保健家文書・中林昌子家文書・庭野俊道家文書 十日町市歴史資料目録 11	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市古文書整理ボランティア	2013.08
27	丸山二三子家文書・高橋由美子家文書・富井ミチ家文書・富井泰一郎家文書・伊達村文書・貝野村宮中文書・貝野村安養寺文書 十日町市歴史資料目録 12	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市教育委員会文化財課	2015.03
28	岡田隆生家文書・久保田文治家文書・岩田孫太郎家文書・中町鼎家文書・福崎健太郎家文書・霜垣弘文家文書 十日町市歴史資料目録 13	十日町市古文書整理ボランティア 編/十日町市教育委員会文化財課	2016.03
29	柳清一家染織資料目録	京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター/十日町古文書整理ボランティア	2010.02
30	山内景行家写真資料目録 1	十日町市古文書整理ボランティア 編集/十日町市古文書整理ボランティア	2011.02

### (10) 旧市町村史編さんに伴う資料目録

No.	資料名	編集者
1	十日町市史編さん資料目録 第1集 春川善七家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
2	十日町市史編さん資料目録 第2集 春川善七家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
3	十日町市史編さん資料目録 第3集 春川善七家文書 3	十日町市史編さん委員会/編
4	十日町市史編さん資料目録 第4集 田村タニ家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
5	十日町市史編さん資料目録 第5集 田村タニ家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
6	十日町市史編さん資料目録 第6集 松沢澄江家文書	十日町市史編さん委員会/編
7	十日町市史編さん資料目録 第7集 波形卯二家文書	十日町市史編さん委員会/編
8	十日町市史編さん資料目録 第8集 島田桂市家文書	十日町市史編さん委員会/編
9	十日町市史編さん資料目録 第9集 高島区有文書	十日町市史編さん委員会/編
10	十日町市史編さん資料目録 第10集 越後縮紡織用具及び関連資料	十日町市史編さん委員会/編
11	十日町市史編さん資料目録 第11集 田村タニ家文書 3	十日町市史編さん委員会/編
12	十日町市史編さん資料目録 第12集 田村タニ家文書 4	十日町市史編さん委員会/編
13	十日町市史編さん資料目録 第13集 保坂正孝家文書	十日町市史編さん委員会/編
14	十日町市史編さん資料目録 第14集 川治区有文書 1	十日町市史編さん委員会/編
15	十日町市史編さん資料目録 第15集 川治区有文書 2	十日町市史編さん委員会/編
16	十日町市史編さん資料目録 第16集 田村タニ家文書 5	十日町市史編さん委員会/編
17	十日町市史編さん資料目録 第17集 田村タニ家文書 6	十日町市史編さん委員会/編
18	十日町市史編さん資料目録 第18集 星名四郎家文書、織物組合文書	十日町市史編さん委員会/編
19	十日町市史編さん資料目録 第19集 渡辺博幸家文書	十日町市史編さん委員会/編
20	十日町市史編さん資料目録 第20集 上組村、生越好雄家文書	十日町市史編さん委員会/編
21	十日町市史編さん資料目録 第21集 近藤雄四郎家文書	十日町市史編さん委員会/編
22	十日町市史編さん資料目録 第22集 四日町区有、保坂正孝家文書	十日町市史編さん委員会/編
23	十日町市史編さん資料目録 第23集 水沢村役場文書 1	十日町市史編さん委員会/編
24	十日町市史編さん資料目録 第24集 水沢村役場文書 2	十日町市史編さん委員会/編
25	十日町市史編さん資料目録 第25集 水沢村役場文書 3	十日町市史編さん委員会/編
26	十日町市史編さん資料目録 第26集 水沢村役場文書 4	十日町市史編さん委員会/編
27	十日町市史編さん資料目録 第27集 六箇村役場文書 1	十日町市史編さん委員会/編
28	十日町市史編さん資料目録 第28集 六箇村役場文書 2	十日町市史編さん委員会/編
29	十日町市史編さん資料目録 第29集 六箇村役場文書 3	十日町市史編さん委員会/編
30	十日町市史編さん資料目録 第30集 六箇村役場文書 4	十日町市史編さん委員会/編
31	十日町市史編さん資料目録 第31集 十日町新聞スクラップ索引 1 (戦前) a-1 県庁・郡役所、a-2 村政一般、a-3 財政・税務、a-4 土地・家屋、a-5 戸口、a-6 兵事	十日町市史編さん委員会/編
32	十日町市史編さん資料目録 第32集 近藤雄四郎家、徳永重光家文書	十日町市史編さん委員会/編
33	十日町市史編さん資料目録 第33集 農地開放資料目録	十日町市史編さん委員会/編
34	十日町市史編さん資料目録 第34集 徳永重光家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
35	十日町市史編さん資料目録 第35集 徳永重光家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
36	十日町市史編さん資料目録 第36集 徳永重光家文書 3	十日町市史編さん委員会/編
37	十日町市史編さん資料目録 第37集 徳永重光家文書 4	十日町市史編さん委員会/編
38	十日町市史編さん資料目録 第38集 岩田栄十郎家、柳誠家、樋口二郎家文書	十日町市史編さん委員会/編
39	十日町市史編さん資料目録 第39集 根津東雄家文書	十日町市史編さん委員会/編
40	十日町市史編さん資料目録 第40集 斉木重正家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
41	十日町市史編さん資料目録 第41集 斉木重正家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
42	十日町市史編さん資料目録 第42集 福崎健太郎家文書	十日町市史編さん委員会/編

No.	資料名	編集者
43	十日町市史編さん資料目録 第43集 十日町新聞スクラップ索引 2 (戦前) a-7 保健衛生、a-8 警察・消防、a-9 町村合併、a-10 議会・選挙、a-11 政治・民権運動、a-12 その他	十日町市史編さん委員会/編
44	十日町市史編さん資料目録 第44集 小川元家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
45	十日町市史編さん資料目録 第45集 小川元家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
46	十日町市史編さん資料目録 第46集 十日町新聞スクラップ索引 3 (戦前) b-1 学校教育、b-2 社会教育	十日町市史編さん委員会/編
47	十日町市史編さん資料目録 第47集 野上良策家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
48	十日町市史編さん資料目録 第48集 野上良策家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
49	十日町市史編さん資料目録 第49集 小山哲夫家文書	十日町市史編さん委員会/編
50	十日町市史編さん資料目録 第50集 柳永久家、富井喜平治家、藤木秀三家文書	十日町市史編さん委員会/編
51	十日町市史編さん資料目録 第51集 入山農家組合資料	十日町市史編さん委員会/編
52	十日町市史編さん資料目録 第52集 蕪木元昭家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
53	十日町市史編さん資料目録 第53集 蕪木元昭家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
54	十日町市史編さん資料目録 第54集 十日町役場文書、中条村役場文書	十日町市史編さん委員会/編
55	十日町市史編さん資料目録 第55集 蕪木元昭家文書 近・現代資料1	十日町市史編さん委員会/編
56	十日町市史編さん資料目録 第56集 蕪木元昭家文書 近・現代資料2	十日町市史編さん委員会/編
57	十日町市史編さん資料目録 第57集 十日町新聞スクラップ索引 4 (戦前) b-3 体育、b-4 文化・芸能・娯楽	十日町市史編さん委員会/編
58	十日町市史編さん資料目録 第58集 福崎正平家文書	十日町市史編さん委員会/編
59	十日町市史編さん資料目録 第59集 酒井学家文書 1	十日町市史編さん委員会/編
60	十日町市史編さん資料目録 第60集 酒井学家文書 2	十日町市史編さん委員会/編
61	十日町市史編さん資料目録 第61集 酒井学家文書 3	十日町市史編さん委員会/編
62	十日町市史編さん資料目録 第62集 山谷区有、太田義英家文書	十日町市史編さん委員会/編
63	十日町市史編さん資料目録 第63集 池田清家文書	十日町市史編さん委員会/編
64	十日町市史編さん資料目録 第64集 福崎正平家、水沢区有、太田義英家文書	十日町市史編さん委員会/編
65	十日町市史編さん資料目録 第65集 根家、蕪木家(加賀屋)、富井喜平治家文書	十日町市史編さん委員会/編
66	十日町市史編さん資料目録 第66集 十日町新聞スクラップ索引 5 (戦前) c-1 農業	十日町市史編さん委員会/編
67	十日町市史編さん資料目録 第67集 十日町新聞スクラップ索引 6 (戦前) c-2 林業、c-3 漁業、c-4 畜産、c-5 養蚕	十日町市史編さん委員会/編
68	十日町市史編さん資料目録 第68集 十日町新聞スクラップ索引 7 (戦前) d-1 商業、d-2 工業、d-3 鉱業、d-4 金融	十日町市史編さん委員会/編
69	十日町市史編さん資料目録 第69集 佐藤一男家文書	十日町市史編さん委員会/編
70	十日町市史編さん資料目録 第70集 十日町新聞スクラップ索引 8 (戦前) e 織物	十日町市史編さん委員会/編
71	十日町市史編さん資料目録 第71集 蕪木元昭家文書 3	十日町市史編さん委員会/編
72	十日町市史編さん資料目録 第72集 蕪木元昭家文書 4	十日町市史編さん委員会/編
73	十日町市史編さん資料目録 第73集 山田武男家、水沢区有、高橋剛家文書	十日町市史編さん委員会/編
74	十日町市史編さん資料目録 第74集 藤田庚二家、長谷川淑夫家文書	十日町市史編さん委員会/編
75	十日町市史編さん資料目録 第75集 岩野 村山唯雄家、栄町 大淵悦郎家文書	十日町市史編さん委員会/編
76	十日町市史編さん資料目録 第76集 十日町新聞スクラップ索引 9 (戦前) f-1 土木、g-1 運輸・交通、g-2 通信、h-1 災害、h-2 雪・雪害、i-1 生活、i-2 宗教、i-3 家、j-1 印刷・刊 行物	十日町市史編さん委員会/編
77	十日町市史編さん資料目録 第77集 星野幸一家文書、高橋利男家文書	十日町市史編さん委員会/編
78	十日町市史編さん資料目録 第78集 山田才治郎家、岩田孫太郎家、橋本貞雄家文書	十日町市史編さん委員会/編
79	十日町市史編さん資料目録 第79集 古沢渥家文書	十日町市史編さん委員会/編
80	十日町市史編さん資料目録 第80集 北鏡坂区有文書、池谷区有文書	十日町市史編さん委員会/編
81	十日町市史編さん資料目録 第81集 四日町新田区有文書、福崎健太郎家文書	十日町市史編さん委員会/編
82	十日町市史編さん資料目録 第82集 蕪木元昭家文書 5	十日町市史編さん委員会/編
83	十日町市史編さん資料目録 第83集 北新田町内会 文書、三ツ山 大津文夫家文書	十日町市史編さん委員会/編
84	十日町市史編さん資料目録 第84集 星名四郎家文書(川西町上野)	十日町市史編さん委員会/編
85	十日町市史編さん資料目録 第85集 井川修一家、高橋清三郎家、金子達家文書	十日町市史編さん委員会/編
86	十日町市史編さん資料目録 第86集 十日町新聞スクラップ索引 10 (昭和21年~40年) a-1 県庁・郡役所、a-2 村政一般、a-3 財政・税務、a-4 土地・家屋、a-5 戸口、a-6 兵事、a-7 保健衛生、 a-8 警察・消防、a-9 町村合併、a-10 議会・選挙、a-11 政治、a-12 その他	十日町市史編さん委員会/編
87	十日町市史編さん資料目録 第87集 新潟新聞スクラップ索引 明治10年~42年	十日町市史編さん委員会/編
88	十日町市史編さん資料目録 第88集 十日町新聞スクラップ索引 11 (昭和21年~40年) b-1 学校教育、b-2 社会教育、b-3 体育、b-4 文化・芸能・娯楽	十日町市史編さん委員会/編
89	十日町市史編さん資料目録 第89集 明治の新聞スクラップ索引 越南新報(魚沼新報)、越佐毎日新聞、絵入新潟新聞、新潟日報、新潟日曜新聞、東北日報、上越日報、高 田日報	十日町市史編さん委員会/編
90	十日町市史編さん資料目録 第90集 戦時中の新聞スクラップ索引 新潟毎日新聞、北越新報、新潟県中央新聞、新潟日日新聞、新潟日報	十日町市史編さん委員会/編
91	十日町市史編さん資料目録 第91集 十日町新聞スクラップ索引 12 (昭和21年~40年) c-1 農業、c-2 林業、c-3 漁業、c-4 畜産、c-5 養蚕	十日町市史編さん委員会/編
92	十日町市史編さん資料目録 第92集 十日町新聞スクラップ索引 13 (昭和21年~40年) d-1 商業、d-2 工業、d-3 鉱業、d-4 金融、e 織物業	十日町市史編さん委員会/編

No.	資料名	編集者
93	十日町市史編さん資料目録 第93集 十日町新聞スクラップ索引 14 (昭和21年～40年) f 土木、g-1 運輸・交通、g-2 通信、h-1 災害、h-2 雪・雪害、i-1 生活、i-2 宗教、j-1 福祉、j-2 職業・労働・組合、j-3 その他	十日町市史編さん委員会／編
94	十日町市史編さん資料目録 第94集 十日町新聞スクラップ索引 15 (昭和41年～平成2年) a-1 県庁・郡役所、a-2 村政一般、a-3 財政・税務、a-4 土地・家屋、a-5 戸口、a-6 兵事、a-7 保健衛生、a-8 警察・消防、a-9 町村合併、a-10 議会・選挙、a-11 政治、a-12 その他	十日町市史編さん委員会／編
95	十日町市史編さん資料目録 第95集 十日町新聞スクラップ索引 16 (昭和41年～平成2年) b-1 学校教育、b-2 社会教育、b-3 体育	十日町市史編さん委員会／編
96	十日町市史編さん資料目録 第96集 十日町新聞スクラップ索引 17 (昭和41年～平成2年) b-4 文化・芸能・娯楽、c-1 農業、c-2 林業、c-3 漁業、c-4 畜産、c-5 養蚕、d-1 商業	十日町市史編さん委員会／編
97	十日町市史編さん資料目録 第97集 十日町新聞スクラップ索引 18 (昭和41年～平成2年) d-2 工業、d-3 鉱業、d-4 金融、e 織物業、f 土木、g-1 運輸・交通	十日町市史編さん委員会／編
98	十日町市史編さん資料目録 第98集 十日町新聞スクラップ索引 19 (昭和41年～平成2年) g-2 通信、h-1 災害、h-2 雪・雪害、i-1 生活、i-2 宗教、i-3 家、j-1 印刷・刊行物、j-2 職業・労働・組合、j-3 その他	十日町市史編さん委員会／編
99	十日町市史編さん資料目録 第99集 馬場富久家文書、児玉武男家文書	十日町市史編さん委員会／編
100	十日町市史編さん資料目録 第100集 根津東雄家文書 1	十日町市史編さん委員会／編
101	十日町市史編さん資料目録 第101集 波形卯二家文書	十日町市史編さん委員会／編
102	十日町市史編さん資料目録 第102集 十日町新聞スクラップ索引 20 (平成3年～平成6年) a 行政一般～j その他	十日町市史編さん委員会／編
103	十日町市史編さん資料目録 第103集 根津東雄家文書 3	十日町市史編さん委員会／編
104	川西町史料目録 野口村 野沢家、高原田 高橋家文書 (目録No.3の原本)	川西町教育委員会／編
105	川西町史料目録 No. 1 星名家文書	川西町史編さん室
106	川西町史料目録 No. 2 星名家文書	川西町史編さん室
107	川西町史料目録 No. 3 野口村 野沢家、高原田 高橋家文書	川西町史編さん室
108	川西町史料目録 No. 4 青木信作家、内山常治郎家、大倉集落、小川武文家、小幡正家、金子幸作家、小川充家、上村謙吉家文書	川西町史編さん室
109	川西町史料目録 No. 5 川崎孝治家、北堀亀雄家、児玉輝彦家(船橋市)、小林三作家、小林作一郎家、小林敏男家、小海珍亮家、斉木利栄、酒井家、清水喜久市家、須藤茂一家、関口純一家、大工殺し一件	川西町史編さん室
110	川西町史料目録 No. 6 高橋茂雄家、高橋久蔵家、高橋源治郎家、小海新太郎家、中屋敷総代、高橋惣八郎家、高橋銀一家、高橋シン家、高橋友義家、高橋直孝家、登坂博家、富井源蔵家、中村茂一家、中島スマ家、南雲乙蔵家、南雲久守家文書	川西町史編さん室
111	川西町史料目録 No. 7 野上菊三家、樋口一衛家、平野正義家、藤木秀雄家、星名イシ家、星名四郎家、水口沢所有(平野圭二)文書	川西町史編さん室
112	川西町史料目録 No. 8 高橋茂雄家、宮啓一家、宮俊雄家、丸山茂吉家、山家音平家、若山三郎家、町有、明治大学刑事博物館、清瀧寺、須藤茂一家、根津正三家文書	川西町史編さん室
113	川西町史料目録 No. 9 茂野耕作家、藤沢集落、酒井軍平家、高橋礼三家文書	川西町史編さん室
114	川西町史料目録 No. 10 沖立村文書	川西町史編さん室
115	川西町史料目録 No. 11 田村俊一家、仁田区有文書、田中長五家、栄行寺、丸山誠一家、斉木定太郎家文書	川西町史編さん室
116	川西町史料目録 No. 12 星名イシ家、保坂五郎作家、高橋家(No.3の続き)、小海八太郎家、高橋克義家文書	川西町史編さん室
117	川西町史料目録 No. 13 田村伸夫家、星名茂利家、寺ヶ崎部落、羽鳥仁平家、田村重正家、小海八太郎家、平野義一家、国立資料館、坪山部落文書	川西町史編さん室
118	川西町史料目録 No. 14 川崎信夫家寄贈文書	川西町史編さん室
119	川西町史料目録 No. 15 押木素介家、喜多信一家文書	川西町史編さん室
120	川西町史料目録 No. 16 南雲乙蔵家、坪山部落コピー分、野沢家コピー分、高橋克義家コピー分、星名善雄家、沖立部落コピー分	川西町史編さん室
121	川西町史料目録 No. 17 田口正敏家、小林作一家、須藤寛蔵家、清水良家、伊勢平治区有、田村俊一家、羽鳥仁平家、南雲乙蔵家、小幡正コピー分、水口沢文書コピー分、高原田部落、清水儀七家文書	川西町史編さん室
122	川西町史料目録 No. 18 南雲栄介家文書	川西町史編さん室
123	川西町史料目録 No. 19 酒井学家(写真)(コピー分)、新町新田区有、関口晃家、星名四郎家、(新大)鶴吉村文書	川西町史編さん室

### 3. アンケート調査

## 「十日町市歴史文化基本構想」策定に係るアンケート調査

**1. あなたが大切に思う「地域の自然環境」は何ですか？**

自然環境…山、台地、河川、滝、植物・樹木、動物、緑地、水田・耕作地など

名 称	大切に思う理由
(例) 三ツ山の棚田	(例) 明治時代に偶然発見された三ツ山の棚田に映る「田毎の月」を、今も見ることができる

**2. あなたが大切に思う「地域の生活空間」は何ですか？**

生活空間…用水、街道・街路、建造物、土木構造物・工作物、記念碑、町並みや景観、遺跡・城跡など

名 称	大切に思う理由
(例) 小白倉集落の景観	(例) 平成8年度の「美しい日本のむら景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受賞した。昔ながらの山村集落の景観が保たれている

**3. あなたが大切に思う「地域の伝統文化」は何ですか？**

伝統文化…民俗芸能、伝統産業・技術、習慣、衣食住、生業、年中行事、信仰（寺院・神社・石仏）、美術工芸品（絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古文書・考古資料・歴史資料）など

名 称	大切に思う理由
(例) 妻有百三十三番札所	(例) 智泉寺住持鳳仙により元禄4年（1691）に133か所の霊場と御詠歌が制定され、現在も受け継がれている

**4. 1～3の設問以外で、後世に伝えたいと思う事柄がありますか？**

(例) 歴史的な事柄や人物、言い伝え、伝説、昔話し、方言など

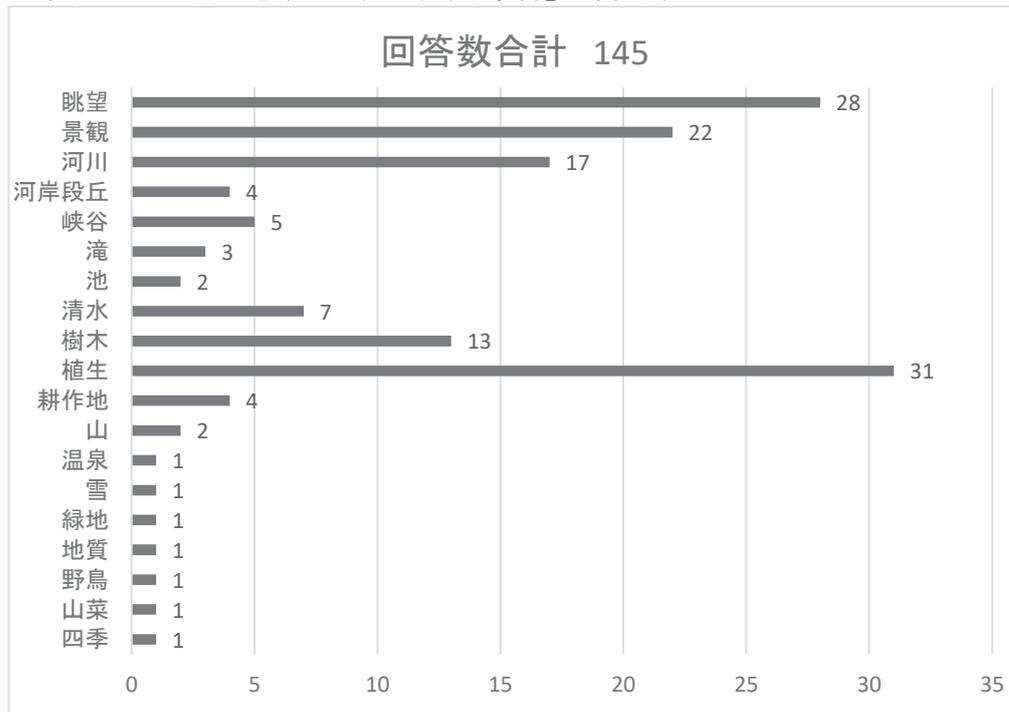
名 称	大切に思う理由
(例) 河本正安（杜太郎）	(例) 十日町で代々医を業とする家に生まれ、医を尾台良作（父の姉の夫、第14代将軍徳川家茂の侍医、榕堂と号す）に学ぶ。文久2年1月15日、坂下門外の変で死亡

**5. 次のような技術を持った人を知っていましたら教えてください。**

萱葺き、木羽葺き、木挽き、石工、鍛冶屋、紙漉き、苧績み、イザリバタによる機織り、竹細工、ワラ細工、雪がある時に行う狩猟など

**6. あなたがおいしいと思う「山菜」と好きな食べ方を教えてください。**

設問1 あなたが大切に思う「地域の自然環境」は何ですか？



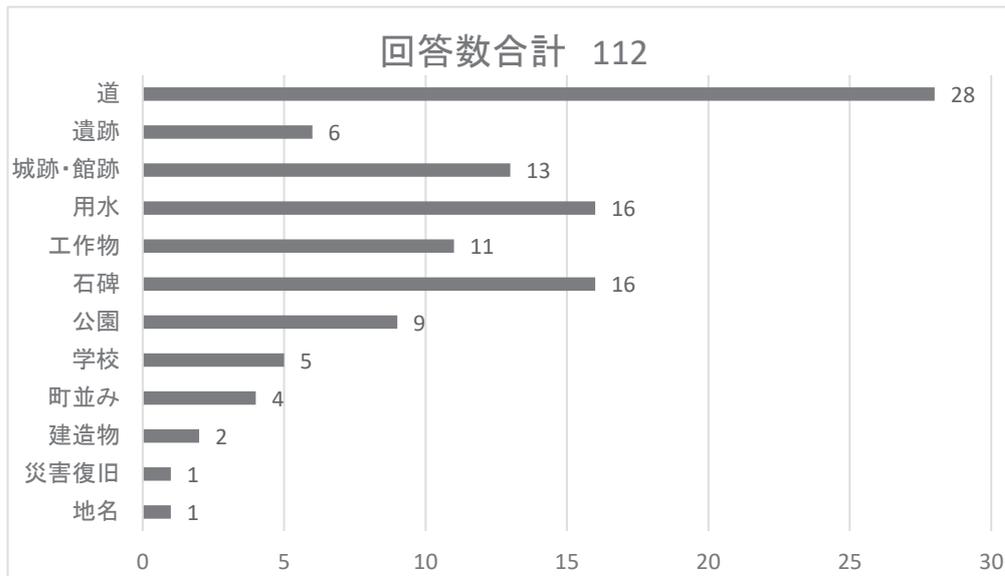
※カッコ内の数字は回答者数(問2～問4も同じ)

分類	地区	回答内容
眺望 28	十日町	御嶽山
	南	展望台(笹之沢)
	大井田	権現堂山頂からの眺望(2)
	中条飛渡	林道峰之薬師線、笠置山キャンプ場から見る景観
	水沢	漆島の山の紅葉、上信越の山々、姿橋・十日町橋などから見る信濃川と、その近く～遠くの景色
	吉田	吉田神社下より八海山を望む景色
	中里	阿寺打野山、鷹羽からの眺望
	川西	松葉沢から望む越後三山、上野 関田山系元町から節黒城を望む風景、晩秋の八海山、橘小学校からの田園風景、藤沢から長福寺へ抜ける山道の峠からみた十日町の町並み、川西地区から見る川東の景観
	松代	芝峠温泉からの景観(2)
松之山	大松山からの眺望(3)、朝日山公園から見る眺望、五十子平山田から見る景観、深坂峠からの展望(2)、鼻毛峠の全体像、360° 山に囲まれている景観	
景観 22	大井田	四日町新田所有の山 滝の倉、神宮寺周辺
	中条飛渡	三ツ山田毎の月
	下条	慶地の棚田(2)
	水沢	伊達のつつじ原
	中里	中里 市之越地内の水田
	松代	星峠の棚田(3)、蒲生の棚田(2)、儀明の棚田、松茸神社駐車場より山頂(本殿)への参道の景観、山と水田
	松之山	松之山の里山(松代を含む)、棚田(留守原の棚田等)
	全域	住宅地に点在する畑や水田、市内に点在する棚田、昔ながらの田んぼの景観、中山間地の景観、各地域の里山

分類	地区	回答内容
河川 17	十日町	田川(2)
	大井田	上大井田川と下大井田川
	中条飛渡	飛渡川
	水沢	小黒沢の川原と姿橋から見る信濃川の景観
	川西・松代	渋海川沿いにある瀬替え(2)
	松之山	渋海川の源流
	全域	信濃川(8)、豊富な水資源
河岸段丘4	全域	河岸段丘(4)
峡谷5	中里	清津峡(3 国重要文化財)、瀬戸溪谷、坊主岩
滝 3	下条	貝ノ川神明様の滝
	中里	七ツ釜(国重要文化財)
	松代	滝沢にある3つの滝(滝沢の地名にもなったとされる)
池 2	十日町	大池の大池
	南	牛池(笹之沢)
清水 7	大井田	強清水(香清水)
	川西	山の神名水
	松代	新潟県名水指定の室野の実昇清水(2)、竹水(竹所)
	松之山	小谷「弘法の清水」
	全域	市内に〇〇清水というのが数多くあった。現存するものも多い。 ・神宮寺 ・稲荷町 ・高山 原下 ・馬場 ・城之古
樹木 13	十日町	赤倉八幡様のかつらの木
	高山	ナンジャモンジャの木
	南	天狗杉(麻畑)
	中条飛渡	中条駅前にある銀杏の木2本、小貫の大杉(県指定文化財)、中条入山のカスミザクラ(市指定文化財枯死のため指定解除)
	下条	下条原天満宮のカシの大木
	吉田	鉢の白藤
	川西	赤谷十二社の大ケヤキ(2 県指定文化財)
	松代	儀明の一本桜、室野城跡の三の丸附近にある大山桜、松代神社の大杉
植生 31	十日町	大池への旧道のモウセンゴケ
	南	あじさい公園(2)、ニツ屋の二千年蓮(3)
	大井田	神宮寺境内の苔、権現堂の松林
	中条飛渡	笠木山の変形ブナ林(3)、池谷のブナ林(2)
	水沢	当間山のブナ林(2)、水沢中学の学校林
	川西	上野 長安寺裏のブナ林
	中里	小松原湿原(2)
	松代	福島丸山森林公園のブナ林(2)、薬師遊歩道のブナ林(会沢・清水)
	松之山	400か所もの点在するブナ林(美人林、大巖寺高原、坪野)(7)、大巖寺高原のミズバショウ
	耕作地 4	大井田
中里		桔梗原(庄屋五郎兵衛の功績)、猫石山(当間山)山裾の水田
全域		きれいに草刈りされた河川、水田あぜ、農耕作地等

分類	地区	回答内容
山 2	川西	庄司山(橘地区発祥の地であり、地域を代表する山である)
	中里	大日蔭山(清津川の支流釜川の水源2,010m。三角点が地図上では1,993.6m地点にあり、国土地理院地図に誤って「霧の塔」とある。土地台帳55字は、大字小松原であり、中里村史見開きに出ている。2,000mを越す山は苗場山のみですが、これも地理院が誤って現在津南町になっています。十日町市、津南町からもよく見える山ですから「妻有富士」と呼んでもよい名山です。)
温泉1	松之山	松之山の「温泉」
雪1	松之山	小谷長者原 雪による自然冷蔵庫(蚕卵の冷温施設としてつくられた冷蔵庫)
緑地1	川西	中子平
地質1	松之山	松之山ドーム構造
野鳥1	松之山	野鳥の宝庫
山菜1	全域	十日町市は山菜の宝庫
四季 1	十日町	四季の移り方 春の草木の芽吹き、残雪の中青い新芽の輝き 夏は色々の草木の緑、花の色あざやかに映って美しい 秋の山々の色の移り変りは大変きれいです 初雪は木の緑の上に白く朝日に輝くときは苦しい冬の始まりと思いながらも目を輝やかせて見えています 三ツ山の棚田にまけない田毎の月が見られます。県道十日町、六日町線の峠の途中で見られます

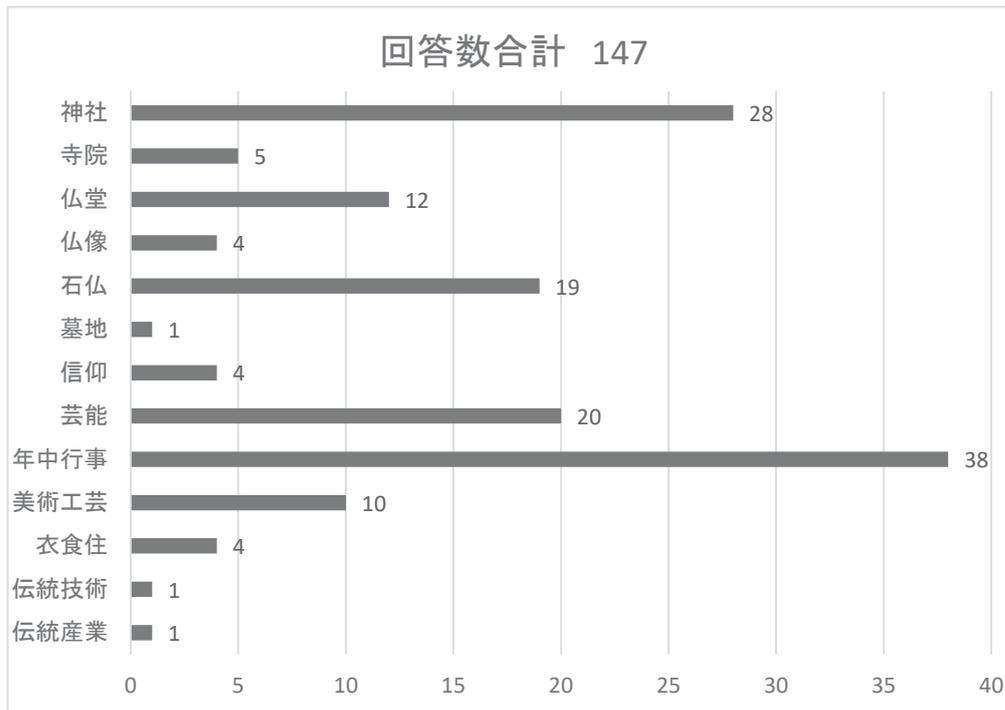
設問2 あなたが大切に思う「地域の生活空間」は何ですか？



分類	地区	回答内容
道 28	十日町	十二様の山道
	大井田	街道(天王道、金塚道・狐塚道は遺跡とも関連するものと思われるものが多い)、五軒新田は昔の善光寺街道と会津街道の交差する地点
	中条飛渡	飛渡川は江戸期までの道路であり食料生産の基、善光寺街道
	下条	道路と記念碑(県道山ノ相川下条停車場線の二子地内)、県道岩沢轟木線(平集落と願入集落の間、通称後倉(おしろっくら)という急斜面に急勾配の斜めの道を開削、雪崩防止の段切りを行う
	水沢	善光寺街道(水沢中学校裏手には、街道が今も残っている)、珠川～当間山～土倉の山路
	吉田	古道(・燈坂の崖から下りる道 ~様(いしぶみ))
	中里	鷹の巣(宮中。かつての北国街道)
	川西	長安寺門前を貫通する旧市川街道元町付近、旧柏崎街道(上野峠に旧道三叉路の追分地藏尊)、上野西永寺に至る道、新町新田の節黒城址へ続く旧道
	松代	犬伏の昭和の青の洞門(2)、松之山街道(上杉軍道とも)、源太の登り道(通称:源太街道小荒戸)、東頸城郡道(大平・菅刈・会沢)、松之山街道(菅刈から犬伏までの古道。古道100選に選ばれた)
	松之山	高田街道(松之山街道に通じる松之山郷南組の街道の一部)(3)
全域	旧街道とそれに付随する各種石像(石碑)	
遺跡 6	大井田	おじゃしき(尾崎)、権現堂
	下条	上新田 野首遺跡
	松代	向原縄文遺跡
	松之山	水梨の鳥屋城(現三十三観音)
	全域	豊富な土器、信濃川沿いの各集落に(土中に)眠っている土器等
城跡 館跡 13	十日町	中将岳
	南	城之古の琵琶懸城(2)と南国33番塔
	中条飛渡	大井田城跡(県指定文化財)、大井田城をとりまく砦群(2)
	下条	山際(板橋)の城山
	水沢	当間城跡
	川西	室島城跡
	中里	堀之内の城山(2)

	松代	城跡(城山)
	松之山	水梨の鳥屋城(現三十三観音)
用水 16	大井田	中条堰(四日町下島、中条下島の田の水路)、1級河川2本と水利に恵まれた五軒新田は、大昔から水利争いの中心
	下条	下条地区の用水路網(古い用水路がなくなりつつある)
	吉田	マブ(水路トンネル)
	川西	上野 松葉沢川、沢田川、小海川(農業用水)、三領集落の湧水、五升苗ダム
	松之山	大明神用水、留山ダムと宝用水(2)、赤倉の車屋(水車?)、横穴の井戸
	全域	用水、用水路(今は使われなくなったが地域の歴史をつくった)
	工作物 11	南
大井田		境界石(町内の道路の全路線に道路の中央に漬物石の様な石を縦に埋め込んで上を3~4cm出してあった)
中条飛渡		旧岡田家(現在円通寺)にある石垣(2)
水沢		水沢中学の学校林内の炭焼き窯跡
川西・中里・吉田		JR信濃川発電に関する土木施設(宮中取水ダム、浅河原調整池、千手発電所とそれら施設をつなぐ水路トンネル)(2)
吉田		三角点
中里		三角点(津南町鹿渡と旧貝野村阿寺境632.9mの「有倉山」山頂の1等三角点。山崎の旅館泉屋前に225m、清田山公園後ろの歩道のところに717.8mがある)
松代		小脇の発電所の堰堤
石碑 16	中条飛渡	盛哉制水工之碑
	水沢	珠川開拓の碑
	中里	不動様の石(角間)、如来寺墓にある解剖塔、清津峡の島田青峰と中川竹洞の歌碑
	川西	沖立大ケヤキの記念碑、新町新田発祥の地(石碑は集落を見下ろす位置の高台にある)、上野諏訪神社境内の二十三夜塔、忠魂碑(上野)
	松代	熊越山の土饅頭、五十庚申塔(福島)
	松之山	鼻毛丸山忠魂碑(北浦田)、大明神用水頌徳碑と橋詰地藏堂跡地、坂口安吾文学碑、松之山温泉記
	全域	昭和後半からの圃場整備やため地等の造成に伴う記念碑とその趣意、各地のいしぶみ
公園 9	西部	郷土植物園
	南	河内公園、千歳ヶ丘公園(2)
	大井田	大井田の郷公園(2)と大井田郷碑
	川西	ブナ林と二六公園、北田公園、松葉沢公園
学校 5	下条	廃校となった学校跡地、東下組小学校校章・校歌、東下組小学校の雪中校・冬季分校の歌
	川西	橘中学校跡地
	全域	明治5年以降から今日まで小・中学校等の変遷とその所在地
町並み 4	十日町	市中心部の商店街とアーケード通り、昭和町通りの街並み
	水沢	統一感のあふれる町並みに安心感と豊かさをみる
	松之山	本当の田舎!
建造物 2	川西	上野の星名邸(国重要文化財)
	全域	せいがい造り
災害復旧	松之山	集水井戸(昭和37年に始まった松之山地すべりは850haに達し、地すべりを誘発する地下水を排水する集水井戸が多く建設された。この井戸の効果は大きく、全国的にも地すべり防止工事の主流となった)
地名	大井田	地域内の(古)地名

設問3 あなたが大切に思う「地域の伝統文化」は何ですか？

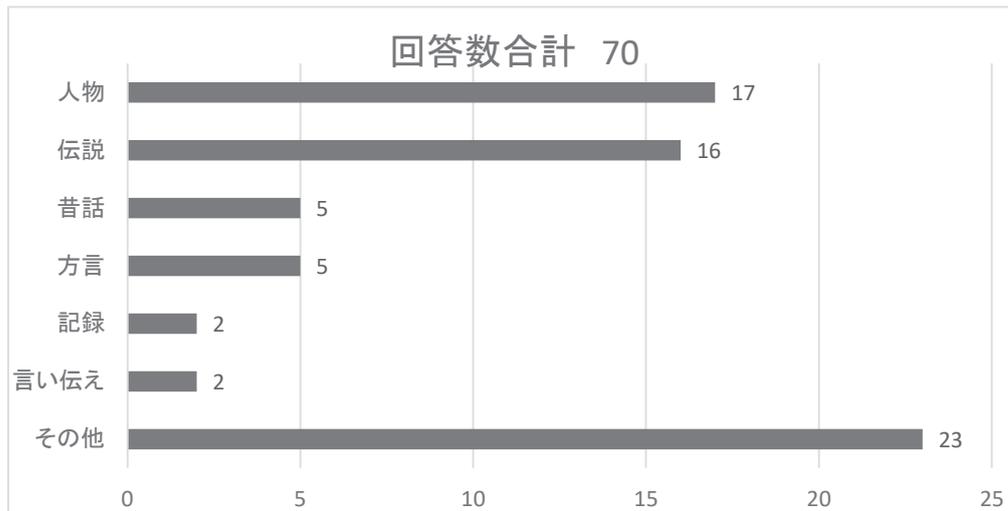


分類	地区	回答内容
神社 28	十日町	十二神社、御嶽様、大池の弁天様、十日町の諏訪神社
	高山	高山八幡宮
	西部	稲荷神社(稲荷町)
	南	妻有神社(川治下町)、稲荷神社(山本町2丁目)、諏訪神社(北新田第1)、秋葉山神社(麻畑)、白髭神社(麻畑)
	大井田	祇園社(2)、十二社(四日町新田)、尾崎弁財社、五社神社
	中条飛渡	中条高龍神社、矢放神社、枯木又高龍様、北原八幡様(2)、太子堂
	下条	下条天神様
	水沢	十二社(土市)、稲荷神社(土市)、白山媛神社(馬場)と八幡様(水沢)
	松代	松苧神社(国重要文化財)
寺院 5	十日町	本城院護国寺
	大井田・川西	神宮寺と千手観音
	南	祇園寺(山谷)
	大井田	妻有百三十三番札所結番 神宮寺
	川西	長安寺の伽藍と境域(境内)
仏堂 12	南	十王堂(川治中町)、常楽庵(山本町2丁目)、観音様(北新田第2)、薬師堂(船坂)
	大井田	尾崎観音様
	下条	戸渡の薬師様の石碑
	水沢	羅漢堂(太田島)、円通閣(安養寺)
	中里	妻有百三十三番の札所 堀之内阿弥陀様81番
	川西	弁財天社と造化三神碑(小根岸)、妻有百三番札所(仁田)、妻有百四番札所(北田)

分類	地区	回答内容
仏像 4	川西	六道能化地蔵尊
	松代	松代庵堂の観音像
	松之山	隠れキリシタン関連のマリア像等(2)
石仏 19	十日町	大池の石仏(大日如来、庚甲堂、二十三夜塔、猿田彦大神)
	高山	妻有第三番礼所(高山)の道路沿いにある地蔵様
	南	風の神様(川治上町)、双体道祖神(田麦)
	大井田	大峯山2体(大井田)
	下条	戸渡の田村家の梵字碑
	水沢	池沢・源田の百庚申様
	川西	上野火伏地蔵(2)、雷電様
	松之山	豊田のお国八十八番(3)、荒沢不動(天水越)、黒倉の百体庚申、黒倉の石仏三十三観音と水梨の石仏三十三観音、豊田の金精石仏群
全域	各地域の石仏(2)	
墓地	松之山	小谷の墓地
信仰 4	大井田	六部塚、お正月の神祭り(天王様と神宮寺のお参り)
	松代	お寺の行事(施餓鬼の行事等)
	全域	庚申講
芸能 20	十日町	菅沼神楽(2)、赤倉神楽(市指定文化財)
	大井田	大井田民謡保存会(天神ばやし 三階節 石場かち唄 甚句 ホーカイ節等の地元民謡、鳥追い唄やわらべ唄)、祝いうた(天神ばやし)、三階節
	中条飛渡	三階節、よいやさ盆踊と唄
	下条	新保広大寺節(市指定文化財)、広大寺甚句、天神ばやし
	水沢	石ばかり(市指定文化財)
	中里	盆踊り(からす踊り、野良三階、ホーカイ節、こりやさ踊り、甚句、くどき、ジップラジンなど) (2)
	川西	地踊り(だいのしやか、ヨイヤラサ)、天神ばやし、室島神楽
	松代	苧島神楽(市指定文化財)と室野神楽(市指定文化財)
松之山	神楽(湯山、天水越、天水島)(2)	
年中行事 38	十日町	「十日町おおまつり」と「八角神輿」、子供みこし行列、赤倉の鳥追い
	高山	高山八幡宮 奉納演芸会
	大井田	しょうぶ切り(3)、四日町祇園社(天王様)と十七夜祭り、十七夜祭りのお神輿での石場かち(2)、鳥追い(2)、七草念佛、字毎に違う祭り(五軒新田の祭りは昭和30年代まで字の道境界で前向き合っても祭りは別々で違っていた)
	中条飛渡	新水のドウラクジンと羽根ケーシ(市指定文化財)
	水沢	鳥追い
	吉田	山谷大祭の仁和加、道楽神
	中里	農家の年中行事及びそれに伴う食事、涅槃会(お釈迦様ご命日法要、3月15日)
	松代	神社で使う器(8月の風祭りの時、1年に1回だけ使用されてきた大昔から残されている酒器)、だんごまき(2)、七つ参り、盆踊り、十二講(小荒戸)、観音祭(松代)
松之山	鳥追い(2)、小正月行事、天水島の秋祭り	

分類	地区	回答内容
	全域	ほつけ立ち、×焼きとほんやら洞(2)、消えつつある諸行事(消えたもの)、24節気における日本、十日町の行事や心構え、関わり方、楽しみ方 各神社(集落)特殊神事(“ゆのはな”神事など、各集落の鎮守様に伝わる特別な神事が今も残っている。また、小正月行事も神事の一つとして行われている。正月や小正月、祭礼など、生活に根づいた神事、風習は、これからも伝えていかなければならないものです。)
美術工芸 10	十日町	滝文織物資料
	西部	天平の夢とロマンを実現に藕糸織(ぐうしおり)
	大井田	四日町地区の古文書
	下条	下条天満宮本殿の彫刻(明治年間に小千谷市本町にある日光社本殿を移築。彫刻は見事である。)
	川西	旧川西町の大地主増田家、千手観音本堂の天井絵画と仁王像(市指定文化財)
	全域	天和検地による各地域の耕作面積(ダンナ様と呼ばれたところ?)、神社・仏閣の現有の幟の字句、各家に伝わる古文書、織物の技術と歴史文化
衣食住 4	水沢	雑煮
	松代	郷土料理(松代)
	松之山	正月料理
	全域	棒だら煮
伝統技術	水沢	いじやり工法(水路を掘る時、昔こういう工法でおこなわれた。人が座り手でコツコツ掘る、小さな穴なので土止めは不要。いじやりという木製のソリみたいな道具で土を運ぶ。)
伝統産業	全域	着物(織物)

設問4 1～3の設問以外で、後世に伝えたいと思う事柄がありますか？



分類	地区	回答内容
人物 17	十日町	庭野日敬(2)
	大井田	二瓶 田之助
	中条飛渡	岡田正平、一鎮(いつちん)、杉本貞治郎、春川元七、春川忠吉、中条の生んだ偉人(一鎮・惟寛禅師・尾台榕堂・岡田龍松・杉本周徳・岡田正平・岡田紅陽など)
	川西	上野 大訥愚禅和尚、上野 間宮重兵衛(北方探検間宮林蔵の養子)、塩沢 宮田準亭(紀州華岡塾で医学を学ぶ)
	松代	町医者富沢張玄、玄馨(小荒戸)
	松之山	小野塚キイ、上杉房能の自刃(越後の下克上の始まり)、南雲平格、保坂玉泉
	全域	十日町出身 新・偉人伝のような人物紹介
伝説 16	十日町	大池
	高山	ナンジャモンジャの木
	南	八箇の牛池
	中条飛渡	龍王様の片枝杉伝説
	水沢	二ツ石、当間山一本杉の話、やさぶろ婆さんの話、むじなが化かす
	中里	如来寺伝説、角間のおば石
	松之山	蛇切丸物語、松山鏡(3)、杵兵衛(もくべえ)伝説(2)
昔話 5	大井田	ごぼうさの金玉
	松代	田の倉の三九郎と蓬のおべんの昔話、松代地域の昔話(2)
	全域	伝説・昔話し、方言
方言 5	下条	方言集「私達の国語」
	全域	方言(4)
記録 2	大井田	妻有土俗記「春木山」
	中里	「郷土なかさと」
言い伝え 2	南	ヤカンコロガシ、不動様が田麦に来た由来

分類	地区	回答内容
その他 23	南	六箇行進曲
	大井田	大井田氏一族とその伝承、五軒新田内の5つの字について(前は大字でした)、十日町市初代中山龍次市長の談話、五軒新田集落の職業
	下条	理研ドリル第一工場、第二工場
	吉田	「つべえる」という言い伝え、「手の平水」という言い伝え
	水沢	のろし場株式会社当間高原リゾートの設立
	中里	にかっこ滝(信濃川の岸壁)
	松代	昭和40年代頃までの生活、言葉遣い改善ポスター
	松之山	観音寺から出品の大そり、川手公民館の手習い作品(絵・習字)、松之山地すべり、屋号、方言の接点(松之山地域は関東語系(魚沼方言)と関西語系(上越方言)の接点に位置している。文化圏も同様。)
	全域	妻有の地名、大地の芸術祭、しみ渡り、十日町雪まつり

設問5 次のような技術を持った人を知っていましたら教えてください。

持っている技術	地区	住 所
萱葺き	下条	十日町市 澁野
		十日町市 澁野
		十日町市 下条澁野
		十日町市 下組
	水沢	十日町市 当間
	川西	十日町市 室島
	松之山	十日町市 浦田
わら細工	十日町	十日町市 赤倉
		十日町市 赤倉
	南	十日町市 二ツ屋
	大井田	十日町市 四日町
		十日町市 尾崎
		十日町市 四日町第二
	水沢	十日町市 珠川
	川西	十日町市 仁田
		十日町市 上野
	中里	十日町市 如来寺
	松代	十日町市 池尻
十日町市 奈良立		
松之山	十日町市 松之山小谷	
	十日町市 浦田西の前	
竹細工	西部	十日町市 西本町2
	中里	十日町市 如来寺
	松代	十日町市 池尻
紙漉き	下条	十日町市 澁野
	松代	十日町市 犬伏
布をさいてあんだぞうり	下条	十日町市 岩野
木挽き	十日町	十日町市 川原町
左官	大井田	十日町市 四日町4
	川西	十日町市 上野
石工	水沢	十日町市 小黒沢
	川西	十日町市 上野
一斗缶からかなみ(チリとり)を作る	水沢	十日町市 池沢(源田)
漆掻き、漆眩る(くるめる)	下条	十日町市 下組
スゲ笠作り(山笠)	松代	十日町市 松代下山
	松之山	十日町市 松之山中尾
雪のある時の狩猟	川西	十日町市 上野
		十日町市 上野
織の知識	十日町	十日町市 学校町
藕糸織	西部	十日町市 高田町3丁目西
おり紙	松代	十日町市 室野

設問6 あなたがおいしいと思う「山菜」と好きな食べ方を教えてください。(回答者57人、複数回答)

名称	回答数	好きな食べ方
ウド	37	生のまま、生みそをつけて食べる。油いため、天ぷら、煮もの、キンピラ、ごま和え、ごま味噌和え、酢の物、酢味噌和え、塩漬け
ゼンマイ	34	油いため、きんぴら、ぜんまい煮、白和え、けんちん汁、雑煮、五目おこわ、和えまぜなます、からし和え
木の芽	17	ゆでて醤油と卵(鰹節)をかけて食べる
フキノトウ	17	天ぷら、ふきミソ、酢のもの、酢味噌和え、つくだ煮、油いため
ワラビ	18	わさび正油、生姜和え、酢の物、塩漬け、干して保存食(油いため、煮物)
コゴメ	15	天ぷら、ゴマ和え、からし和え、マヨネーズ和え、油いため、おひたし、ワサビ醤油
タケノコ(チシマザサ)	12	皮つきのままオープン焼にし(塩、こしょう)、みそ、マヨネーズをつけて食べる。味噌漬け、煮物、さば缶を入れたたけの子のみそ汁、しょうがみそ炒め、天ぷら、にしめ、玉子どんぶりに入れる
ウルイ	5	沢山とれた時、乾燥(天日干し)においてキンピラとして食べるのが好きです。おひたし、酢味噌和え
アサツキ	4	アサズキみそで、みそと花かつ(熱とおし)。魚やかまぼこのぬた あさつきみそ 麺類のやくみ。ふきのとうとの味噌和えは、春の恵みが口の中いっぱい広がる。酢味噌和え
アマンダレ	4	油で(あまんだれ、里いも、ネギ等)炒め、豆腐も入れていただくけんちん汁
山椒の芽	4	干したニシンと醤油・酢と一緒に漬ける。天ぷら
シオデ	4	おひたし、マヨネーズ和え、油いため
コシアブラ	3	おひたし、天ぷら
ハウズキ	2	生で食べる
アオジソ	1	同様に作り方不明。9月20日前後の適期に採穂し、昔ながらのシンプルな作り方で瓶詰めしたもので、半年以上のものが美味しい
アヅキナ(エビララジ)	1	おひたし
イヌドウナ(方言ウドボキ)	1	おひたし、味噌あえ、きんぴら
シソ	1	味噌漬け
シッパツ	1	秋に黄色に色づいた頃食べる実
白深山(キノコ的一种)	1	サンゴのような形の大株を、食べやすいように細かにして他の具材と一緒に味をつけご飯に混ぜて食べる。
ズイキ	1	酢のもの
セリ	1	おひたし、汁もの
タラノメ	1	天ぷら
ツリガネニンジン(ノノバ)	1	おひたし
ミズナ	1	塩漬け
ミヤマイラクサ	1	おひたし、味噌あえ、天ぷら、きんぴら
ミョウガ	1	酢のもの
ヤチアザミ(タチアザミ)	1	油いため
リョウブ(令法)	1	芽が出たばかりを摘み、みそ汁の具にする。本来は飢きん対策の木
ワサビの花芽	1	からみ

## 4. 校歌と校章・名札の収集

地域別の収集結果

地域	小学校					中学校				
	校数	うち 閉校	校歌	校章	名札	校数	うち 閉校	校歌	校章	名札
十日町	25	14	22	23	11	8	2	8	8	5
川西	10	7	8	7	2	6	5	5	4	1
中里	6	4	6	6	2	4	3	4	3	1
松代	12	11	12	12	1	6	5	6	5	1
松之山	6	5	6	6	1	2	1	2	2	1
計	59	41	54	54	17	26	16	25	22	9

校歌と校章・名札の収集状況〈十日町地域〉

No.	学校名	歌詞	楽譜	校章	名札
1	十日町小学校	○	○	○	○
2	大池小学校	○			
3	赤倉小学校	○		○	
4	中条小学校	○	○	○	○
5	飛渡第一小学校	○	○	○	○
6	飛渡第二小学校	○	○	○	
7	新座小学校	○	○	○	
8	大井田小学校	○	○	○	
9	東小学校	○	○	○	○
10	下条小学校	○	○	○	○
11	東下組小学校	○		○	
12	川治小学校	○	○	○	○
13	河内小学校				
14	八箇小学校	○		○	
15	麻畑小学校			○	
16	ニッ屋小学校			○	
17	六箇小学校	○		○	
18	吉田小学校	○	○	○	○
19	鏡島小学校	○	○	○	○
20	名ヶ山小学校	○	○	○	
21	真田小学校	○	○	○	
22	馬場小学校	○	○	○	○
23	水沢小学校	○	○	○	○
24	野中小学校	○	○	○	
25	西小学校	○	○	○	○
26	十日町中学校	○	○	○	○
27	中条中学校	○	○	○	○
28	下条中学校	○	○	○	
29	吉田中学校	○	○	○	○
30	川治中学校	○		○	
31	六箇中学校	○		○	
32	南中学校	○	○	○	○
33	水沢中学校	○	○	○	○

校歌と校章・名札の収集状況 〈川西地域〉

No.	学校名	歌詞	楽譜	校章	名札
34	千手小学校	○	○	○	○
35	中野小学校				
36	上野小学校	○	○	○	
37	仙田小学校	○	○	○	
38	赤岩小学校	○	○	○	
39	中仙田小学校	○			
40	田戸小学校				
41	高倉小学校	○	○	○	
42	白倉小学校	○	○	○	
43	橘小学校	○	○	○	○
44	千手中学校	○	○	○	
45	上野中学校				
46	川西中学校	○	○	○	○
47	橘中学校	○		○	
48	仙田中学校	○			
49	白倉中学校	○	○	○	

校歌と校章・名札の収集状況 〈中里地域〉

No.	学校名	歌詞	楽譜	校章	名札
50	貝野小学校	○	○	○	○
51	倉俣小学校	○	○	○	
52	田所小学校	○		○	
53	田沢小学校	○	○	○	○
54	高道山小学校	○	○	○	
55	清津峡小学校	○	○	○	
56	倉俣中学校	○			
57	貝野中学校	○	○	○	
58	田沢中学校	○	○	○	
59	中里中学校	○	○	○	○

校歌と校章・名札の収集状況 〈松代地域〉

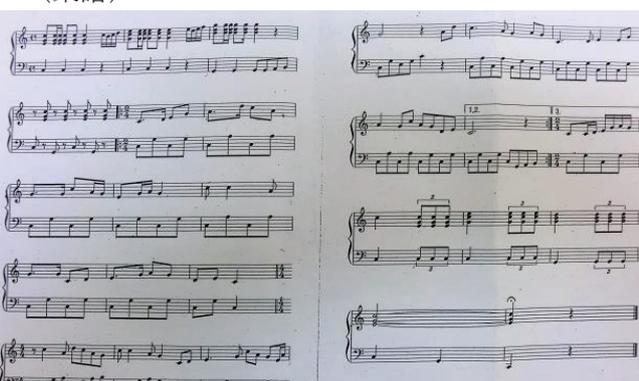
No.	学校名	歌詞	楽譜	校章	名札
60	松代小学校	○	○	○	○
61	蓬平小学校	○	○	○	
62	清水小学校	○	○	○	
63	桐山小学校	○	○	○	
64	孟地小学校	○		○	
65	北山小学校	○	○	○	
66	筋平小学校	○		○	
67	蒲生小学校	○	○	○	
68	儀明小学校	○	○	○	
69	室野小学校	○	○	○	
70	峠小学校	○	○	○	
71	奴奈川小学校	○	○	○	
72	松代中学校	○	○	○	○
73	清水中学校	○	○	○	
74	孟地中学校	○		○	
75	山平中学校	○	○		
76	奴奈川中学校	○	○	○	
77	桐山中学校	○	○	○	

校歌と校章・名札の収集状況 〈松之山地域〉

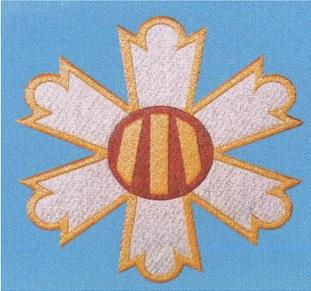
No.	学校名	歌詞	楽譜	校章	名札
78	松之山小学校	○	○	○	○
79	東川小学校	○	○	○	
80	坪野小学校	○	○	○	
81	三省小学校	○	○	○	
82	浦田小学校	○	○	○	
83	松里小学校	○	○	○	
84	松之山中学校	○	○	○	○
85	浦田中学校	○	○	○	

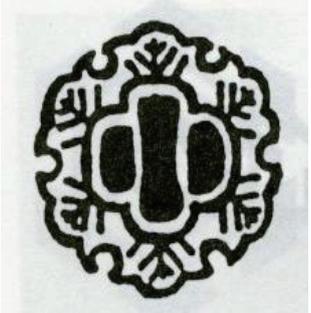
歌詞の分類

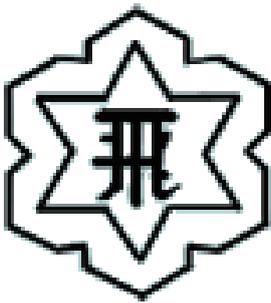
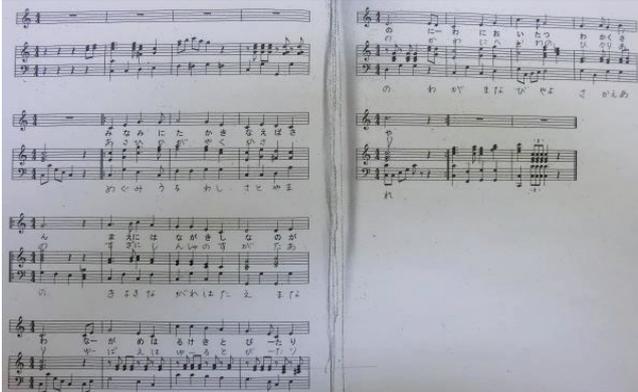
地域	山・峠	川	雪	城跡	その他
十日町	諏訪山仰ぎ(十日町小) 苗場山(飛渡第一小) 笠置嶺(飛渡第一小) 笠置の山(飛渡第二小) 八海(下条小) 米山(下条小) 八海山(東下組小) 米の山(東下組小) 苗場山(川治小) 八箇の峰(八箇小) 八海(吉田小) 苗場山(鏡島小) 八海(名ヶ山小) 苗場の山(馬場小) 当間山(野中小) 大沢峠(野中小) 八海(吉田中) 銀山(吉田中) 駒ヶ岳(吉田中) 苗場山(吉田中) 米の山(吉田中) 苗場の山(川治中) 苗場(六箇中) 苗場嶺(南中)	信濃の川(中条小) 信濃川(飛渡第一小) 飛渡の川(飛渡第一小) 飛渡川(飛渡第二小) 信濃川(大井田小) 信濃川(下条小) 信濃の川(東下組小) 信濃川(川治小) 羽根川(六箇小) 信江(吉田小) 信濃川(鏡島小) 信濃の川(馬場小) 信濃の川(水沢小) 入間川(野中小) 信濃川(中条中) 信濃の川(下条中) 信濃川(吉田中) 羽根川(六箇中) 信濃川(南中) しなののかは(水沢中)	越路の深雪の中も(十日町小) 白雪の光に映える(大池小) 白銀美しき(赤倉) 白雪の山なみ(飛渡第二小) 越路の雪(新座小) 降りつむ雪(大井田小) 越路の雪(東小) 苗場の雪おろし(下条小) 苗場おろし(東下組小) 紅葉に雪に(八箇小) 銀嶺よわが行かん(名ヶ山小) 深雪携まぬ力もて(名ヶ山小) 雪降る道を(真田小) 雪の降る日にも(馬場小) 雪が降りつもり(野中小) 雪よふれふれ(西小) 半年雪の銀世界(十日町中) 風雪なんぞ(中条中)	中将岳の城の址(赤倉小) 城の松(中条小) 城山(大井田小) 秋葉嶺(六箇小) 城山の千年松(中条中) 秋葉に立ちて(六箇中)	機を織る音(十日町小) 日本一の織物出だす(東小) 天満宮(下条小)
川西	八海山(千手小) 八海(上野小) 鷹場の頂き(高倉小) 八石山(白倉小) 八海の嶺(橘小) 庄司山(橘小) 明神山(仙田小・室島) 八海山(川西中) 八海(千手中) 駒ヶ岳(千手中)	信濃川(千手小) 大河信濃(上野小) 渋海の瀬音(仙田小) 渋海川(仙田小・室島) 渋海川(赤岩小) 渋海の流れ(中仙田小) 新田川(高倉小) 渋海の川(白倉小) 清流信濃(橘小) 大信濃川(川西中) 信江(千手中) 信濃川(橘中) 渋海川(仙田中)	深雪の越の雪どころ(千手小) 降りつむ雪を(仙田小) 雪にたうごと(中仙田小) ふり積むしらゆき(高倉小) 雪の叫び(白倉小) 積もる白雪(橘小) 白雪は(橘中)	節黒の城址(上野小) 城の山(仙田小・室島) 節黒城址(川西中)	日本海(仙田小・室島) 広い段丘(川西中) 長者ヶ原(千手中)
中里	苗場の峰(倉俣小) 苗場山(田所小) 苗場の山(田沢小) 苗場の山(清津峡小) 苗場山(倉俣中) 八海(貝野中) 苗場(貝野中) 苗場(田沢中) 苗場(中里中)	大川渡る(貝野小) 清津の川(倉俣小) 釜川(田所小) 清津の川(田沢小) 信濃川(田沢小) 清津の流れ(高道山小) 清津川(清津峡小) 清津の流れ(倉俣中) 大江信濃(貝野中) 清津の星影(田沢中) 信江(田沢中) 信濃川(中里中)	寒さ恐れぬスキーでは(貝野小) 雪の王者(田所小) おおう深雪(高道山小) 吹雪吹き散る(倉俣中) 雪に堪え(田沢中) 雪の重さに(中里中)		七ツ釜(田所小) 清津峡(清津峡小) 清津峡(倉俣中)
松代	松茸山(松代小) くろひめ(蓬平小) 弥彦(清水小) 薬師の山(清水小) 菱が高嶺(桐山小) 黒姫山(桐山小) 松茸の山(孟地小) 頸城の山なみ(筋平小) 菱が高嶺(蒲生小) 山なみはるか(儀明小) 松茸社叢(松代中) 松茸の森かげ(旧松代中) 黒姫山(山平中)	渋海川(松代小) さばいし(蓬平小) 鯖石の川(清水小) 渋海の川(孟地小) 渋海川(室野小) 城川(峠小) 渋海川(奴奈川小) 渋海川(松代中) 渋海の川岸(旧松代中) 渋海川(奴奈川中)	雪に嵐に色かえぬ(松代小) 黒姫嵐(清水小) 雪にかがやく(北山小) 雪降る朝(室野小) 雪と碎ける(峠小) 雪深けれども(旧松代中) (黒姫山の)雪の色(山平中) 朝の雪(奴奈川中)	じょうやま(蓬平小) 城の嶺(室野小) 室野城址(峠小) 城の嶺(奴奈川小) 城山(奴奈川中)	佐渡(清水小) 日本海(桐山小) 日本海(北山小) あざみの森(筋平小) ぶなの林(蒲生小) 雪わり草(儀明小) 不動の滝(峠小) ぶなの若葉(松代中) ゆかりの池の増鏡(山平中)
松之山	大松山(松之山小) 松山(東川小) 雁が峰(松里小) 黒姫山(浦田中)	渋海の川(松之山小) 東川(東川小) 渋海川(浦田小) 渋海川(松里小) 渋海川(浦田中)	深雪を凌ぎ(松之山小) 降り積む雪(東川小) 白一色の冬の朝(坪野小) 深山の雪(浦田小) ふりつむ雪(松之山中) 壁なす雪(浦田中)		白山の森(三省小) 千町田(浦田小) 管領塚(松里小) 不動滝(松里小) 湯の香(松里小)
件数	60	60	45	14	23

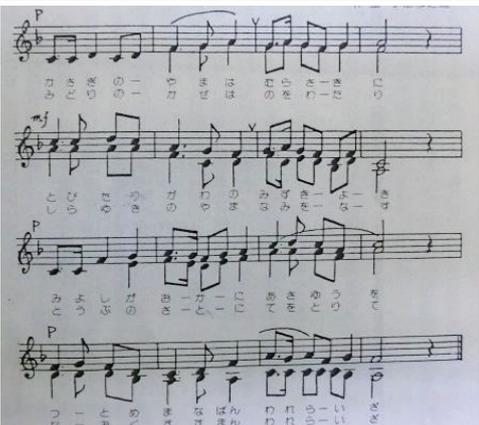
地域名	十日町	No.	1	学校名	十日町小学校			
校章制定年月日	昭和8年6月1日			校歌制定年月日	昭和27年11月1日			
	(校章デザインのいわれ) 原図は中林五郎氏の作品で、中心に楕円で十日町の文字をあらわし、これを六華の雪の中に包みこんでいる。六華の雪は、誠実・熱心・勇気・規律・正直の徳を象徴するものであるとされた。			作詞者	永井 白湄	作曲者	中山 晋平	
				(歌詞)				
(楽譜)				一番 青葉けだかい 諏訪山仰ぎ 通う明けくれ 教えの庭に 心正しく 養いながら 学び育とう わたしたち  二番 積もる越路の 深雪の中も 道をたがえず 踏み分けながら 寒さ凌いで 鍛える身体 励み進もう わたしたち  三番 稔りゆたかな 田畑も見えて 機を織る音 軒端にひびく いつも平和に 栄える町よ 力合わそう わたしたち				
								

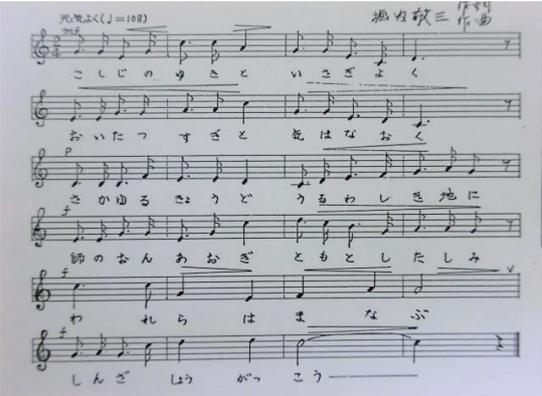
地域名	十日町	No.	2	学校名	大池小学校			
校章制定年月日				校歌制定年月日				
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	庭野日敬	作曲者	水島数雄	
				(歌詞)				
(楽譜)				一番 澄みわたる空にそびえて白雪の 光に映える山々を 仰ぎ見ながら今日もまた 希望に燃えて育ち行く 我ら大池小学校  二番 静かなる池のほとりに華開く 蓮の緑の清らかに 心鍛えてともどもに 学びの道を励み行く 我ら大池小学校  三番 谷川の流れも絶えず行く末を 目指してここに身と心 強く鍛えて世のために 輝く日へと進み行く 我ら大池小学校				

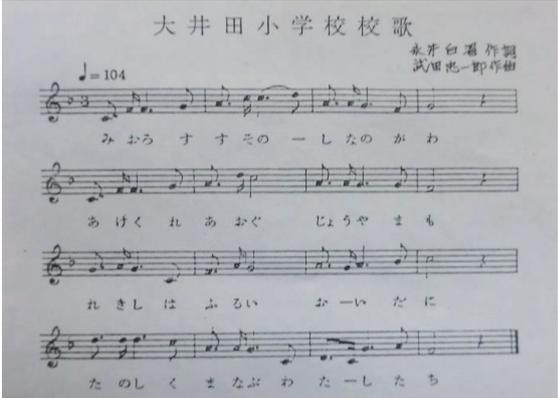
地域名	十日町	No.	3	学校名	赤倉小学校				
校章制定年月日	昭和56年3月19日			校歌制定年月日	昭和56年3月19日				
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	庭野栄昭 野本郁太郎検閲	作曲者	市村俊一	
					(歌詞)				
(楽譜)					一番	今も昔の名に残る 中将岳の城の址 古き歴史の故郷よ つきせぬ伝統うけつぎて 高き望みを歌いゆく われらの赤倉小学校			
					二番	白銀美しき夢の里 胸にいだきてふり仰ぐ 大青空のあこがれは 友とつなぎし手に燃えて あつき血潮に学びゆく われらの赤倉小学校			

地域名	十日町	No.	4	学校名	中条小学校				
校章制定年月日	昭和34年12月25日			校歌制定年月日	昭和8年10月31日				
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	手塚 義明	作曲者	吉澤 實	
					(歌詞)				
(楽譜)					一番	山氣は清く 空をこめ 江風みちて 野をわたる 山川くしき 魚沼の 我が中條は うまし里			
					二番	明治七年 さきがけて 据えし礎 揺ぎなく 信濃の川の つくるなき 教えの流れ いや遠し			
					三番	大地に立ちて 耕せば 心は廣田 けがれなし やがて萌え出ん 双葉こそ 尊く清き 愛の花			
					四番	晩翠をふくむ 城の松 かはらぬ色を 鑑にて 祈らずとても 神護る 心のま玉 磨きてん			

地域名	十日町	No.	5	学校名	飛渡第一小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		<p>(校章デザインのいわれ) 資料が残っていない、はっきりとしたことは分からない。地域の方から伺ったことによると、中の文字は飛渡の「飛」を表わしている。一番外の6方向に飛び出した形は、雪の結晶を表わしている。この飛渡地区は十日町でも雪の多い所で、雪との関わりが深いことから、「飛」と「雪」が一体になったデザインになったと考えられている。</p>			作詞者	庭野卯治	作曲者	
					(歌詞)			
					一番	南に高き苗場山 前には長き信濃川 眺めはるけき飛渡の 庭に生い立つ若草や		
					二番	朝日輝く笠置嶺の 杉に進取の姿あり 夕映えはゆる飛渡の 川に平和の光あり		
					三番	恵みうるわし里山の 清き流れの絶えまなく 希望にこぞる飛渡の 我が学び舎よ栄えあれ		
(楽譜)								

地域名	十日町	No.	6	学校名	飛渡第二小学校			
校章制定年月日		昭和56年9月校旗樹立			校歌制定年月日		昭和32年8月	
		<p>(校章デザインのいわれ) 六角形の雪の結晶を中心として、まわりを杉の葉の形でかこむようにデザインされたと考えられる。また、矢羽の形に似た葉の一つ一つにも、意味がある。上に伸びているは学校から見える「笠置山」、二本線は飛二の「二」、矢羽が三つあるのは、低・中・高学年を意味し、それぞれが力を合わせて頑張り通すという意味がある。</p>			作詞者	庭野卯治	作曲者	小山郁之進
					(歌詞)			
					一番	笠置の山はむらさきに 飛渡川の水清き 美芳が丘に朝夕を 努め学ばん 我らいざ		
					二番	緑の風は野をわたり 白雪の山波をなす 東部の里に手をとって 直くすすまん 我らいざ		
(楽譜)								

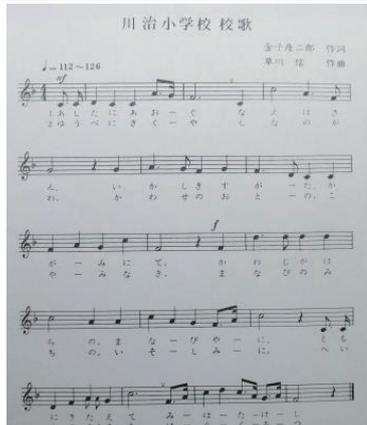
地域名	十日町	No.	7	学校名	新座小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
				(校章デザインのいわれ)			
				作詞者	堀内 敬三	作曲者	堀内 敬三
(楽譜)				<p>(歌詞)</p> <p>一番 越路の雪と いさぎよく  生い立つ杉と 気は直く  栄ゆる郷土 うるわしき地に  師の恩仰ぎ 友と親しみ  われらは学ぶ 新座小学校</p> <p>二番 明るく清き わが校に  心と体 鍛えつつ  協力研究 勤勉やまず  世界を恵む 文化めざして  われらは学ぶ 新座小学校</p> <p>三番 天下に名ある 十日町  築きし父祖の 勲しを  受けつぎ更に 国土をおこす  栄えある務め 常に忘れず  われらは学ぶ 新座小学校</p>			
							

地域名	十日町	No.	8	学校名	大井田小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和30年9月10日		
				(校章デザインのいわれ)			
				作詞者	永井白湄	作曲者	武田忠一郎
(楽譜)				<p>(歌詞)</p> <p>一番 見おろす裾の 信濃川  明け暮れ仰ぐ 城山も  歴史は古い 大井田に  楽しく学ぶ わたしたち</p> <p>二番 降り積む雪に 堪え抜いて  伸びゆく草の 芽のように  元気に育つ 身と心  正しく強く 生きましよう</p> <p>三番 山河清く 美しい  ふるさと永く 住み馴れて  受け継ぐ業を よく励み  役立つ人に なりましよう</p>			
							

地域名	十日町	No.	9	学校名	東小学校		
校章制定年月日	昭和48年2月			校歌制定年月日	昭和48年3月2日		
	<p>(校章デザインのいわれ) 雪をつきぬけ、元気に育つ児童を意味する。十日町地方に多くみられる杉の木を児童に見立てる。十日町の「十」と、円は朝の太陽を表わす。外側の雪輪は、無限の広がりを意味する。</p>			作詞者	堀内 敬三	作曲者	堀内 敬三
	<p>(楽譜)</p> 			<p>(歌詞)</p> <p>一番 越路の雪と著るく 栄ゆる郷土十日町 日本一の織物出だす 名誉を心の支えとして 我等は学ぶ東小学校</p> <p>二番 光は遠き東より 輝く空よ十日町 命は若く果てなし希望 萌え立つ緑の力を以て 我等は学ぶ東小学校</p> <p>三番 未来を目指し撓みなく 進みて止まぬ十日町 日本一の越後の人を 育くむ故郷の誇り高く 我等は学ぶ東小学校</p>			

地域名	十日町	No.	10	学校名	下条小学校		
校章制定年月日	昭和61年4月			校歌制定年月日	大正10年3月		
	<p>(校章デザインのいわれ) 昭和の時代に使用していた校章のデザインを昭和61年に一部修正し、現在のデザインとなった。「條」の文字を「条」に変更した。(学校概覧の校章がこの年より変更されている)外枠は、雪の結晶、「条」の文字を取り囲む「下」は6つの学年を表している。※基本のデザインの確かな記録はない。</p>			作詞者	丸山林平	作曲者	小林礼
	<p>(楽譜)</p> <p>下条小学校 校歌</p> 			<p>(歌詞)</p> <p>一番 春八海の いただきに のぼる朝日の かげ潔く 秋米山の うす雲に はゆる夕日の かげ淡し これぞわららが 生まれたる 下条の里の 大自然</p> <p>二番 夏は涼しき 信濃川 心のちりを 打ちすすぎ 冬は苗場の 雪おろし まどもにうけて 身をきとう 清き心と つよき身を 更にみがきて いそしまん</p> <p>三番 村のやしろは 天満宮 学びの神も 尊しや 神明の風 まどにうけ 剛健質素の 風おこし はげまんかなや 村のため 学ばんかなや 国のため</p>			

地域名	十日町	No.	11	学校名	東下組小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのおわり)			作詞者	丸山林平	作曲者	高田守久
		(歌詞)				<p>一番 東にあおぐ八海山 西にながむる米の山 風光明媚の地に生まれ 学ぶわれらの意気高し 学ぶわれらのいき高し</p> <p>二番 信濃の川を見おろして 苗場おろしに身を鍛え 心をつつと 磨きつつ 励む我等の意気高し はげむわれらのいき高し</p> <p>三番 妻有の里のただ中に 平和漲る わがこきょう 永久の栄を目ざしつつ 進む我等の意気高し すすむわれらのいき高し</p>		
(楽譜)								

地域名	十日町	No.	12	学校名	川治小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日		昭和12年3月15日	
		(校章デザインのおわり)			作詞者	金子彦次郎	作曲者	草川信
		(歌詞)				<p>一番 朝に仰ぐ 苗場山 厳しき姿 鑑にて 川治が原の 学び舎に 共に鍛えて 身は健し</p> <p>二番 タベに聞くや 信濃川 川瀬の音の 小止みなき 学びの道を いそしみに 平和の心を 育みつ</p>		
(楽譜)								

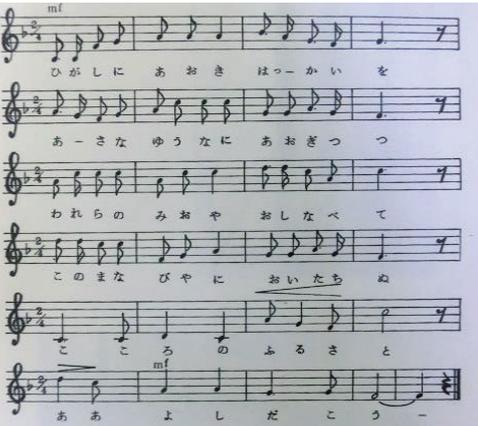
地域名	十日町	No.	13	学校名	河内小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのおいわれ)			作詞者		作曲者	
					(歌詞)			
					明治18年9月、校舎を山本に新築して山本校と称す。同25年4月、河内校と改称。 大正12年3月15日、河内校、川治校を廃し川治尋常高等小学校となる			
(楽譜)								

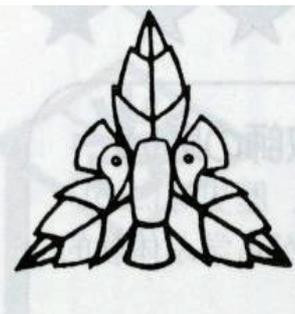
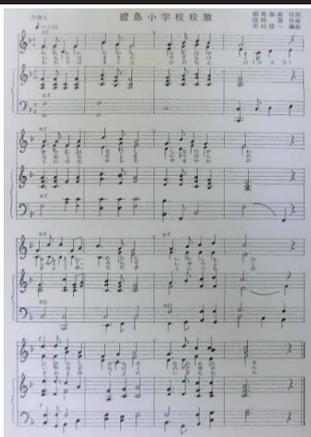
地域名	十日町	No.	14	学校名	八箇小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのおいわれ)			作詞者	手塚義明	作曲者	青柳善吾
					(歌詞)			
					一番 紅葉に雪に たぐいなき 八箇の峰を 朝夕に 学びの友と 仰ぎみる 我らの園ぞ さち多き  二番 勤め励みて うまざらば 月の桂も 折りぬべし 進み進みて やまざらば 望みの峰も 越えぬべし			
(楽譜)								

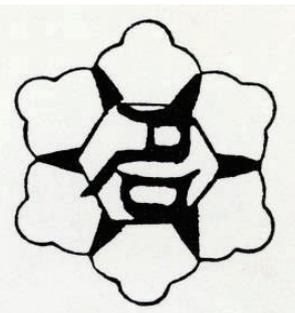
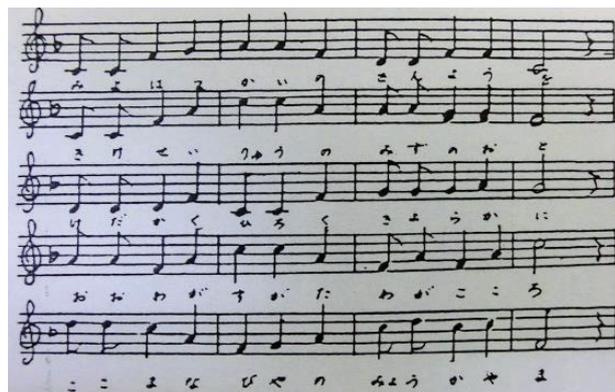
地域名	十日町	No.	15	学校名	麻畑小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和28年		
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	藤本孝三	作曲者	柳 充一
					(歌詞) 明治8年4月、川治校の分場として設立。同21年4月独立して山谷校と称す。同25年4月麻畑校と改称。 昭和35年4月1日、ニッ屋小学校と統合して六箇小学校となる。			
(楽譜)								

地域名	十日町	No.	16	学校名	ニッ屋小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者		作曲者	
					(歌詞) 明治8年4月、川治校の分場として設立。同25年4月独立してニッ屋校と称す。 昭和35年4月1日、麻畑小学校と統合して六箇小学校となる。			
(楽譜)								

地域名	十日町	No.	17	学校名	六箇小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和37年		
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	野本郁太郎	作曲者	波多野修吾
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	おお きよらなる 山峡に みなぎる力 あつまりて 旭ヶ丘に 名も薫る 高さ理想の 学び舎に 我等はこぞり ひたすらに 真理の扉 開くなり		
					二番	ああ仰ぎ見る 秋葉嶺の ふるき名傳う 羽根川の 尽きせぬ夢を 語りつつ 希望あふるる 旗の下 我等は起ちて ひたすらに はるけき道を 進むなり		

地域名	十日町	No.	18	学校名	吉田小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和24年		
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	吉田小学校PTA	作曲者	阿部直平
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	東に蒼き 八海を 朝な夕なに 仰ぎつつ 我らのみおや おしなべて この学舎に おいたちぬ 心の古里 ああ吉田校		
					二番	緑の大地 気は澄みて 野の幸多き この里に 古き伝統 うけつぎて 強く明るく のびのびと あふるる力 ああ吉田校		
					三番	見よ涛々の 信江に 春秋多き 若駒の みなぎる力 たたえたり 今新日本の かねは鳴る いざや進まん ああ吉田校		

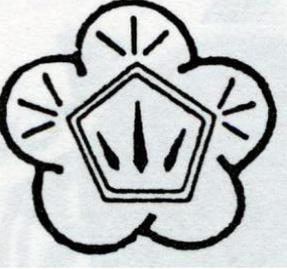
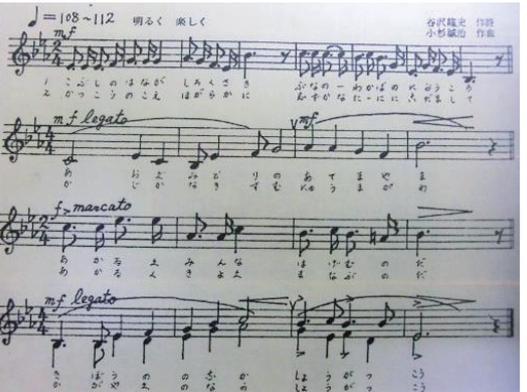
地域名	十日町	No.	19	学校名	鏡島小学校		
校章制定年月日		校歌制定年月日			昭和18年3月		
 <p>(校章デザインのいわれ)          ・かしの葉…平和・共存          ・くだま・まがたま…正義・          智恵・慈愛          ・石おの…勤労・生産</p>		作詞者 相馬御風 作曲者 信時 潔		(歌詞) 一番 南に高し 苗場山 北にはるけし 信濃川 思え我らに いにしえの よき人の血ぞ 流れたる  二番 我らはまさに やすらげく 直く正しき 日本の 少国民ぞ いやつよく いや朗らげく 伸びゆかん  三番 我らはまこと 日の本の 国の宝ぞ 山河の 清く豊けき 国土の 栄えゆく世に いざ立たん			
(楽譜)							

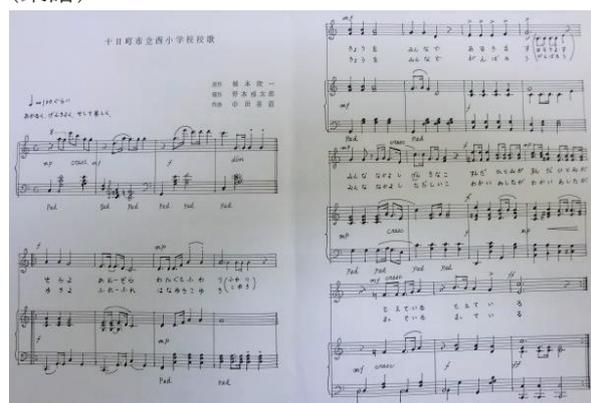
地域名	十日町	No.	20	学校名	名ヶ山小学校		
校章制定年月日		校歌制定年月日					
 <p>(校章デザインのいわれ)</p>		作詞者 名ヶ山小学校PTA 作曲者 佐藤省三		(歌詞) 一番 見よ八海の山容を 聞け清流の水の音 気高く寛く清らかに おおわが姿わが心 ここ学び舎の名ヶ山  二番 春新緑に樹々映えて 秋紅葉の丘に立つ 遙けき祖父住みなせし おおわが郷土わが誇り ここ学び舎の名ヶ山  三番 ああ銀嶺よわれ行かん 雄々しく直く健やかに 深雪撓まぬ力もて おおわが理想わが希望 ここ学び舎の名ヶ山			
(楽譜)							

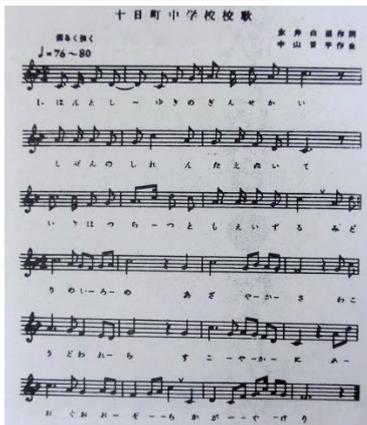
地域名	十日町	No.	21	学校名	真田小学校		
校章制定年月日	昭和29年			校歌制定年月日			
 <p>(校章デザインのいわれ) 六花の雪、鏡に真田の「真」の文字を形象する</p>				作詞者	金子茂平次 他職員一同	作曲者	宮越昭治
(楽譜)				<p>(歌詞)</p> <p>一番 町を見下す真田校 桜のもとに 僕等は歌う 大きな夢を声高く 明日をめざして学ぼうよ</p> <p>二番 山波続く我里の 雪降る道を 我等は走る 力を協せて元気よく 明日をめざして学ぼうよ</p>			
<p>真田校校歌</p> <p>作詞 金子茂平次 他職員一同 作曲 宮越昭治</p> 							

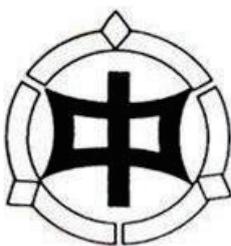
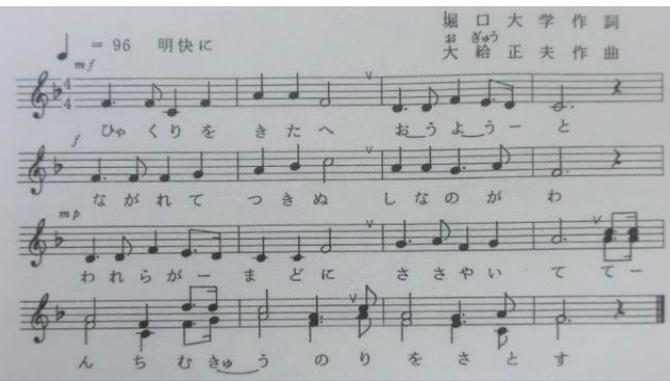
地域名	十日町	No.	22	学校名	馬場小学校		
校章制定年月日	昭和42年2月8日			校歌制定年月日	昭和48年10月28日		
 <p>(校章デザインのいわれ)</p>				作詞者	渡辺しづ	作曲者	東儀博
(楽譜)				<p>(歌詞)</p> <p>一番 若葉をわたる 小鳥のように つぶらな瞳 校庭に 明日の日本を 歌うとき 燃えてふくらむ みんなの希望 信濃の川と 光る波</p> <p>二番 風の日 雪の降る日にも かがやく瞳 校舎に 古い歴史を 思うとき 燃えてたかなる みんなの未来 苗場の山と 光る雲</p> <p>ああ われらの 馬場小学校</p>			
<p>馬場小学校校歌</p> <p>作詞 渡辺しづ 作曲 東儀博</p> 							

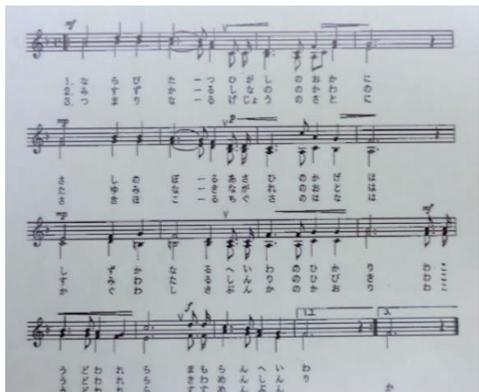
地域名	十日町	No.	23	学校名	水沢小学校		
校章制定年月日	昭和30年3月22日			校歌制定年月日	昭和33年11月7日		
	(校章デザインのいわれ) 考案者:岡村操 ・雪国にちなみ、雪の結晶を表現 ・「小」の字は、小学生らしさを表現するために「棒」を配置したようにデザイン ・「小」の外側の円は、水沢の「水」を表現			作詞者	岡本 敏明	作曲者	岡本 敏明
				(歌詞)	一番 風さわやかに 稲穂をわたり 信濃の川に 若鮎おどる 進む行手は 希望にあふれ 水沢小学 誇りは永遠に  二番 雲とぶ空に 山々かすみ 桜ヶ丘に 光はおどる 進む行手は 理想にもえて 水沢小学 誉れは永遠に  三番 道ひとすじに 学ぶわれら 力をあわせ 手に手をとって 進む行手は よろこびみちて 水沢小学 栄えよ永遠に		
(楽譜)							

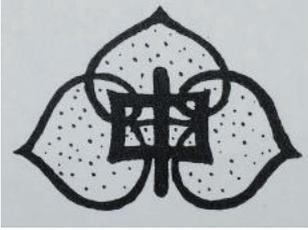
地域名	十日町	No.	24	学校名	野中小学校		
校章制定年月日	昭和37年11月			校歌制定年月日	昭和37年11月		
	(校章デザインのいわれ) 考案者:山賀輝夫 桐の花の中に杉の木をかたどって、小学校の小の字にしたものである。 桐の花は成長が早く、また高貴な木として尊ばれているものであり、杉はまっすぐに伸びていく木である。その上、ともにこの地域に多くを産する木である。そこで子どもの心身のすこやかな成長を願う心を表してデザインされた。			作詞者	谷沢竜史	作曲者	小杉誠治
				(歌詞)	一番 こぶしの花が白く咲き ぶなの若葉のにおうころ 仰ぐみどりの当間山 明るくみんな励むのだ 希望の野中小学校 二番 郭公の声ほがらかに 静かな谷にこだまして 河鹿鳴き澄む入間川 明るく清く学ぶのだ かがやく野中小学校 三番 黄金にみよる稲の波 峰の紅葉は照り映えて 大沢峠の青い空 明るく高く伸びるのだ 栄える野中小学校 四番 ましろく雪が降りつもり 野山や里をおおうども 吹雪にめげぬ六部落 明るく強く進むのだ 雄々しい野中小学校		
(楽譜)							

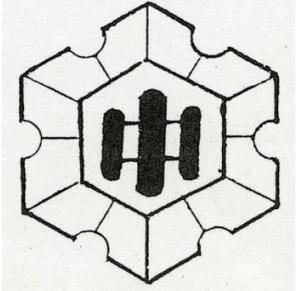
地域名	十日町	No.	25	学校名	西小学校		
校章制定年月日	昭和51年4月1日			校歌制定年月日	昭和51年4月1日		
	<p>(校章デザインについて) 校章のデザインは広く全国に呼びかけ、362点集まり、その結果東京都青梅市の宇津木澄子さんの作品が選ばれた。宇津木さんは「十日町の十を雪の結晶で強く健康的にデザインして、西小の文字を美しく組み入れた単純明快な十日町西小のシンボルマークです。」とデザインに込められた思いを語ってる。西小創立史には「固々として輝く意思の逞しさを感じるものである。」と記載されている。</p>			作詞者	原作 橋本俊一	作曲者	中田喜直
	<p>(楽譜)</p> 			<p>(歌詞) 甫作 野本郁太郎</p> <p>一番 空よ 青空 わた雲ふわり 今日を みんなであるきます みんな仲よし 元気な子 澄んだひとみが 澄んだひとみが 燃えている</p> <p>二番 雪よ ふれふれ 花ゆきこゆき 今日を みんなでがんばろう みんな仲よし 正しい子 若いあしたが 若いあしたが 待っている</p>			

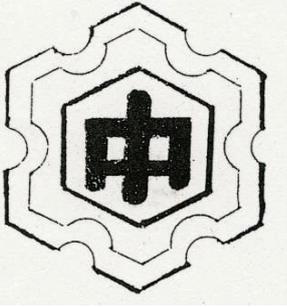
地域名	十日町	No.	26	学校名	十日町中学校		
校章制定年月日	昭和27年			校歌制定年月日	昭和27年11月27日		
	<p>(校章デザインについて) たまたま、第一回郡内中学陸上競技大会が十日町高校グラウンドで開かれることになったとき、選手の胸に校章マークを付けたい。応援団を編成するので応援歌、応援旗がほしい。そんな要望が、陸上競技部から全校自治会に出され、自治会では校章、校歌、応援歌を全校生徒から募集することにした。 校章は応募作品の中から、雪の結晶を六角形で表し、スピードと飛躍を矢印にデザインした蕪木金一氏(第二回卒業生)のものが選ばれました。</p>			作詞者	永井白湄	作曲者	中山晋平
	<p>(楽譜)</p> 			<p>(歌詞)</p> <p>一番 半年雪の銀世界 自然の試練耐え抜いて 意気滲刺と萌え出ずる 緑のいろの鮮やかさ 若人われら健やかよ 仰ぐ大空輝けり</p> <p>二番 丘辺に建てる学び舎に 春秋めぐる年毎の 眺めもたのし花紅葉 山河清きわが郷土 若人われら勉強に 道は一すじ光あり</p> <p>三番 環境良さに育まれ 知識を広く取り入れつ 勤労励み尊びて すぐれし技能身につけん 若人われら適性を 迷ふ進路に希望あり</p> <p>四番 社会へ巣立つあかつきも 人格高く養いて 平和日本の発展に 力を協せ尽きなん 若人われら新しき 時代を築くぞ使命なれ</p>			

地域名	十日町	No.	27	学校名	中条中学校		
校章制定年月日	昭和22年7月23日			校歌制定年月日	昭和25年11月23日		
	<p>(校章デザインのいわれ) 昭和22年創立当初、校舎は各小学校に併設され、中条・大井田・飛一・飛二の4つに別れており、生徒も小学校の延長のような気分で中学生としての自覚がはっきりとせず、まして4つの校舎に別れた生徒の心のつながりを得ることは容易なことではなかった。そこで、校章を作り同じバッジを胸につけたら…と全校生徒より募集し、当時1年生の小林和子さんの「中の字四つ」の図案が取り上げられた。「中の字四つ」は①中魚沼郡中条村中条中学校の校名を意味すると同時に②当時四つの校舎の中学生のまとまりをも意味したものである。</p>			作詞者	堀口大学	作曲者	大給正夫
	<p>(楽譜)</p> 			<p>(歌詞)</p> <p>一番 百里を北へ汪洋と 流れてつきぬ信濃川 我らが窓に ささやいて 天地無窮の 理をさとす</p> <p>二番 恵みを父祖の 地に受けて 中の字四つの 旗のもと 高志が丘に 高らかに 我等は誓う なすあるを</p> <p>三番 風雪なんぞ 城山の 千年松を 君見ずや 平和に生きる 日本の 文化の明日は 我らから</p>			

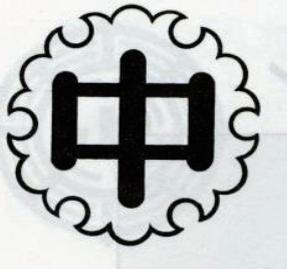
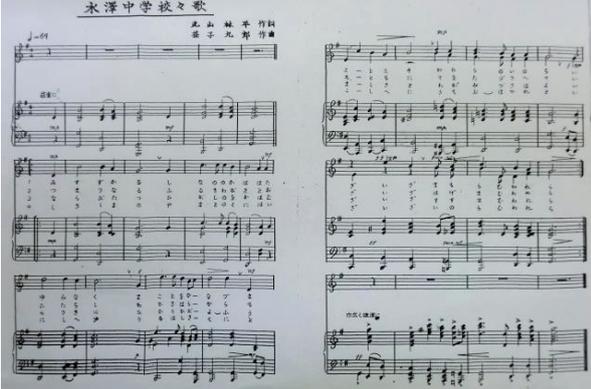
地域名	十日町	No.	28	学校名	下条中学校		
校章制定年月日	昭和24年4月1日			校歌制定年月日	昭和26年3月6日		
	<p>(校章デザインのいわれ) 生徒のデザイン公募により作成。デザイン立案者は第2回卒業生、小川明雄氏。妻有の特産物であった百合と雪を題材とし、雪深い妻有の地に根を張り、清らかな花を咲かせる百合(つぼみ)が、雪(雪の結晶)を包むデザインとされている。</p>			作詞者	丸山 林平	作曲者	井上 武士
	<p>(楽譜)</p> 			<p>(歌詞)</p> <p>一番 並び立つ 東の丘に さしのぼる 朝日のかげは しずかなる 平和の光 若人われら 守らん平和</p> <p>二番 みすずかる 信濃の川の たゆみなき 流れの音は すみわたる 真理のひびき 若人われら 極めん真理</p> <p>三番 つまりなる 下条の里に 咲きほこる 千草の花は かぐわしき 文化のかおり 若人われら 進めん文化</p>			

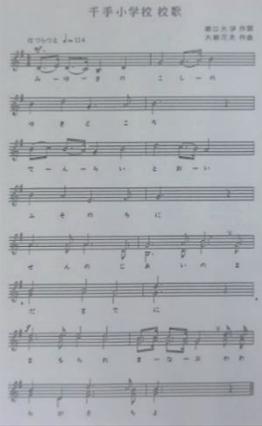
地域名	十日町	No.	29	学校名	吉田中学校			
校章制定年月日		昭和25年12月22日			校歌制定年月日		昭和28年3月24日	
		(校章デザインのいわれ) 図案:安藤俊雄 誠実、融和、団結の精神を表すハート型、吉田・鏡島・真田の旧3か村も象徴している。中の点は点在する集落を意味する。			作詞者	丸山 林平	作曲者	小出 浩平
		(楽譜) 			(歌詞) 一番 空にそびえてそそり立つ 八海 銀山 駒ヶ岳 山の高さときそいつつ いざやみがかん 我等の心  二番 春は緑の苗場山 秋は実りの米の山 稲の吉田に生いたちて いざや励まん 我等の技を  三番 津張の里をつらぬきて 永久に流るる信濃川 その丘の上に手をつなぎ いざや進まん 我等の道に  四番 山は紫気は澄みて 吉田の里はよき里よ 心をあわせ声そろえ いざや歌わん 我等の誇り			

地域名	十日町	No.	30	学校名	川治中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	内田 幾太郎	作曲者	山田 正興
					(歌詞) 一番 苗場の山にたとうべき おもいを胸にえがきつつ 集う若人もろともに いざやたたえん身の幸を  二番 雲をひらきて朗らかに さしいづる天つ日かげこそ のぞみに燃えてかがやける 若き心のすがたなれ  三番 越の野山のうるわしく ときわの松のみどりこそ まことを我に求むべき 若き心のしるしなれ  四番 ああ自治のかね今ぞなる 川治の庭のわが友よ よにふるためにもろともに 心を身をもきたえなん			
(楽譜)								

地域名	十日町	No.	31	学校名	六箇中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	野本 郁太郎	作曲者	波多野 修吾
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	朝風清き 高原に 光を浴びし 若人が 燃ゆる血潮に 高鳴れる 自主独立の 魂を 久遠の花と 咲かすべく ここに集ひて はげみゆく		
					二番	流れ尽きせぬ 羽根川の めぐみ豊けき ふるさとに 薫る歴史と 伝統を 秋葉に立ちて しのびては 高き理想を 歌うとき 望みは胸に あふれ来る		
					三番	あこがれ深き 青春を 永久のいのちに呼びかはす 苗場の誇り 輝きて いまぞ我等の 行くところ 文化の光 みちみちて 国のあゆみを 照らすなり		

地域名	十日町	No.	32	学校名	南中学校			
校章制定年月日		昭和43年1月11日			校歌制定年月日		昭和43年1月11日	
		(校章デザインのいわれ) 統合校が発足するまでに校章を定めるため、昭和42年2月下旬、生徒・職員・父兄に対して校章図案の募集をした。川治・六箇中学校の校章がいずれも雪の結晶を型どったものであったところから、募集図案も殆んど雪の結晶であった。その中からよいものを2、3点選び、統合委員会に決めて決定した。			作詞者	野本 郁太郎	作曲者	根津 孝二
					(歌詞)			
(楽譜)					美しき わがふるさとよ 苗場嶺の そびゆる高志路 信濃川 豊かに流れ 清らなる 広野めぐる 春呼べば 若草もえて 蝶は舞う 夢の丘 おお学び舎は ここにたち われら尽きせぬ力もて 自主と親和の 旗ふれば 文化の国に 輝く母校 おお友よ われら永久なる今日を 希望にもゆる 胸の火に 歌を捧げて ゆきゆかん			

地域名	十日町	No.	33	学校名	水沢中学校		
校章制定年月日	昭和43年10月13日			校歌制定年月日	昭和28年11月23日		
	(校章デザインのいわれ) 校旗の水中マークや、その他装飾デザイン者は、すべて滝文さんの職人			作詞者	丸山林平	作曲者	益子九郎
				(歌詞)	<p>一番 みすずかる しなののかはは たゆみなく まことをかなづ まことこそ われらのいのち いざいざ まもらむわれら</p> <p>二番 つまりなる ふるきわがさと おひたちし わかきはらから もろともに てをたづさへて いざいざ はげまむわれら</p> <p>三番 ならびたつ ひがしのをかは むらさきに ひかりかがよふ うましさを わがみづきはよ いざいざ すすまむわれら</p> <p>四番 しきしまの やまのくには いにしへゆ うるはしきくに とこしへに さちおほかれと いざいざ いのらむわれら</p>		
(楽譜)							

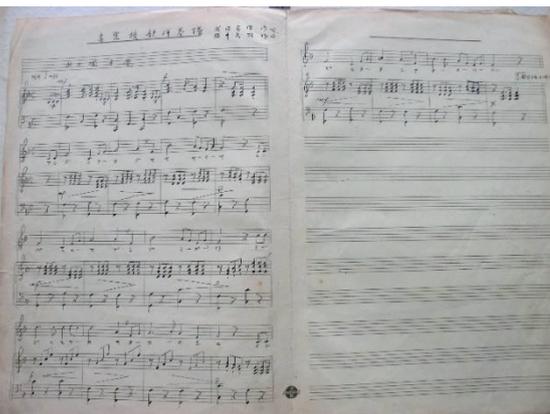
地域名	川西	No.	34	学校名	千手小学校		
校章制定年月日	昭和28年			校歌制定年月日	昭和28年		
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	堀口大学	作曲者	大給正夫
				(歌詞)	<p>一番 深雪の越の 雪どころ 伝来遠い 祖父の地に 千の慈愛の 真玉手に 守られ学ぶ われ等が幸よ</p> <p>二番 ゆたかな水嵩 悠々と 流れて尽きぬ 信濃川 行く手はるかな 人生の 岩切り進む われ等が意気よ</p> <p>三番 東の空に 雲しのぐ 八海山の けざやかさ 国の文化を やがて明日 高きにのぼす われ等が夢よ</p>		
(楽譜)							

地域名	川西	No.	35	学校名	中野小学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
		(校章デザインのおわり)			作詞者		作曲者
					(歌詞) 明治9年創立、霜条校と称す。同22年6月、 中野校と改称。 大正12年4月1日、千手小学校へ統合。		
(楽譜)							

地域名	川西	No.	36	学校名	上野小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのおわり)			作詞者	松岡 譲	作曲者	中園久子
					(歌詞) 一番 ゆかりも古りて節黒の 城址の松のふかみどり 歴史はえある学び舎に はげむ我等希望の子 いざや手に手をいざやいざ  二番 ひがしの空に朝な夕 揚げば高き八海に 理想の夢をかよわせて 雄々しく強く伸びゆかん いざや手に手をいざやいざ  三番 明るい未来日本を 築く我等にたゆみなく 大河信濃の洋々と 流れてやまぬその心 いざや手に手をいざやいざ			
(楽譜)								
								

地域名	川西	No.	37	学校名	仙田小学校			
校章制定年月日		(校章デザインのおいわれ)			校歌制定年月日			
		作詞者			小高友一	作曲者		藤原治郎
		<p>(歌詞)</p> <p>一番 平和に映える山なみの すがしい風を浴びながら 希望のひとみかがやかせ 励まし合って学びゆく 明るい仙田小学校</p> <p>二番 洺海の瀬音こだまして 歌声さそう学び舎に 誓いも固く手を組んで 心をみがき 育ちゆく 楽しい仙田小学校</p> <p>三番 降りつむ雪を堪えしのぐ 若木のようにたくましく この身を鍛えふるさとの 豊かなあすを 担いゆく 栄ある仙田小学校</p>						
(楽譜)								

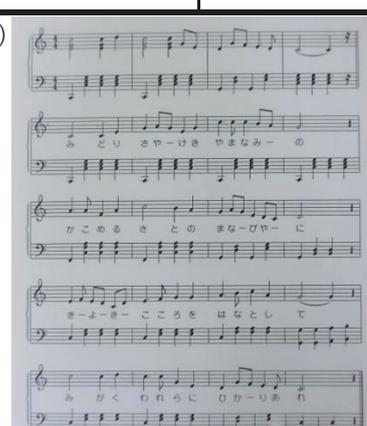
地域名	川西	No.	37	学校名	仙田小学校(室島)			
校章制定年月日		(校章デザインのおいわれ)			校歌制定年月日			
		作詞者				作曲者		
		<p>(歌詞)</p> <p>一番 都の花は 散り失せて ここには荅む 梅桜 巷の塵を よそに見て 我等はここに学ぶなり 明神山の 月高く 古来知られし 仙田校</p> <p>二番 空に 聳ゆる 城の山 昔を偲ぶ 武士の 松の嵐も 勇ましや 一望万里 渺々と 越路の華や 日本海 眼下に望む 仙田校</p> <p>三番 山また山を打ち巡り 谷また谷の 巖を咬み 最後の障害 蹴開きて 教の道の 淵を成す 流れも清き 洺海川 雲より竜や ひそむらん</p>						
(楽譜)								

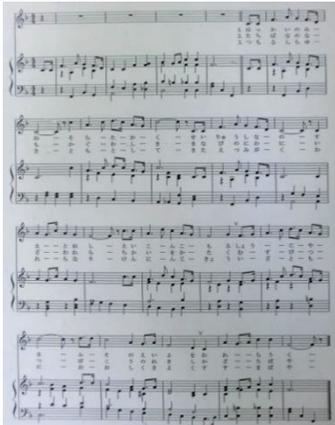
地域名	川西	No.	38	学校名	赤岩小学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 (校章デザインのいわれ)		作詞者	成田高常	作曲者	坂井義雄		
		(歌詞) 一番 旦に仰ぐ山々や 夕べにむすぶ洪海川 緑も深き丘の上に 礎かたし赤岩校  二番 教えの光かざしては 学びの窓のあけくれに 心の玉をみがきつつ いざや励まん諸共に  三番 大き銀杏のたつところ 日々新たに進みゆく 文化の愛にひたりつつ 我らわざははてもなし					
(楽譜)							

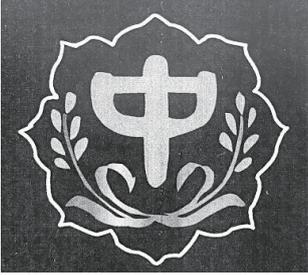
地域名	川西	No.	39	学校名	中仙田小学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 (校章デザインのいわれ)		作詞者	相馬御風	作曲者	中山晋平		
		(歌詞) 一番 洪海の流れ清きごと わが松雪にたうるごと 心をみがき身をきたえ まなびの園に生えたたん  二番 天地のめぐみゆたかなる このよき里に生れきて このやすらげき学舎に のびゆく幸をたたえなん  三番 正しき道に光あり 正しき業に望あり いざやはらからもるともに あかるくなおく進まん					
(楽譜)							

地域名	川西	No.	40	学校名	田戸小学校			
校章制定年月日				校歌制定年月日				
		(校章デザインのおわり)		作詞者			作曲者	
				(歌詞) 明治9年2月、仙田校の分場として創設。同25年7月独立す。大正13年9月中仙田小学校の分校となる。				
(楽譜)								

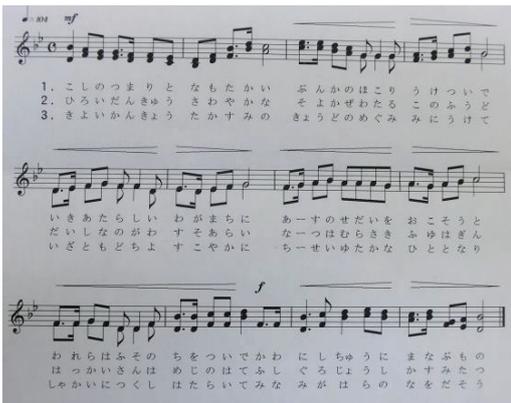
地域名	川西	No.	41	学校名	高倉小学校			
校章制定年月日	昭和47年12月			校歌制定年月日	昭和51年11月			
		(校章デザインのおわり) 校舎の位置が高倉小字松葉、校舎の裏手を含めて松葉平と呼ぶ、体育館脇にある松は、旧校舎時代からあって学校の歴史を物語るものである。因縁深き松にちなんで、松葉を図案化して、その中央に校名「高倉」の字を配す。松葉の交わりは協力・円満を意味し、その末広がりは向上発展を示すものである。		作詞者	村松英子	作曲者	南日恒夫	
				(歌詞) 一番 名もうつくしき 松の葉に 輝く希望訪れて みあげる鷹場の頂きに 微笑む幸の多かれと  二番 ふかくふり積む しらゆきに 誇る力の幾星霜 先祖のめぐみに包まれて 育つ心のきよかれと  三番 大空のもと 流れゆき 季節をうつす新田川 やさしいきょうのこの夢を 燃える花と咲かせよと				
(楽譜)								

地域名	川西	No.	42	学校名	白倉小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和29年9月15日		
 <p>(校章デザインのいわれ)</p>				作詞者	野本郁太郎	作曲者	中林五郎
				(歌詞)			
<p>(楽譜)</p> 				一番	みどりさやけき 山脈の かこめる里の 学舎に 清き心を 花として みがく我等に 光あれ		
				二番	渋海の川の とどろきに 胸おどらせて 寄る窓を 春の望みは 溢れて来て 友の瞳も かがやきぬ		
				三番	青葉ゆたけき 野に山に 自然の恵 つきせねば いよいよ栄ゆる 白倉の 長き歴史を 讃うかな		
				四番	紅葉の山を わけのぼり みさくるままに 吟ずれば 若き我等の 夢燃えて 日本海を のぞむなり		
				五番	八石山を 吹きおろす 雪の叫びの 烈しさの 千里どよみて 鳴るごとく 立ちて進まん 世のために		

地域名	川西	No.	43	学校名	橋小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和16年2月		
 <p>(校章デザインのいわれ) 三頭向い橋 聖花と言われる橋花三個を向い 合せ三位一体(真善美…聖)の境 地を表す。又、智情意、天地人、過 去現在未来、三次元世界等の表現 でもある。 三花の若葉を伸ばし手を繋ぐ子 供達の姿をあらわし、又児童教師 両親三者、三位一体の連繋の表現 でもある。円形のは“輪”即ち“ 和”の表現であり無限と円満と調和 をあらわす。</p>				作詞者	相馬御風	作曲者	中山晋平
				(歌詞)			
<p>(楽譜)</p> 				一番	八海の嶺 空高く 清流信濃 末遠し 英魂こもる 庄司山 父祖の栄与を われらうく		
				二番	橋の名も かぐわしき 学びの庭に いざわれら 誓いをかたく 結びつつ 母校の歴史 かざらばや		
				三番	積る白雪 友として きたえつみがく われらなり 堅忍自彊 いざともに おおしく 潔く 進まばや		

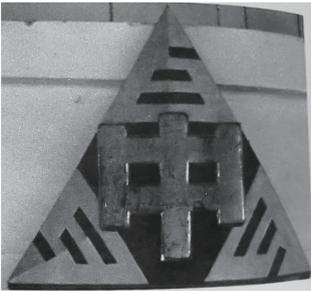
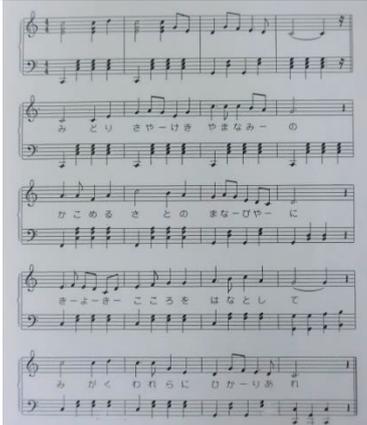
地区名	川西	No.	44	学校名	千手中学校		
校章制定年月日		(校章デザインのいわれ)			校歌制定年月日		
		作詞者 会沢 勇 作曲者 真明 正人			(歌詞) 一番 仰ぐ八海 駒ヶ岳 紅にほふ 峰の雲 永久に平和な 日本の 希望清しき 朝ぼらけ 教えの光に 玉なす心 撓まず磨かん 気高く直く  二番 汪洋百里 信江の 水勢騰る 断り岸に 文化の泉 盡くるなき 世紀の偉業 燦と立つ み親に承け来し 郷土の幸を 勤み究めん 豊けく著く  三番 照れば万朶の 花霞 染むれば巧織の 綾衣 長者ヶ原に めぐる日の 明るく楽し 我が学舎 同胞四百 一つに融けて 自ら彊めん 正しく剛く		
		(楽譜) 					

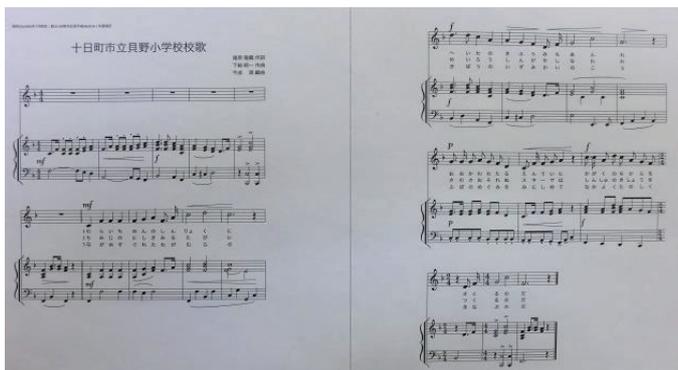
地域名	川西	No.	45	学校名	上野中学校		
校章制定年月日		(校章デザインのいわれ)			校歌制定年月日		
(楽譜)		作詞者 作曲者			(歌詞)		
		(歌詞)					

地域名	川西	No.	46	学校名	川西中学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和37年4月1日		
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	堀口大学	作曲者	團 伊玖磨
				(歌詞)			
						一番	越の妻有と名も高い 文化の誇り受けついで 意気新しいわが町に 明日の世代を興そうと われらは父祖の血を継いで 川西中に学ぶ者
						二番	広い段丘さわやかな そよ風わたるこの風土 大信濃川裾洗い 夏はむらさき冬は銀 八海山は目路のはて 節黒城趾かすみ立つ
						三番	清い環境高澄みの 郷土のめぐみ身に受けて いざ友どちよすこやかに 知性ゆたかな人となり 社会につくし働いて 南ヶ原の名を出そう
						(楽譜)	
							

地域名	川西	No.	47	学校名	橋中学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	西脇順三郎	作曲者	
				(歌詞)			
						一番	われらが園に たちばなの かおりのたかき 心もて 春の日ひかる 信濃川 天使と話す あげひばり 白雲ののなか 声をきく うたえよ うたえ 若き人
						二番	われらが園の 白雪は たかねの菊の かむばしき こがねの秋も 天たかく 学びの庭に うずたかく とうとき人の 御倉あり うたえよ うたえ 若き人
						(楽譜)	

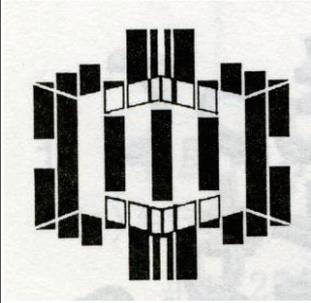
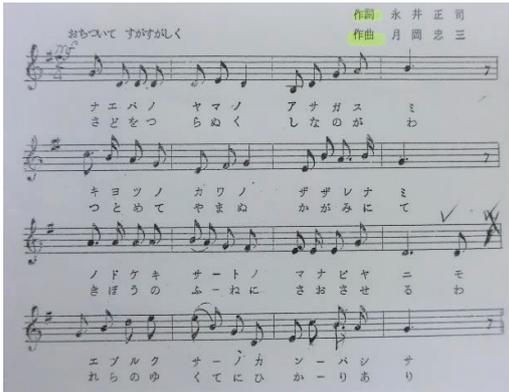
地域名	川西	No.	48	学校名	仙田中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和33年11月		
		(校章デザインのおわり)			作詞者	松岡譲	作曲者	小山郁之進
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	校庭のさくらの囀りに 春は来にけり眉あげて 歌え希望の春の譜を 手に手をとりにて高らかに 進まん吾等理想の児 三つ葉柏の仙田中		
					二番	清らかに澄める洪海川 月を浮かべてさやさやと 流れてやまぬ姿こそ 真理究むる心なり 学ばん時は今なるぞ 三つ葉柏の仙田中		
					三番	ああ悠久の山川に 父祖のめぐみを受け継ぎて 努め撓まぬこころざし 谷間の小鳥時を得て 羽ばたき高く天翔けん 三つ葉柏の仙田中		

地域名	川西	No.	49	学校名	白倉中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和29年9月15日		
		(校章デザインのおわり)			作詞者	野本郁太郎	作曲者	中林五郎
					(歌詞) (※白倉小と同じ)			
(楽譜)					一番	みどりさやけき 山脈の かこめる里の 学舎に 清き心を 花として みがく我等に 光あれ		
					二番	洪海の川の とどろきに 胸おどらせて 寄る窓を 春の望みは 溢れて来て 友の瞳も かがやきぬ		
					三番	青葉ゆたけき 野に山に 自然の恵 つきせねば いよいよ栄ゆる 白倉の 長き歴史を 讃うかな		
					四番	紅葉の山を わけのぼり みさくるままに 吟ずれば 若き我等の 夢燃えて 日本海を のぞむなり		
					五番	八石山を 吹きおろす 雪の叫びの 烈しさの 千里どよみて 鳴るごとく 立ちて進まん 世のために		

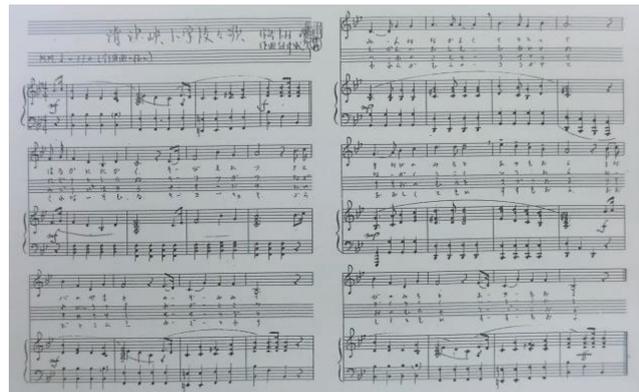
地域名	中里	No.	50	学校名	貝野小学校			
校章制定年月日	昭和30年9月			校歌制定年月日	昭和25年7月1日			
		(校章デザインのいわれ)		作詞者	福原龍蔵	作曲者	下総皖一	
		(歌詞)						
(楽譜)				一番	村一面の 新緑に 平和の気風 満ちあふれ 大川渡る 堰堤に 科学の力を さとるのだ			
				二番	紅葉の錦 見るたびに 明朗心が やしなわれ 寒さ恐れぬ スキーでは 進取の気象を つくるのだ			
				三番	眺めすぐれた 我が村の 希望の泉 貝野校 父母の恵みを 身にしめて 仲良く楽しく 学ぶのだ			

地域名	中里	No.	51	学校名	倉俣小学校			
校章制定年月日	昭和26年5月			校歌制定年月日	昭和27年10月30日発表			
		(校章デザインのいわれ)		作詞者	市川俊雄	作曲者	小出浩平	
		(歌詞)						
(楽譜)				一番	苗場の峰は 雲はれて そよ風わたる まなびやに きょうも光が あふれてる たのし われらの 倉俣校			
				二番	にごらずつきづ 玉と散る 清津の川に 知恵をくみ 心みがいて 向上の 一路を たどる 若ざくら			
				三番	平和の鐘の なるあした 行手は遠く けわしくも 希望にむかう 足音は 国をも おこす そのひびき			

地域名	中里	No.	52	学校名	田所小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	石沢和夫	作曲者	渡辺秀雄
		(歌詞)				<p>一番 はるかに仰ぐ 苗場山          清い流れの釜川に          のぞむ 我等の田所校          雪の王者に ふさわしく          ともに明るく ほがらかに          希望にもえて いざ進め</p> <p>二番 その名も高き 七ツ釜          名勝の地に 生まれ出て          学ぶ 我等の田所校          緑の山は 呼びかける          誇りにみちて ひたすらに          進取の道を いざ進め</p> <p>三番 自然の幸に めぐまれて          平和の郷土 いしずえは          これぞ 我等の田所校          理想の光に みちびかれ          勉めよ 励め ひとすじに          誓いかためて いざ進め</p>		
(楽譜)								

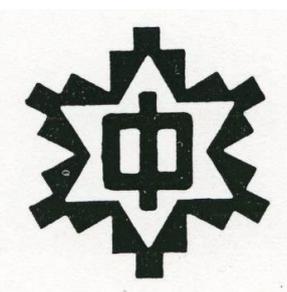
地域名	中里	No.	53	学校名	田沢小学校			
校章制定年月日		昭和26年5月			校歌制定年月日		昭和7年6月3日	
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	永井正司	作曲者	月岡忠三
		(歌詞)				<p>一番 苗場の山の 朝霞          清津の川の さざれ波          のどけき里の 学び舎に          萌え出る草の 芳ばしさ</p> <p>二番 里をつらぬく 信濃川          つとめたやまぬ 鑑にて          希望の舟に 棹させる          我等の行手に 光あり</p> <p>(三番 あゝ聖夜の 民草と          このよき里に 生ひ立ちて          至誠の真道 一筋に          皇国のために つくしなむ)</p>		
(楽譜)								

地域名	中里	No.	54	学校名	高道山小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	小林正三	作曲者	小林正三
		(歌詞)				<p>一番 清津の流れ 清く澄み 渡る川風 すがすがし 高道山校 ここにたつ 清き心に 希望あり</p> <p>二番 段丘の山々 紅葉して 揚げる水路の 一筋に 励む我等の さすところ 倦まずたゆまぬ 強さあり</p> <p>三番 おおう深雪の 中里に 耐えて苦節の 花の咲く われ学び舎に 手をとりて 萌えて大樹の 芽と伸びん</p>		
(楽譜)								

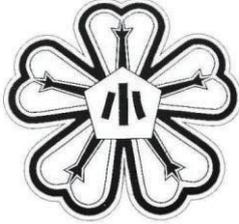
地域名	中里	No.	55	学校名	清津峡小学校			
校章制定年月日		昭和35年6月			校歌制定年月日		昭和37年11月17日	
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	木村 浄	作曲者	白井 威彦
		(歌詞)				<p>一番 遥かに高くそびえたつ 苗場の山を望み見て 皆んな仲良く手と取って 学びの道を歩もうよ 学びの道を歩もうよ</p> <p>二番 濁りを知らぬ清津川 流れにうつす我が心 自然の教え胸に秘め 永く清く生きようよ 永く清く生きようよ</p> <p>三番 緑に映ゆる山の脈 谷間にさやぐせせらぎを 平和の声とうけとって 理想の郷土を築こうよ 理想の郷土を築こうよ</p> <p>四番 紅そむる清津峡 体をきたえ技をねり 我等が郷土のさきがけと 雄々しく共に進もうよ 雄々しく共に進もうよ</p>		
(楽譜)								

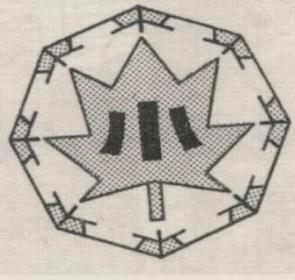
地域名	中里	No.	56	学校名	倉俣中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和22年4月30日		
		(校章デザインのおわり)			作詞者	石田吉貞	作曲者	山田耕作
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	山はうるわし苗場山 溪は天下の清津峡 その名も千座倉俣の わが学びやを知るや君 われらこころは清津の流れ 清く明るく強くぞ生きむ		
					二番	吹雪吹き散るみ越路に 咲くや大地の愛の花 都会を追はぬ堅実の 手に築かなむ国の基 われら心は清津の流れ 清く明るく強くぞ生きむ		
					三番	樹海千里は明けそめて 光かがようふわか行手 希望ぞ生命高らかに 歌ひ学ばむいざ共に われら心は清津の流れ 清く明るく強くぞ生きむ		

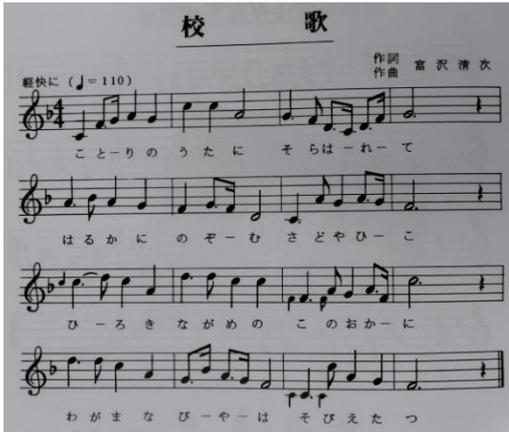
地域名	中里	No.	57	学校名	貝野中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和22年5月15日		
		(校章デザインのおわり)			作詞者	新井艶之助	作曲者	山田正興
					(歌詞)			
(楽譜)					一番	八海苗場の山なみは うらむらさきにあけの空 世紀の鐘もさわやかに 中学貝野そびえ立つ けだかく清きその使命 開く文化や六つの華 集めんわざに栄あれ		
					二番	大江信濃たたえては うら安らけき青海波 時代の潮導きて 我等が母校ここに立つ 輝く希望健児らが みがく真理やます鏡 きわめはげみてほこりあれ		

地域名	中里	No.	58	学校名	田沢中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和22年4月30日		
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	市川牧人	作曲者	小出浩平
						(歌詞)		
(楽譜)					<p>一番 朝苗場の峰高く 光希望の色に映え ゆうべ清津の星影に 心をうつす ますかがみ</p> <p>二番 流れ尽きせぬ信江に 深き想を致しつつ 岸边に立てば麗わしき 不撓の曲は耳をうつ</p> <p>三番 嵐を凌ぎ雪に堪え 草木も萌えてさみどりの 妻有平野に春は呼ぶ ああ愛の園 田沢校</p>			

地域名	中里	No.	59	学校名	中里中学校			
校章制定年月日		昭和60年4月1日			校歌制定年月日	昭和60年4月1日		
		(校章デザインのいわれ) 図案を募集したところ、当時田沢中1年の山本幸二君のものに決定。 外側の六角形が雪の結晶を表し、中の六方向へ伸びるヤリ状のものが、清津峡の岩と村内の山々を表わし、みんなが自由に育っていくことを意味しています。			作詞者	小林賢次	作曲者	柳沢剛
						(歌詞)		
(楽譜)					<p>一番 苗場のふもと 包むさ緑 清流そそぐ 信濃川 ああ我等 地の利水の利恵まれて 郷土の愛は 豊かなり 師と友と 心ひとつに学び続けん</p> <p>二番 とおつ祖より 伝え聞きたる 妻有の里の 物語 父母の三つの学び舎統べられて 中里中学 ここにたつ 未来への 新たな歴史築き育てん</p> <p>三番 段丘おおう 言の重さに 耐えて伸びゆく 杉木立 若人の 意気は明るく雄々しくて 希望の道は 輝けり 師と友と 心ひとつに学び続けん</p>			

地域名	松代	No.	60	学校名	松代小学校				
校章制定年月日					校歌制定年月日	大正5年			
 (校章デザインのいわれ)					作詞者	相馬御風	作曲者	弘田龍太郎	
					(歌詞) 一番 朝に仰ぐ 松茸山 神のみいつの かしこさに 心を正し くにたみの まことの道を おさめなむ  二番 夕べにのぞむ 渋海川 たえぬ流の 清きごと たゆまずうまず 一筋に 学びの業を はげみなむ  三番 雪に嵐に 色かえぬ 松を名に負う わが校の ほまれとうとみ いざやいざ 雄々しく共に つとめなむ				
(楽譜)									

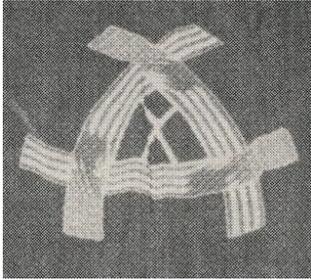
地域名	松代	No.	61	学校名	蓬平小学校				
校章制定年月日					校歌制定年月日				
 (校章デザインのいわれ)					作詞者	小堺又七	作曲者	村山武雄	
					(歌詞) 一番 あさひにはえる じょうやまの かわらぬ まつと さくらばな そせんのいさお しのびつつ おおしくすもう てをくんで  二番 はるかのにぞむ さばいしの ながれもつきぬ いわしみず おおきなゆめを えがきつつ ころもみがかう ともどもに  三番 ゆうひにかがやく くらひめの みねにひとひら しろいくも きぼうをたかく かかげつつ まなびのみちを ひとすじに				
(楽譜)									

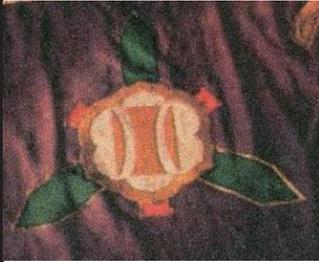
地域名	松代	No.	62	学校名	清水小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和31年7月15日		
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	富沢清次	作曲者	富沢清次
				(歌詞) 一番 小鳥の歌に 空はれて 遥かに望む 佐渡弥彦 広き眺めの この丘に 我が学びやは そびえ立つ  二番 薬師の山を 湧き出ずる 清水もいつか 鯖石の 川と流れて 海に入る たゆまず我等 進まん  三番 黒姫嵐 さぶくとも ときわ変らぬ 峯方の 緑の松のたくましく 強き力を 鍛えなん  四番 恵みも深き 春秋の 自然の中に はぐくまれ 良き師と共に むつましく いそしむ我等 幸に生く			
(楽譜)							

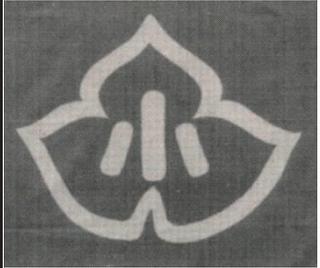
地域名	松代	No.	63	学校名	桐山小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	市川牧人	作曲者	大給正夫
				(歌詞) 一番 菱が高嶺の朝日影 黒姫山の夕映えも 希望の窓に照りはえて 甕聳ゆる桐谷の 学び舎たのしつれだちて 学びの道にいそましむ  二番 東頸刈羽魚沼と よしや境は隔つとも 隔てぬ愛の真心は ひろく涯なき日本海 地の利に人の和もそえて 平和の郷を築かまし  三番 重き任務の遠路に そばだつ山は嶮しくも 進取向上ひたぶるに いざ踏み越えん手をとりに 万物よみがえる初春の 若き日の夢描きつつ			
(楽譜)							

地域名	松代	No.	64	学校名	孟地小学校(旧伊沢小学校)		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 (校章デザインのいわれ)		作詞者	小出浩平	作曲者	小出浩平		
		(歌詞) 一番 山の子供だ 山の気を 胸いっぱい すいこんで 洪海の川の 末遠く 明るい希望を 持ちましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校  二番 山の子供だ 山の陽を 心ゆくまで 身にあびて 小鳥の歌を 聞きながら 若芽のように 伸びましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校  三番 みんな元気だ 山の子は 高い文化を 築くため 松茸の山を 仰ぎつつ 手に手をとって 進みましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校					
(楽譜)							

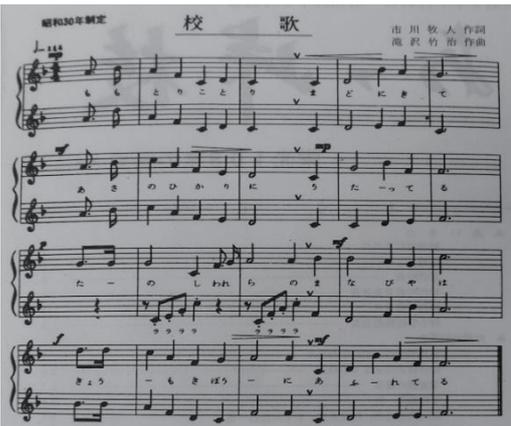
地域名	松代	No.	65	学校名	北山小学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 (校章デザインのいわれ)		作詞者	市川牧人	作曲者	小出浩平		
		(歌詞) 一番 緑の林白い雲 風やわらかく学びの舎の 窓辺かすめて小鳥さえ 希望を呼んで 唄ってる 楽しい僕等の北山校 私たちの北山校  二番 あの谷川のせせらぎも 末ははるけき日本海 大地に満ちた気を吸って 大きくなろう 伸び伸びと 楽しい僕等の北山校 私たちの北山校  三番 雪にかがやく山々の 平和な姿そのままに 日本の歴史築きつつ ともに進もう 手をとって 楽しい僕等の北山校 私たちの北山校					
(楽譜)							

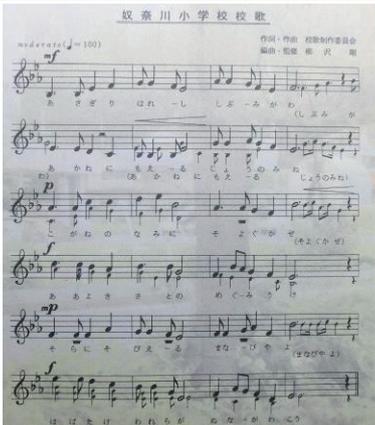
地域名	松代	No.	66	学校名	昉平小学校			
校章制定年月日	昭和55年3月1日			校歌制定年月日	昭和55年3月1日			
	(校章デザインのいわれ) 職員・児童・学区民一同作 案、佐藤英尊作成			作詞者	職員・児童・ 学区民一同	作曲者	秋野亮一 (初代教頭)	
				(歌詞)				
(楽譜)				一番	山里清く 松代の 頸城の山なみ 天をつく この地朝日に 明けわたる 学び舎あらた 集いきて 希望をかかげ 高らかに 我等が学校 あざみひら			
				二番	清水わきて せせらぎの 岩をかむ水 うなはらへ この地自然を 友として 清く正しく たくましく 希望をめざして 進みゆく 我等が学校 あざみひら			
				三番	あざみの森の 澄む風に 緑まぶしく 鳥の声 この地若人 手をつなぎ 心をみがき 知恵をねり 希望はばたけ 大空へ 我等が学校 あざみひら			

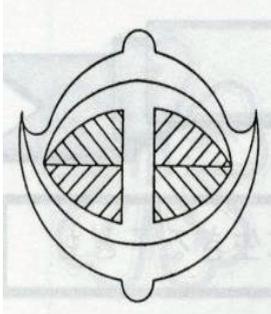
地域名	松代	No.	67	学校名	蒲生小学校			
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和21年			
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	市川牧人	作曲者	山田耕作	
				(歌詞)				
(楽譜)				一番	ぶなの林の 風光る 学びやたのし 愛の園 ゆかりの池の ま清水に 心みがかん 知恵くまん			
				二番	菱が高嶺の 朝日影 仰ぎて学ぶ われらどち 向上一路 ひとつぶるに わらべ心は 躍るなり			
				三番	平和の鐘は 高鳴れり 文化の日本 きずくため 行くてはいかに はるけくも 励みいそしみ 進みなん			

地域名	松代	No.	68	学校名	儀明小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和54年10月27日		
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	市村重雄	作曲者	市村重雄
				(歌詞)			
(楽譜) 				一番	ほのぼのと わが家の朝よ 森染めて 山なみはるか 日はのぼる 朝げの香り 早にこめ 育くみいとしみ かぎりなき 恵みをうけて 励もうよ		
				二番	にこにこと この学びやに 集いきて 笑顔あかるく むつみ合う 希望にもえて 胸をはり 教えにさとしに よく学び 体きたえて 進もうよ		
				三番	はればれと 儀明の里に 春立てば ほほえみかける 雪わり草 鶯も鳴き立つ この里の 花咲き歌あり さわやかな すがたうつして 伸びようよ		

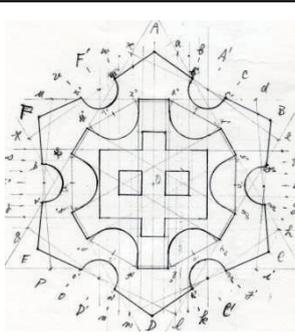
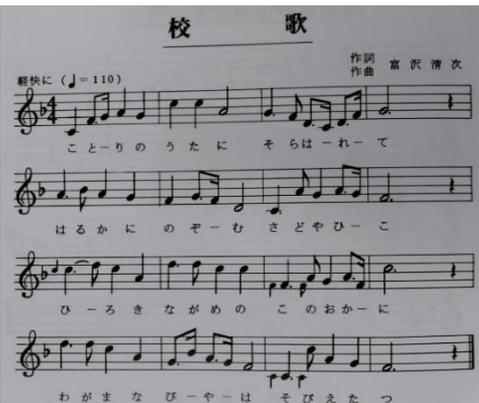
地域名	松代	No.	69	学校名	室野小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和33年		
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	滝沢 寛	作曲者	小山郁之進
				(歌詞)			
(楽譜) 				一番	みどりの風が 吹きわたる 山ふところの わが母校 大きな自然の 愛をうけ われらはここに いま集う 学友よ互に 手をくんで 正しい強い 子になろう 室野の 室野の 小学生		
				二番	歴史は古い 城の峯 流れはつきぬ 渋海川 年たち人は 変るとも 変らぬ教えと 友の道 学友よ 互いに腕くんで 文化を守る 子になろう 室野の 室野の 小学生		
				三番	雪の降る朝 星の夜 学の庭の 春や秋 体をきたえて 文を読む われらがゆくて はてもなし 学友よ 互いに肩くんで 未来をきづく 子になろう 室野の 室野の 小学生		

地域名	松代	No.	70	学校名	峠小学校			
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和30年			
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	市川牧人	作曲者	滝沢竹治	
				(歌詞)	<p>一番 百鳥小鳥 窓に来て 朝の光に 唄ってる たのしわれらの 学び舎は 今日も希望に あふれてる</p> <p>二番 不動の滝の 玉と散り 雪と砕ける 城川の つきぬ流れに 智慧を汲み 勤め励もう 共々に</p> <p>三番 室野城趾の 白い雲 われらが夢を 呼んでいる 手に手を取りあい いそいそと ああ愛の園 峠校</p>			
(楽譜)								

地域名	松代	No.	71	学校名	奴奈川小学校			
校章制定年月日	昭和59年4月1日			校歌制定年月日	昭和59年4月1日			
	(校章デザインのいわれ) 学校周辺で3つの川(洪海川、濁川、城川)が合流する。3本の直線は川を表している。小さな円は7つの集落(峠、竹所、濁、木和田原、室野、奈良立、福島)を表し、大きな円で仲良く円満な姿を表している。			作詞者	校歌制作委員会	作曲者	校歌制作委員会	
				(歌詞)	<p>一番 朝霧晴れし 洪海川 茜に燃える 城の峯 黄金の波に そよぐ風 ああよき郷の恵みうけ 空にそびえる学び舎よ はばたけ我等が奴奈川校</p> <p>二番 友睦まじく 集い来て 心を磨き 身を鍛え 歴史を築く 心意気 ああ永遠にゆるぎなき 学びの道をひとすじに 栄えよ我等が奴奈川校</p>			
(楽譜)								

地区名	松代	No.	72	学校名	松代中学校
校章制定年月日	昭和54年4月1日			校歌制定年月日	昭和54年4月1日
	(校章デザインのおいわれ) 昭和53年度当時、奴奈川中学校教頭大口昭治先生のデザイン。松代を象徴する「ぶな」の葉と中学校の「中」を組み合わせたもの。左右の上向きのデザインには、子供たちの「伸び、成長」の願いが込められている。「中」のたての棒で区切られた両側の等しい数本のすじは、ぶなの葉脈をあらわしていて、2枚の葉が真ん中で向き合った形になっている。これは互いに協力していこうという意味を表している。白抜きで地色の緑は、緑豊かな自然の中で子供たちがまっすぐ伸びていく様を表している。				
	作詞者	小山直嗣	作曲者	篠原正敏	
(楽譜)					
(歌詞) 一番 ぶなの若葉に おおわれて 光かがよう わが郷土 ここに瞳も はればれと 学びの道を 進みゆく 我らが松代中学の 抱負よ花と 咲き香れ  二番 清き自然の 影宿し 永久に流れる 渋海川 ここに 豊かな 夢浮かべ 真理の扉 開きゆく 我らが松代中学の 希望よ雲と わきあがれ  三番 古き文化の 香を残す 松茸社叢の けだかさよ ここに 気魄も たくましく 平和な世界 築きゆく 我らが松代中学の 理想よ高く 風に鳴れ					

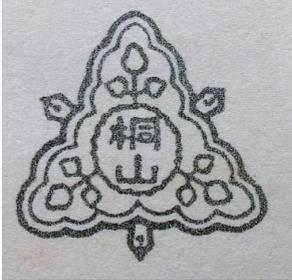
地区名	松代	No.	72	学校名	統合前の松代中学校
校章制定年月日				校歌制定年月日	
	(校章デザインのおいわれ)				
	作詞者	林 柳波	作曲者	井上武士	
(楽譜)					
(歌詞) 一番 渋海の川岸 朝日映ゆれば 我等が学び舎 窓を開く 風はそよ吹きて 鳥は高く呼ぼう いざ行かん友よ 空は晴れたり 松代 松代 わが学び舎  二番 雪深けれども 文化埋れず 松茸の森かげ 緑清し 我等師とともに 学びきわめて なつかしの窓に 仰ぐ山々 松代 松代 わが学び舎  三番 平和に満ちたる このおちこち 鋤とり田作る 父よ母よ 我等友どちと 力併せつつ ふるさとの村に 花をかざらん 松代 松代 わが学び舎					

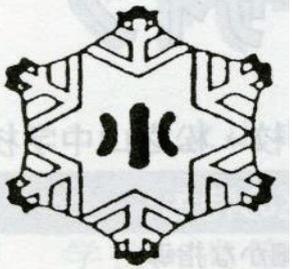
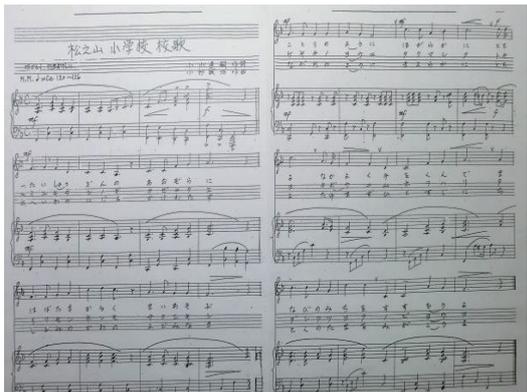
地域名	松代	No.	73	学校名	清水中学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 <p>(校章デザインのいわれ)</p>		作詞者	富沢清次	作曲者	富沢清次		
		(歌詞)		(※清水小と同じ)			
(楽譜)							
		<p>一番 小鳥の歌に 空はれて 遥かに望む 佐渡弥彦 広き眺めの この丘に 我が学びやは そびえ立つ</p>					
		<p>二番 薬師の山を 湧き出ずる 清水もいつか 鯖石の 川と流れて 海に入る たゆまず我等 進まん</p>					
		<p>三番 黒姫嵐 さぶくとも ときわ変らぬ 峯方の 緑の松のたくましく 強き力を 鍛えなん</p>					
<p>四番 恵みも深き 春秋の 自然の中に はぐくまれ 良き師と共に むつましく いそしむ我等 幸に生く</p>							

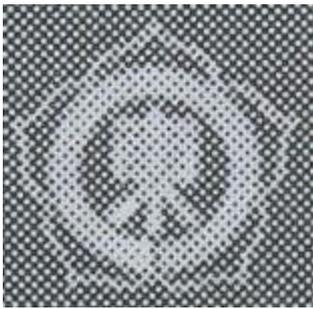
地域名	松代	No.	74	学校名	孟地中学校		
校章制定年月日					校歌制定年月日		
 <p>(校章デザインのいわれ) 孟地小学校と同一のデザインで、中の文字が「中」になっている。</p>		作詞者	小出浩平	作曲者	小出浩平		
		(歌詞)		(※孟地小と同じ)			
(楽譜)		<p>一番 山の子供だ 山の気を 胸いっぱいこ すいこんで 渋海の川の 末遠く 明るい希望を 持ちましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校</p>					
		<p>二番 山の子供だ 山の陽を 心ゆくまで 身にあびて 小鳥の歌を 聞きながら 若芽のように 伸びましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校</p>					
		<p>三番 みんな元気だ 山の子は 高い文化を 築くため 松茸の山を 仰ぎつつ 手に手をとって 進みましょう 伊沢 伊沢 我等が母校 伊沢 伊沢 我等が母校</p>					

地域名	松代	No.	75	学校名	山平中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	小出浩平	作曲者	小出浩平
					(歌詞)			
					一番 紫匂う 雲の上 黒姫山の 雪の色 輝く望み いだきつつ 学びの道に いそしまん 山平 山平 われらが 母校			
					二番 ゆかりの池の 増鏡 風清らかに 光あり つぼみの花の 咲ごとく 学びの道に いそしまん 山平 山平 われらが母校			
					三番 平和の鐘の 明けくれに 進む時代の 歩みあり 教えもさらに 新しき 学びの道に いそしまん 山平 山平 われらが母校			
(楽譜)								

地域名	松代	No.	76	学校名	奴奈川中学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	滝沢 寛	作曲者	萩原利次
					(歌詞)			
					一番 緑の森の城山や 紅葉をうつす渋海川 ここに育ちし我が胸に 学び舎の鐘鳴りわたる 強く正しく愛と智の 母校 奴奈川中学校			
					二番 冬の窓辺の朝の雪 夏の田の面を飛ぶ螢 友よ手をくみ高らかに 学びの道をいざ行かん 強く正しく愛と智の 母校 奴奈川中学校			
(楽譜)								

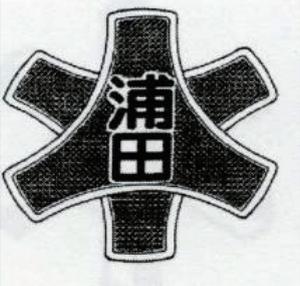
地域名	松代	No.	77	学校名	桐山中学校					
校章制定年月日					校歌制定年月日					
		(校章デザインのいわれ)				作詞者	市川牧人	作曲者	大給正夫	
		(※桐山小と同じ)				(歌詞)	(※桐山小と同じ)			
(楽譜)						一番	菱が高嶺の朝日影 黒姫山の夕映えも 希望の窓に照りはえて 麓聳ゆる桐谷の 学び舎たのしつれだちて 学びの道にいそましむ			
						二番	東頸刈羽魚沼と よしや境は隔つとも 隔てぬ愛の真心は ひろく涯なき日本海 地の利に人の和もそえて 平和の郷を築かまし			
						三番	重き任務の遠路に そばだつ山は嶮しくも 進取向上ひたぶるに いざ踏み越えん手をとりて 万物よみがえる初春の 若き日の夢描きつつ			

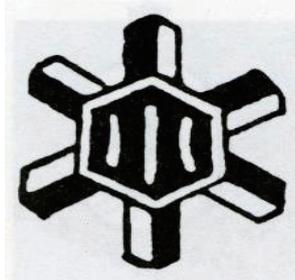
地域名	松之山	No.	78	学校名	松之山小学校					
校章制定年月日	昭和33年12月1日				校歌制定年月日	昭和31年11月16日				
		(校章デザインのいわれ)				作詞者	小山直嗣	作曲者	小杉誠治	
						(歌詞)				
(楽譜)						一番	大松山の 青空に 羽ばたきかるく 舞い遊ぶ 小鳥のように ほがらかに 友よ仲よく 手を組んで 学びの道を 進もうよ			
						二番	深雪を凌ぎ 風に耐え 幾千年も 栄え来し ケヤキのように たくましく 友よ希望に 胸をはり 正しく強く 伸びようよ			
						三番	平和の虹も かけわたす 洩海の川の よどみなき 流れのように 清らかに 友よたゆまず ひとすじに 知徳の珠を 磨こうよ			

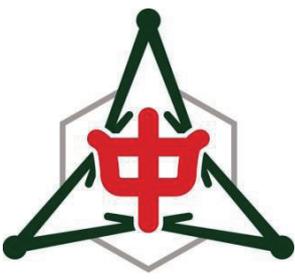
地域名	松之山	No.	79	学校名	東川小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日	昭和13年		
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	高橋右左衛門 相馬御風校訂	作曲者	大平民彌 小林礼校閱
		(楽譜)				<p>東川小学校 校歌</p> <p>♩ = 約108</p> <p>mf</p> <p>1. い つ つ の た に そ あ ら い き ー て 2. や ま さ ち の き ら み ち た り ー て</p> <p>mf</p> <p>ひ と つ に す め る ひ が し か ー わ の わ ら く づ た け き ん の が わ ー の</p> <p>mp</p> <p>さ や け き み の と あ そ ー ゆ う に さ と の は る ひ を も ろ ー と も に</p> <p>f</p> <p>と も し ま こ の た の し ー し ぎ よ つ ま む ま こ の お し ー え ぐ</p>		
					作詞者	高橋右左衛門 相馬御風校訂	作曲者	大平民彌 小林礼校閱
					(歌詞)			
					一番	五つの谷を洗い来て 一つに澄める東川 さやけき水音朝夕に 友とし学ぶ楽しさよ		
					二番	山幸野幸満ち足りて 和楽豊けき布川の 里の春日をもろともに 摘まむ誠の教え草		
					三番	四囲の山脈高くとも 降り積む雪は深くとも 自きようと自治と協力の 行手さえぎる何かある		
					四番	古き歴史を慕いつつ いよよ新にいそしみて その名も高き松山の 鏡の光あらわさむ		

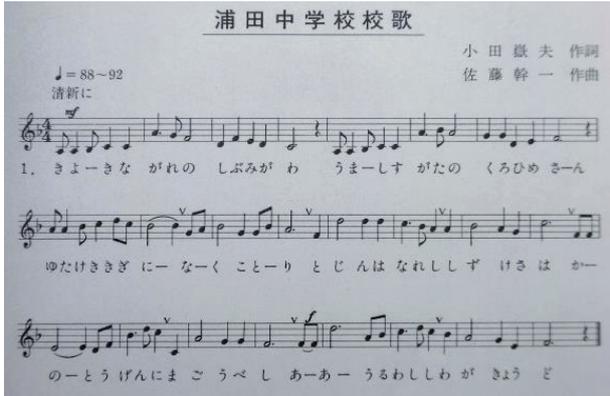
地域名	松之山	No.	80	学校名	坪野小学校			
校章制定年月日					校歌制定年月日			
		(校章デザインのいわれ)			作詞者	村山浩一	作曲者	外山雄三
		(楽譜)				<p>坪野小学校 校歌</p> <p>村山浩一 作詞 外山雄三 作曲</p> <p>ふつら進んで ももえの やまの やまあい の</p> <p>ゆのかわ の こ と おか の う え</p> <p>すすぶな しりさ もりのま に</p> <p>さよらか に た つ つ ぼ の こ</p>		
					作詞者	村山浩一	作曲者	外山雄三
					(歌詞)			
					一番	百合の山の 山あいの 布川の里 丘の上 杉ぶなしげき 森の間に 清らかにたつ 坪野校		
					二番	若芽野に満つ 春の昼 紅もゆる 秋の山 白一色の 冬の朝 ああうるわしき 我が郷土		
					三番	崇高の自然に 抱かれて あたたかき師に みちびかれ 智徳をみがき 身をきたえ 若竹のごと いざ伸びん		
					四番	勉めば何か ならざらん いざもろともに ふるいたち 文化のかおり かぐわしく 希望にもえて 進みなん		

地域名	松之山	No.	81	学校名	三省小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日	昭和31年		
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	金原省吾	作曲者	小山郁之進
				(歌詞)			
				一番	遠くはるけく うけつぎて 耕しやまぬ 村人の 世世のいとなみ集まりて ここに郷土の三つの村		
				二番	白山の森 蔭深く 三省の教 故古し 鳥なきかはす この丘 学ぶもたの しこの窓		
				三番	山清ければ 人篤く 水清ければ 人正し 日に心の清くして 学びの道も 篤からん		
(楽譜)							

地域名	松之山	No.	82	学校名	浦田小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
 (校章デザインのいわれ)				作詞者	市川牧人	作曲者	高田守久
				(歌詞)			
				一番	岩間の泉集めきて 水は真澄の渋海川 清き心をひと筋に 学びの道を進みゆく		
				二番	黄金波うつ千町田の 豊けき穫りうまし里 力と汗に土壤肥えて 空に希望の雲は湧く		
				三番	深山の雪は輝よいて 穢れを知らぬ若人の こころをうつす増鏡 我等が行くて光あれ		
(楽譜)							

地域名	松之山	No.	83	学校名	松里小学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
	(校章デザインのいわれ)			作詞者	小山主嗣	作曲者	松山茂雄
				(歌詞)	<p>一番 湯の香もにおう あげぼのの 光にはえて 明けいつる 姿もきよき 雁が峰 仰いでともに はつらつと 学びの道を 進みゆく われらが松里小学校</p> <p>二番 管領塚に 伝えきし 歴史を遠く しのびつつ 誇りも高く 蛍雪の 栄ある校旗 ひるがえし 郷土の明日を にないゆく われらが松里小学校</p> <p>三番 流れも清き 洪海川 虹たちしぶく 不動滝 自然の恵み うるわしき 学びの園に 身を清め 正しく強く はげみゆく われらが松里小学校</p>		
(楽譜)							

地域名	松之山	No.	84	学校名	松之山中学校		
校章制定年月日	昭和25年2月10日			校歌制定年月日	昭和27年12月25日委嘱		
	(校章デザインのいわれ) 白い六角形は雪の結晶であり、松之山の大地を表している。緑の松葉三本は全校が三校舎に分かれて学んでいた時代を象徴し、その先を組み合わせることで一つに結びついて松之山の大地の上に立つ姿を示している。赤い中の文字で中学校を表している。			作詞者	小出浩平	作曲者	小出浩平
				(歌詞)	<p>一番 越路の山の奥深く 風さわやかに水清く 恵みたりたる平和郷 ここに生いたつ我等あり ここぞ我等の松之山</p> <p>二番 ふりつむ雪を力にて 色あざやかに若松の 強く雄々しくうるわしく ここにのびゆく我等あり ここぞ我等の松之山</p> <p>三番 白地にみどり赤き中 校章さんたる校旗のもと 正義の歌を歌いつつ 鍛えのばさん身と心 ここぞ我等の松之山</p> <p>四番 日に日に進む日本の よき国たみの道すぐに 恩師と友と手をとって ともに進まんいざやいざ ここぞ我等の松之山</p>		
(楽譜)							

地域名	松之山	No.	85	学校名	浦田中学校		
校章制定年月日				校歌制定年月日			
		(校章デザインのおいわれ)		作詞者	小田嶽夫	作曲者	佐藤幹一
(楽譜)				(歌詞)			
				<p>一番 清き流れの 渋海川 うまし姿の黒姫山 豊けき木々に 鳴く小鳥 都塵はなれし 静けさは かの桃源にまごうべし ああ麗わしし わが郷土</p> <p>二番 祖先が持ちし 鬪魂を 素朴の心 我は嗣ぐ 壁なす雪に鍛えられ 澄みし流れに 洗われて 珠とかがやき 大空の 星と光を 競うかな</p> <p>三番 よき師 よき友 我にあり 学びの庭に はぐくむは 智なり徳なり 体と心 日進月歩の楽しさよ 期するは 正しき日本人 自由平和の 世界人</p>			

## 中学校の変遷

学校名 創立年月日	昭 和	平 成	H29.4.1現在
十日町中学校 S22.5.15	十日町小学校の一部を借りて創立。大池分校・軽沢分校設置		十日町中学校
中条中学校 S22.5.15	中条小学校の一部を借りて創立。大井田分校・飛渡第一分校・飛渡第二分校設置		中条中学校
下条中学校 S22.5.15	下条小学校の一部を借りて創立。東下組分校設置		下条中学校
吉田中学校 S22.5.15	吉田小学校・鏡島小学校の一部を借りて創立。真田分校・名ヶ山分校設置		吉田中学校
川治中学校 S22.5.15	川治小学校の一部を借りて創立。八箇分校設置。S42.4.1六箇中学校と統合し南中学校となる		南中学校
六箇中学校 S22.5.15	麻畑小学校の一部を借りて創立。二ッ屋分校設置。S42.4.1川治中学校と統合し南中学校となる		
南中学校 S42.4.1	川治中学校・六箇中学校を統合して創立。実質統合はS43年1月		
水沢中学校 S22.5.15	水沢小学校の一部を借りて創立。野中分校設置		水沢中学校
千手中学校 S22	上野中学校と統合し川西中学校となる		川西中学校
上野中学校 S22	千手中学校と統合し川西中学校となる		
川西中学校 S36.4.1			
橘中学校 S22	S46.3.31川西中学校へ統合のため閉校		
仙田中学校 S22	室島・白倉分校設置 S50.3.31川西中学校へ統合のため閉校		
白倉中学校 S22	仙田中学校第2分校として創立。S38.4.1白倉中学校として独立。50.3.31川西中学校へ統合のため閉校		
倉俣中学校 S22.4.30			中里中学校
貝野中学校 S22.5.1	S60.3.31中里中学校へ統合のため閉校		
田沢中学校 S22.5.15	S60.3.31中里中学校へ統合のため閉校		
中里中学校 S60.4.1	倉俣・貝野・田沢中学校を統合して創立		
松代中学校 S22.5.1	松代小学校で創立。孟地・清水小学校に分校を設置		松代中学校
清水中学校 S22.5.1	松代中学校清水分校として創立。S36清水中学校として独立。54.4.1松代中学校へ統合		
孟地中学校 S22.5.1	松代中学校孟地分校として創立。S39伊沢中学校として独立。同年5月1日孟地中学校と改称。54.4.1松代中学校へ統合		
山平中学校 S22.5.1	蒲生小学校で創立。S54.4.1松代中学校へ統合		
奴奈川中学校 S22.5.1	室野小学校で創立。S54.4.1松代中学校へ統合		
桐山中学校 S23	高柳村・仙田村組合立桐谷中学校創立。36年松代町が組合に加入。47年松代町立桐山中学校と改称。54.4.1松代中学校へ統合		
松之山中学校 S22.5.1	小学校に併設し、浦田口校舎・松里校舎・東川校舎・坪野校舎に分かれる		松之山中学校
浦田中学校 S22.5.1	浦田小学校で創立。H3.4.1松之山中学校へ統合		

# 小学校の変遷

## 【十日町】

学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
十日町小学校 M5.4.10					十日町小学校
大池小学校 M9.4				S56.10閉校	
赤倉小学校 M21.4				大池小学校赤倉分教場として創立 H15.3.31閉校	
中条小学校 M7.2.10					中条小学校
飛渡第二小学校 M8.2		M41.8飛渡校から分離し、飛渡第二校と改称			H17.3.31閉校
飛渡第一小学校 M8.2		M41.8飛渡第一校と改称			飛渡第一小学校
新座小学校 M9.10					
大井田小学校 M8.5					
東小学校 S47.4.1				S47.3.31新座・大井田小学校閉校	東小学校
下条小学校 M8.4				新座・大井田小学校を統合し、東小学校が発足	下条小学校
東下組小学校 M8.4					H21.3.31閉校
川治小学校 M7.2					川治小学校
河内小学校 M18.9			T12.3.15河内校・川治校を廃し川治尋常高等小学校となる		
八箇小学校 M8.9			M18.9枝倉を山本に新築して山本校と称す。25.4河内校と改称。T12.3.15河内校・川治校を廃し川治尋常高等小学校となる		
麻畑小学校 M8.4			川治校の支場として創立。M25独立して八箇校と称す		H20.3.31閉校
二ツ屋小学校 M8.4			川治校の分場として創立。M21.4独立して山谷校と称す。M25.4麻畑校と改称		
六箇小学校 S35.4.1			川治校の分場として創立。M20年山谷校の分場と称す。M25.4独立して二ツ屋校と称す		H21.3.31閉校

学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
吉田小学校 M7.3	第4番小学第3分校山谷校と称す。M12年独立。M25年吉田校と改称				吉田小学校
鑑島小学校 M7.5	第4番小学貝野校の分校として創立、当時は鑑坂と高島の2校。M12.11山谷校の分校に転ず。M18.5分校の称を廃す。M25.4両校を合して鑑島校と改称				鑑島小学校
名ヶ山小学校 M16.10	M16.10鉢校より分離して名ヶ山校を設置、山谷校の附属。M20.4高島校の分場、M22.7真田校の分場となる。M25.4独立				
真田小学校 M7.8	第3番小学新町校の附属として創立し鉢校と称す。M12.9山谷校の分校。M20.2真田校と改称				H17.3.31閉校
馬場小学校 M7.9	M41.9馬場校・今泉校を併せて水沢校と改称				馬場小学校
水沢小学校 M8.3	創立時は伊達校と称し、第8番小学川治校の分校なり。M12年分離独立。M22年合併により今泉校と改称。M41.9馬場校・今泉校を併せて水沢校と改称				水沢小学校
野中小学校 M15.7	創立当時は山入校と称し、伊達校の分場なり。M21.9簡易科野中校と改称				H19.3.31閉校
西小学校 S50.4.1	十日町小学校・川治小学校の一部を分離し創立				西小学校

# 小学校の変遷

【川西】

学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
千手小学校 M7.1.16	新町新田校の附属として創立				千手小学校
中野小学校 M9	新町新田校の分校として創立。M22中野村の成立により独立校となる	T12.3.31閉校			
上野小学校 M7.3.1	M7年3月上野村西浦の慈濟庵で開校、上野校と称す。同年6月新町新田に移転して新町新田校と改称、上野校は分校となる。M11年4月新町新田校・上野校を合わせて上野校と称す				上野小学校
仙田小学校 S49.4.1			仙田・赤岩・中仙田小学校を統合し、中仙田地内に開校	H21.3.31閉校	
仙田小学校 M6.7	M6年7月室島の相国寺首座寮を学舎として仮開校、7年2月開学許可				
赤岩小学校 M20.6	M20年6月創立、白倉分場を置く。M20年6月高倉分場を置く。M23年3月中仙田分場を置く			S49.3.31閉校	
中仙田小学校 M23.3	赤岩校の分場として創立。M25年独立す			S49.3.31閉校	
田戸小学校 M9.2	仙田校の分場として創立。M25年7月独立す		T13.9中仙田小学校の分校となる	S36.5.31分校廃止	
高倉小学校 M20.6	赤岩校の分場として創立。M25年4月独立す			S61.3.31閉校	
白倉小学校 M7.11	仙田校の附属校として創立。M20年6月赤岩校の分校となり、25年7月独立す		大正13年仙田小学校の分校となる		
橘小学校 M6.12	創立時は仁田校と称す	M38.10.6橘尋常高等小学校と改称			橘小学校

# 小学校の変遷

【中里】

学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
貝野小学校 M7	第4番小学として姿に創立。M9年貝野校を分設す。M19年山谷校から馬場校の分校に転ずる。M22年6月馬場校から分離独立。M25年7月姿・貝野両校を合併して貝野校と称す				
倉俣小学校 M8.1	第6番小学中深見校の附属として創立。M15年独立				
田所小学校 M9.1	中深見校の分校として創立し、田代校と称す M41年5月田所校と改称す				
田沢小学校 M8.2	馬場校の附属として創立。M13年独立				
高道山小学校 M8.1	馬場校の附属として創立。M13年田沢校に転属。M25年高道山尋常小学校と改称				
清津峡小学校 S35.4.1	高道山小学校角間分校・土倉分校、倉俣小学校小出分校を廃止し、新設 H21.3.31閉校				
					H29.3.31閉校
					貝野小学校
					S61.3.31閉校
					田沢小学校
					H13.3.31閉校



学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
室野小学校 M7.3.1	浦田校の付属室野校として創立。M18年第13番小学室野校と改称				S59.3.31閉校
峠小学校 M9.7.10	浦田校附属竹所校として創立。M12峠校として独立				S59.3.31閉校
奴奈川小学校 S59.4.1	峠校の分校として開校。M25.4峠校へ合併				室野小学校と峠小学校が統合し開校
木和田原分校 M15.6					H26.3.31閉校

# 小学校の変遷

## 【松之山】

学校名 創立年月日	明治	大正	昭和	平成	H29.4.1現在
松之山小学校 M6.11.8	<p>観音寺校として創立。M8浦田口校と改称。S33松之山小学校と改称</p>				松之山小学校
東川小学校 M8.5.7	<p>浦田口分校東川校として創立。M18中等科東川小学校と改称</p>				H9.3.31閉校
坪野小学校 M8	<p>浦田口分校坪野校として創立。M25坪野小学校と改称</p>				S66.3.31閉校
三省小学校 M8.4	<p>室野分校水梨校として創立。M16浦田分校小谷校となる。M25三省尋常小学校として独立</p>				S62.3.31閉校
浦田小学校 M8.4	<p>室野校の付属校として創立。M9本校浦田校となる</p>				H25.3.31閉校
松里小学校 M8.4.10	<p>室野校附属天水越校として創立。M9浦田校附属分校となる。M17天水校として独立。M25松里尋常小学校と改称</p>				H26.3.31閉校

## 十日町市歴史文化基本構想 資料集

- 発行 平成 30 年 3 月 新潟県十日町市
- 編集 十日町市教育委員会事務局文化スポーツ部文化財課  
〒948-0072 新潟県十日町市西本町 1 丁目 382 番地 1  
TEL 025-757-5531 FAX 025-757-6998
- 印刷 株式会社 みらい